

桑名市介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査報告書

－ いきいき・くわな －

令和3年3月

桑 名 市

目 次

第1章 調査の実施概要.....	3
1 調査の目的.....	3
2 調査の内容.....	3
3 電算処理および分析に関する注意事項について.....	4
4 調査票の配布と回収状況について.....	4
(1) 有効回答者数と回収率.....	4
(2) 有効回答者の性別・年齢階級別の状況.....	4
(3) 有効回答者の属性.....	6
第2章 調査結果からの考察.....	11
1 考察のまとめ.....	11
考察1 高齢者像の状況について.....	14
(1) 本市の高齢者像.....	14
(2) 虚弱な高齢者の内訳.....	16
考察2 高齢者のIADL等について.....	18
考察3 生活機能リスク指標(基本チェックリスト)の評価について.....	20
考察4 社会関係指標に関する評価について.....	22
(1) 高齢者の地域活動や趣味活動等の参加状況.....	22
(2) 高齢者の地域における付き合い方.....	25
(3) 高齢者における地域支援の活動.....	27
考察5 健康行動指標に関する評価について.....	31
(1) 健康行動指標からみた各圏域の状況.....	31
考察6 地域包括ケアシステムに対する認識について.....	33
第3章 調査の分析結果.....	43
1 あなたのご家族や生活状況について.....	43
(1) 家族構成及び日中独居者の状況.....	43
(2) 日常生活における要介護(介助)者の有無.....	45
(3) 現在の経済状況.....	47
(4) 現在の住宅形態.....	48

2	からだを動かすことについて	49
	（1）運動機能の状況	49
	（2）外出の状況	51
3	食べることについて	58
	（1）現在の体重（BMI）状況	58
	（2）歯・口腔の状況	59
	（3）食事の状況	61
4	毎日の生活について	62
	（1）IADL（手段的自立度）の状況	62
	（2）社会参加（知的能動性）の状況	64
	（3）社会参加（社会的役割）の状況	66
	（4）こころの健康状態	68
	（5）物忘れの状況	69
5	地域での活動について	73
	（1）地域とのかかわり	73
	（2）グループ活動等の状況	74
	（3）地域づくりに対する参加意向	74
6	たすけあいについて	76
	（1）困った時に頼る相手・頼られる相手	76
	（2）友人・知人との交流状況	78
7	健康について	79
	（1）健康状態	79
	（2）こころの健康状態	80
	（3）疾病と喫煙や飲酒の関係	82
	（4）通院の状況	84
	（5）在宅サービスの利用状況	85
8	地域包括ケアシステムについて	86
	（1）地域包括支援センター	86
	（2）地域での暮らし	86

第4章 日常生活圏域別の分析結果.....	91
1 高齢者像の状況について.....	91
(1) 元気高齢者.....	92
(2) 一般高齢者.....	93
(3) 介護予防事業対象者.....	94
(4) 生活支援事業対象者.....	95
(5) 認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者.....	96
2 リスク指標（基本チェックリスト）の状況について.....	97
(1) リスク該当高齢者の圏域別出現率.....	97
3 社会関係指標の状況について.....	99
(1) 地域活動への参加状況.....	99
(2) 高齢者が地域でできる支援活動（サービス）.....	101
(3) 社会参加と地域の人との付き合い.....	103
4 健康行動指標の状況について.....	105
(1) 高齢者の健康感や幸福度.....	105
5 地域包括ケアシステムについて.....	107
第5章 地区別の分析結果.....	111
1 「東部圏域」.....	112
(1) 地域カルテ「精義地区」.....	114
(2) 地域カルテ「立教地区」.....	116
(3) 地域カルテ「城東地区」.....	118
(4) 地域カルテ「修徳地区」.....	120
(5) 地域カルテ「大成地区」.....	122
2 「西部圏域」.....	124
(1) 地域カルテ「桑部地区」.....	126
(2) 地域カルテ「在良地区」.....	128
(3) 地域カルテ「七和地区」.....	131
(4) 地域カルテ「久米地区」.....	133

3	「南部圏域」	135
	(1) 地域カルテ「日進地区」	137
	(2) 地域カルテ「益世地区」	139
	(3) 地域カルテ「城南地区」	142
4	「北部圏域」	145
	(1) 地域カルテ「深谷地区」	147
	(2) 地域カルテ「大和地区」	149
	(3) 地域カルテ「大山田地区」	151
5	「多度圏域」	154
	(1) 地域カルテ「多度地区」	156
6	「長島圏域」	159
	(1) 地域カルテ「長島北部地区」	161
	(2) 地域カルテ「長島中部地区」	163
	(3) 地域カルテ「伊曽島地区」	165
資料編		169
1	電算処理の判定条件等	169
2	アンケート調査票	175

第1章

調査の実施概要

第1章 調査の実施概要

1 調査の目的

桑名市における第8期介護保険事業計画（老人福祉計画）策定の基礎資料とするため、介護保険制度で取り組んでいる介護予防事業について、その科学的根拠を得るため厚生労働省より示された「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」（以下「ニーズ調査」という。）を実施し、要介護となるリスクの発生状況や日常生活圏域毎の高齢者の生活実態及び地域課題等を的確に把握するとともに、調査回答者へは個人結果アドバイス票を返送することにより、生活習慣・健康に対する意識の高揚を図ることを目的としています。

2 調査の内容

日常生活に何らかの支援を要する高齢者について日常生活圏域及びそれらを構成する小学校区ごとに地域診断を行い、地域固有の課題や不足しているフォーマル、インフォーマルサービス等を明確にするための設問で構成されています。調査から得られた結果は、今後の総合事業の展開方向、介護サービス基盤整備の検討及び介護ニーズ等の将来推計を行うための基礎資料とします。

調査対象者	市内に在住する介護保険第1号被保険者（要介護認定者を除く）から無作為抽出	11,798 人
調査方法	令和2年8月20日～10月12日、郵送による配布・回収	
調査票の設計	設問の内訳	
	1 あなたのご家族や生活状況について	10 設問
	2 からだを動かすことについて	11 設問
	3 食べることについて	7 設問
	4 毎日の生活について	24 設問
	5 地域での活動について	6 設問
	6 たすけあいについて	7 設問
	7 健康について	17 設問
	8 地域包括ケアシステムについて	8 設問
	設問数合計	90 設問

※調査票は資料編に掲載しています。

3 電算処理および分析に関する注意事項について

○集計処理にあたっては、回答結果から世帯状況、健康自立度別高齢者像（元気高齢者、一般高齢者、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者）の設定条件や、虚弱、運動器の機能低下、口腔機能の低下、低栄養状態、閉じこもり傾向、認知機能低下、うつ傾向等の判定条件を基に行いました。その条件内容は資料編に記載しています。

○集計表やグラフの％表示は小数点第2位を四捨五入しているため、合計しても100％にならない場合があります。

4 調査票の配布と回収状況について

（1）有効回答者数と回収率

本調査の回答状況は以下のとおりです。（対象者は令和2年6月1日介護保険認定者データによる）

表 1.1 調査別回答状況（市全域）

	配布数	有効回答数	有効回答率
市全域	11,798 人	9,991 人	84.7%
日常生活圏域別			
東部圏域	2,168 人	1,803 人	83.2%
西部圏域	2,408 人	2,075 人	86.2%
南部圏域	1,854 人	1,562 人	84.3%
北部圏域	3,013 人	2,554 人	84.8%
多度圏域	979 人	849 人	86.7%
長島圏域	1,376 人	1,148 人	83.4%

（2）有効回答者の性別・年齢階級別の状況

本調査の有効回答者の性別・年齢階級別にみた回答状況は以下のとおりです。

表 1.2 市全域の有効回答者（性別・年齢階級別）

単位：上段/人、下段/％

	計	男性						女性					
		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上
市全域	9,991	1,485	1,182	964	575	258	95	1,755	1,354	1,135	714	355	109
	100.0	14.9	11.8	9.6	5.8	2.6	1.0	17.6	13.6	11.4	7.1	3.6	1.1

表 1.2-1 「東部圏域」の有効回答者（性別・年齢階級別）

単位：上段/人、下段/%

	計	男性						女性					
		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上
東部 圏域	1,803	247	190	151	111	54	23	299	233	237	139	93	26
	100.0	13.7	10.5	8.4	6.2	3.0	1.3	16.6	12.9	13.1	7.7	5.2	1.4

表 1.2-2 「西部圏域」の有効回答者（性別・年齢階級別）

単位：上段/人、下段/%

	計	男性						女性					
		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上
西部 圏域	2,075	291	262	213	122	59	18	364	272	226	167	56	25
	100.0	14.0	12.6	10.3	5.9	2.8	0.9	17.5	13.1	10.9	8.0	2.7	1.2

表 1.2-3 「南部圏域」の有効回答者（性別・年齢階級別）

単位：上段/人、下段/%

	計	男性						女性					
		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上
南部 圏域	1,562	210	172	142	85	50	18	252	191	193	148	76	25
	100.0	13.4	11.0	9.1	5.4	3.2	1.2	16.1	12.2	12.4	9.4	4.9	1.6

表 1.2-4 「北部圏域」の有効回答者（性別・年齢階級別）

単位：上段/人、下段/%

	計	男性						女性					
		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上
北部 圏域	2,554	444	319	273	143	39	15	496	391	236	120	58	20
	100.0	17.4	12.5	10.7	5.6	1.5	0.6	19.4	15.3	9.2	4.7	2.3	0.8

表 1.2-5 「多度圏域」の有効回答者（性別・年齢階級別）

単位：上段/人、下段/%

	計	男性						女性					
		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上
多度 圏域	849	122	100	100	43	22	7	149	112	101	49	30	14
	100.0	14.4	11.8	11.8	5.1	2.6	0.8	17.6	13.2	11.9	5.8	3.5	1.6

表 1.2-6 「長島圏域」の有効回答者（性別・年齢階級別）

単位：上段/人、下段/%

	計	男性						女性					
		65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上	65～69 歳	70～74 歳	75～79 歳	80～84 歳	85～89 歳	90 歳以上
長島 圏域	1,148	171	139	85	71	34	14	195	155	142	91	42	9
	100.0	14.9	12.1	7.4	6.2	3.0	1.2	17.0	13.5	12.4	7.9	3.7	0.8

(3) 有効回答者の属性

本調査の有効回答者の回答状況は以下のとおりです。

図 1.1 性別・日常生活圏域別有効回答者

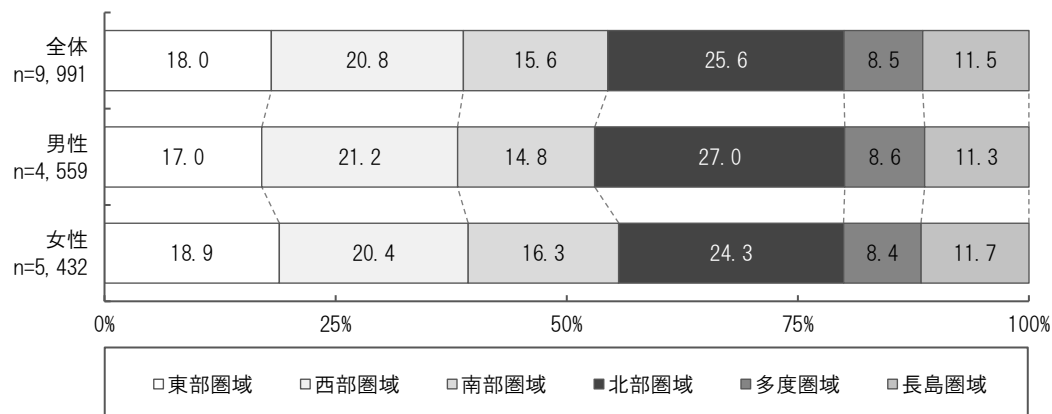
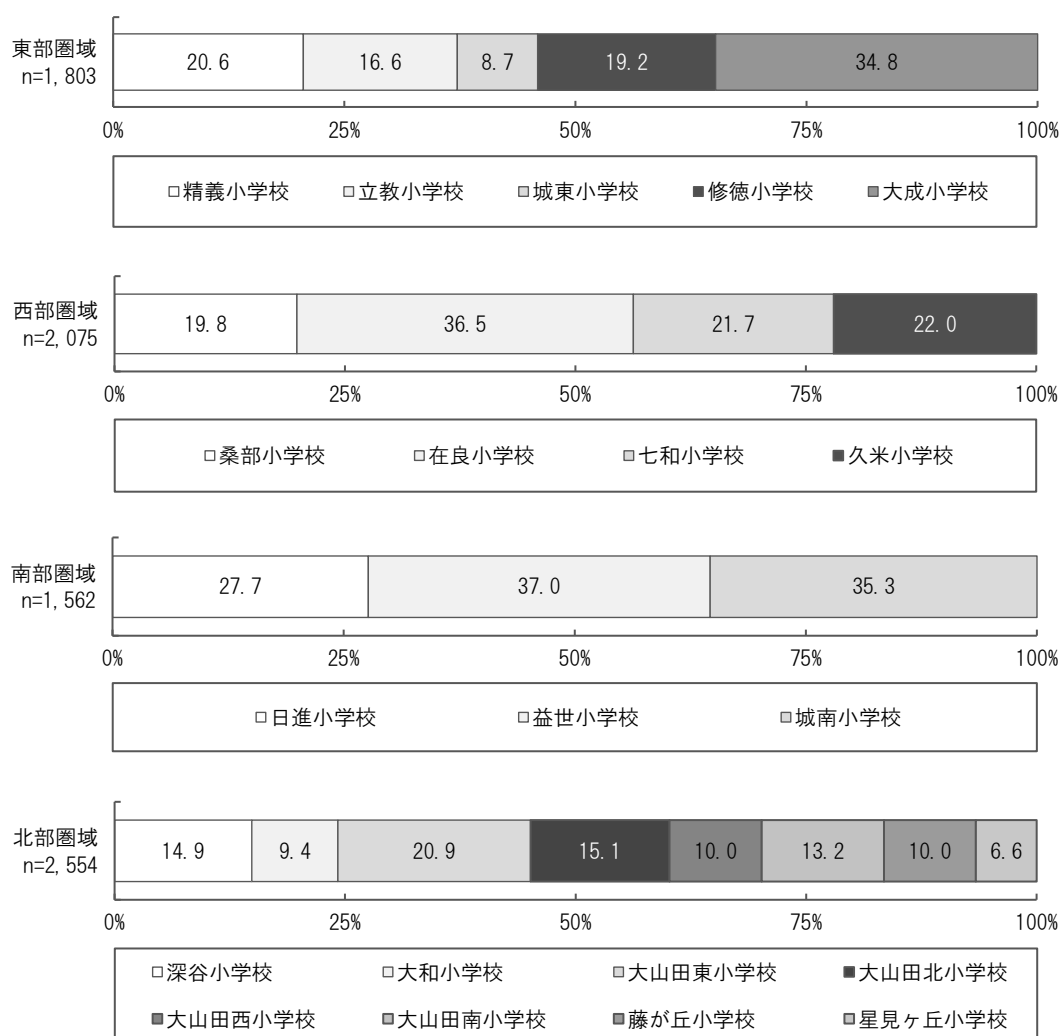


図 1.2 日常生活圏域別・小学校区別有効回答者



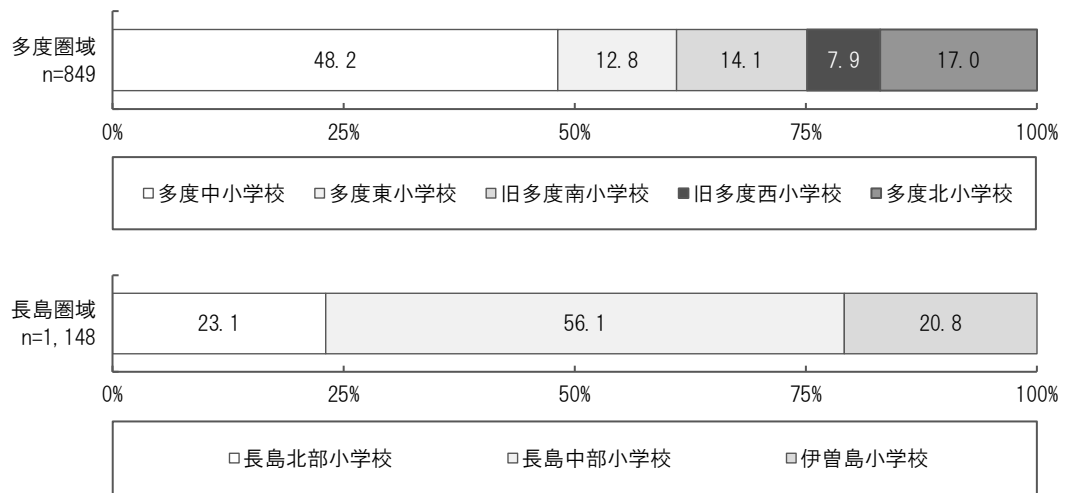
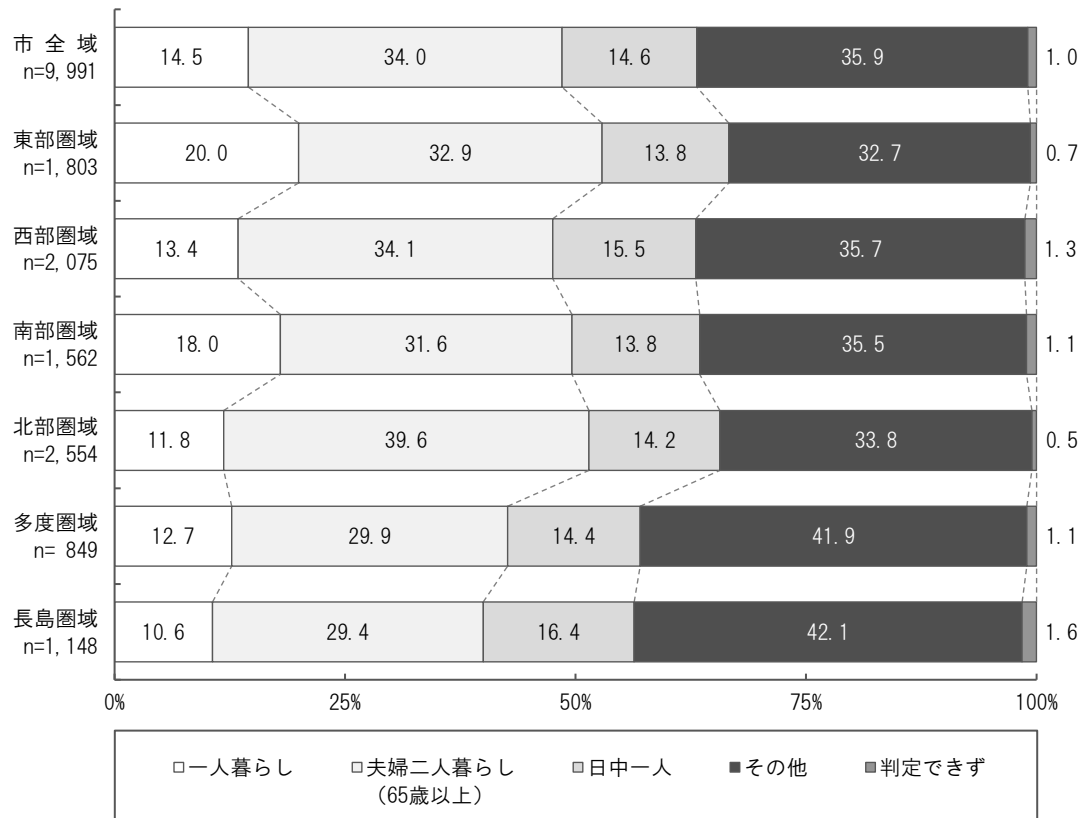


図 1.3 日常生活圏域別・世帯状況別有効回答者



第2章

調査結果からの考察

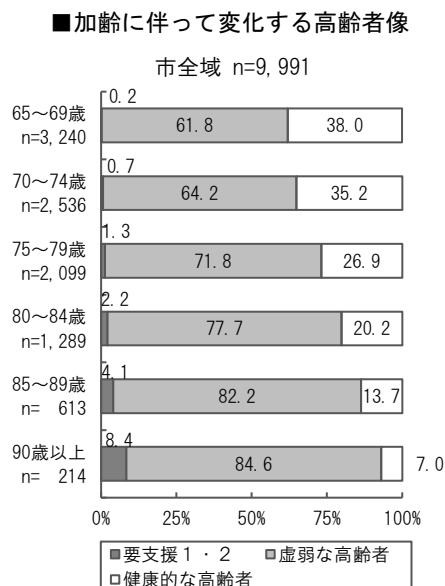
第2章 調査結果からの考察

1 考察のまとめ

後述の考察1～6を踏まえて、本市全域の地域特性や課題等を取りまとめました。

本市全域の高齢者像は、元気高齢者を含めて自立度が高い健康的な高齢者は3割強、介護予防が必要な虚弱な高齢者は6割強の状況となります。

年齢階層別にみた場合、自立度の高い健康的な高齢者は「65～69歳」(38.0%)、「70～74歳」(35.2%)と3割以上を維持できていますが、加齢とともに減少傾向にあり、「75～79歳」(26.9%)では3割未満、「90歳以上」(7.0%)では1割未満となっています。また、虚弱な高齢者の割合は全体的に健康的な高齢者を上回っています。



社会関係指標について健康的な高齢者を虚弱な高齢者と比較すると、地域活動では「ボランティアのグループ」、「町内会・自治会」で約1.4倍の参加率となる反面、「介護予防のための通いの場」は約0.9倍、「老人クラブ」は約0.8倍と少ない状況です。一方、趣味等の活動では「学習・教養サークル」で約1.4倍、「スポーツ関係のグループやクラブ」で約1.5倍、「趣味関係のグループ」で約1.2倍の参加率となっています。健康的な高齢者が「できそう」と回答した地域支援活動は、上位に挙げられている「ゴミ出し」「見守り、声かけ」「草刈などの環境整備」は約1.2～1.4倍、家事支援関係（買い物代行、掃除・洗濯の手伝い、調理の手伝い、配食の手伝い）は約1.2～1.4倍、外出支援等関係（外出同行[通院・散歩など]、外出時の送迎、サロンなど通いの場のサポート）は約1.4～1.5倍となり、活動に積極的な姿勢であることがうかがえます。

また、地域における付き合い方をみると、健康的な高齢者では「お互いの自宅を訪問し合う人がいる」は約1.3倍となるのに対して「付き合いはほとんどない」は約0.7倍と少なく、「一緒に買い物等で外出をする人がいる」「困ったときに気軽に頼める人がいる」「立ち話、挨拶をする人がいる」は両者同程度の状況です。

健康行動指標を比較すると、主観的健康感において健康的な高齢者は概ね全員が「とてもよい」「まあよい」と回答し、虚弱な高齢者の約1.3倍となり、「幸福度7点以上」は約1.4倍、「1年に1回の健診受診者」は約1.1倍、「非飲酒者」は約0.9倍、「禁煙者」は両者同程度となっています。



以上の結果から、健康的な高齢者は多くの地域活動や趣味活動等の参加率が高く、高齢期においては自身の健康状態に応じて、社会貢献の場となるボランティア活動や町内会・自治会等の地域活動やスポーツなどの趣味活動等を積極的に参加することにより、健康的で自立した生活が過ごしやすい、健康寿命の延伸に繋がります。

そのため、生涯現役のサポートを担う窓口を設置し、就業の斡旋や余暇活動の紹介などを通して、生涯現役で活躍できるよう高齢者のライフプランを支援するほか、高齢期を迎える前の中年期層にも情報提供等を行い、高齢期に健康的な生活を送れるよう働きかけることが今後の重要な取り組みとなります。

次に、虚弱な高齢者の内訳をみると、「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」（37.3%）、「介護予防＋生活支援対象者」（25.6%）、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」（20.1%）、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」（0.6%）となり、重複対象者が約8割に及んでいます。

虚弱な高齢者に関するⅠADL等の老研式活動能力指標の評価は、「社会的役割低下該当者」（40.6%）、「知的能動性低下該当者」（18.9%）、「ⅠADL低下該当者」（7.0%）の順となり、生活機能リスク指標（基本チェックリスト）の評価は、「物忘れリスク」（57.1%）、「うつリスク」（56.8%）、「閉じこもりリスク」（28.3%）、「口腔機能低下リスク」（25.7%）、「運動器機能低下リスク」（15.3%）、「低栄養リスク」（2.5%）の順に多くなっています。



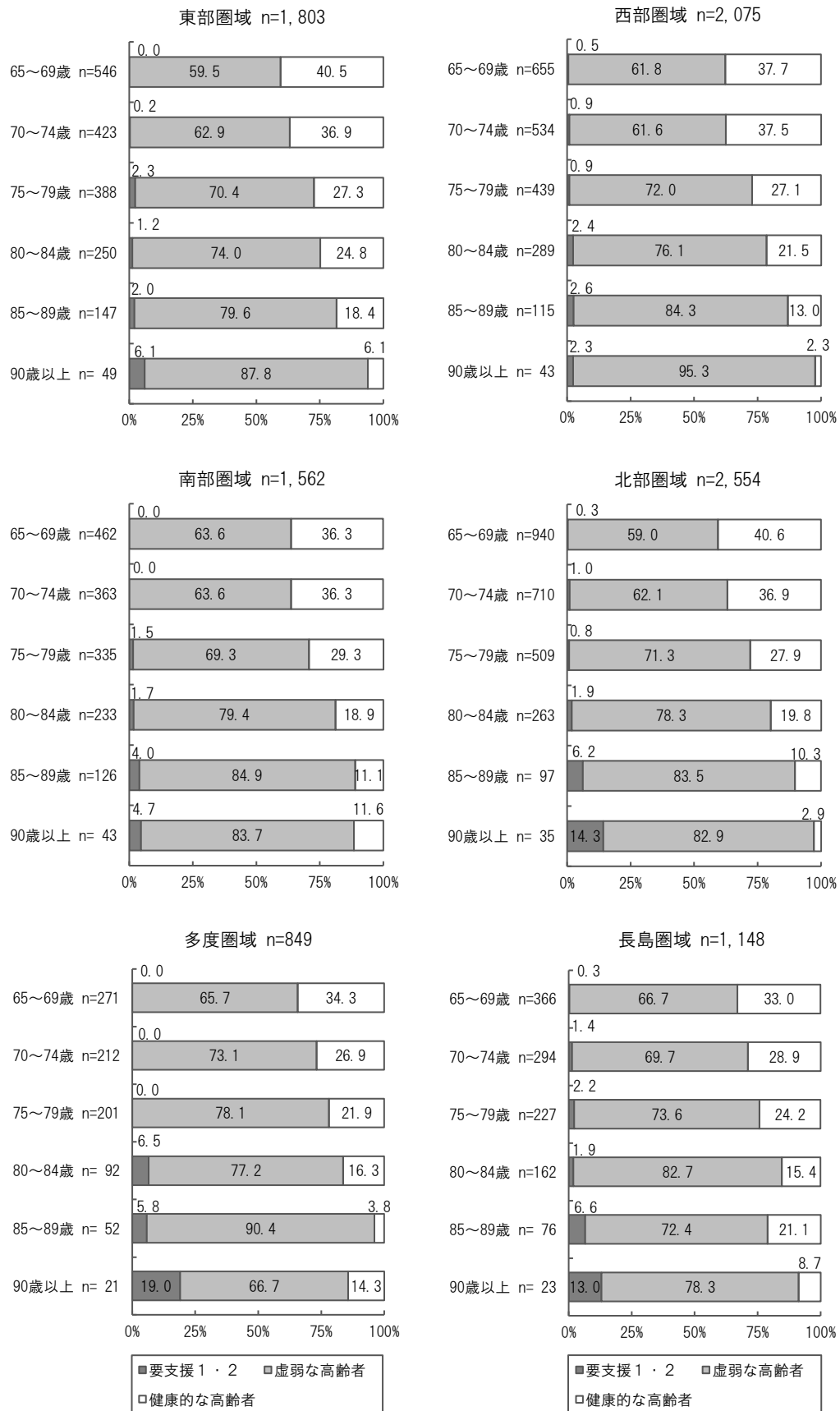
以上の結果から、虚弱な高齢者に対する支援事業等の運営に当たっては、介護予防対象者、生活支援対象者、認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者の重複対象者等の把握を行い課題を明確にしたうえで、必要な支援サービスにつなげていくことが重要となります。また、健康的な高齢者等によって提供される支援サービス（地域資源）が、有効に利活用できる環境づくりや体制の整備が必要です。

最後に、地域包括ケアシステムの推進に関する内容をみると、各圏域ともに67.7%～70.3%の高齢者は「人生の最期における居場所」を「自宅」または「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」と回答し、「施設」はわずか1.5～2.5%でした。



以上の結果から、住み慣れた自宅やその地域で住み続けることができると感じられるために、家族・介護者への負担を軽減することをはじめとする、地域の特性に応じた取り組みが必要となります。

■加齢に伴って変化する高齢者像（圏域別）



考察1 高齢者像の状況について

健康状態や生活自立度からみた高齢者像として、活動的な「元気高齢者」、旧一次予防事業対象者に該当する「一般高齢者」、それ以外の「虚弱な高齢者」に3分類して考察しました。

また「虚弱な高齢者」の内訳は、「介護予防事業対象者」、「生活支援事業対象者」、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」の3分類の構成としました。

■用語解説

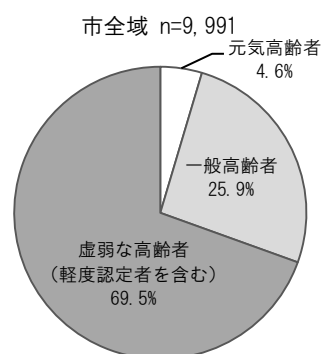
健康的な高齢者	
元気高齢者	多少の病気があっても、主観的健康感良好でかつ活動的な高齢者をいう。
一般高齢者	病気があっても、自身の身体能力により自立した日常生活を営む高齢者をいう。
虚弱な高齢者	
介護予防事業対象者	要介護1以上でないものの、心身機能の低下や病気などのため、介護予防や日常生活の支援を必要とする高齢者をいう。
生活支援事業対象者	日常生活の中で家事の手伝いや見守り等のサービスが必要な高齢者をいう。
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	CPS認知設問の結果から、認知度Ⅰ（境界域）・Ⅱ（軽度）と判定された高齢者をいう。

（1）本市の高齢者像

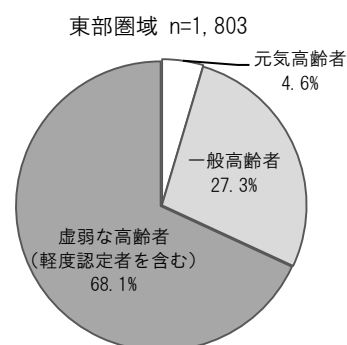
市全域の3分類では、「元気高齢者」＋「一般高齢者」の割合と「虚弱な高齢者」との割合は概ね1：2の比率となり、圏域別にみると「元気高齢者」＋「一般高齢者」の割合は25.2～33.3%となり、東部圏域、西部圏域、北部圏域で市平均を上回っています。

一方、介護予防事業や生活支援サービス等の必要な「虚弱な高齢者」の割合は66.8～74.8%となり、南部圏域、多度圏域、長島圏域で市平均を上回っています。

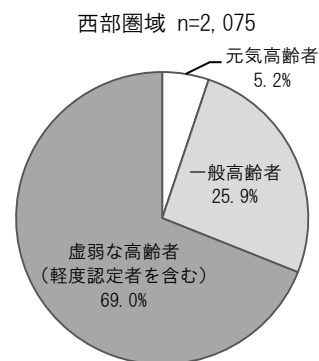
- 高齢者像を市全域でみると、主観的健康感が良好でかつ活動的な「元気高齢者」は4.6%、自立した日常生活を営む「一般高齢者」は25.9%、介護予防や支援の必要な「虚弱な高齢者」は69.5%という構成割合となっています。



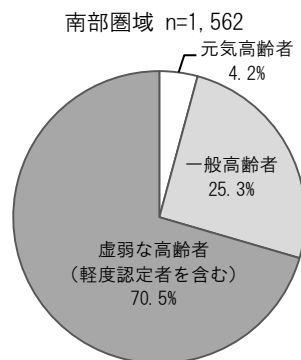
- 東部圏域では「元気高齢者」は4.6%、「一般高齢者」は27.3%、「虚弱な高齢者」は68.1%となり、「一般高齢者」が市全域を上回っています。



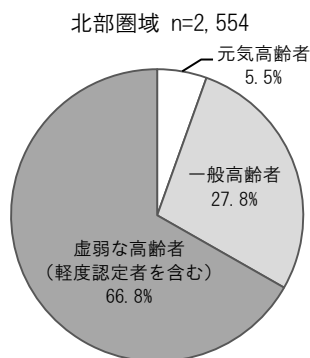
- 西部圏域では、「元気高齢者」は 5.2%、「一般高齢者」は 25.9%、「虚弱な高齢者」は 69.0%となり、「元気高齢者」が市全域を上回っています。



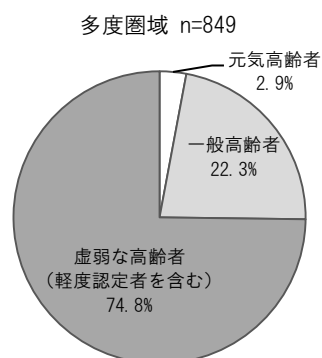
- 南部圏域では、「元気高齢者」は 4.2%、「一般高齢者」は 25.3%、「虚弱な高齢者」は 70.5%となり、「虚弱な高齢者」が市全域を上回っています。



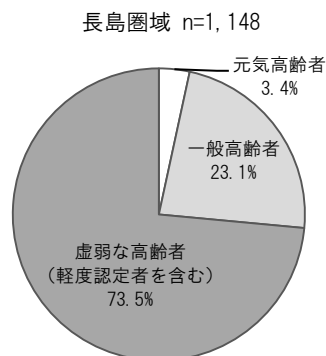
- 北部圏域では、「元気高齢者」は 5.5%、「一般高齢者」は 27.8%、「虚弱な高齢者」は 66.8%となり、「元気高齢者」「一般高齢者」が市全域を上回っています。



- 多度圏域では、「元気高齢者」は 2.9%、「一般高齢者」は 22.3%、「虚弱な高齢者」は 74.8%となり、「虚弱な高齢者」が市全域を上回っています。



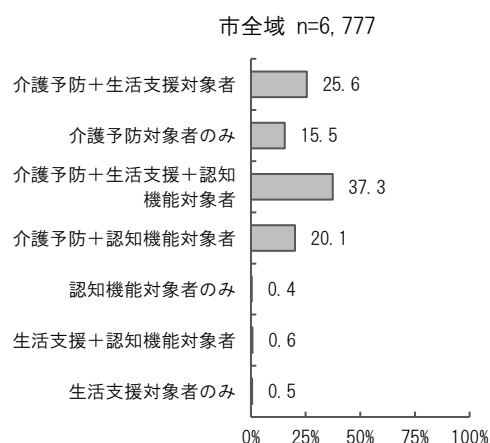
- 長島圏域では、「元気高齢者」は 3.4%、「一般高齢者」は 23.1%、「虚弱な高齢者」は 73.5%となり、「虚弱な高齢者」が市全域を上回っています。



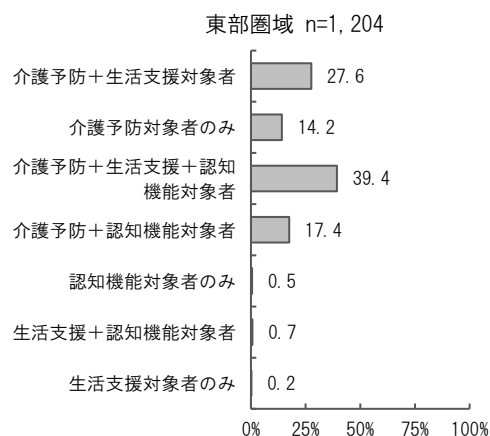
(2) 虚弱な高齢者の内訳

「虚弱な高齢者」の内訳では、全ての圏域で「介護予防＋生活支援対象者」、「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」というダブルやトリプル対象者を合わせた割合が8割前後となります。そのため、介護予防等の必要な対象者には、介護予防の各種事業に加えて認知症予防の各種事業に取り組むとともに、生活支援サービスの必要な対象者には推奨するセルフマネジメントを含むサービス等のアドバイスなどが必要となります。

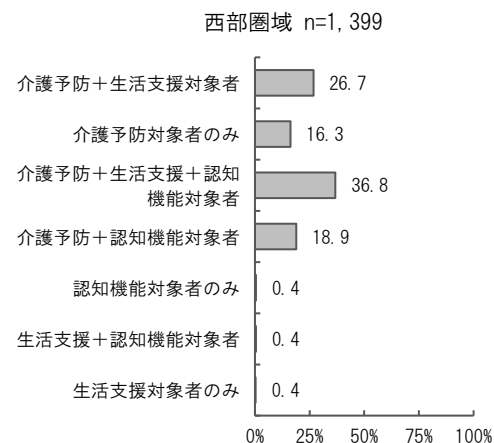
- 「虚弱な高齢者」の内訳を市全域でみると、
「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(37.3%)、「介護予防＋生活支援対象者」(25.6%)、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(20.1%)、「介護予防事業対象者のみ」(15.5%)、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(0.6%)、「生活支援対象者のみ」(0.5%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者のみ」(0.4%)の順となっています。



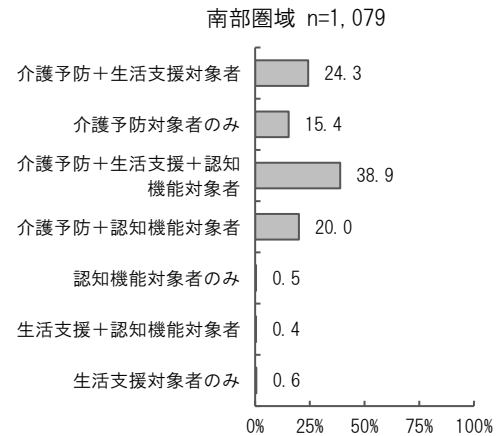
- 圏域別でみると、東部圏域では「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(39.4%)、「介護予防＋生活支援対象者」(27.6%)、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(17.4%)、「介護予防事業対象者のみ」(14.2%)、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(0.7%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者のみ」(0.5%)、「生活支援対象者のみ」(0.2%)の順となっています。



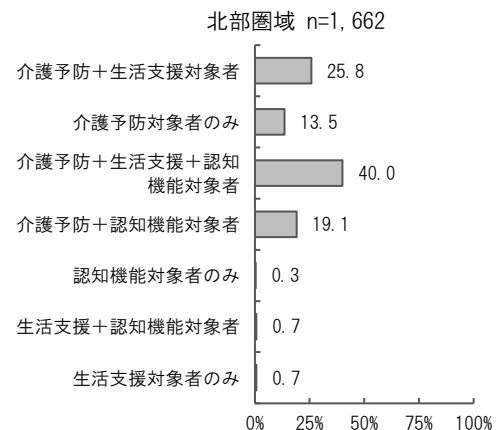
- 西部圏域では、「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(36.8%)、「介護予防＋生活支援対象者」(26.7%)、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(18.9%)、「介護予防事業対象者のみ」(16.3%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者のみ」(0.4%)、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(0.4%)、「生活支援対象者のみ」(0.4%)の順となっています。



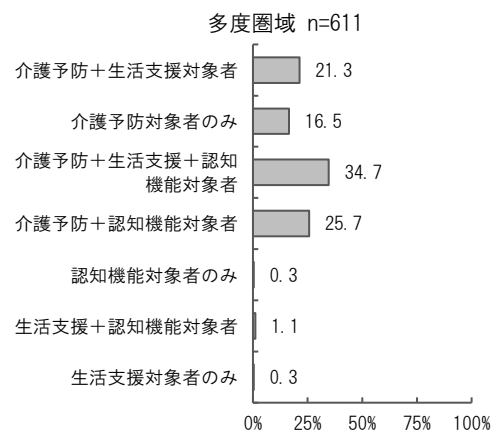
- 南部圏域では、「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(38.9%)、「介護予防＋生活支援対象者」(24.3%)、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(20.0%)、「介護予防事業対象者のみ」(15.4%)、「生活支援対象者のみ」(0.6%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者のみ」(0.5%)、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(0.4%)の順となっています。



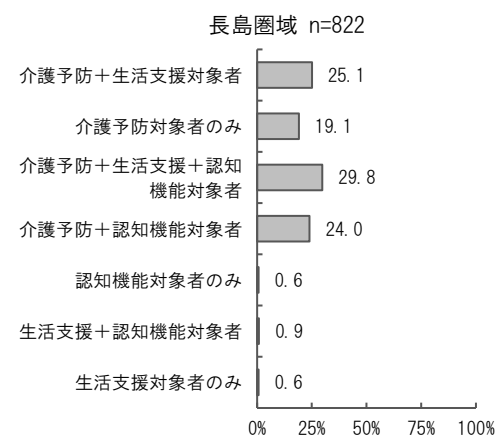
- 北部圏域では、「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(40.0%)、「介護予防＋生活支援対象者」(25.8%)、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(19.1%)、「介護予防事業対象者のみ」(13.5%)、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(0.7%)、「生活支援対象者のみ」(0.7%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者のみ」(0.3%)の順となっています。



- 多度圏域では、「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(34.7%)、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(25.7%)、「介護予防＋生活支援対象者」(21.3%)、「介護予防事業対象者のみ」(16.5%)、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(1.1%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者のみ」(0.3%)、「生活支援対象者のみ」(0.3%)の順となっています。



- 長島圏域では、「介護予防＋生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(29.8%)、「介護予防＋生活支援対象者」(25.1%)、「介護予防＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(24.0%)、「介護予防事業対象者のみ」(19.1%)、「生活支援＋認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者」(0.9%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ対象者のみ」(0.6%)、「生活支援対象者のみ」(0.6%)の順となっています。



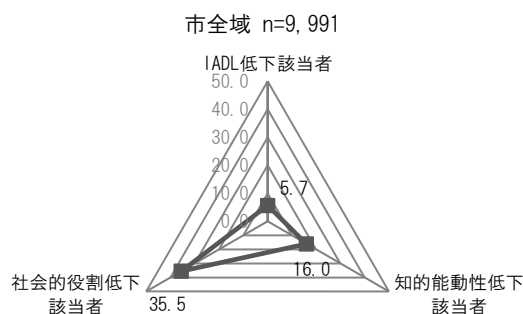
考察2 高齢者のIADL等について

調査結果から下表の「IADL（手段的自立度）」「社会参加（知的能動性）」「社会参加（社会的役割）」の3つの活動能力指標を総合的にみた「老研式活動能力指標総合評価」の結果を考察しました。

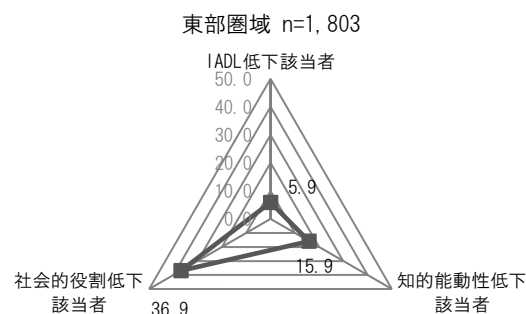
指 標	低い	やや低い	問題なし
老研指標総合評価 IADL（手段的自立度）、社会参加（知的能動性）、社会参加（社会的役割）の3つの活動能力を評価し、その合計点により、在宅高齢者の生活機能をより高次に評価。	0～8点	9～10点	11点以上
① IADL（手段的自立度） 「バスや電車を使つての外出」「食品・日用品の買物」「食事の用意」「請求書の支払い」「預貯金のおし入れ」が自分（1人）でできるかを評価。	0～3点	4点	5点
② 社会参加（知的能動性） 「年金など、役所や病院などに出す書類が書ける」「新聞を読んでいる」「本や雑誌を読んでいる」「健康についての記事や番組に関心がある」に該当するかを評価。	0～2点	3点	4点
③ 社会参加（社会的役割） 「友人の家を訪ねている」「家族や友人の相談にのっている」「病人を見舞うことができる」「若い人に自分から話しかけることがある」に該当するかを評価。	0～2点	3点	4点

老研式活動能力指標の評価をみると、「社会的役割低下該当者」の割合は32.4～36.9%となり、東部圏域、南部圏域、長島圏域で市全域を上回っています。「知的能動性低下該当者」は13.9～18.8%となり、南部圏域、多度圏域、長島圏域で市全域を上回っています。「IADL低下該当者」は4.2～6.9%となり、東部圏域、西部圏域、南部圏域、多度圏域、長島圏域で市平均を上回っています。

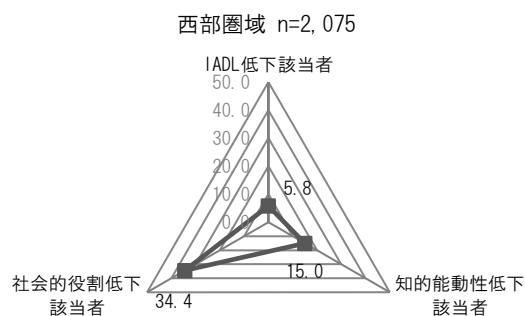
- 老研式活動能力指標を市全域でみると、「社会的役割低下該当者」（35.5%）、「知的能動性低下該当者」（16.0%）、「IADL低下該当者」（5.7%）の順となっています。



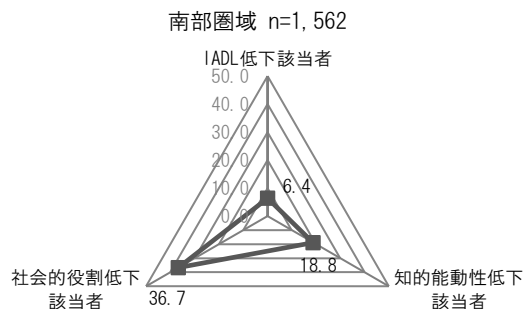
- 東部圏域では「社会的役割低下該当者」（36.9%）、「知的能動性低下該当者」（15.9%）、「IADL低下該当者」（5.9%）の順となり、「社会的役割低下該当者」、「IADL低下該当者」指標で市全域を上回っています。



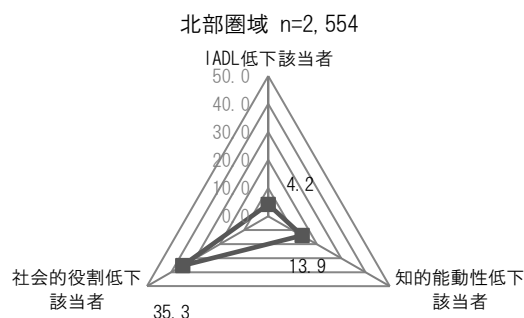
- 西部圏域では、「社会的役割低下該当者」(34.4%)、「知的能動性低下該当者」(15.0%)、「IADL低下該当者」(5.8%)の順となり、「IADL低下該当者」指標で市全域を上回っています。



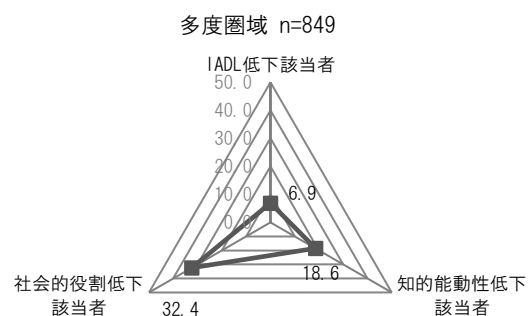
- 南部圏域では、「社会的役割低下該当者」(36.7%)、「知的能動性低下該当者」(18.8%)、「IADL低下該当者」(6.4%)の順となり、3指標でいずれも市全域を上回っています。



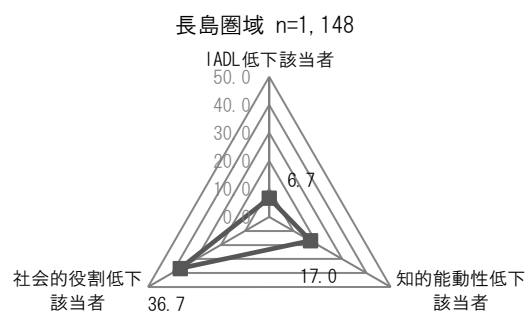
- 北部圏域では、「社会的役割低下該当者」(35.3%)、「知的能動性低下該当者」(13.9%)、「IADL低下該当者」(4.2%)の順となり、3指標でいずれも市全域を下回っています。



- 多度圏域では、「社会的役割低下該当者」(32.4%)、「知的能動性低下該当者」(18.6%)、「IADL低下該当者」(6.9%)の順となり、「知的能動性低下該当者」「IADL低下該当者」の2指標が市全域を上回っています。



- 長島圏域では、「社会的役割低下該当者」(36.7%)、「知的能動性低下該当者」(17.0%)、「IADL低下該当者」(6.7%)の順となり、3指標でいずれも市全域を上回っています。



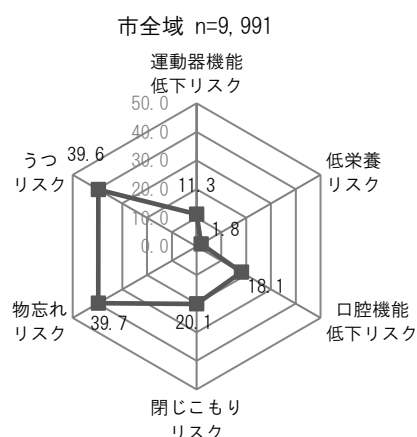
考察3 生活機能リスク指標(基本チェックリスト)の評価について

基本チェックリストの結果から高齢者の生活機能リスク（6項目）を考察しました。

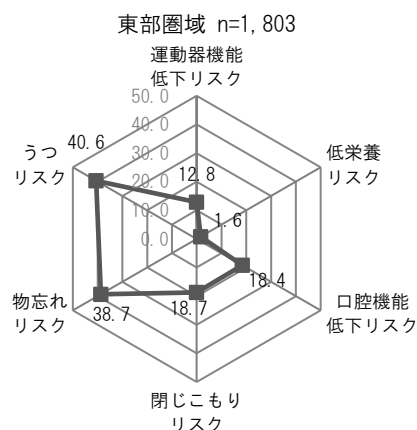
ほとんどの圏域で物忘れリスクあるいはうつリスクが最も高く、閉じこもりリスク、次いで口腔機能低下リスク、運動器機能低下リスク、低栄養リスクの順に該当者が多い状況です。

物忘れリスクは多度圏域、南部圏域の順、うつリスクは多度圏域、東部圏域、南部圏域の順、閉じこもりリスクは長島圏域、多度圏域、西部圏域の順、口腔機能低下リスクは多度圏域、南部圏域、東部圏域、西部圏域、長島圏域の順、運動器機能低下リスクは多度圏域、東部圏域、南部圏域、長島圏域の順、低栄養リスクは南部圏域、西部圏域、長島圏域の順にそれぞれ市全域を上回っています。

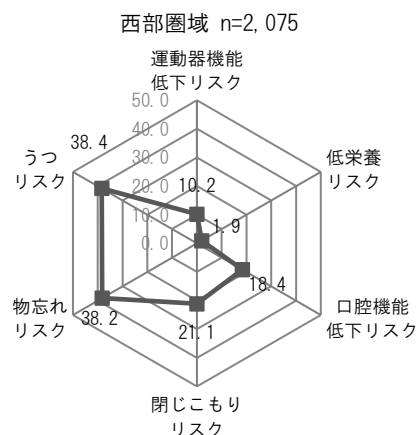
- 生活機能リスク指標を市全域でみると、「物忘れリスク」（39.7%）、「うつリスク」（39.6%）、「閉じこもりリスク」（20.1%）、「口腔機能低下リスク」（18.1%）、「運動器機能低下リスク」（11.3%）、「低栄養リスク」（1.8%）の順となっています。



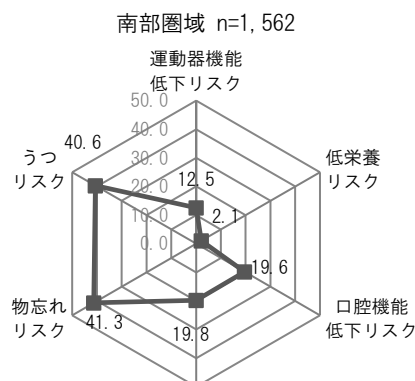
- 東部圏域では、「うつリスク」（40.6%）、「物忘れリスク」（38.7%）、「閉じこもりリスク」（18.7%）、「口腔機能低下リスク」（18.4%）、「運動器機能低下リスク」（12.8%）、「低栄養リスク」（1.6%）の順となり、「うつリスク」「口腔機能低下リスク」「運動器機能低下リスク」の3つの指標で市全域を上回っています。



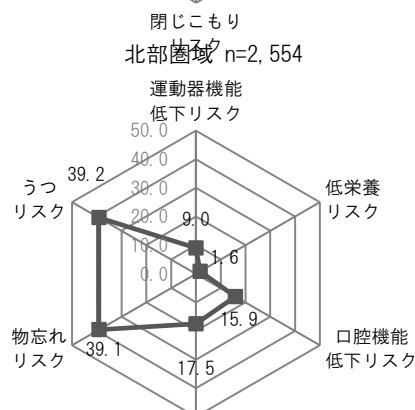
- 西部圏域では、「うつリスク」（38.4%）、「物忘れリスク」（38.2%）、「閉じこもりリスク」（21.1%）、「口腔機能低下リスク」（18.4%）、「運動器機能低下リスク」（10.2%）、「低栄養リスク」（1.9%）の順となり、「閉じこもりリスク」「口腔機能低下リスク」「低栄養リスク」の3つの指標で市全域を上回っています。



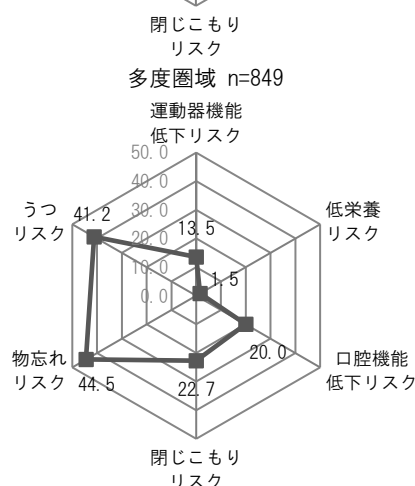
- 南部圏域では、「物忘れリスク」(41.3%)、「うつリスク」(40.6%)、「閉じこもりリスク」(19.8%)、「口腔機能低下リスク」(19.6%)、「運動器機能低下リスク」(12.5%)、「低栄養リスク」(2.1%)の順となり、「閉じこもりリスク」を除く5つの指標で市全域を上回っています。



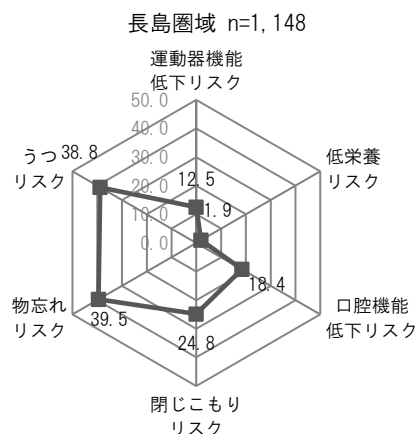
- 北部圏域では、「うつリスク」(39.2%)、「物忘れリスク」(39.1%)、「閉じこもりリスク」(17.5%)、「口腔機能低下リスク」(15.9%)、「運動器機能低下リスク」(9.0%)、「低栄養リスク」(1.6%)の順となり、全ての指標で市全域を下回っています。



- 多度圏域では、「物忘れリスク」(44.5%)、「うつリスク」(41.2%)、「閉じこもりリスク」(22.7%)、「口腔機能低下リスク」(20.0%)、「運動器機能低下リスク」(13.5%)、「低栄養リスク」(1.5%)の順となり、「低栄養リスク」を除く5つの指標で市全域を上回っています。



- 長島圏域では、「物忘れリスク」(39.5%)、「うつリスク」(38.8%)、「閉じこもりリスク」(24.8%)、「口腔機能低下リスク」(18.4%)、「運動器機能低下リスク」(12.5%)、「低栄養リスク」(1.9%)の順となり、「閉じこもりリスク」「口腔機能低下リスク」「低栄養リスク」「運動機能低下リスク」の4つの指標で市全域を上回っています。



考察4 社会関係指標に関する評価について

社会参加に関する評価指標として、①高齢者の地域活動の参加状況、②趣味活動等の参加状況、③地域における付き合い方、④地域における支援活動の状況、これらの4項目を考察しました。

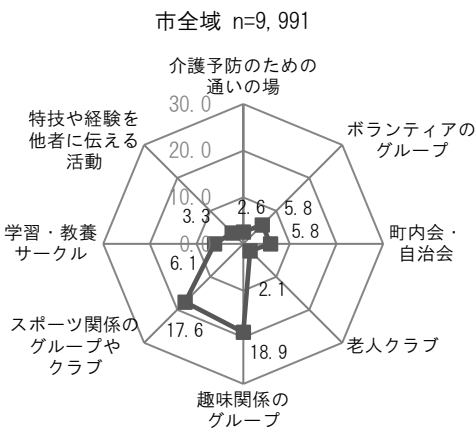
(1) 高齢者の地域活動や趣味活動等の参加状況

高齢者の地域活動の参加状況をみると、多くの圏域において「ボランティアのグループ」、「町内会・自治会」のいずれかが最も多く、また趣味活動等の参加状況をみると多くの圏域において「趣味関係のグループ」が最も多くなっています。

「ボランティアのグループ」は北部圏域、多度圏域、「町内会・自治会」は東部圏域、西部圏域、南部圏域でそれぞれ市全域を上回っています。

「趣味関係のグループの活動」は、東部圏域、南部圏域、北部圏域で市全域を上回っています。

●月1回以上の活動をしている高齢者の参加割合を市全域でみると、地域活動は「ボランティアのグループ」(5.8%)、「町内会・自治会」(5.8%)、「介護予防のための通いの場」(2.6%)、「老人クラブ」(2.1%)の順、趣味活動等は「趣味関係のグループ」(18.9%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(17.6%)、「学習・教養サークル」(6.1%)の順となっています。また、「特技や経験を他者に伝える活動」は3.3%となっています。

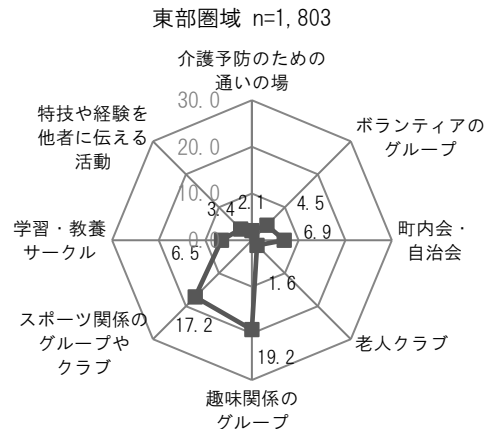


《参考》高齢者像別にみた社会参加率（月1回以上） 単位：%

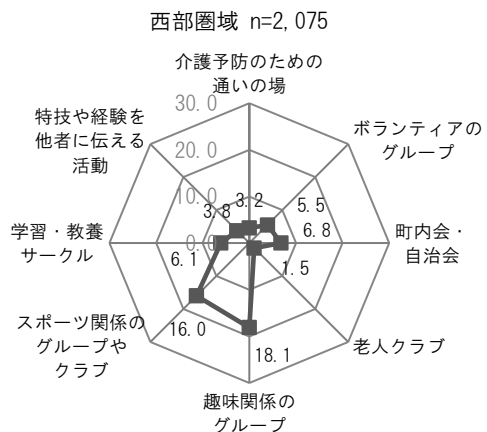
	介護予防のための通いの場	ボランティアのグループ	町内会・自治会	老人クラブ	趣味関係のクラブ	スポーツ関係のグループやクラブ	学習・教養サークル	特技や経験を他者に伝える活動
健康的な高齢者（n=3, 047）	2.3	7.1	7.5	1.9	21.9	23.1	7.8	4.5
虚弱な高齢者（n=6, 822）	2.5	5.4	5.2	2.2	17.8	15.4	5.5	2.9

※健康的な高齢者は「元気高齢者」と「一般高齢者」を合計したものです。

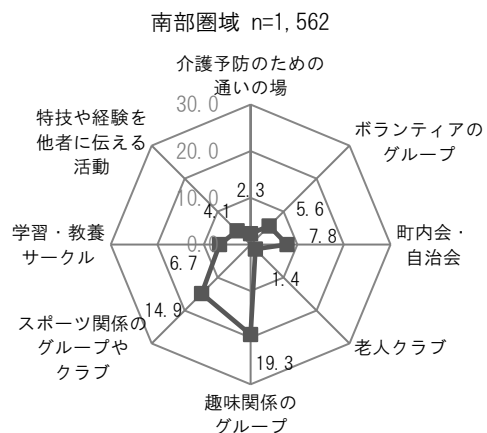
- 東部圏域では、地域活動は「町内会・自治会」(6.9%)、「ボランティアのグループ」(4.5%)、「介護予防のための通いの場」(2.1%)、「老人クラブ」(1.6%)の順、趣味活動等は「趣味関係のグループ」(19.2%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(17.2%)、「学習・教養サークル」(6.5%)の順となっています。また、「特技や経験を他者に伝える活動」は3.4%となり、「町内会・自治会」「趣味関係のグループ」「学習・教養サークル」「特技や経験を他者に伝える活動」の4つの活動で市全域を上回っています。



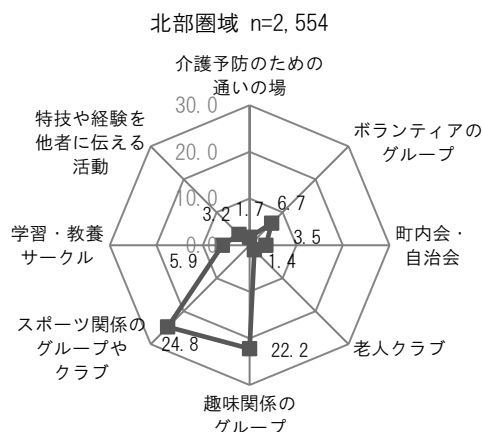
- 西部圏域では、地域活動は「町内会・自治会」(6.8%)、「ボランティアのグループ」(5.5%)、「介護予防のための通いの場」(3.2%)、「老人クラブ」(1.5%)の順、趣味活動等は「趣味関係のグループ」(18.1%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(16.0%)、「学習・教養サークル」(6.1%)の順となっています。また、「特技や経験を他者に伝える活動」は3.8%となり、「介護予防のための通いの場」「町内会・自治会」「特技や経験を他者に伝える活動」の3つの活動で市全域を上回っています。



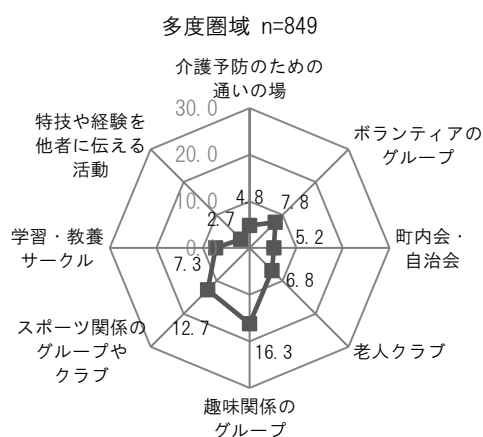
- 南部圏域では、地域活動は「町内会・自治会」(7.8%)、「ボランティアのグループ」(5.6%)、「介護予防のための通いの場」(2.3%)、「老人クラブ」(1.4%)の順、趣味活動等は「趣味関係のグループ」(19.3%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(14.9%)、「学習・教養サークル」(6.7%)の順となっています。また、「特技や経験を他者に伝える活動」は4.1%となり、「町内会・自治会」「趣味関係のグループ」「学習・教養サークル」「特技や経験を他者に伝える活動」の4つの活動で市全域を上回っています。



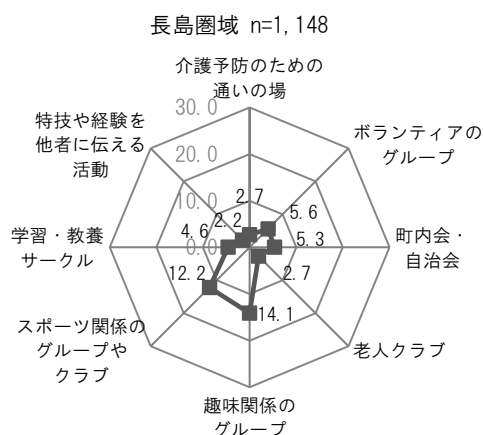
- 北部圏域では、地域活動は「ボランティアのグループ」(6.7%)、「町内会・自治会」(3.5%)、「介護予防のための通いの場」(1.7%)、「老人クラブ」(1.4%)の順、趣味活動等は「スポーツ関係のグループやクラブ」(24.8%)、「趣味関係のグループ」(22.2%)、「学習・教養サークル」(5.9%)の順となっています。また、「特技や経験を他者に伝える活動」は3.2%となり、「ボランティアのグループ」「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」の3つの活動で市全域を上回っています。



- 多度圏域では、地域活動は「ボランティアのグループ」(7.8%)、「老人クラブ」(6.8%)、「町内会・自治会」(5.2%)、「介護予防のための通いの場」(4.8%)の順、趣味活動等は「趣味関係のグループ」(16.3%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(12.7%)、「学習・教養サークル」(7.3%)の順となっています。また、「特技や経験を他者に伝える活動」は2.7%となり、「介護予防のための通いの場」「ボランティアのグループ」「老人クラブ」「学習・教養サークル」の4つの活動で市全域を上回っています。



- 長島圏域では、地域活動は「ボランティアのグループ」(5.6%)、「町内会・自治会」(5.3%)、「介護予防のための通いの場」(2.7%)、「老人クラブ」(2.7%)の順、趣味活動等は「趣味関係のグループ」(14.1%)、「スポーツ関係のグループやクラブ」(12.2%)、「学習・教養サークル」(4.6%)の順となっています。また、「特技や経験を他者に伝える活動」は2.2%となり、「介護予防のための通いの場」「老人クラブ」の2つの活動で市全域を上回っています。

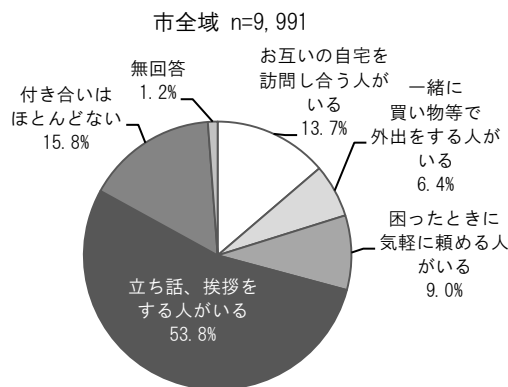


(2) 高齢者の地域における付き合い方

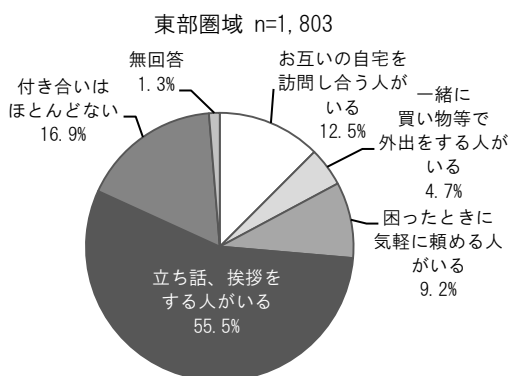
地域における付き合い方の状況では、多くの圏域において「立ち話、挨拶をする人がいる」、「付き合いはほとんどない」、「お互いの自宅を訪問し合う人がいる」、「困ったときに気軽に頼める人がいる」、「一緒に買い物等で外出をする人がいる」の順となっています。

付き合いはほとんどない高齢者は、東部圏域、北部圏域で市全域を上回っています。

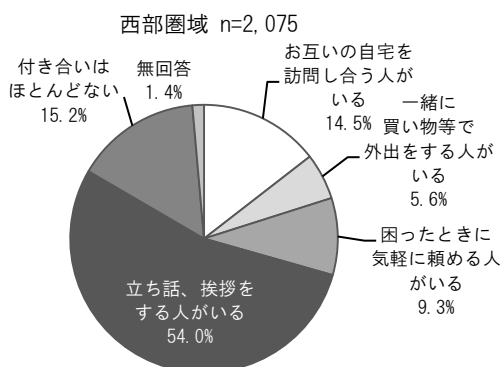
- ふだん、地域の人とのどのような付き合い方をしているかの割合を市全域でみると、「立ち話、挨拶をする人がいる」(53.8%)が最も多く、「付き合いはほとんどない」(15.8%)、「お互いの自宅を訪問し合う人がいる」(13.7%)、「困ったときに気軽に頼める人がいる」(9.0%)、「一緒に買い物等で外出をする人がいる」(6.4%)の順となっています。



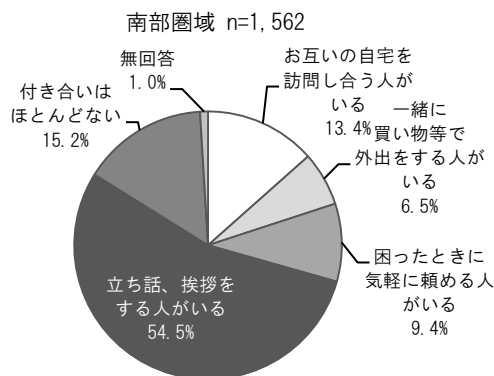
- 東部圏域では「立ち話、挨拶をする人がいる」(55.5%)、「付き合いはほとんどない」(16.9%)、「困ったときに気軽に頼める人がいる」(9.2%)で市全域を上回っています。



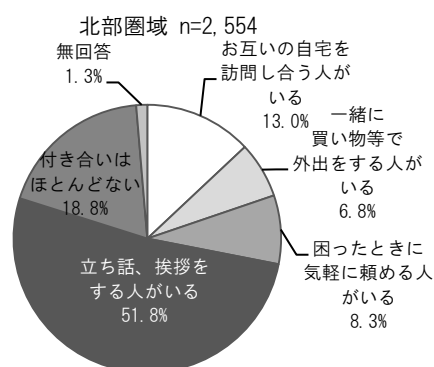
- 西部圏域では、「立ち話、挨拶をする人がいる」(54.0%)、「お互いの自宅を訪問し合う人がいる」(14.5%)、「困ったときに気軽に頼める人がいる」(9.3%)で市全域を上回っています。



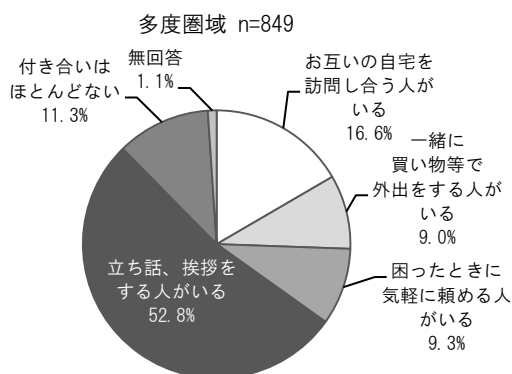
- 南部圏域では、「立ち話、挨拶をする人がある」(54.5%)、「困ったときに気軽に頼める人がある」(9.4%)、「一緒に買い物等で外出をする人がある」(6.5%)で市全域を上回っています。



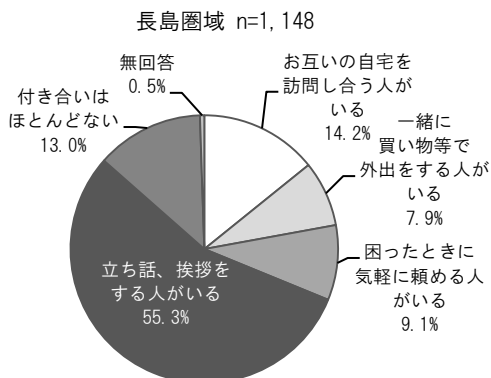
- 北部圏域では、「付き合いはほとんどない」(18.8%)、「一緒に買い物等で外出をする人がある」(6.8%)で市全域を上回っています。



- 多度圏域では、「お互いの自宅を訪問し合う人がある」(16.6%)、「一緒に買い物等で外出をする人がある」(9.0%)、「困ったときに気軽に頼める人がある」(9.3%)で市全域を上回っています。



- 長島圏域では、「立ち話、挨拶をする人がある」(55.3%)、「お互いの自宅を訪問し合う人がある」(14.2%)、「一緒に買い物等で外出をする人がある」(7.9%)、「困った時に気軽に頼める人がある」(9.1%)で市全域を上回っています。



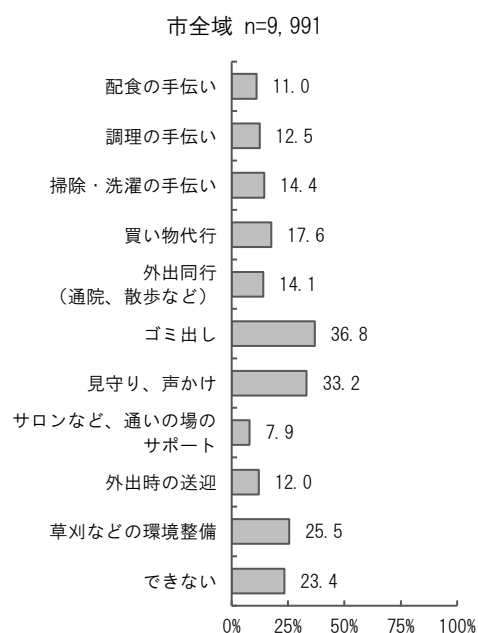
(3) 高齢者における地域支援の活動

調査で「高齢者ができそう」と回答した地域支援活動について、ほとんどの圏域は「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」、「草刈などの環境整備」の活動が上位を占め、西部圏域、南部圏域、北部圏域で市全域を上回る項目が多い状況です。

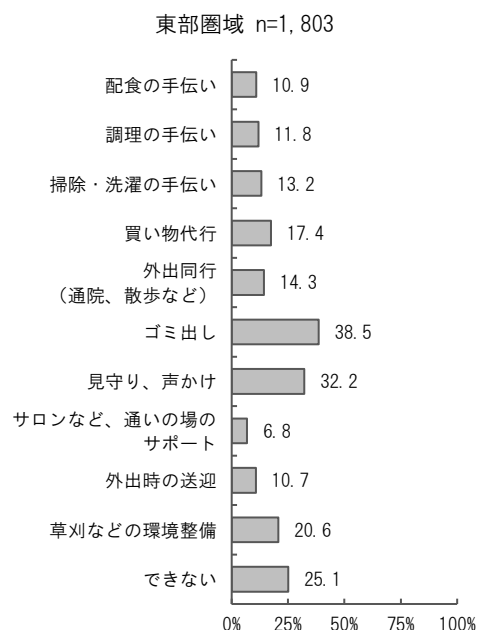
家事支援関係は「買い物代行」、「掃除・洗濯の手伝い」、「調理の手伝い」、「配食の手伝い」の順に多く、北部圏域、多度圏域では多くの項目で市全域を上回っています。

外出支援関係は「外出同行（通院・散歩など）」、「外出時の送迎」、「サロンなど、通いの場のサポート」の順に多く、北部圏域、多度圏域で市全域を上回る項目が多い状況です。

- 地域支援活動の割合を市全域でみると、「ゴミ出し」(36.8%)が最も高く、「見守り、声かけ」(33.2%)、「草刈などの環境整備」(25.5%)が上位を占めています。
- 家事支援関係は「買い物代行」(17.6%)、「掃除・洗濯の手伝い」(14.4%)、「調理の手伝い」(12.5%)、「配食の手伝い」(11.0%)の順、外出支援等関係は「外出同行（通院・散歩など）」(14.1%)「外出時の送迎」(12.0%)、「サロンなど、通いの場のサポート」(7.9%)の順となっています。
- 一方、「できない」と回答した高齢者は23.4%でした。

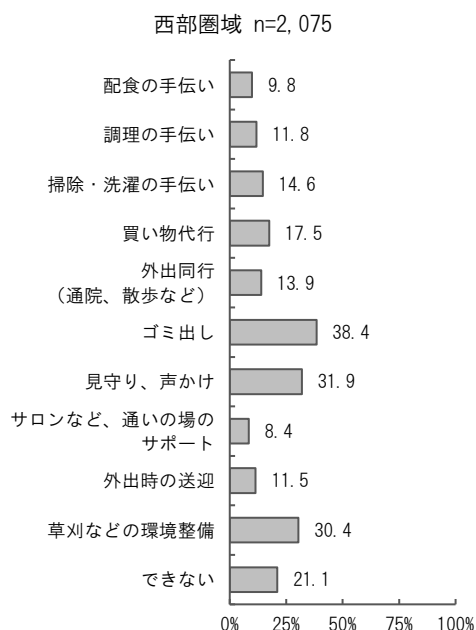


- 東部圏域では「ゴミ出し」(38.5%)、「見守り、声かけ」(32.2%)、「草刈などの環境整備」(20.6%)が上位を占め、「ゴミ出し」で市全域を上回っています。
- 家事支援関係は「買い物代行」(17.4%)、「掃除・洗濯の手伝い」(13.2%)、「調理の手伝い」(11.8%)、「配食の手伝い」(10.9%)の順、外出支援等関係は「外出同行（通院・散歩など）」(14.3%)「外出時の送迎」(10.7%)、「サロンなど、通いの場のサポート」(6.8%)の順となっています。
- 一方、「できない」と回答した高齢者は25.1%でした。



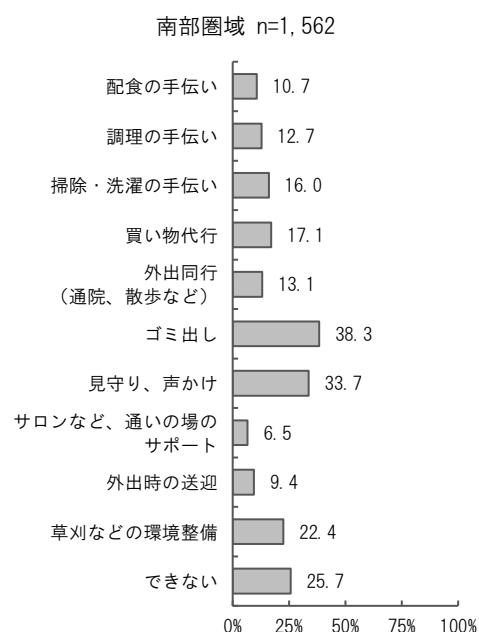
- 西部圏域では「ゴミ出し」(38.4%)、「見守り、声かけ」(31.9%)、「草刈などの環境整備」(30.4%)が上位を占め、「ゴミ出し」、「草刈などの環境整備」で市全域を上回っています。

家事支援関係は「買い物代行」(17.5%)、「掃除・洗濯の手伝い」(14.6%)、「調理の手伝い」(11.8%)、「配食の手伝い」(9.8%)の順、外出支援等関係は「外出同行(通院・散歩など)」(13.9%)「外出時の送迎」(11.5%)、「サロンなど、通いの場のサポート」(8.4%)の順となっています。一方、「できない」と回答した高齢者は21.1%でした。



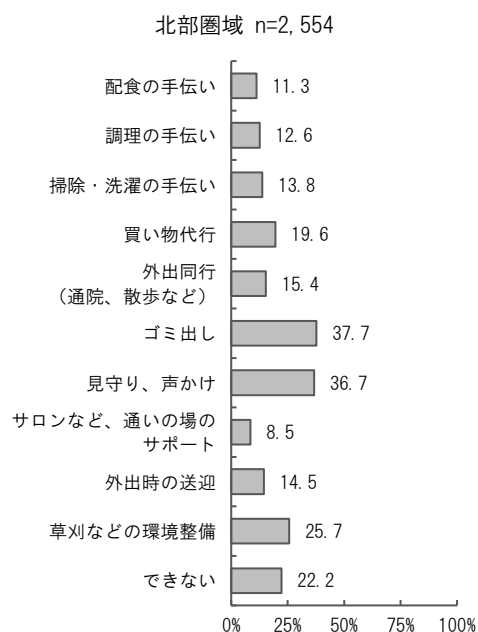
- 南部圏域では「ゴミ出し」(38.3%)、「見守り、声かけ」(33.7%)、「草刈などの環境整備」(22.4%)が上位を占め、「ゴミ出し」、「見守り、声かけ」で市全域を上回っています。

家事支援関係は「買い物代行」(17.1%)、「掃除・洗濯の手伝い」(16.0%)、「調理の手伝い」(12.7%)、「配食の手伝い」(10.7%)の順、外出支援等関係は「外出同行(通院・散歩など)」(13.1%)「外出時の送迎」(9.4%)、「サロンなど、通いの場のサポート」(6.5%)の順となっています。一方、「できない」と回答した高齢者は25.7%でした。



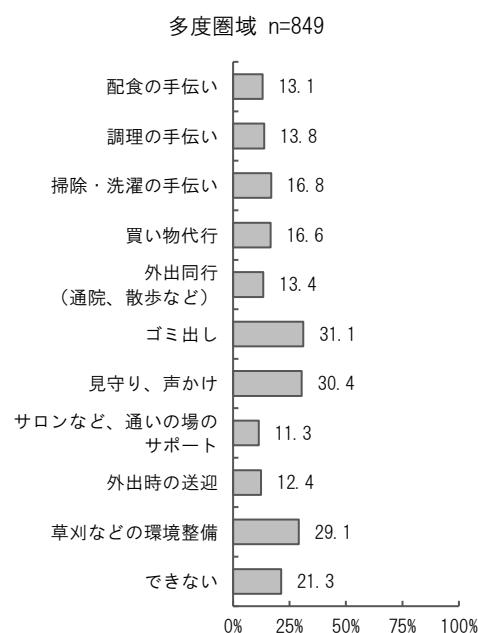
- 北部圏域では「ゴミ出し」(37.7%)、「見守り、声かけ」(36.7%)、「草刈などの環境整備」(25.7%)が上位を占め、いずれも市全域を上回っています。

家事支援関係は「買い物代行」(19.6%)、「掃除・洗濯の手伝い」(13.8%)、「調理の手伝い」(12.6%)、「配食の手伝い」(11.3%)の順、外出支援等関係は「外出同行(通院・散歩など)」(15.4%)「外出時の送迎」(14.5%)、「サロンなど、通いの場のサポート」(8.5%)の順となっています。一方、「できない」と回答した高齢者は22.2%でした。

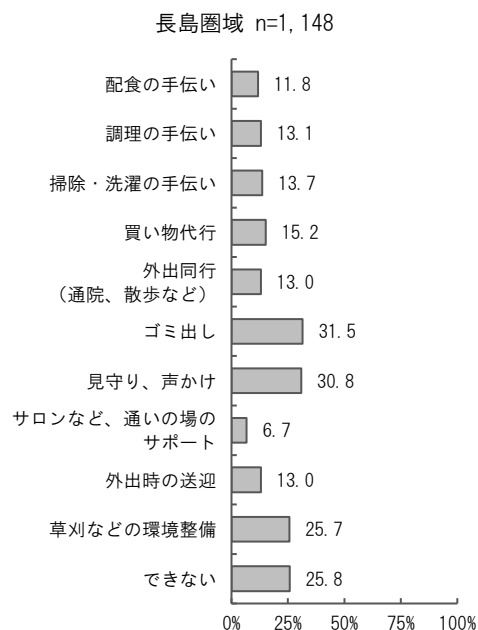


- 多度圏域では「ゴミ出し」(31.1%)、「見守り、声かけ」(30.4%)、「草刈などの環境整備」(29.1%)が上位を占め、「草刈などの環境整備」で市全域を上回っています。

家事支援関係は「掃除・洗濯の手伝い」(16.8%)、「買い物代行」(16.6%)、「調理の手伝い」(13.8%)、「配食の手伝い」(13.1%)の順、外出支援等関係は「外出同行(通院・散歩など)」(13.4%)、「外出時の送迎」(12.4%)、「サロンなど、通いの場のサポート」(11.3%)の順となっています。一方、「できない」と回答した高齢者は21.3%でした。



●長島圏域では「ゴミ出し」(31.5%)、「見守り、声かけ」(30.8%)、「草刈などの環境整備」(25.7%)が上位を占め、「草刈などの環境整備」で市全域を上回っています。家事支援関係は「買い物代行」(15.2%)、「掃除・洗濯の手伝い」(13.7%)、「調理の手伝い」(13.1%)、「配食の手伝い」(11.8%)の順、外出支援等関係は「外出同行(通院・散歩など)」(13.0%)「外出時の送迎」(13.0%)、「サロンなど、通いの場のサポート」(6.7%)の順となっています。一方、「できない」と回答した高齢者は25.8%でした。



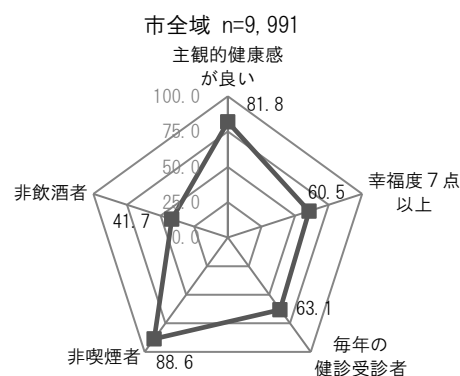
考察5 健康行動指標に関する評価について

高齢者の健康寿命の延伸に関する評価指標として、①主観的健康感、②幸福度の点数、③健康診断の受診状況、④非喫煙者の割合、⑤非飲酒者の割合を用いました。

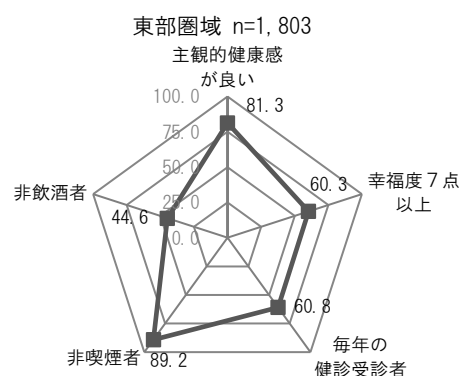
「健康状態がよい」高齢者の多い圏域は、西部圏域、北部圏域で市全体を上回っています。

(1) 健康行動指標からみた各圏域の状況

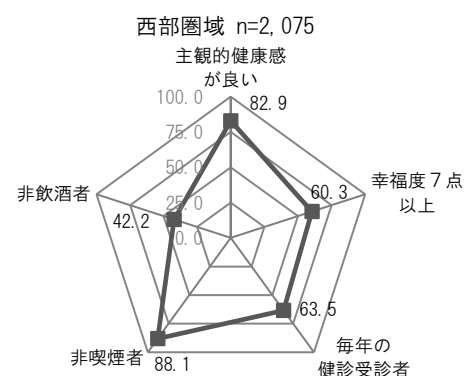
- 高齢者の健康行動指標を市全域でみると、「主観的健康感が良い」高齢者は81.8%でした。他の4指標をみると「非喫煙者」(88.6%)、「毎年の健診受診者」(63.1%)、「幸福度7点以上」(60.5%)、「非飲酒者」(41.7%)となっています。



- 東部圏域では「主観的健康感が良い」高齢者は81.3%でした。他の4指標をみると「非喫煙者」(89.2%)、「毎年の健診受診者」(60.8%)、「幸福度7点以上」(60.3%)、「非飲酒者」(44.6%)となり、「非喫煙者」「非飲酒者」で市全域を上回っています。

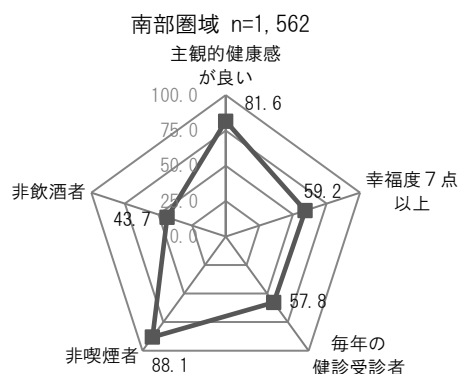


- 西部圏域では、「主観的健康感が良い」高齢者は82.9%でした。他の4指標をみると「非喫煙者」(88.1%)、「毎年の健診受診者」(63.5%)、「幸福度7点以上」(60.3%)、「非飲酒者」(42.2%)となり、「主観的健康感が良い」「毎年の健診受診者」「非飲酒者」で市全域を上回っています。



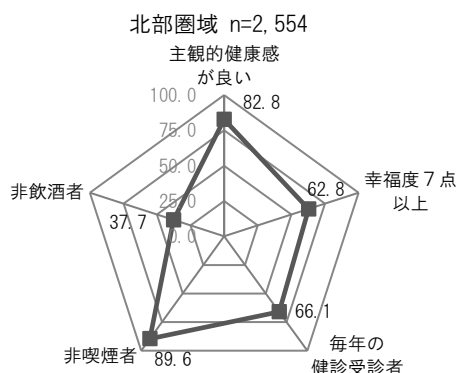
- 南部圏域では、「主観的健康感が良い」高齢者は81.6%でした。

他の4指標をみると「非喫煙者」(88.1%)、「幸福度7点以上」(59.2%)、「毎年の健診受診者」(57.8%)、「非飲酒者」(43.7%)となり、「非飲酒者」で市全域を上回っています。



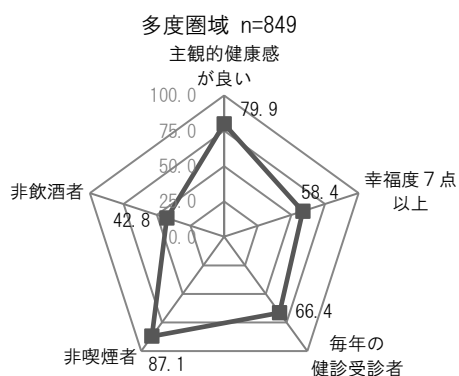
- 北部圏域では、「主観的健康感が良い」高齢者は82.8%でした。

他の4指標をみると「非喫煙者」(89.6%)、「毎年の健診受診者」(66.1%)、「幸福度7点以上」(62.8%)、「非飲酒者」(37.7%)となり、「非飲酒者」以外は市全域を上回っています。



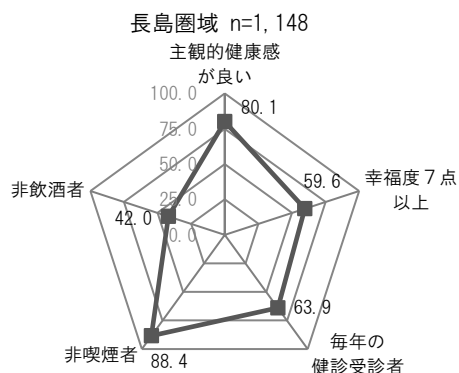
- 多度圏域では、「主観的健康感が良い」高齢者は79.9%でした。

他の4指標をみると「非喫煙者」(87.1%)、「毎年の健診受診者」(66.4%)、「幸福度7点以上」(58.4%)、「非飲酒者」(42.8%)となり、「毎年の健診受診者」「非飲酒者」で市全域を上回っています。



- 長島圏域では、「主観的健康感が良い」高齢者は80.1%でした。

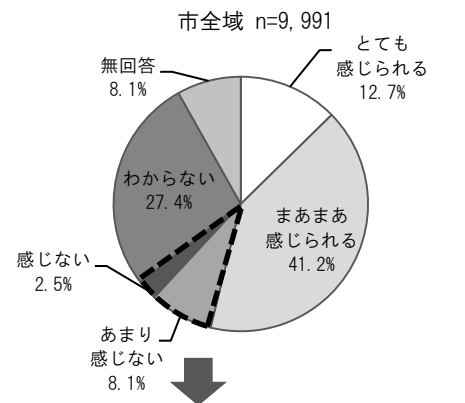
他の4指標をみると「非喫煙者」(88.4%)、「毎年の健診受診者」(63.9%)、「幸福度7点以上」(59.6%)、「非飲酒者」(42.0%)となり、「毎年の健診受診者」「非飲酒者」で市全域を上回っています。



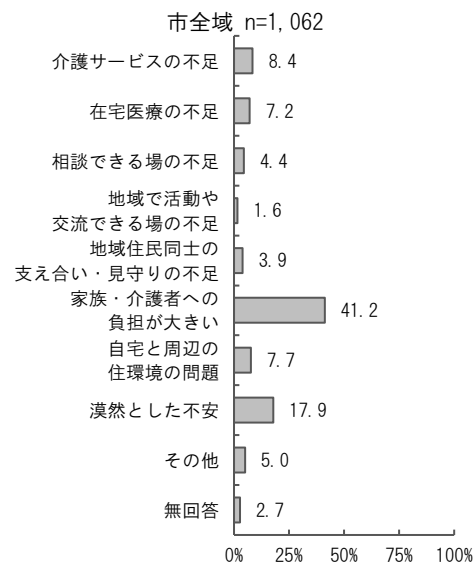
考察6 地域包括ケアシステムに対する認識について

地域包括ケアシステム構築の目的は、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で住み続けられる地域社会の実現です。調査結果から、67.7～70.3%の高齢者は人生の最期における居場所を「自宅」を中心に回答し、「施設」は1.5～2.5%となっています。

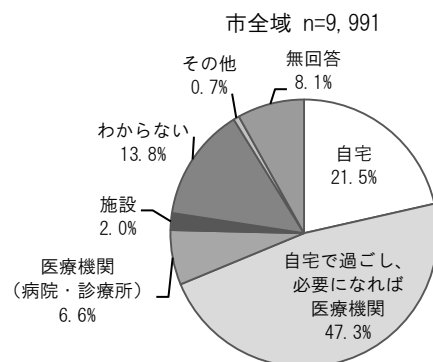
- 介護が必要になっても、医療、介護サービスを受けながら住み慣れた地域で暮らし続けられると感じる高齢者を市全域でみると、「とても感じられる」+「まあまあ感じられる」の計は53.9%でした。一方、「あまり感じない」+「感じない」の計は10.6%となっています。



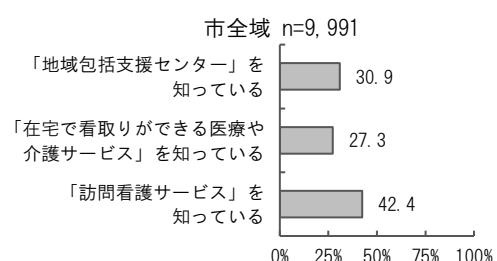
- 「あまり感じない」+「感じない」理由としては、「家族・介護者への負担が大きい」(41.2%)が最も高く、次いで「漠然とした不安」(17.9%)をあげています。



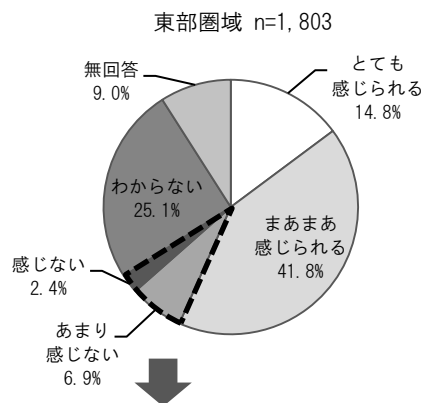
- 人生の最期における居場所は、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」(47.3%)が最も高く、「自宅」(21.5%)、「医療機関(病院・診療所)」(6.6%)の順となり、「施設」(2.0%)はごく低率となっています。



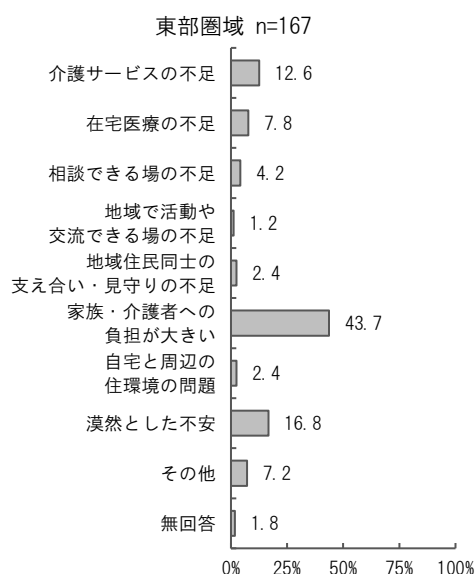
- 地域包括ケアに対する周知状況では、「訪問看護サービス」(42.4%)、「地域包括支援センター」(30.9%)、「在宅で看取りができる医療や介護サービス」(27.3%)の順となっています。



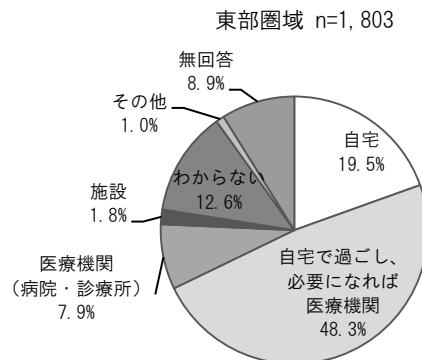
- 東部圏域では「とても感じられる」＋「まあまあ感じられる」の計が56.6%でした。一方、「あまり感じない」＋「感じない」の計は9.3%となり、前者は市全域を上回っています。



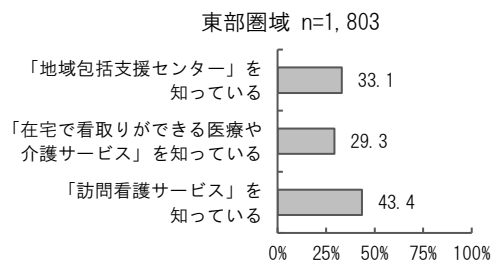
- 「あまり感じない」＋「感じない」理由としては、「家族・介護者への負担が大きい」(43.7%)が最も高く、次いで「漠然とした不安」(16.8%)、「介護サービスの不足」(12.6%)となり、「家族・介護者への負担が大きい」、「介護サービスの不足」、「在宅医療の不足」は市全域を上回っています。



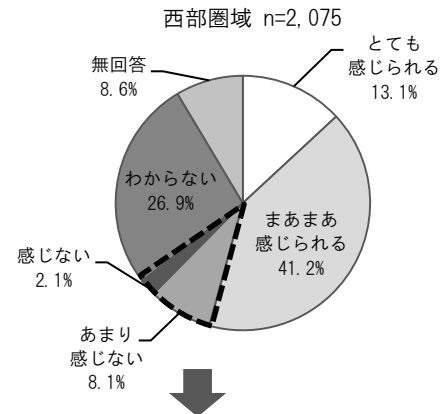
- 人生の最期における居場所は、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」(48.3%)が最も高く、「自宅」(19.5%)、「医療機関(病院・診療所)」(7.9%)の順となり、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」「医療機関(病院・診療所)」で市全域を上回っています。一方、「施設」(1.8%)はごく低率となっています。



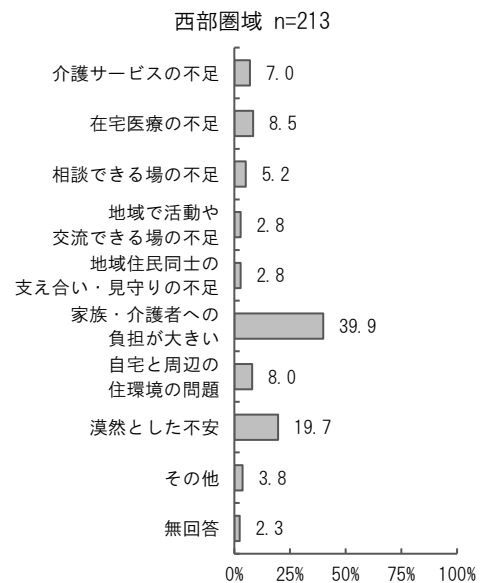
- 地域包括ケアに対する周知状況では、「訪問看護サービス」(43.4%)、「地域包括支援センター」(33.1%)、「在宅で看取りができる医療や介護サービス」(29.3%)の順となり、いずれも市全域を上回っています。



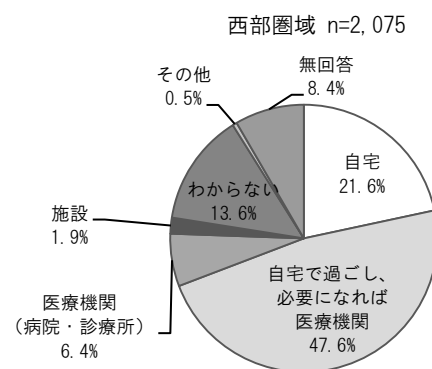
- 西部圏域では「とても感じられる」＋「まあまあ感じられる」の計が54.3%でした。一方、「あまり感じない」＋「感じない」の計は10.2%となり、市全域を下回っています。



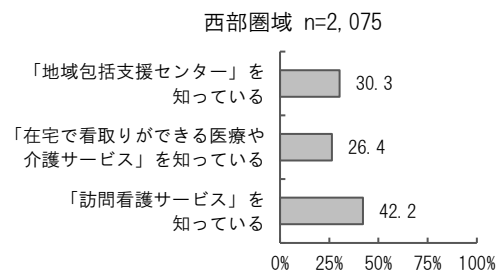
- 「あまり感じない」＋「感じない」理由としては、「家族・介護者への負担が大きい」(39.9%)が最も高く、次いで「漠然とした不安」(19.7%)となり、「漠然とした不安」「在宅医療の不足」などは市全域を上回っています。



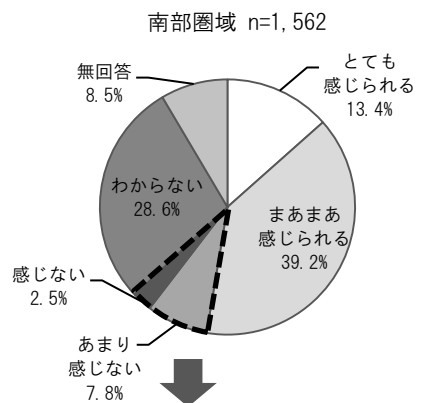
- 人生の最期における居場所は、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」(47.6%)が最も高く、「自宅」(21.6%)、「医療機関(病院・診療所)」(6.4%)の順となり、「自宅」「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」で市全域を上回っています。一方、「施設」(1.9%)はごく低率となっています。



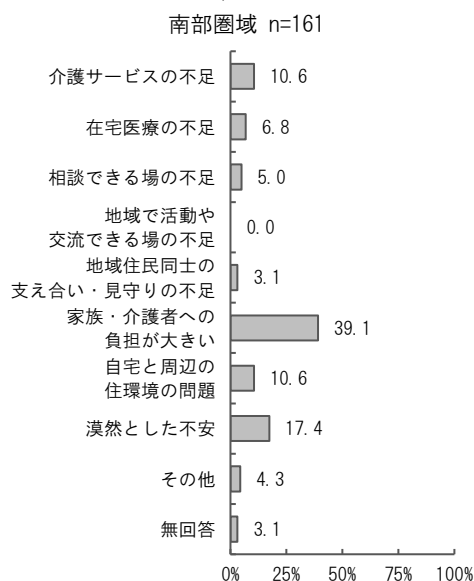
- 地域包括ケアに対する周知状況では、「訪問看護サービス」(42.2%)、「地域包括支援センター」(30.3%)、「在宅で看取りができる医療や介護サービス」(26.4%)の順となり、いずれも市全域を下回っています。



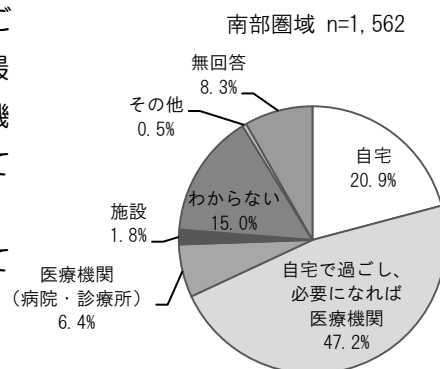
- 南部圏域では「とても感じられる」＋「まあまあ感じられる」の計が52.6%でした。一方、「あまり感じない」＋「感じない」の計は10.3%となり、後者は市全域を上回っています。



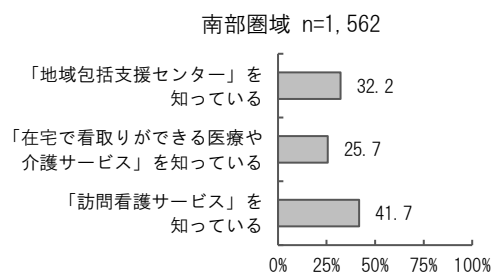
- 「あまり感じない」＋「感じない」理由としては、「家族・介護者への負担が大きい」(39.1%)が最も高く、次いで「漠然とした不安」(17.4%)、「介護サービスの不足」(10.6%)の順となり、「介護サービスの不足」などは市全域を上回っています。



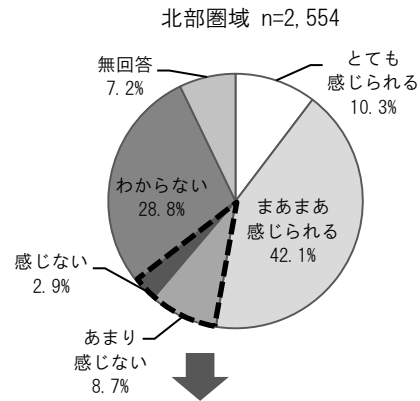
- 人生の最期における居場所は、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」(47.2%)が最も高く、次いで「自宅」(20.9%)、「医療機関(病院・診療所)」(6.4%)の順となっています。一方、「施設」(1.8%)はごく低率となっています。



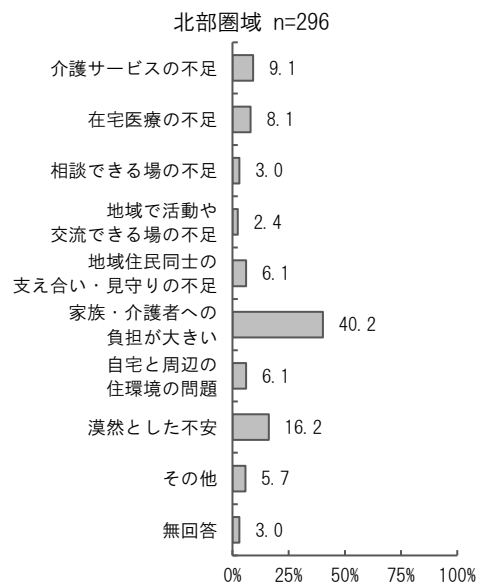
- 地域包括ケアに対する周知状況では、「訪問看護サービス」(41.7%)、「地域包括支援センター」(32.2%)、「在宅で看取りができる医療や介護サービス」(25.7%)の順となり、「地域包括支援センター」で市全域を上回っています。



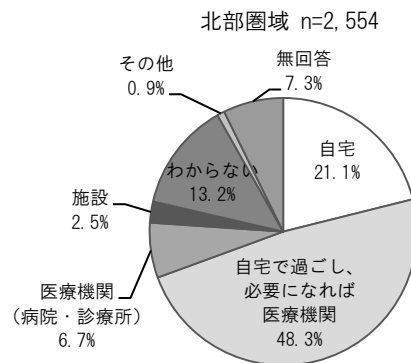
- 北部圏域では「とても感じられる」＋「まあまあ感じられる」の計が52.4%でした。一方、「あまり感じない」＋「感じない」の計は11.6%となり、後者は市全域を上回っています。



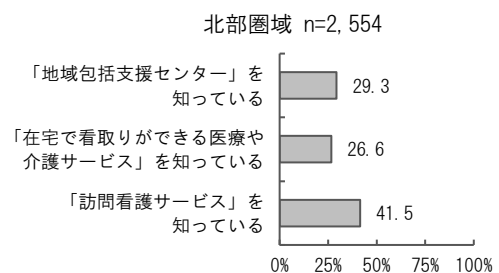
- 「あまり感じない」＋「感じない」理由としては、「家族・介護者への負担が大きい」(40.2%)が最も高く、次いで「漠然とした不安」(16.2%)、「介護サービスの不足」(9.1%)の順となり、「介護サービスの不足」などは市全域を上回っています。



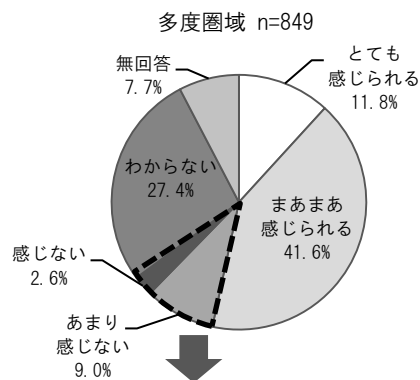
- 人生の最期における居場所は、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」(48.3%)が最も高く、次いで「自宅」(21.1%)、「医療機関(病院・診療所)」(6.7%)の順となり、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」「医療機関(病院・診療所)」は市全域を上回っています。一方、「施設」(2.5%)はごく低率となっています。



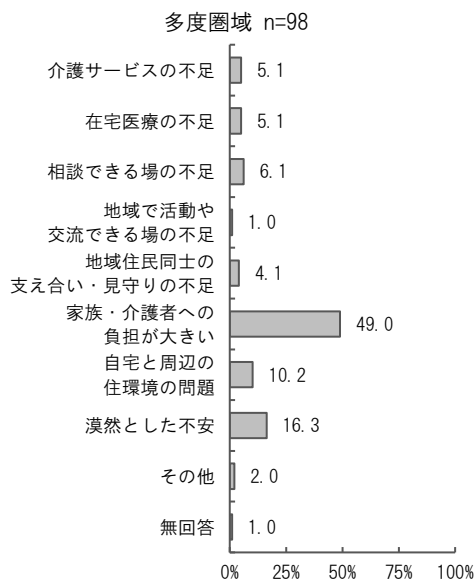
- 地域包括ケアに対する周知状況では、「訪問看護サービス」(41.5%)、「地域包括支援センター」(29.3%)、「在宅で看取りができる医療や介護サービス」(26.6%)の順となり、いずれにおいても市全域を下回っています。



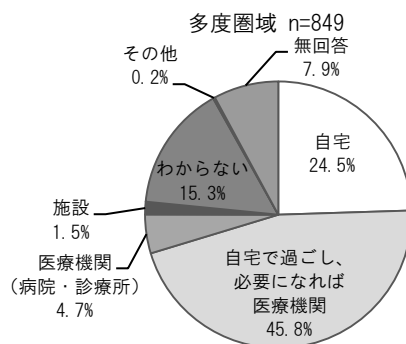
- 多度圏域では「とても感じられる」＋「まあまあ感じられる」の計が53.4%でした。一方、「あまり感じない」＋「感じない」の計は11.6%となり、後者は市全域を上回っています。



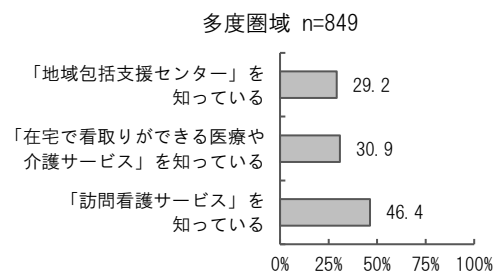
- 「あまり感じない」＋「感じない」理由としては、「家族・介護者への負担が大きい」(49.0%)が最も高く、次いで「漠然とした不安」(16.3%)、「自宅と周辺の住環境の問題」(10.2%)の順となり、「家族・介護者への負担が大きい」などは市全域を上回っています。



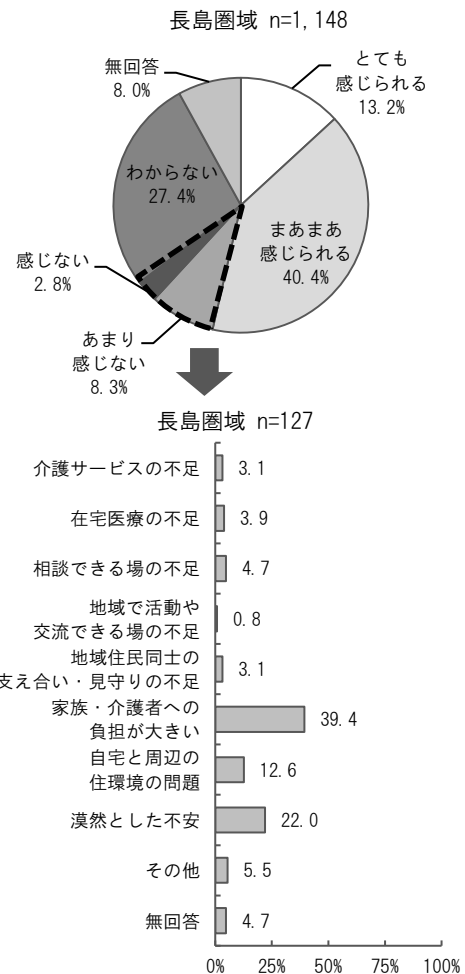
- 人生の最期における居場所は、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」(45.8%)が最も高く、次いで「自宅」(24.5%)、「医療機関(病院・診療所)」(4.7%)の順となり、「自宅」は市全域を上回っています。一方、「施設」(1.5%)はごく低率となっています。



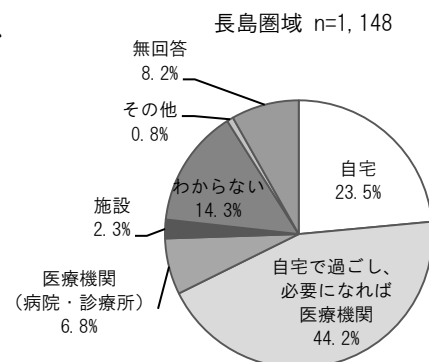
- 地域包括ケアに対する周知状況では、「訪問看護サービス」(46.4%)、「在宅で看取りができる医療や介護サービス」(30.9%)「地域包括支援センター」(29.2%)の順となり、「在宅で看取りができる医療や介護サービス」「訪問看護サービス」で市全域を上回っています。



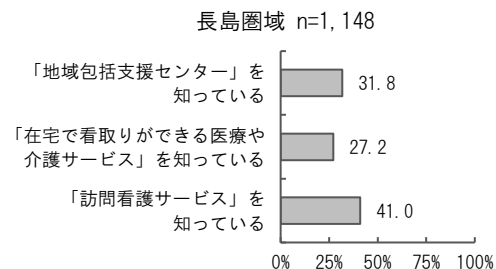
- 長島圏域では「とても感じられる」＋「まあまあ感じられる」の計が53.6%でした。一方、「あまり感じない」＋「感じない」の計は11.1%となり、後者は市全域を上回っています。



- 人生の最期における居場所は、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」(44.2%)が最も高く、次いで「自宅」(23.5%)、「医療機関(病院・診療所)」(6.8%)の順となり、「自宅」「医療機関(病院・診療所)」で市全域を上回っています。一方、「施設」(2.3%)はごく低率となっています。



- 地域包括ケアに対する周知状況では、「訪問看護サービス」(41.0%)、「地域包括支援センター」(31.8%)、「在宅で看取りができる医療や介護サービス」(27.2%)の順となり、「地域包括支援センター」で市全域を上回っています。



第3章

調査の分析結果

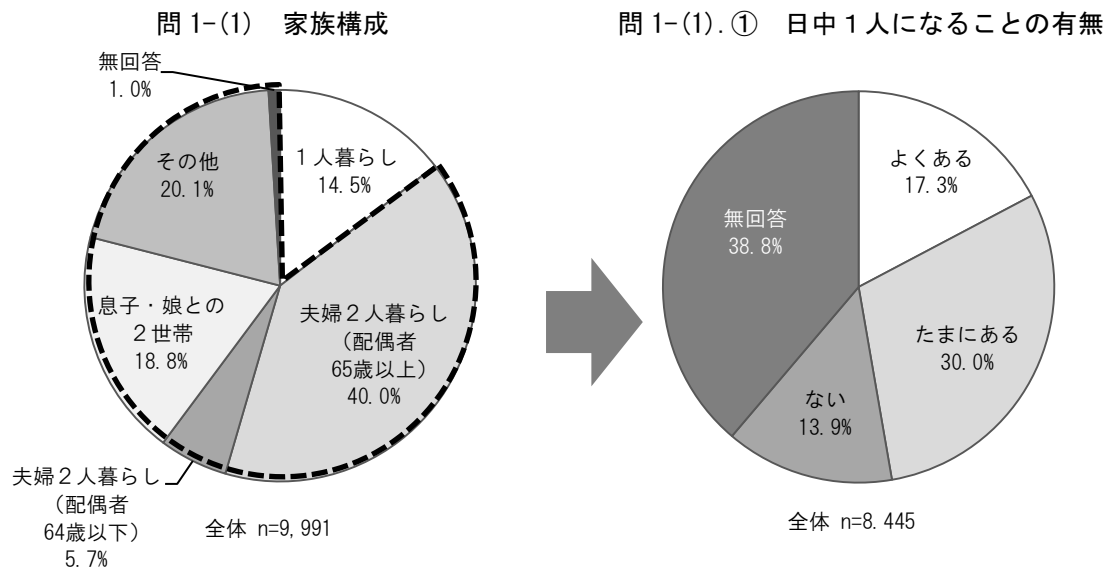
第3章 調査の分析結果

1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成及び日中独居者の状況

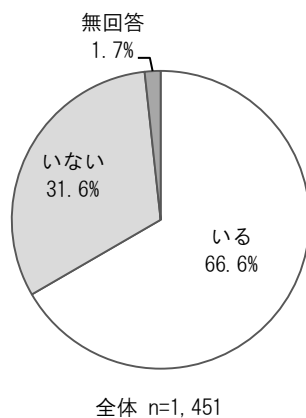
○家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」（40.0%）が最も多く、次いで「息子・娘との2世帯」（18.8%）、「1人暮らし」（14.5%）となっています。

○日中に1人になることの有無は、「たまにある」（30.0%）が最も多く、「よくある」（17.3%）を合わせた約5割が、日中に1人になることがあると回答しています。

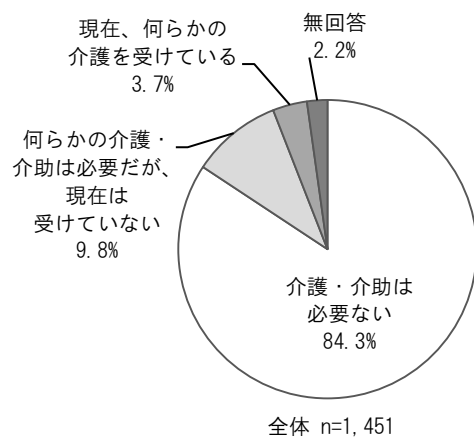


《参考》

問 1-1 家族構成（1人暮らし）×
問 1-(2) 概ね 30 分以内の近居の親族の有無



問 1-1 家族構成（1人暮らし）×
問 1-(3) 普段の生活で介護・介助が必要か

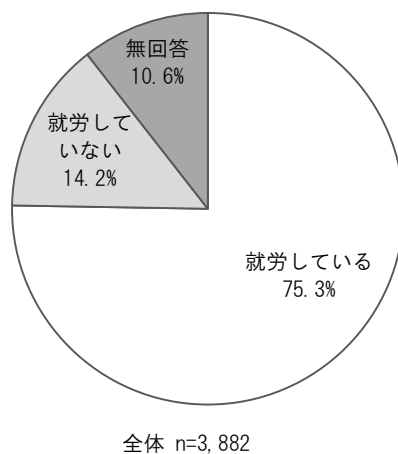


○家族の就労状況をみると、「就労している」が75.3%、「就労していない」が14.2%となっています。

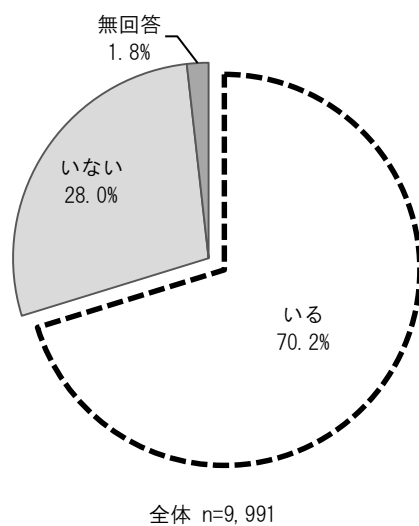
○概ね30分以内に駆けつけることができる近居の親族の有無は、「いる」が70.2%、「いない」が28.0%となっています。

○近居の親族との間柄では、「子」(69.0%)が最も多く、次いで「兄弟・姉妹」(30.9%)となっています。

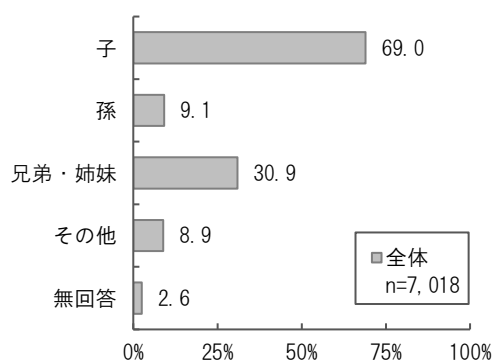
問 1-(1). ② 家族の就労状況



問 1-(2) 概ね30分以内の近居の親族の有無



問 1-(2). ① 近居の親族

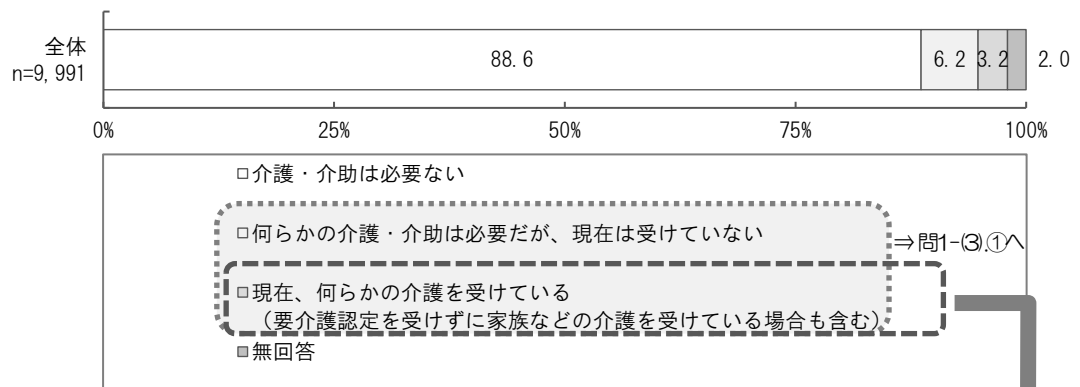


（２）日常生活における要介護（介助）者の有無

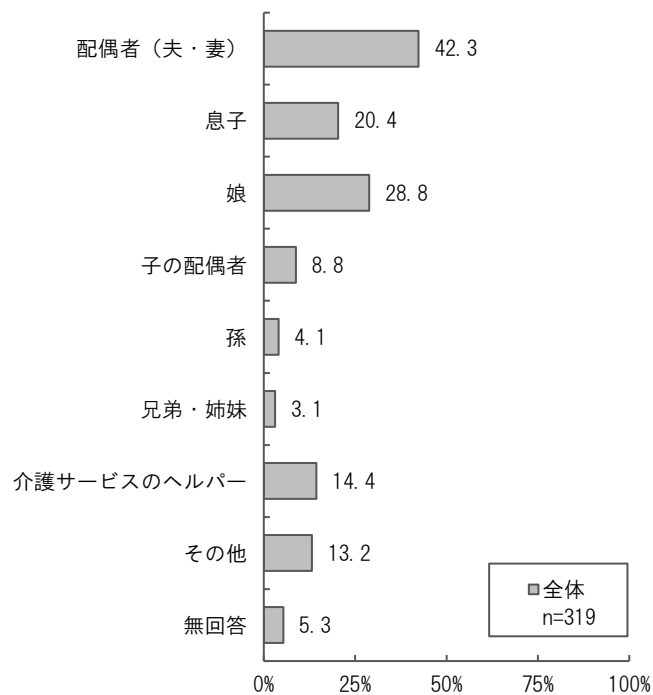
○普段の生活においての介護・介助の状況をみると、「介護・介助は必要ない」（88.6%）が最も多くなっています。

○介護、介助をしてきている人は、「配偶者（夫・妻）」（42.3%）が最も多く、次いで「娘」（28.8%）、「息子」（20.4%）となっています。

問 1-(3) 普段の生活で介護・介助が必要か

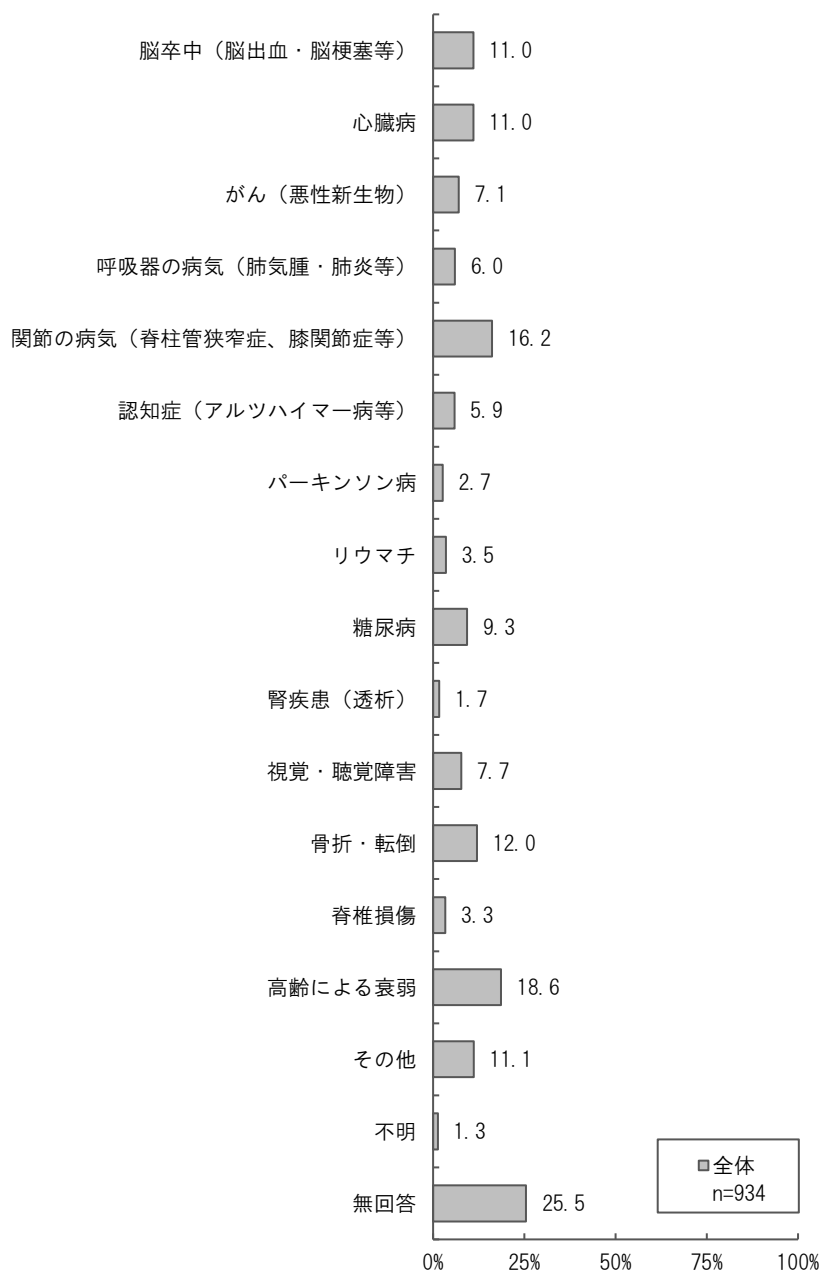


問 1-(3).② 介護・介助をしてきている人



○介護・介助が必要になった主な原因は、「高齢による衰弱」(18.6%) が最も多く、次いで「関節の病気(脊柱管狭窄症、膝関節症等)」(16.2%)、「骨折・転倒」(12.0%)となっています。

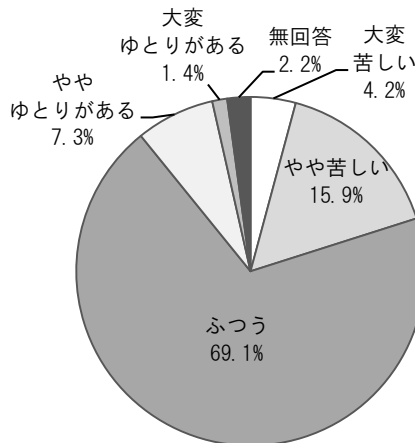
問 1-(3). ① 介護・介助が必要になった主な原因



(3) 現在の経済状況

○現在の暮らしの経済的状况をみると、「ふつう」(69.1%)が最も多くなっています。一方、「やや苦しい」(15.9%)・「大変苦しい」(4.2%)を合わせた経済的に苦しい世帯は、「ややゆとりがある」(7.3%)・「大変ゆとりがある」(1.4%)を合わせた経済的にゆとりのある世帯の2倍以上となっています。

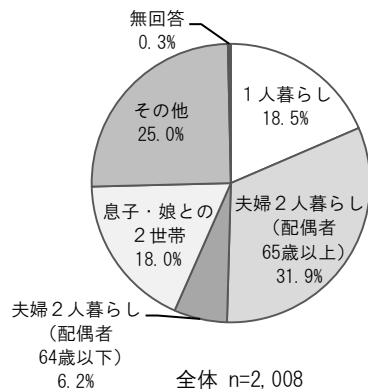
問1-(4) 現在の暮らしの経済的状况



全体 n=9,991

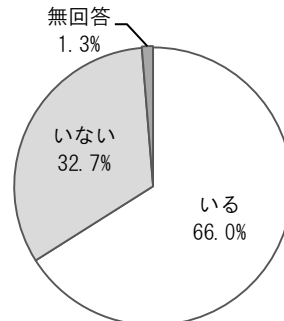
《参考》 問1-(4) 現在の暮らしの経済的状况（大変苦しい・やや苦しい）とのクロス集計

× 問1-(1) 家族構成



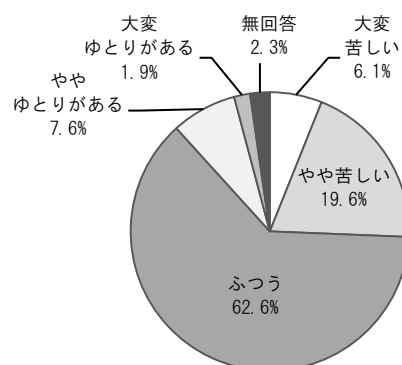
全体 n=2,008

× 問1-(2) 概ね30分以内の近居の親族の有無



全体 n=2,008

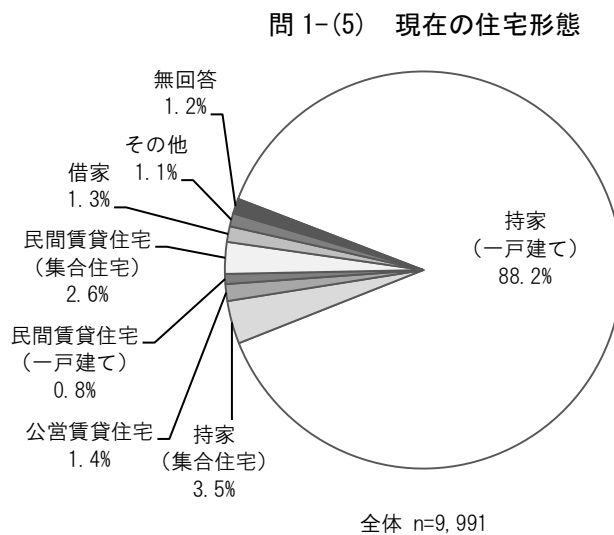
問1-(1) 家族構成(1人暮らし) × 問1-(4) 現在の暮らしの経済的状况



全体 n=1,451

(4) 現在の住宅形態

○現在の住宅形態は、「持家（一戸建て）」（88.2%）が最も多く、次いで「持家（集合住宅）」（3.5%）、「民間賃貸住宅（集合住宅）」（2.6%）、「公営賃貸住宅」（1.4%）となっています。



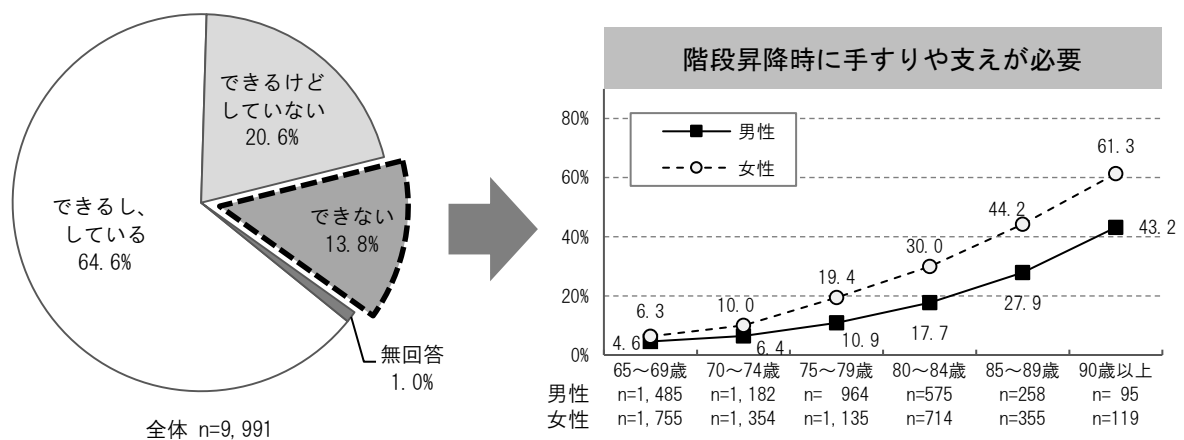
2 からだを動かすことについて

(1) 運動機能の状況

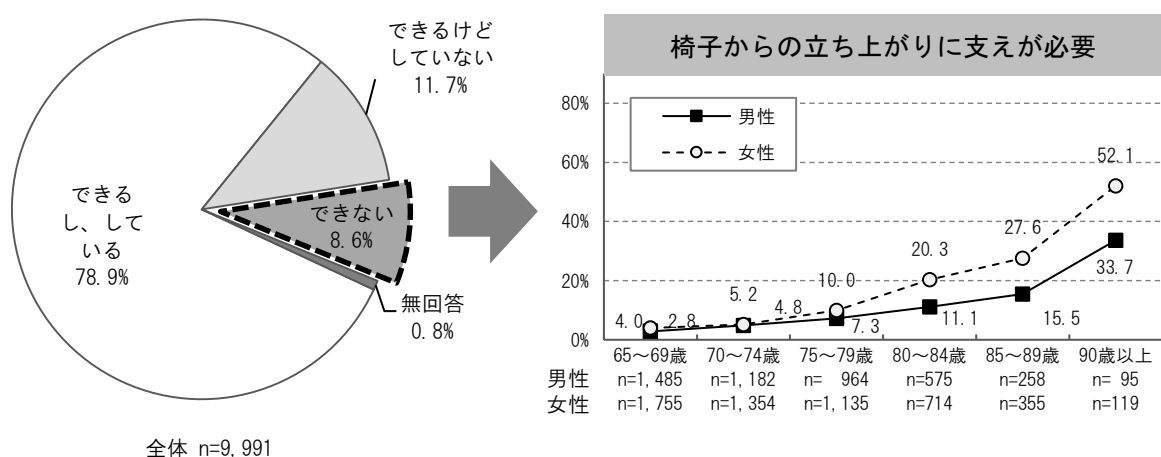
○階段昇降時に手すりや壁をつたわずに昇ることができるかでは、「できない」が13.8%となっています。「できない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢に伴い割合が高くなり、全ての年齢階級で女性が男性を上回っています。

○椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることは、「できない」が8.6%となっています。「できない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢に伴い割合が高くなり、全ての年齢階級で女性が男性を上回っています。

問 2-(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるか



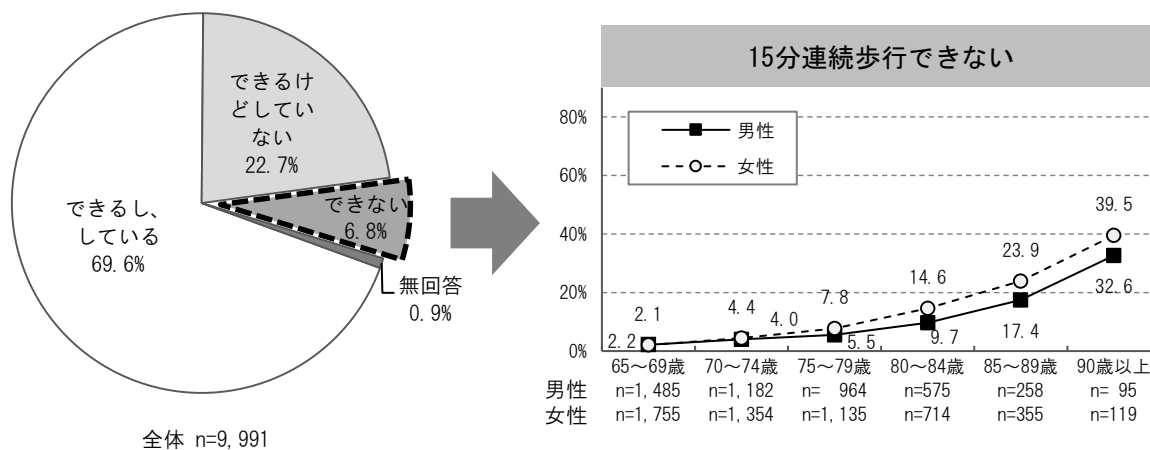
問 2-(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるか



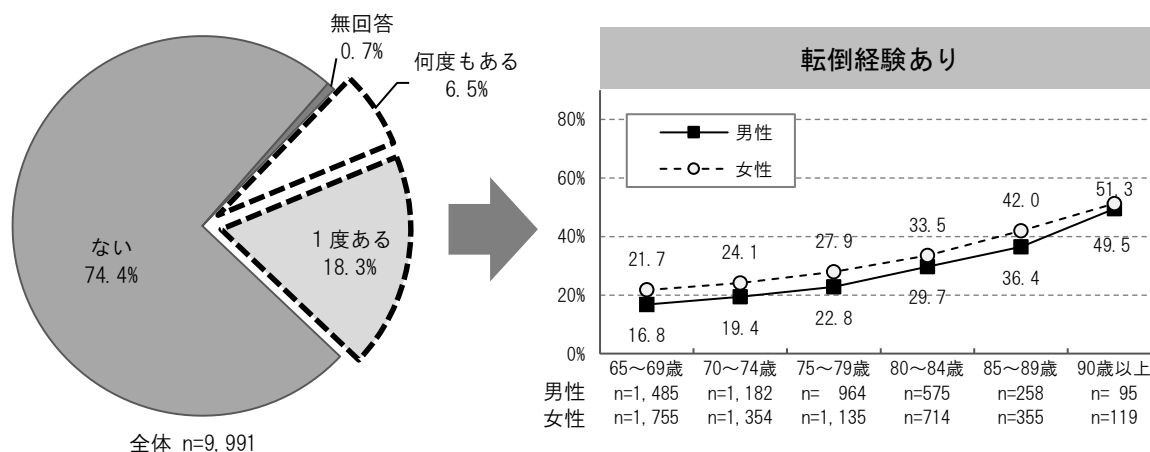
○15分位続けて歩くことができるかでは、「できない」が6.8%となっています。「できない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに80歳から割合が大きく上昇しています。

○過去1年間に転んだ経験の有無では、「何度もある」（6.5%）と「1度ある」（18.3%）を合わせた24.8%の方が転んだ経験があると回答しています。「転んだ経験がある」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに65歳から20%前後で、加齢に伴い割合が高くなり、90歳以上で約半数に達しています。

問2-(3) 15分位続けて歩くことができるか

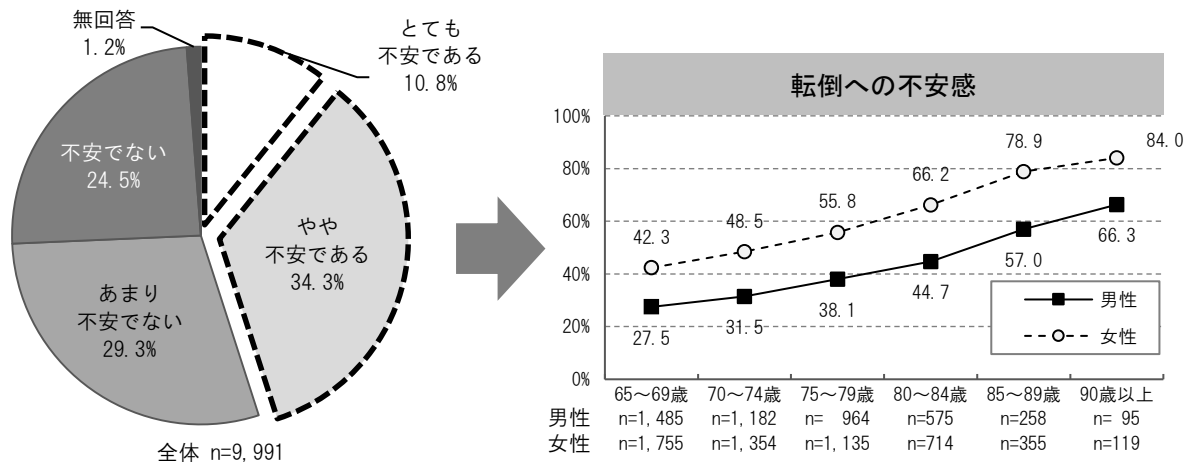


問2-(4) 過去1年間に転んだ経験の有無



○転倒に対する不安の有無では、「とても不安である」(10.8%)と「やや不安である」(34.3%)を合わせた 45.1%の方が不安であると回答しています。「不安である」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢に伴い割合が高くなり、全ての年齢階級で女性が男性を上回っています。

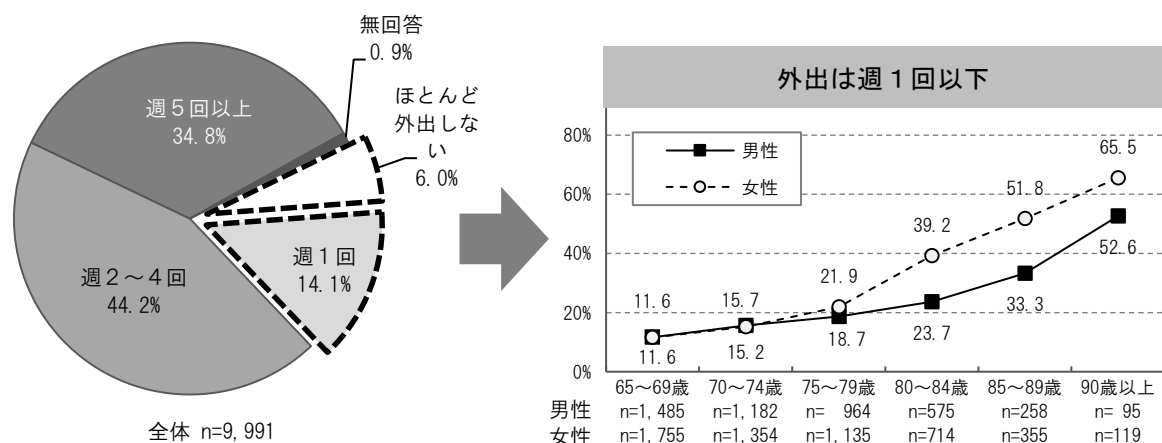
問 2-(5) 転倒に対する不安の有無



(2) 外出の状況

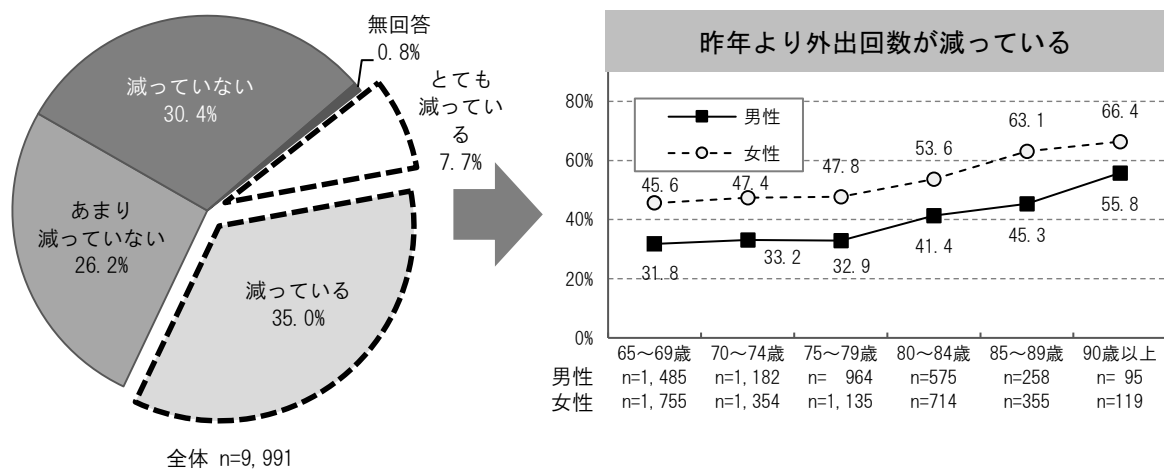
○週に1回以上の外出の有無では、「週1回」(14.1%)と「ほとんど外出しない」(6.0%)を合わせた 20.1%の方が週1回以下と回答しています。「週1回以下」の方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢に伴い割合が高くなり、75歳以上は女性が男性を上回っています。

問 2-(6) 週に1回以上の外出の有無



○昨年と比べた外出の頻度では、「減っている」(35.0%)と「とても減っている」(7.7%)を合わせた 42.7%の方が減っていると回答しています。「減っている」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢に伴い割合が高くなり、全ての年齢階級で女性が男性を上回っています。

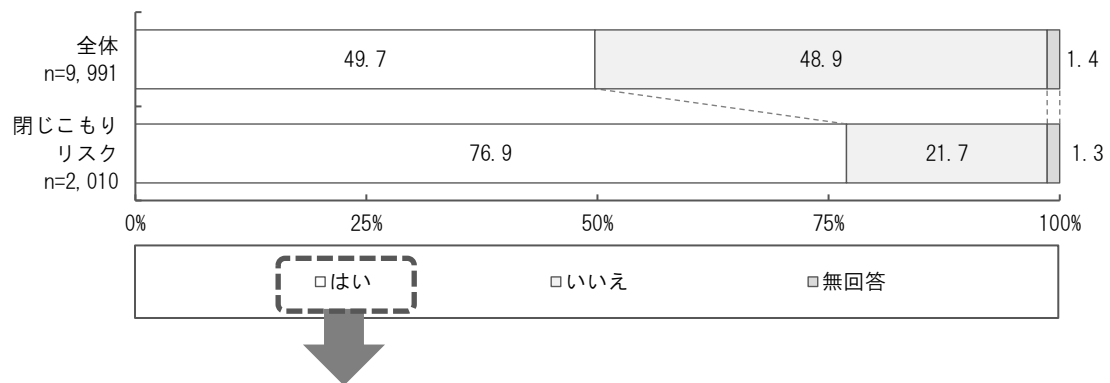
問 2-(7) 昨年と比べた外出の頻度



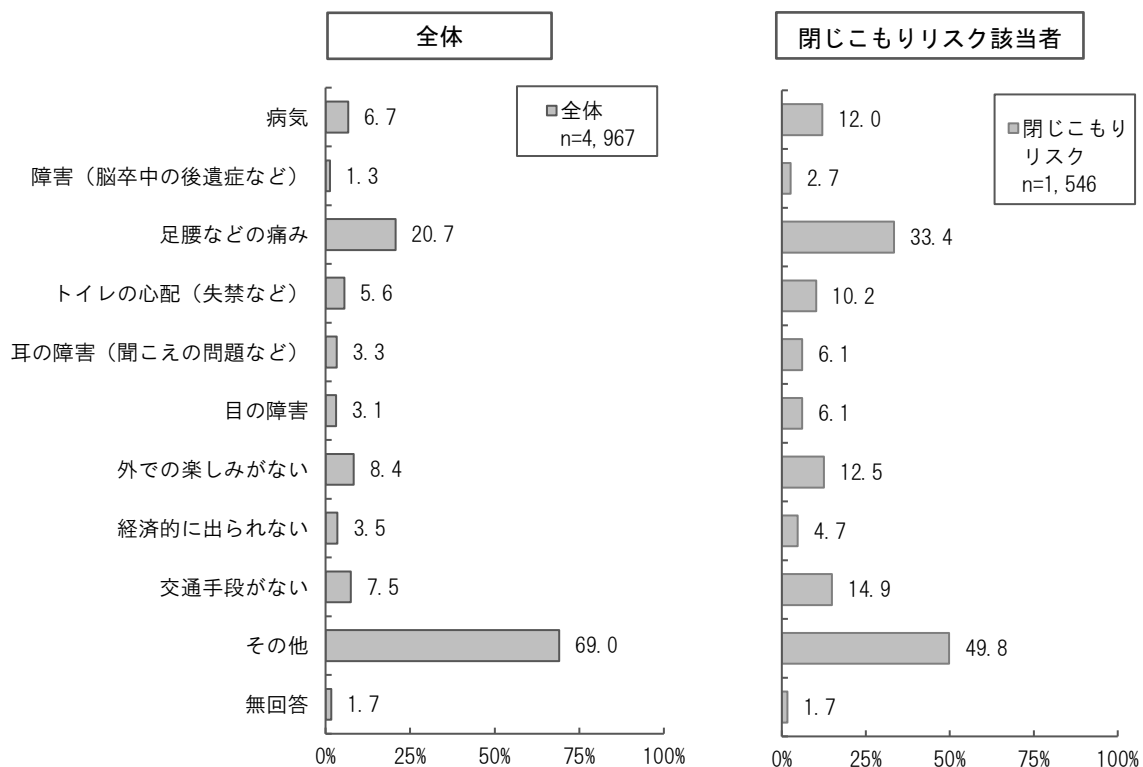
○外出を控えているかをみると、全体では 49.7%の方が外出を控えていると回答しています。一方、閉じこもりリスク該当者では半数以上（76.9%）となっています。

○外出を控えている理由は、両者ともに「その他」（全体 69.0%・リスク該当者 49.8%）が最も多く、その内訳は「新型コロナウイルス感染症流行のため自粛している」、「猛暑のため（熱中症予防のため）」、「家族の介護のため」などが多くなっています。次いで「足腰などの痛み」（全体 20.7%・リスク該当者 33.4%）となっています。

問 2-(8) 外出を控えているか（×「閉じこもりリスク該当者」）



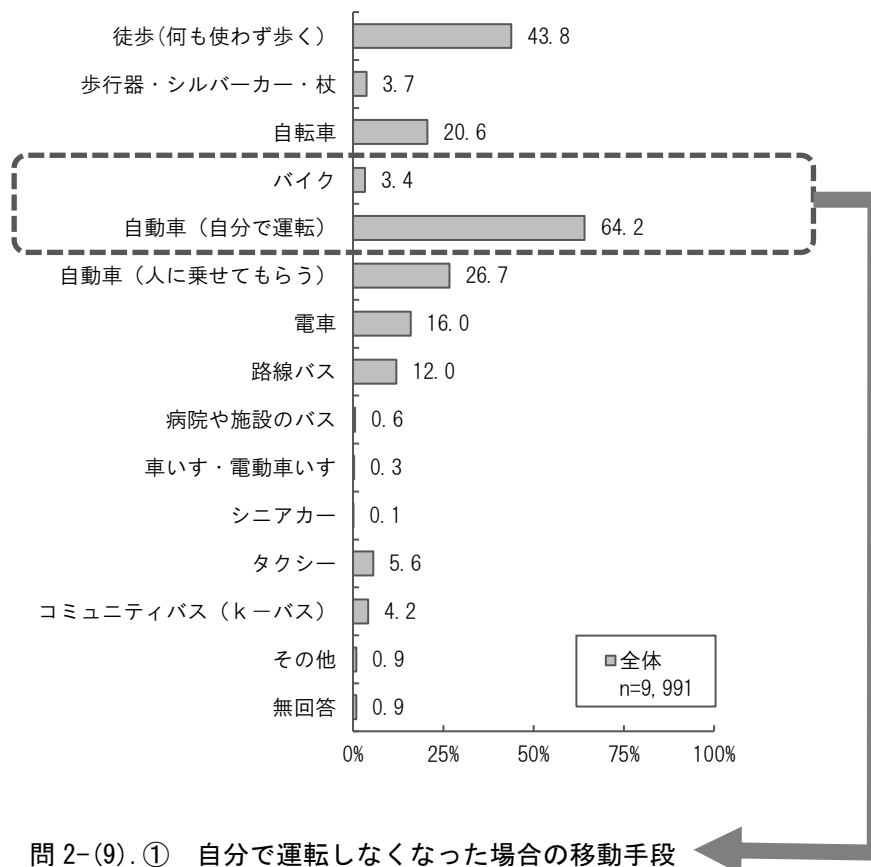
問 2-(8). ① 外出を控えている理由（×「閉じこもりリスク該当者」）



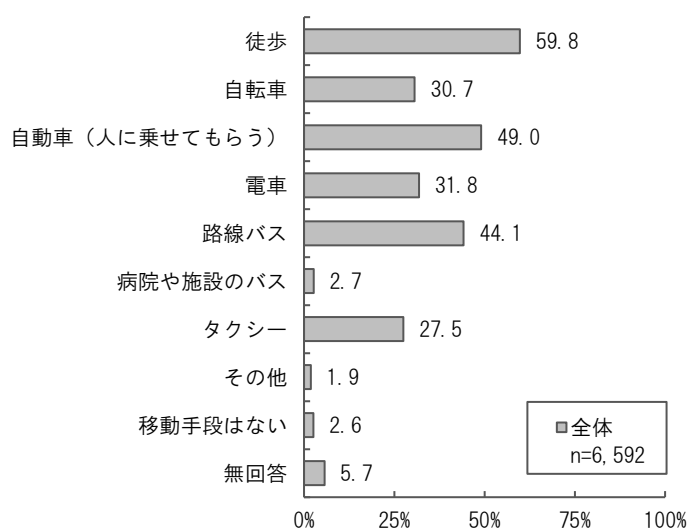
○外出する際の移動手段は、「自動車（自分で運転）」（64.2%）が最も多く、次いで「徒歩（何も使わず歩く）」（43.8%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（26.7%）、「自転車」（20.6%）、「電車」（16.0%）となっています。

○自動車やバイクを自分で運転しなくなった場合の移動手段をみると、「徒歩」（59.8%）が最も多く、次いで「自動車（人に乗せてもらう）」（49.0%）、「路線バス」（44.1%）、「電車」（31.8%）、「自転車」（30.7%）となっています。

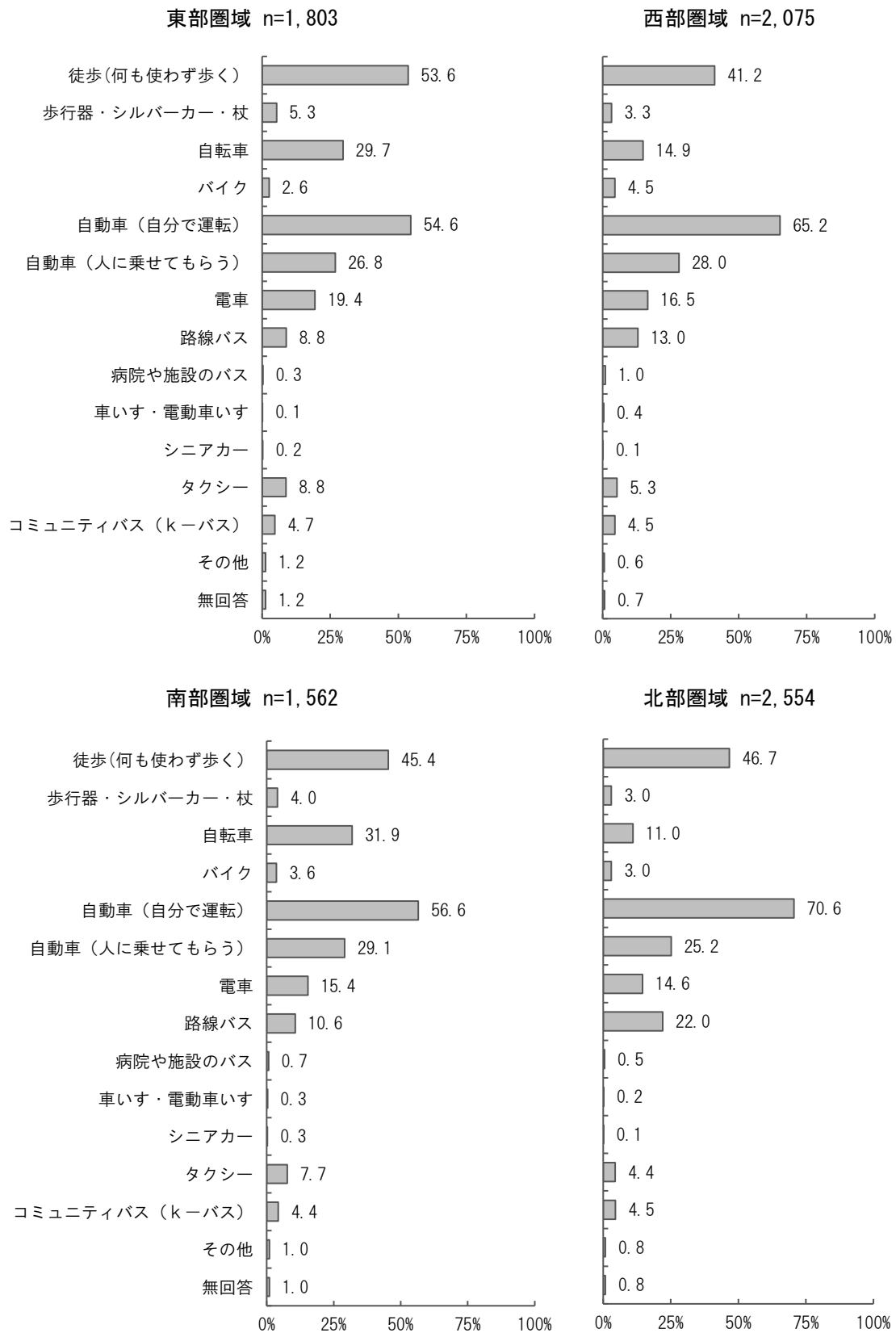
問 2-(9) 外出する際の移動手段



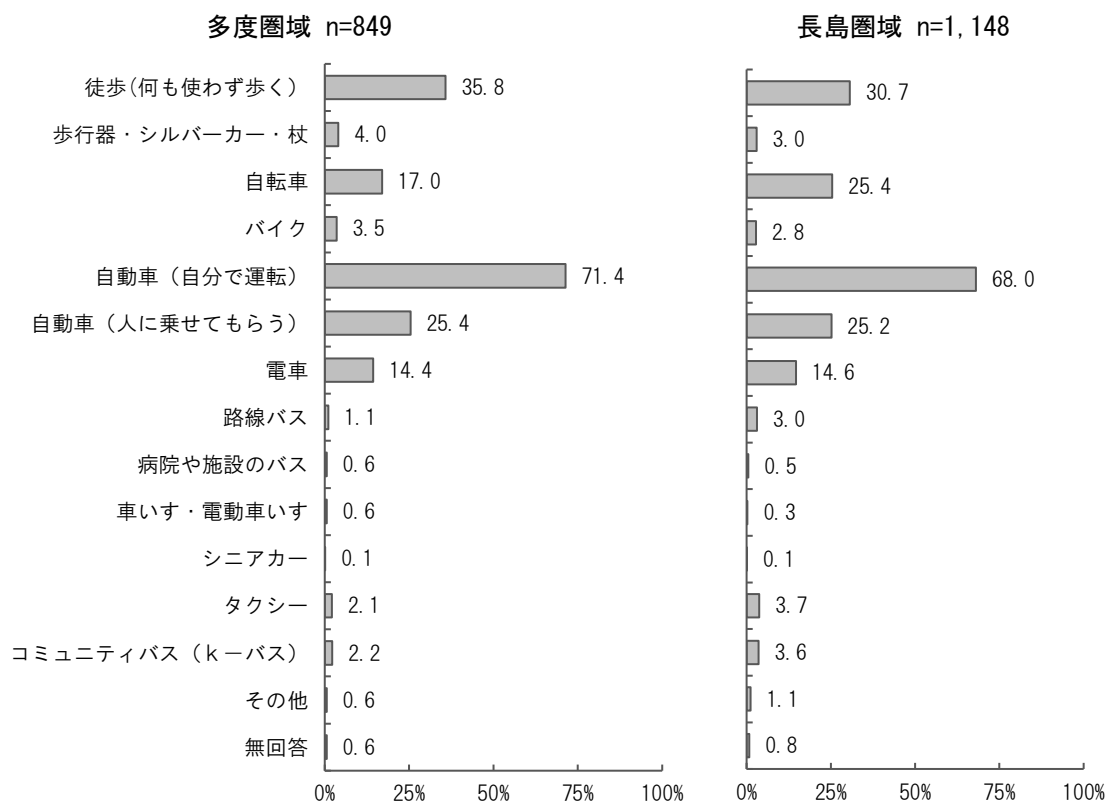
問 2-(9). ① 自分で運転しなくなった場合の移動手段



《参考》 問2-(9) 外出する際の移動手段（圏域別）



《参考》 問 2-(9) 外出する際の移動手段（圏域別）

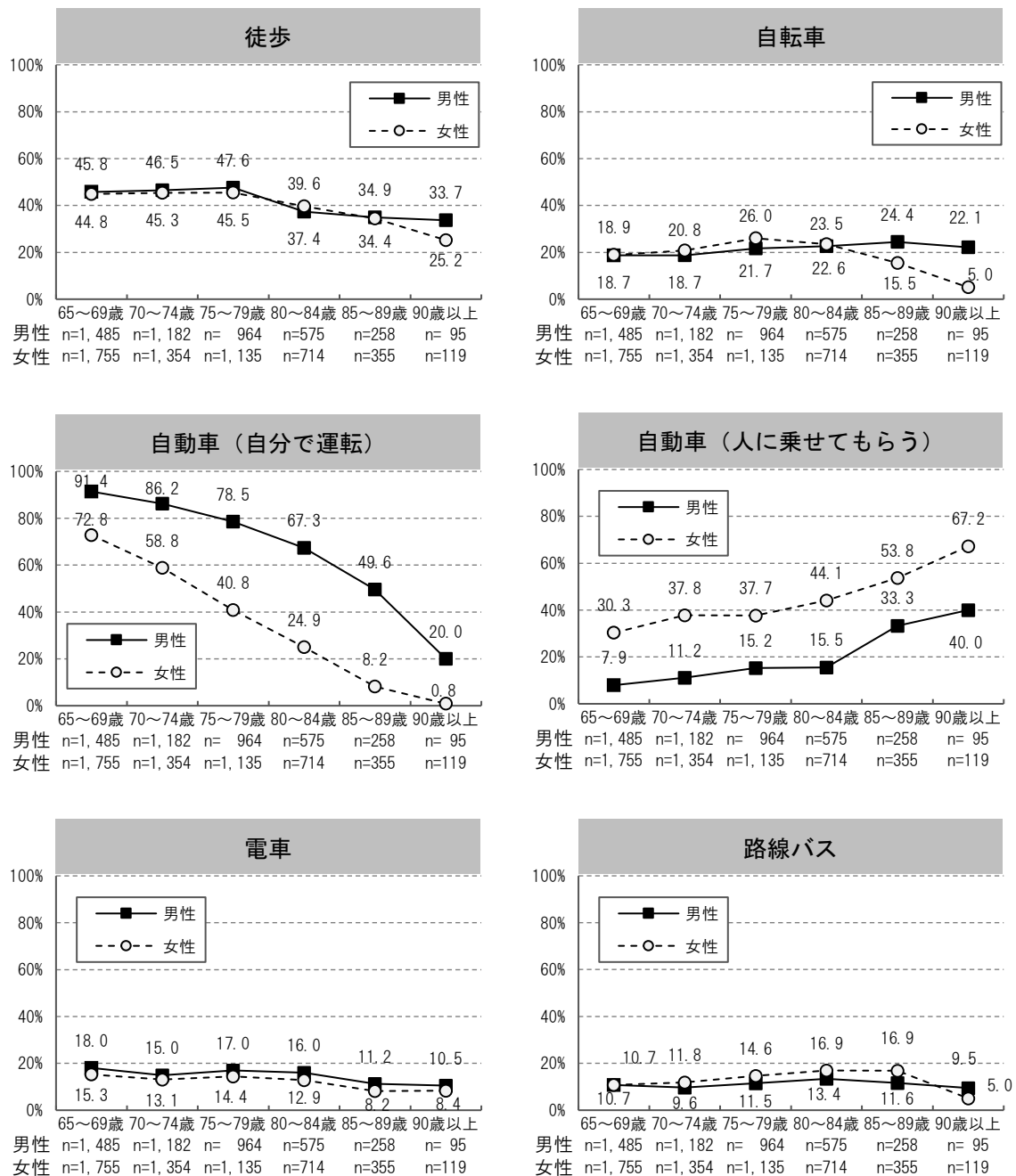


○外出する際の移動手段をそれぞれ性別年齢階級別にみると、「自転車」では男性の割合はほぼ横ばいなのに対し、女性は85歳から割合が大きく低下しています。

○「自動車（自分で運転）」では男女ともに加齢に伴い割合が低くなり、男性は85歳以上、女性は75歳以上で5割を下回ります。

○一方、「自動車（人に乗せてもらう）」では男女ともに加齢に伴い割合が高くなる傾向にあり、全ての年齢階級で女性が男性を上回っています。

問2-(9) 移動手段（性別年齢階級別）



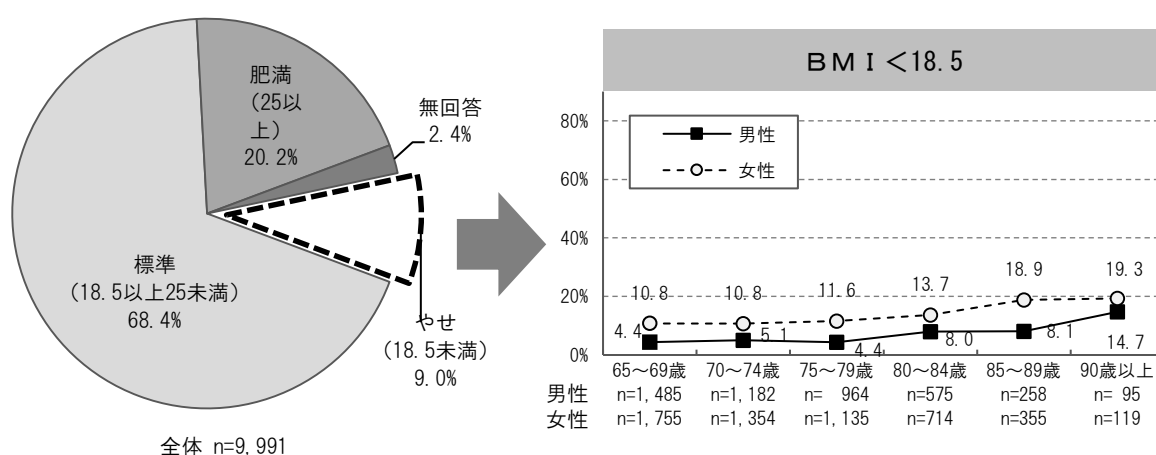
3 食べることについて

(1) 現在の体重（BMI）状況

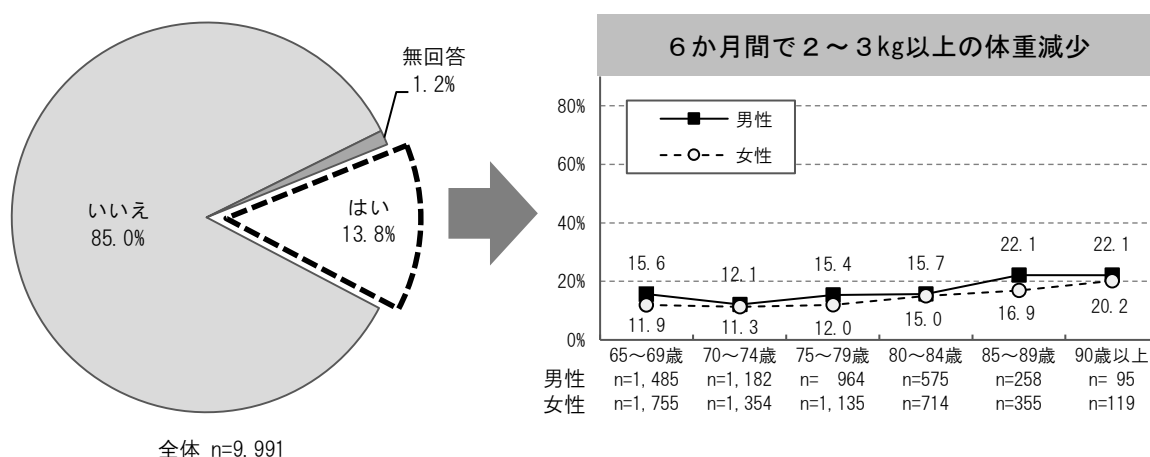
○BMIでは、「やせ（18.5未満）」が9.0%となっています。「やせ（18.5未満）」を性別年齢階級別にみると、女性は85歳以上、男性は90歳以上で大きく上昇しており、全ての年齢階級で女性が男性を上回っています。

○6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無では、13.8%の方が減少したと回答しています。「減少した」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに同程度で推移しており、加齢に伴う変化もあまりみられません。

問 3-(1) BMI



問 3-(2) 6か月間で2～3kg以上の体重減少の有無

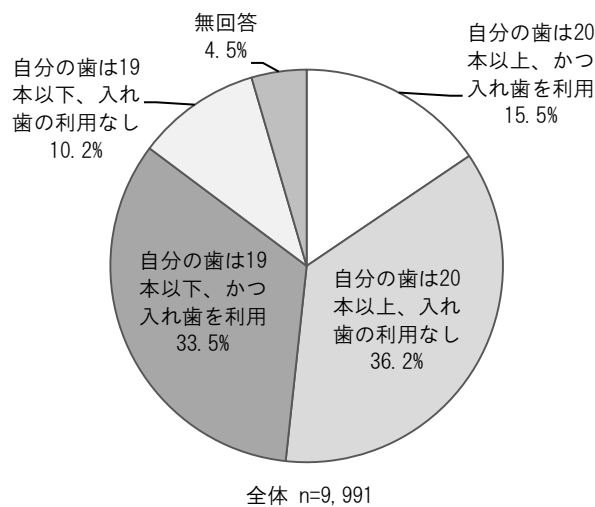


(2) 歯・口腔の状況

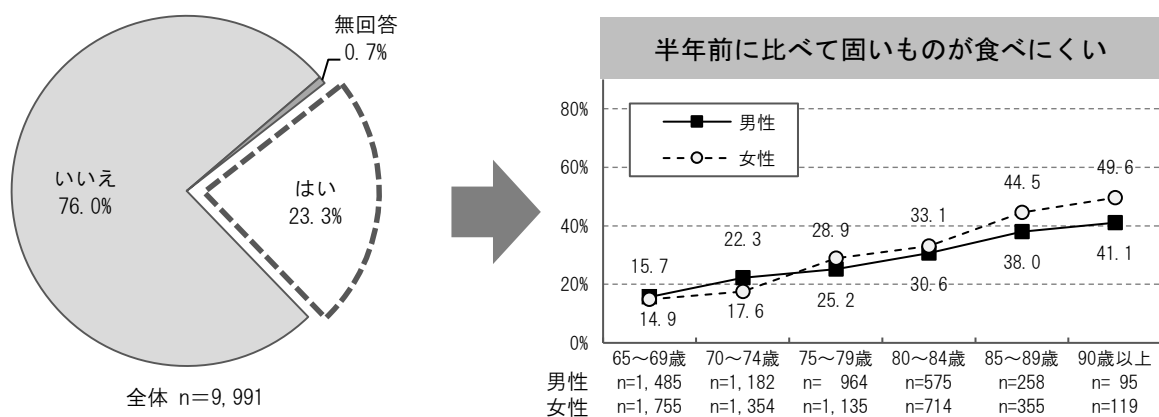
○歯の数と入れ歯の利用状況は、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」(33.5%)と「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」(15.5%)を合わせた 49.0%の方が入れ歯を利用していると回答しています。

○半年前に比べて固いものが食べにくくなったかでは、23.3%の方が「はい」と回答しています。「固いものが食べにくい」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに同程度で推移しており、加齢に伴い割合が高くなっています。

問3-(6) 歯の数と入れ歯の利用状況



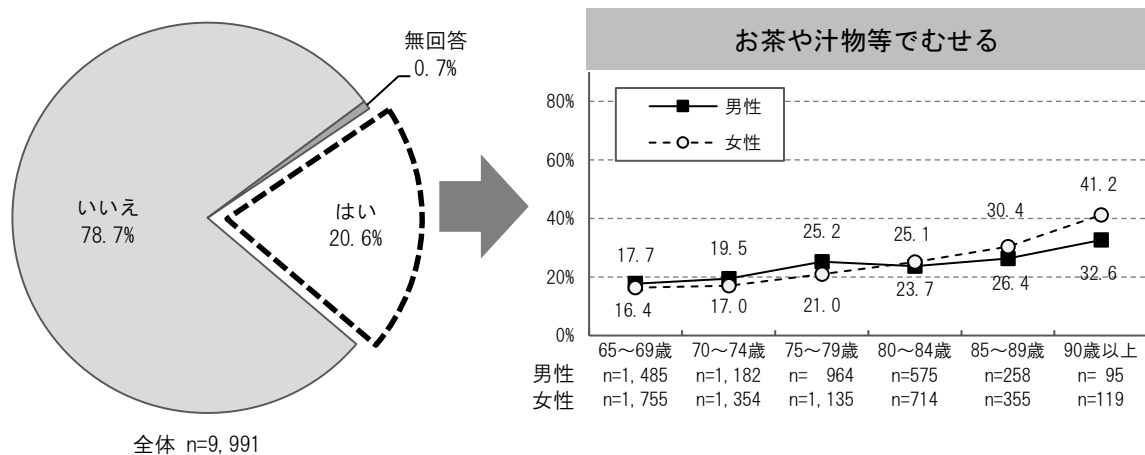
問 3-(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなったか



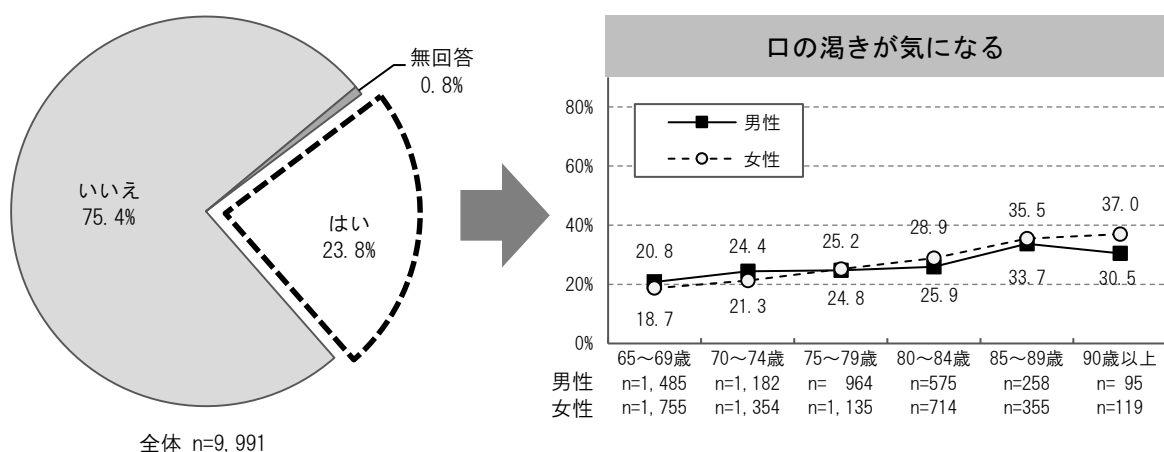
○お茶や汁物等でむせることの有無では、20.6%の方があると回答しています。「むせることがある」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに同程度で推移しており、加齢に伴い割合が高くなっています。

○口の渇きが気になるかでは、23.8%の方が気になると回答しています。「渇きが気になる」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに同程度で推移しており、加齢に伴い割合が高くなる傾向にあります。

問 3-(4) お茶や汁物等でむせることの有無



問 3-(5) 口の渇きが気になるか

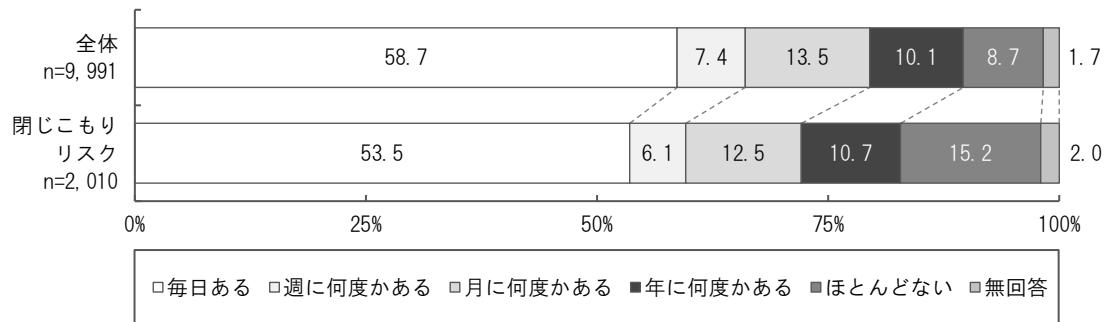


(3) 食事の状況

○どなたかと食事をとにもする機会の有無では、全体・閉じこもりリスク該当者ともに「毎日ある」(全体 58.7%・リスク該当者 53.5%) が最も多くなっています。

○全体と閉じこもりリスク該当者を比較すると、閉じこもりリスク該当者では「ほとんどない」と回答した割合が全体と比べ高くなっています。

問 3-(7) どなたかと食事をとにもする機会の有無 (×「閉じこもりリスク該当者」)



4 毎日の生活について

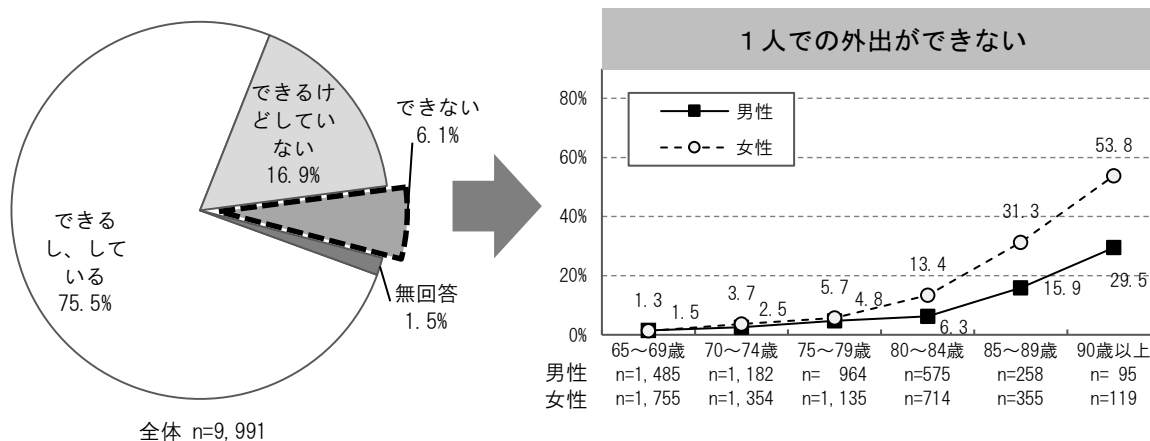
(1) IADL（手段的自立度）の状況

○バスや電車を使って1人で外出しているかでは、「できない」が6.1%となっています。

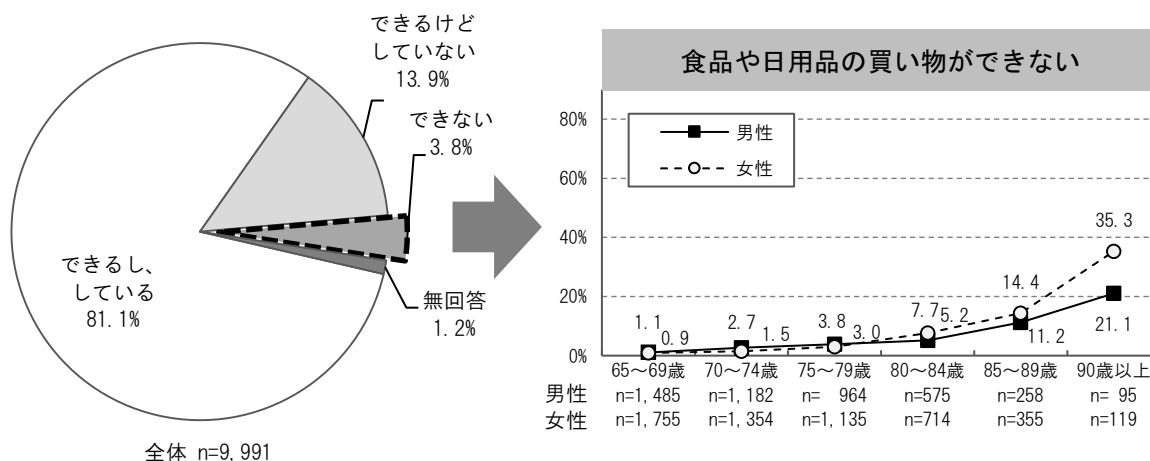
「できない」方を性別年齢階級別にみると、女性は80歳以降、男性は85歳以降で割合が大きく上昇しています。

○自分で食品・日用品の買物をしているかでは、「できない」が3.8%となっています。「できない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに85歳から割合が大きく上昇しています。

問4-(2) バスや電車を使って1人で外出しているか



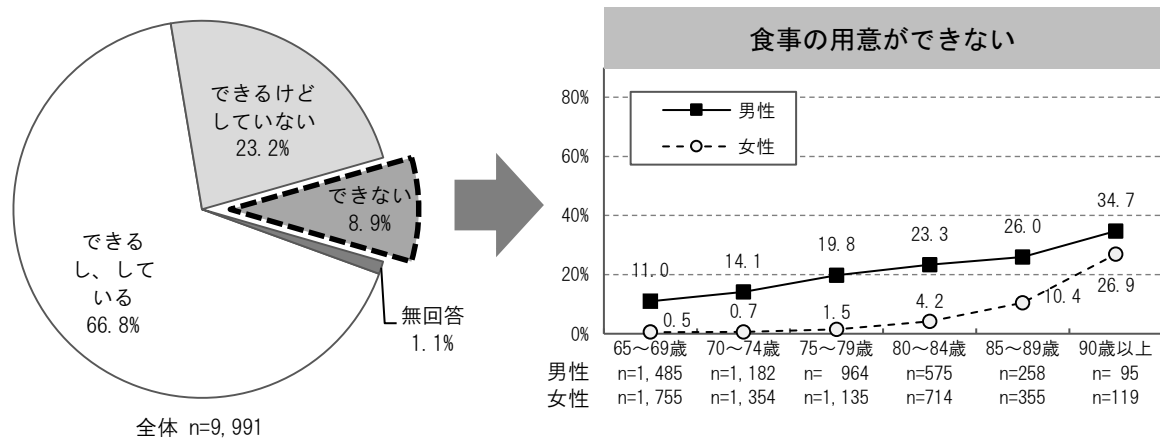
問4-(3) 自分で食品・日用品の買物をしているか



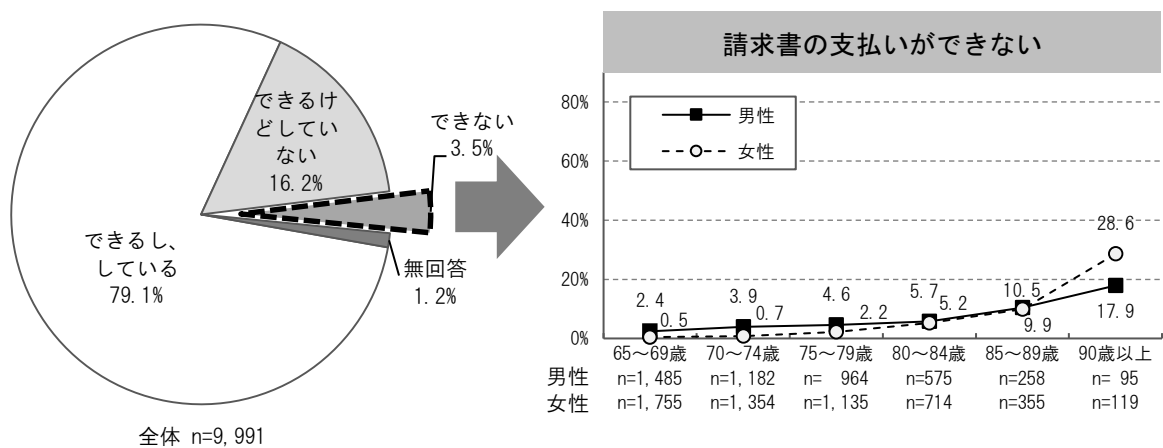
○自分で食事の用意をしているかでは、「できない」が 8.9%となっています。「できない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢に伴い割合が高くなり、全ての年齢階級で男性が女性を上回っています。

○自分で請求書の支払いをしているかでは、「できない」が 3.5%となっています。「できない」方を性別年齢階級別にみると、89 歳までは男女に差はほとんどなく、90 歳以上で女性が男性を 10 ポイント以上上回っています。

問4-(4) 自分で食事の用意をしているか

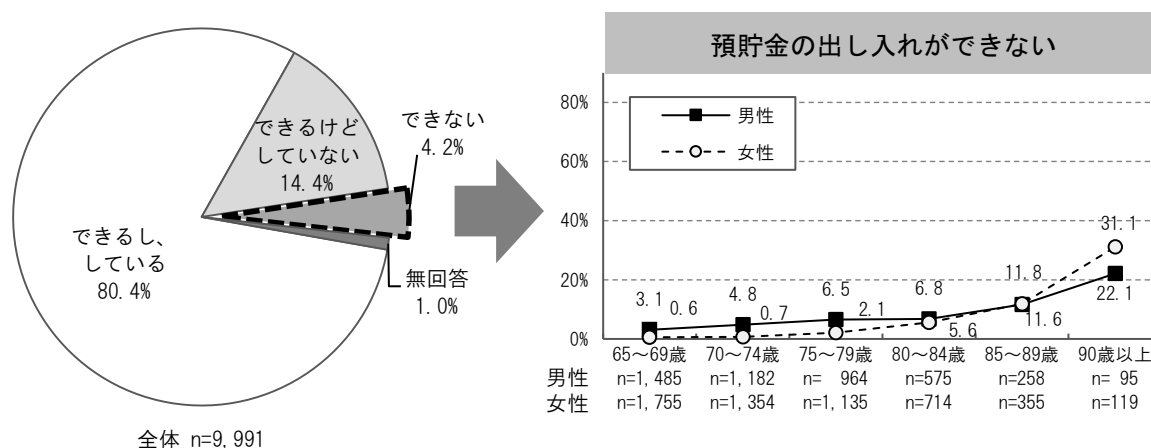


問 4-(5) 自分で請求書の支払いをしているか



○自分で預貯金の出し入れをしているかでは、「できない」が 4.2%となっています。「できない」方を性別年齢階級別にみると、89 歳までは男女に差はほとんどなく、90 歳以上で女性が男性を 9.0 ポイント上回っています。

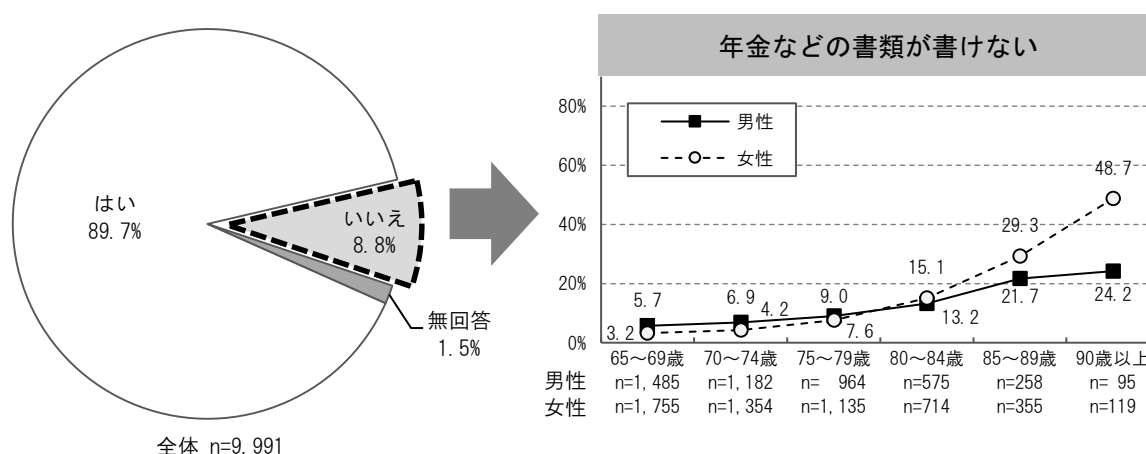
問 4-(6) 自分で預貯金の出し入れをしているか



(2) 社会参加（知的能動性）の状況

○年金などの書類が書けるかでは、8.8%の方が書けないと回答しています。「書けない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに 80 歳以上から割合が高くなる傾向にあり、女性は 90 歳以上で約半数となり、男性の 2 倍以上となっています。

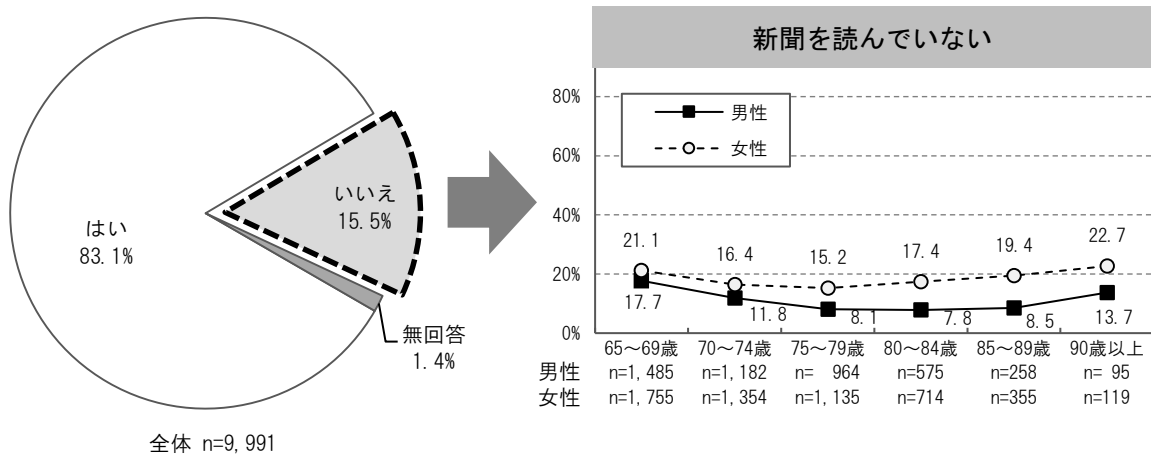
問 4-(10) 年金などの書類が書けるか



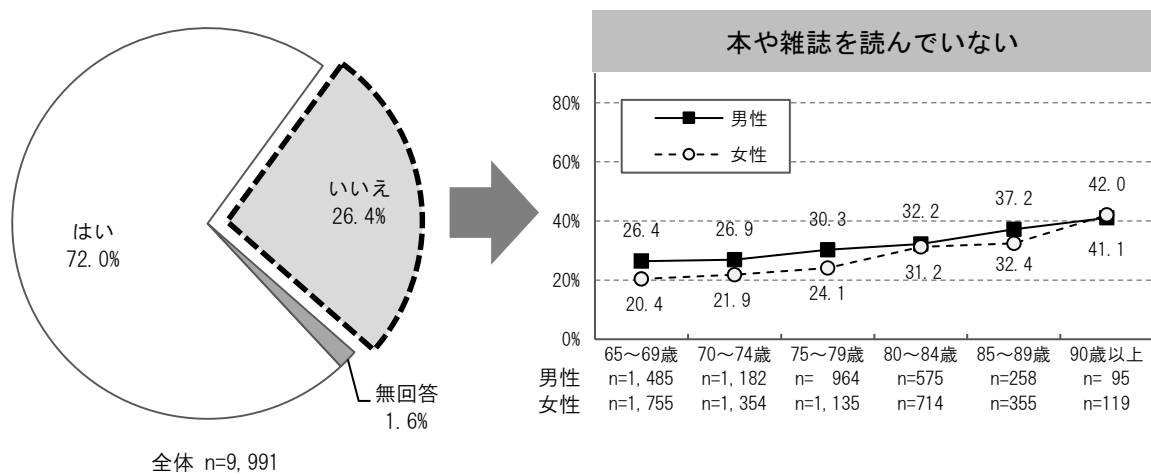
○新聞を読んでいるかでは、15.5%の方が読んでいないと回答しています。「読んでいない」方を性別年齢階級別にみると、男性は加齢による上昇はほとんどみられませんが、全ての年齢階級で女性が男性を上回っています。

○本や雑誌を読んでいるかでは、26.4%の方が読んでいないと回答しています。「読んでいない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに同程度で推移しており、加齢に伴い割合が高くなる傾向にあります。

問 4-(11) 新聞を読んでいるか

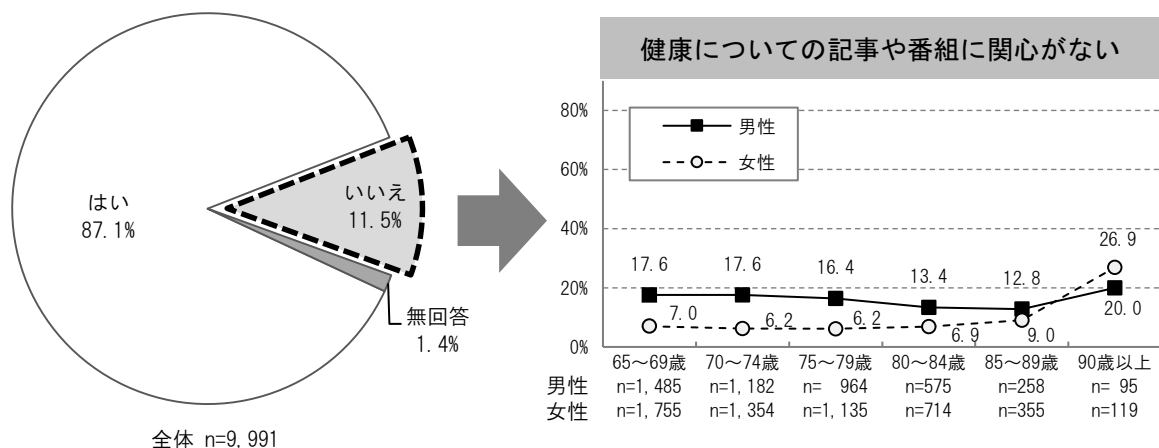


問 4-(12) 本や雑誌を読んでいるか



○健康についての記事や番組に関心があるかでは、11.5%の方が関心がないと回答しています。「関心がない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢による上昇はあまりみられませんが、89歳までは男性が女性を上回っています。

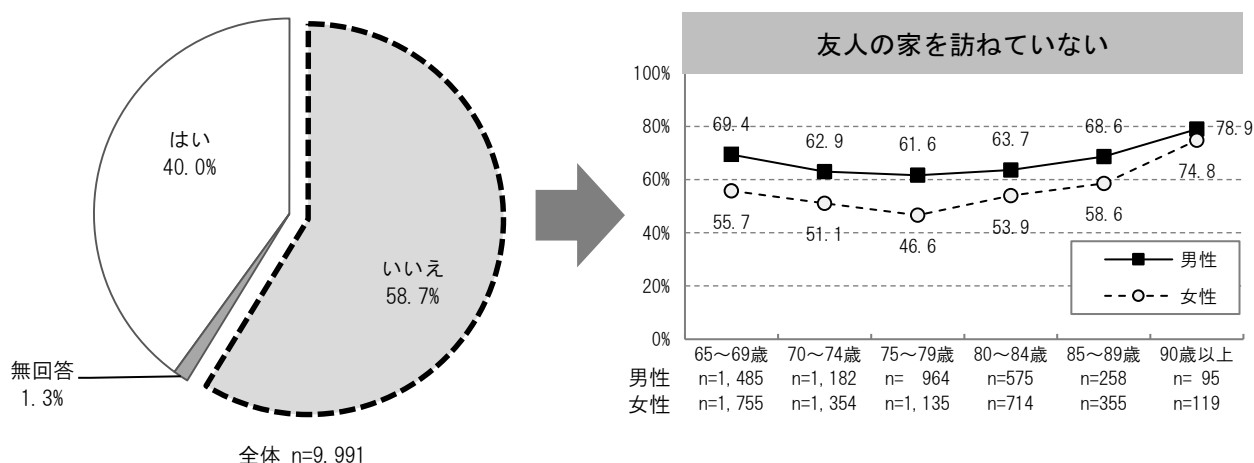
問 4-(13) 健康についての記事や番組に関心があるか



(3) 社会参加（社会的役割）の状況

○友人の家を訪ねているかでは、58.7%の方が訪ねていないと回答しています。「訪ねていない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢による上昇はあまりみられませんが、全ての年齢階級で男性が女性を上回っています。

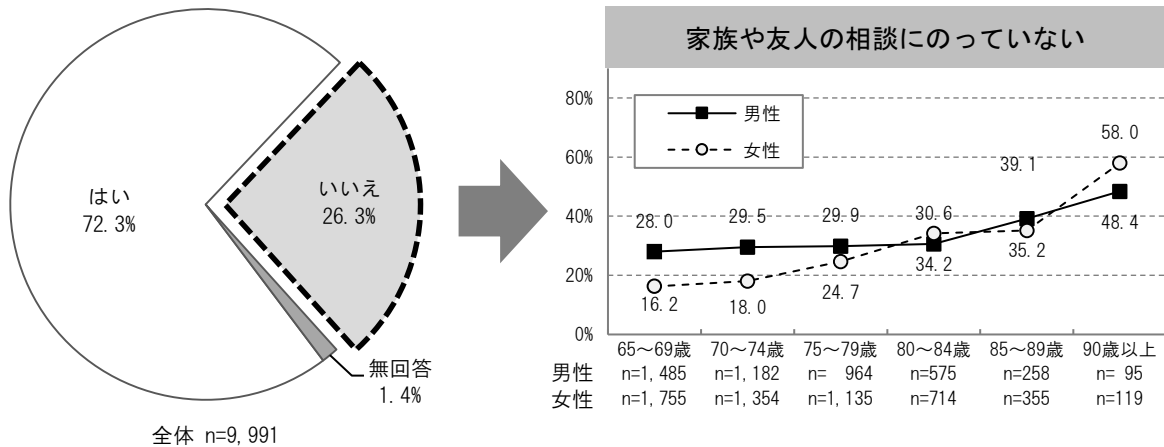
問 4-(14) 友人の家を訪ねているか



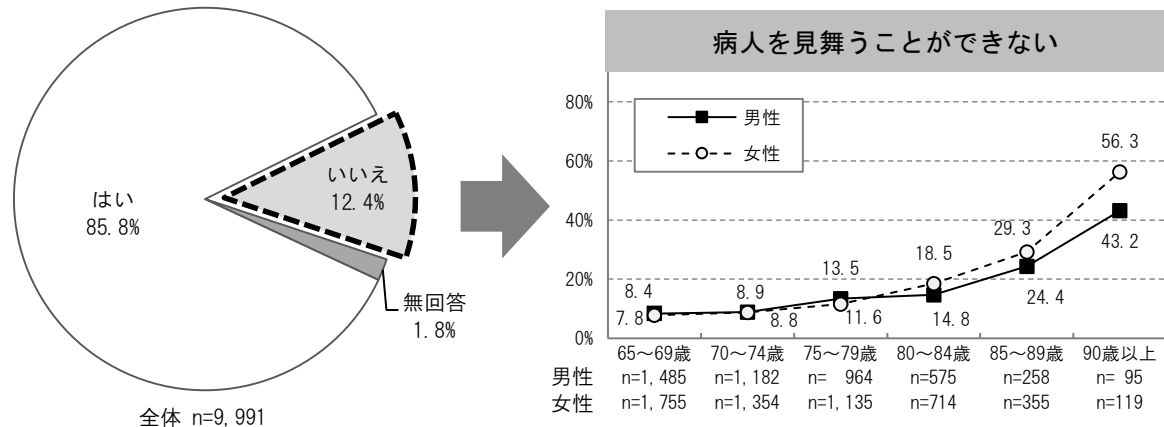
○家族や友人の相談にのっているかでは、26.3%の方が相談にのっていないと回答しています。「相談にのっていない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢に伴い割合が高くなっています。

○病人を見舞うことができるかでは、12.4%の方ができないと回答しています。「見舞うことができない」方を性別年齢階級別にみると、女性は80歳以降、男性は85歳以降で割合が大きく上昇しています。

問4-(15) 家族や友人の相談にのっているか

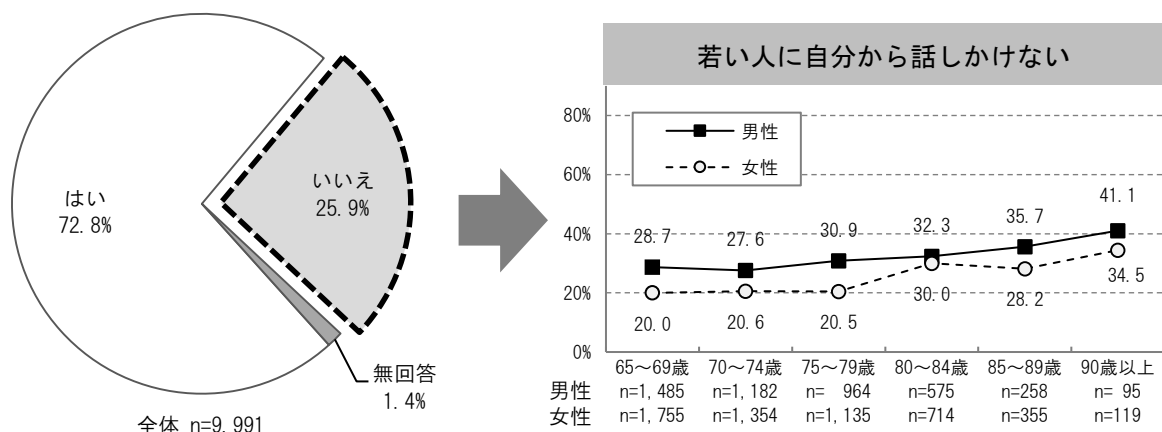


問4-(16) 病人を見舞うことができるか



○若い人に自分から話しかけることはあるかでは、25.9%の方が話しかけないと回答しています。「話しかけない」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに加齢に伴い高くなる傾向にあり、全ての年齢階級で男性が女性を上回っています。

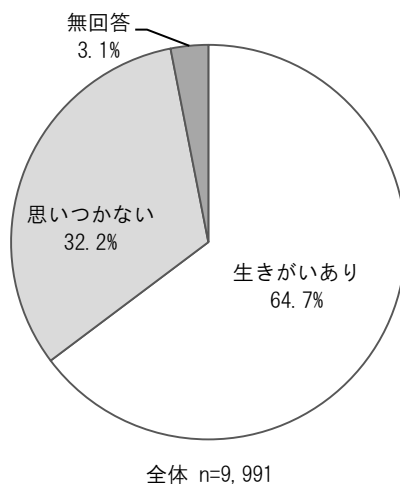
問 4-(17) 若い人に自分から話しかけることはあるか



(4) こころの健康状態

○生きがいはあるかでは、64.7%の方が「生きがいあり」と回答しています。

問4-(22) 生きがいはあるか

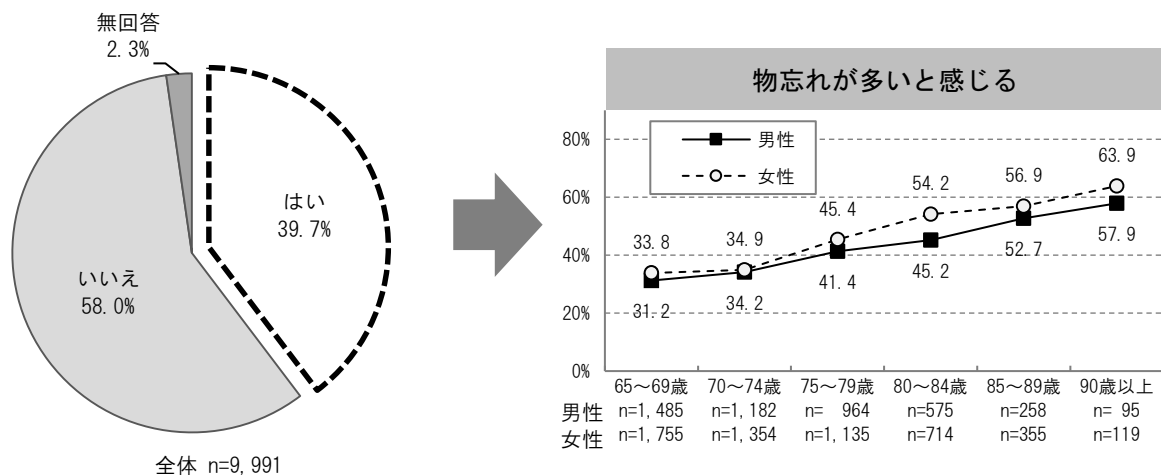


(5) 物忘れの状況

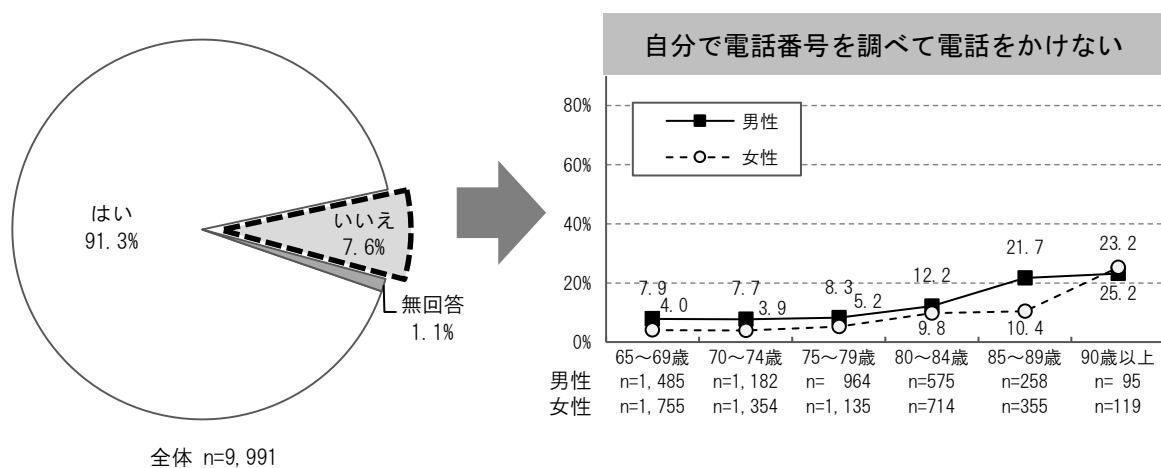
○物忘れが多いと感じるかでは、39.7%の方が多いと回答しています。「物忘れが多いと感じる」方を性別年齢階級別にみると、男女とも全ての年齢階級で30%を超え、加齢に伴い高くなっています。

○自分で電話番号を調べて電話をかけるかでは、7.6%の方がかけないと回答しています。「自分で電話をかけない」方を性別年齢階級別にみると、男性は85歳以降、女性は90歳以降で割合が大きく上昇しています。

問 4-(1) 物忘れが多いと感じるか



問 4-(8) 自分で電話番号を調べて電話をかけるか

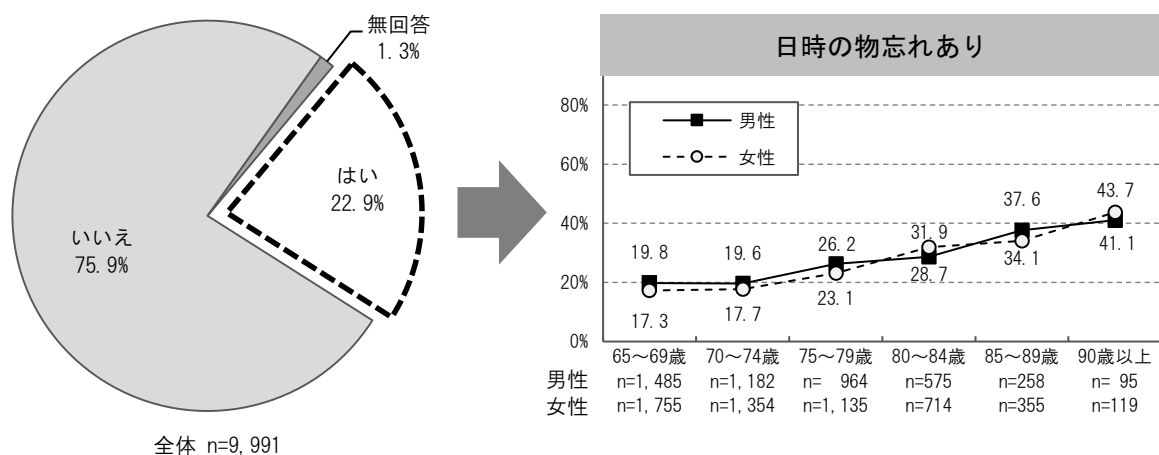


○今日が何月何日かわからない時があるかでは、22.9%の方が有ると回答しています。「日時の物忘れがある」方を性別年齢階級別にみると、男女ともに同程度で推移しており、加齢に伴い割合が高くなる傾向にあります。

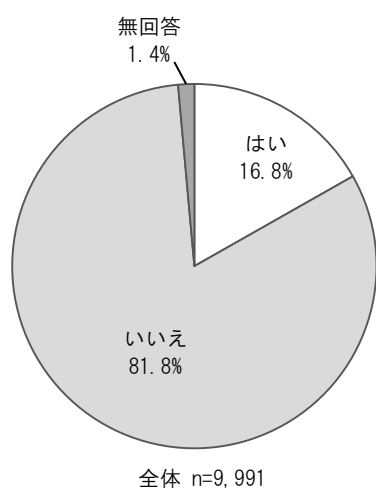
○いつも同じことを聞くなどといわれるかでは、16.8%の方が有ると回答しています。

○5分前に自分が何をしていたか思い出せるかでは、3.8%の方が思い出せないと回答しています。

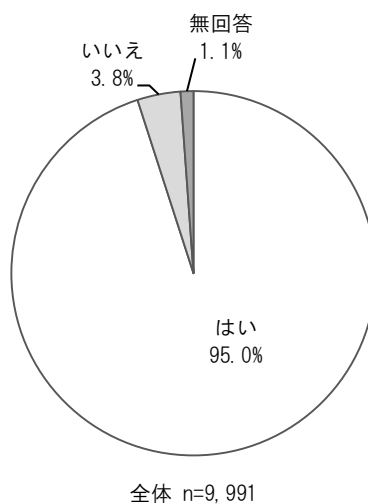
問 4-(9) 今日が何月何日かわからない時があるか



問 4-(7) いつも同じことを聞くなどといわれるか



問 4-(18) 5分前に自分が何をしていたか思い出せるか

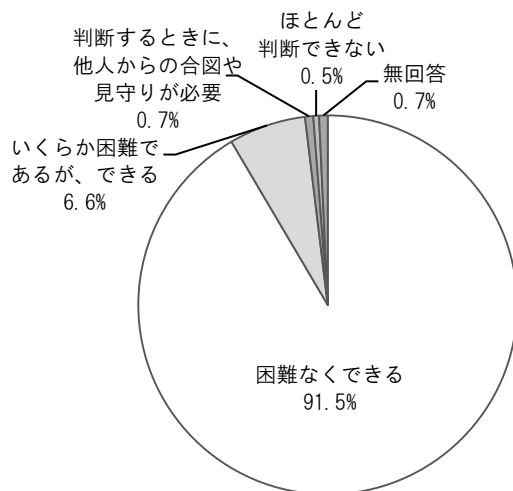


○その日の活動を自分で判断できるかでは、「判断するときに、他人からの合図や見守りが必要」(0.7%)、「ほとんど判断できない」(0.5%)を合わせた1.2%の方が判断しづらいと回答しています。

○人に自分の考えをうまく伝えられるかでは、「あまり伝えられない」(2.6%)、「ほとんど伝えられない」(0.3%)を合わせた2.9%の方がうまく伝えられないと回答しています。

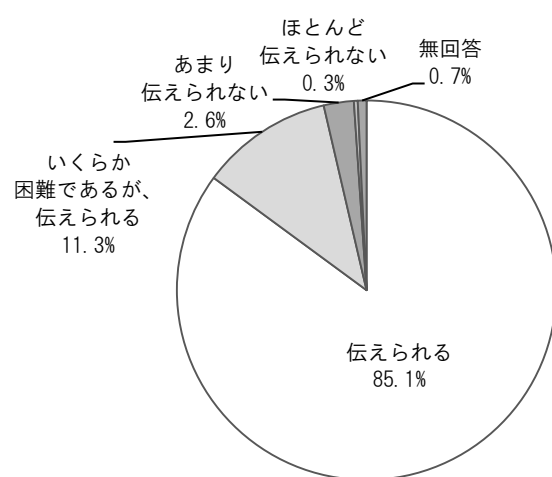
○食事は自分で食べることができるかでは、ほとんどの方が「できる」と回答しています。

問 4-(19) その日の活動を自分で判断できるか



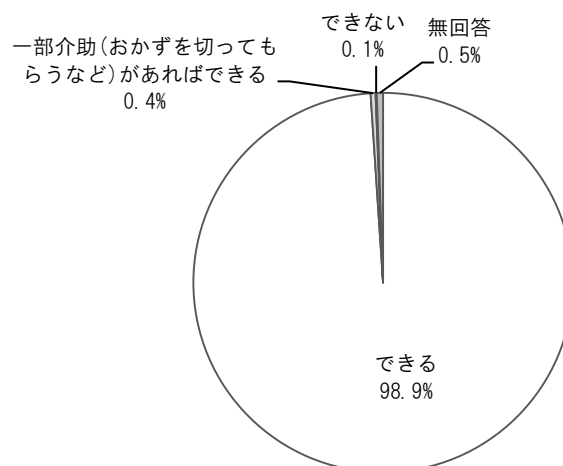
全体 n=9,991

問 4-(20) 人に自分の考えをうまく伝えられるか



全体 n=9,991

問 4-(21) 食事は自分で食べることができるか

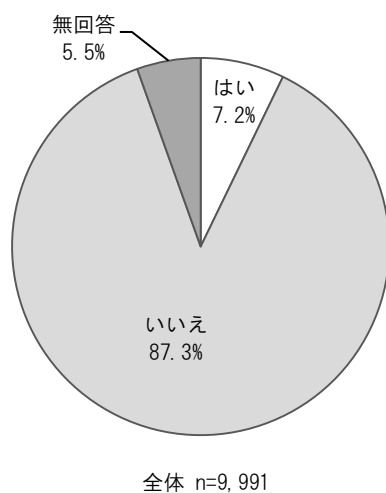


全体 n=9,991

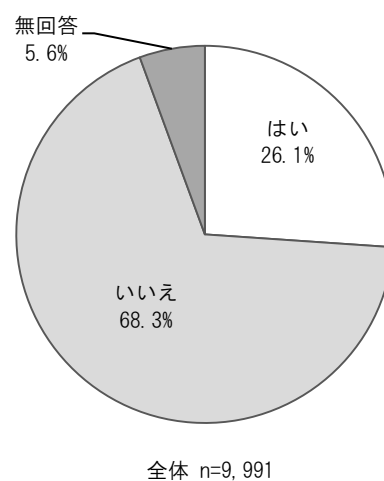
○認知症の症状がある、または家族に認知症の症状があるかでは、7.2%の方があると回答しています。

○認知症に関する相談窓口を知っているかでは、68.3%の方が知らないと回答しています。

【追加】問 4 認知症の症状がある、または
家族に認知症の症状がある



【追加】問 5 認知症に関する相談窓口を
知っているか



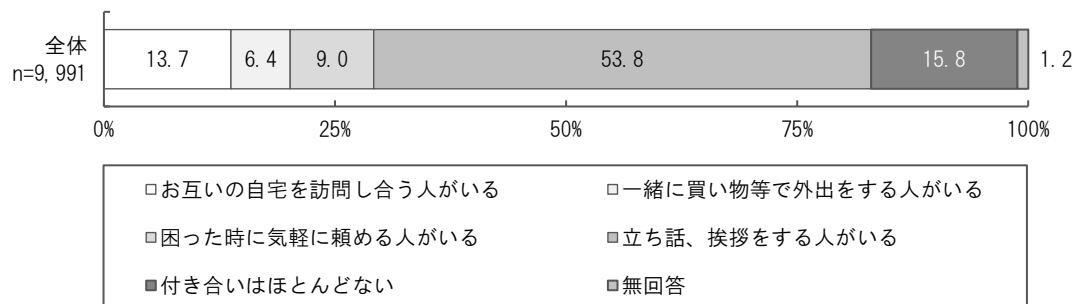
5 地域での活動について

(1) 地域とのかかわり

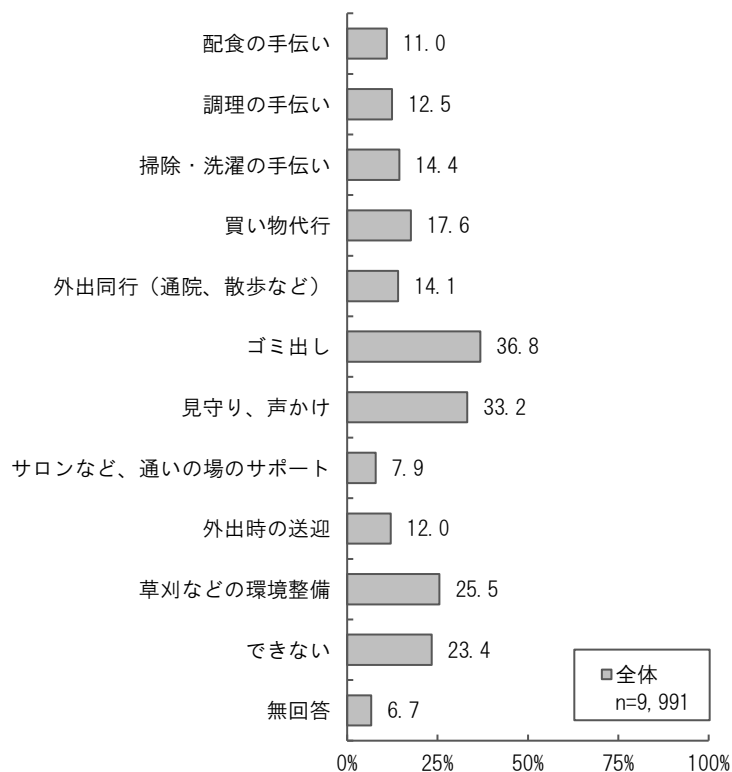
○地域の人との付き合いでは、「立ち話、挨拶をする人がいる」(53.8%)が最も多い一方で、次いで「付き合いはほとんどない」と回答した方が15.8%となっています。

○地域でできる支援では、「ゴミ出し」(36.8%)が最も多く、次いで「見守り・声かけ」(33.2%)、「草刈などの環境整備」(25.5%)、「買い物代行」(17.6%)の順となっています。一方、「できない」は23.4%となっています。

問 5-(1) 地域の人との付き合い



問 5-(2) 地域でできる支援



(2) グループ活動等の状況

○グループ等への参加頻度では、週1回以上（下表網掛け部分）の参加または就労をしている項目は、「⑧収入のある仕事」（22.7%）、が最も多く、次いで「②スポーツ関係のグループやクラブ」（13.5%）、「③趣味関係のグループ」（8.1%）となっています。

問5-(3) グループ等への参加頻度

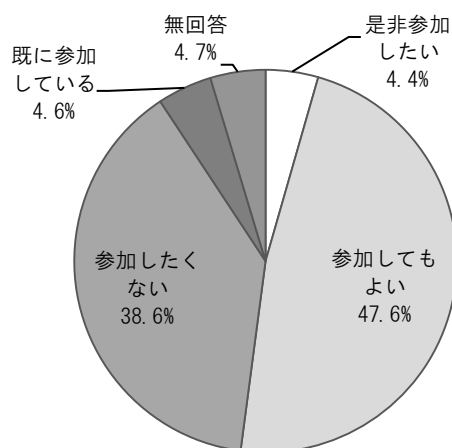
全体 n=9,991	週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
①ボランティアのグループ	0.4	0.9	1.3	3.3	4.0	67.9	22.3
②スポーツ関係のグループやクラブ	2.6	6.3	4.6	4.1	2.3	60.1	20.1
③趣味関係のグループ	1.0	3.0	4.1	10.8	5.0	56.6	19.4
④学習・教養サークル	0.2	0.5	1.3	4.1	2.4	67.9	23.5
⑤介護予防のための通いの場	0.2	0.4	0.7	1.3	1.3	72.0	24.1
⑥老人クラブ	0.1	0.2	0.3	1.5	5.3	69.6	23.0
⑦町内会・自治会	0.3	0.5	0.6	4.4	31.2	42.3	20.6
⑧収入のある仕事	14.4	7.1	1.2	1.6	1.5	53.4	20.9
⑨特技や経験を他者に伝える活動	0.7	0.8	0.7	1.2	2.3	70.3	24.0

(3) 地域づくりに対する参加意向

○参加者としてグループ活動等に参加してみたいかでは、「是非参加したい」（4.4%）、「参加してもよい」（47.6%）を合わせた 52.0%の方が参加意向ありと回答しています。また、「既に参加している」方は 4.6%います。

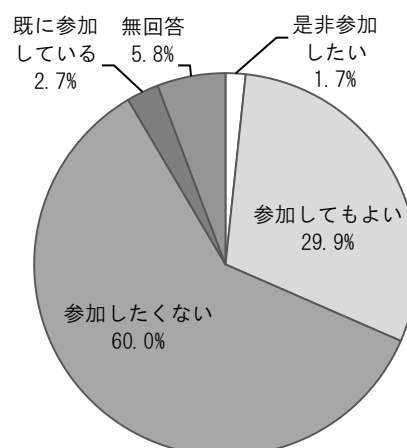
○企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいかでは、「是非参加したい」（1.7%）、「参加してもよい」（29.9%）を合わせた 31.6%の方が参加意向ありと回答しています。また、「既に参加している」方は 2.7%います。

問5-(4) 参加者としてグループ活動等に参加してみたいか



全体 n=9,991

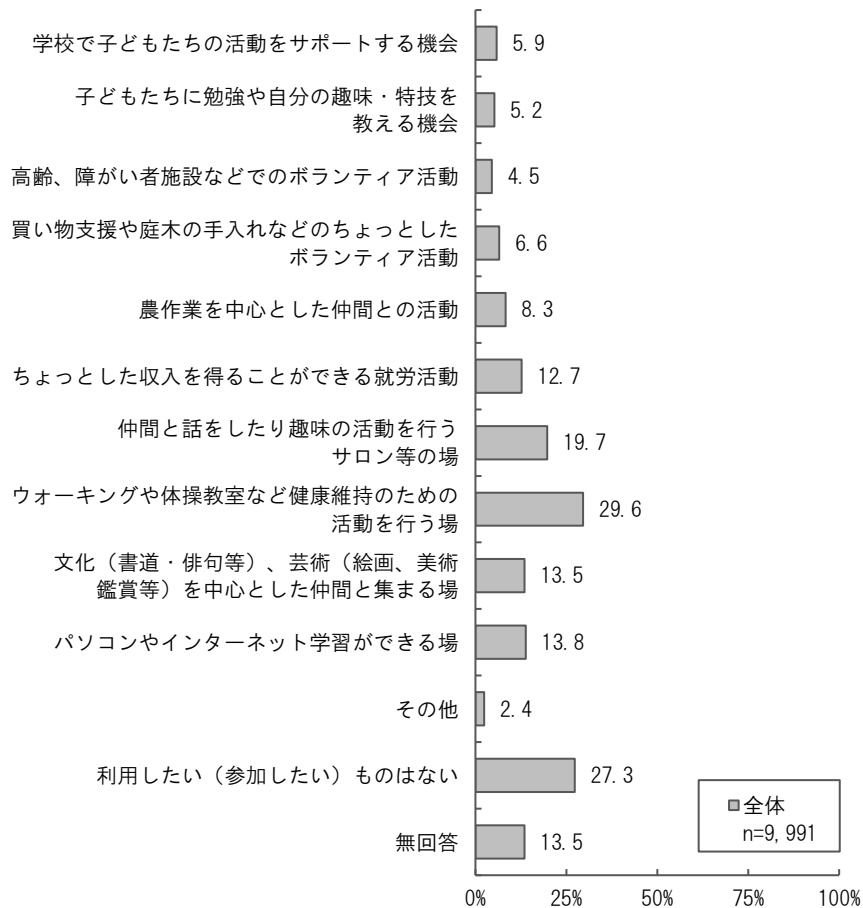
問5-(5) 企画・運営としてグループ活動等に参加してみたいか



全体 n=9,991

○地域での活動の場や参加の機会のうち、利用したいと思うものをみると、「ウォーキングや体操教室など健康維持のための活動を行う場」（29.6％）が最も多く、次いで「仲間と話をしたり趣味の活動を行うサロン等の場」（19.7％）、「パソコンやインターネット学習ができる場」（13.8％）となっています。一方、「利用したい（参加したい）ものはない」は27.3％となっています。

問 5-(6) 地域での活動の場や参加の機会のうち、利用したいと思うもの

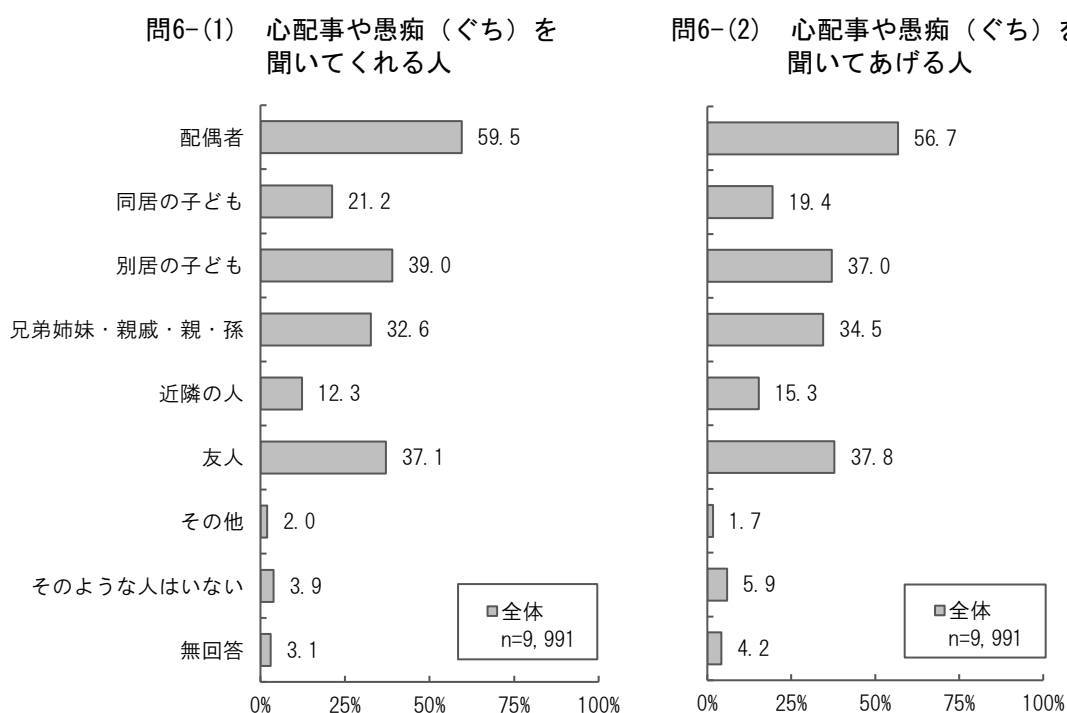


6 たすけあいについて

(1) 困った時に頼る相手・頼られる相手

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人は、「配偶者」（59.5%）が最も多く、次いで「別居の子ども」（39.0%）、「友人」（37.1%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（32.6%）となっています。一方、「そのような人はいない」は3.9%となっています。

○心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人は、「配偶者」（56.7%）が最も多く、次いで「友人」（37.8%）、「別居の子ども」（37.0%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（34.5%）となっています。一方、「そのような人はいない」は5.9%となっています。

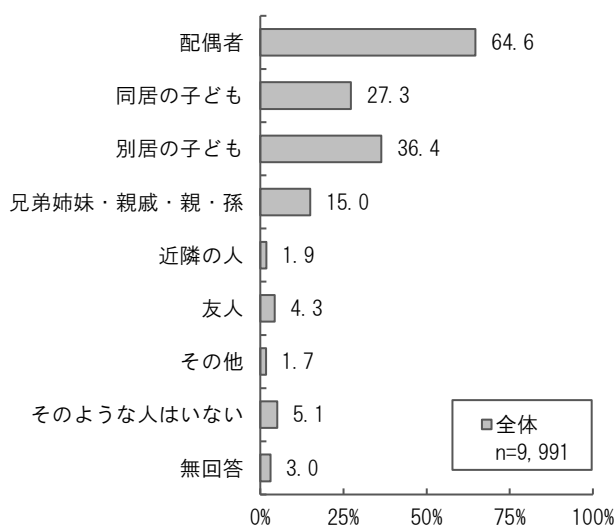


○病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人は、「配偶者」(64.6%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(36.4%)、「同居の子ども」(27.3%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(15.0%)となっています。

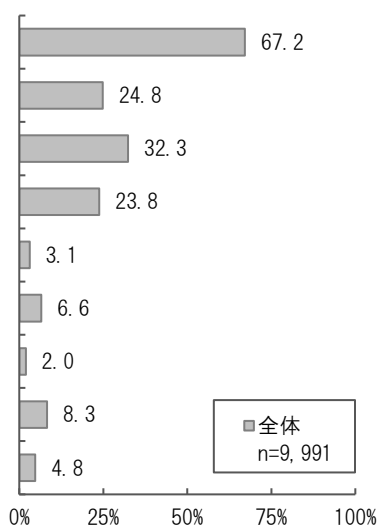
○看病や世話をしてあげる人は、「配偶者」(67.2%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(32.3%)、「同居の子ども」(24.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(23.8%)となっています。

○家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手は、「医師・歯科医師・看護師」(29.9%)が最も多く、次いで「市役所・区役所など」(15.5%)、「自治会・町内会の役員など」(12.3%)となっています。一方、「そのような人はいない」は37.9%となっています。

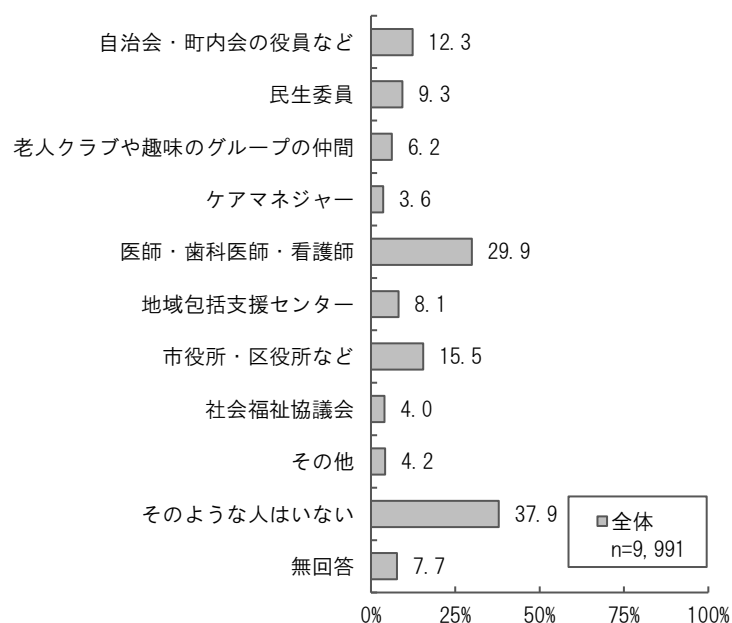
問6-(3) 病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人



問6-(4) 看病や世話をしてあげる人



問6-(5) 家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

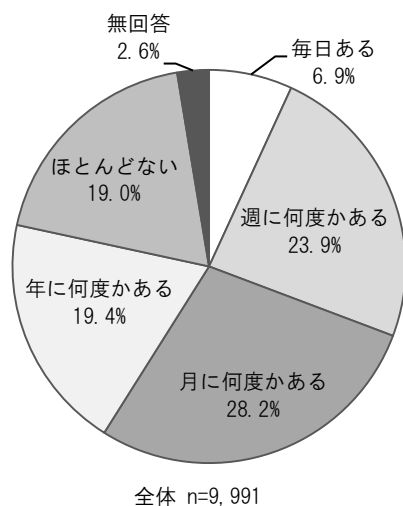


(2) 友人・知人との交流状況

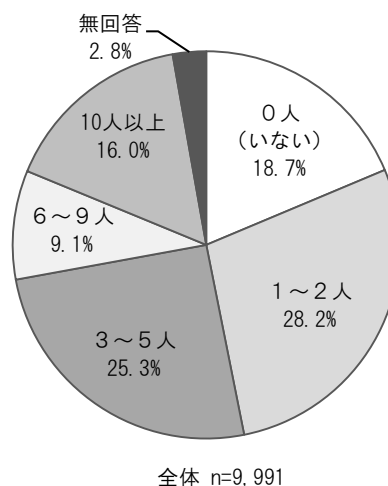
○友人・知人と会う頻度は、「月に何度かある」(28.2%) が最も多く、次いで「週に何度かある」(23.9%)、「年に何度かある」(19.4%) となっています。

○この1か月間、何人の友人・知人と会ったかでは、「1～2人」(28.2%) が最も多く、次いで「3～5人」(25.3%) となっています。

問 6-(6) 友人・知人と会う頻度



問 6-(7) 何人の友人・知人と会ったか
(最近1か月間)



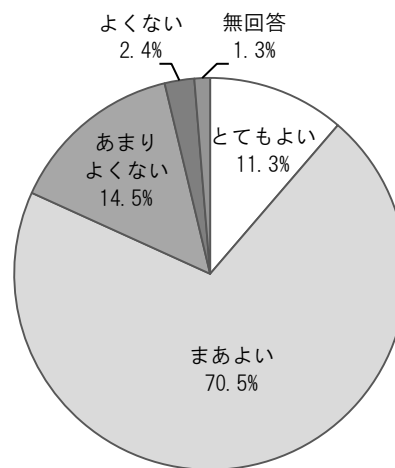
7 健康について

(1) 健康状態

○現在の主観的健康感をみると、「まあよい」(70.5%)が最も多く、「とてもよい」(11.3%)を合わせると81.8%の方が健康状態がよいと感じています。

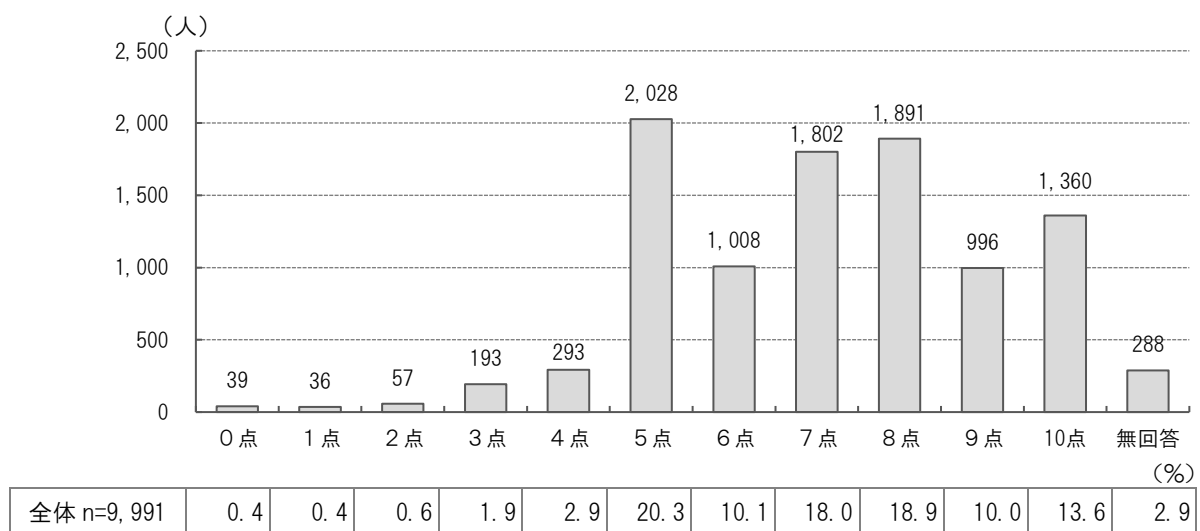
○現在の主観的幸福感を点数でみると、「5点」(20.3%)が最も多く、次いで「8点」(18.9%)、「7点」(18.0%)、「(とても幸せ) 10点」(13.6%)となっています。

問 7-(1) 現在の健康状態はいかがですか



全体 n=9,991

問 7-(2) 現在どの程度幸せですか



平均点

7.0 点

(2) こころの健康状態

○この1か月間、気分が沈んだりするかでは、35.7%の方が沈んだりすると回答しています。

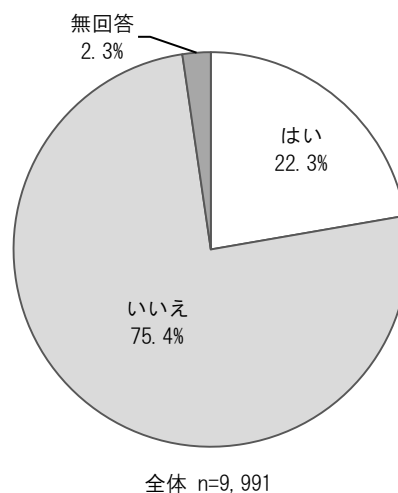
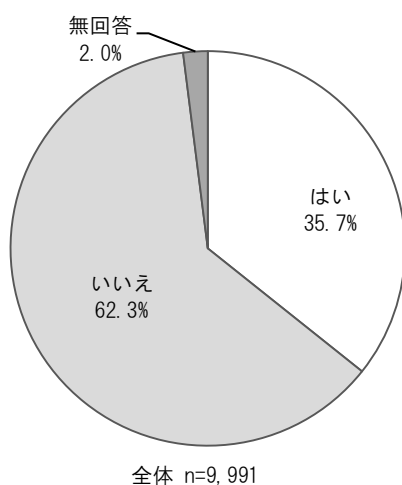
○この1か月間、物事に対して心から楽しめないかでは、22.3%の方が楽しめないと回答しています。

○(ここ2週間)毎日の生活に充実感がないかでは、20.4%の方がないと回答しています。

○(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったかでは、16.5%の方が楽しめなくなったと回答しています。

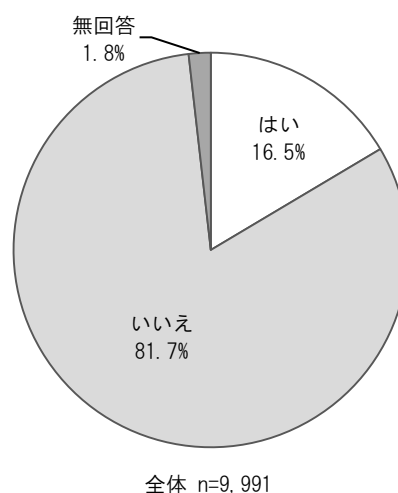
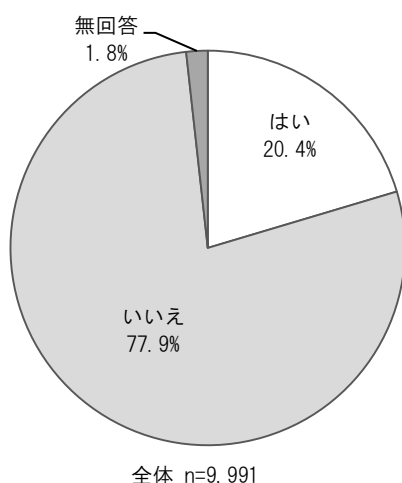
問7-(3) この1か月間、気分が沈んだりするか

問7-(4) この1か月間、物事に対して心から楽しめないか



問7-(5) (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がないか

問7-(6) (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなったか

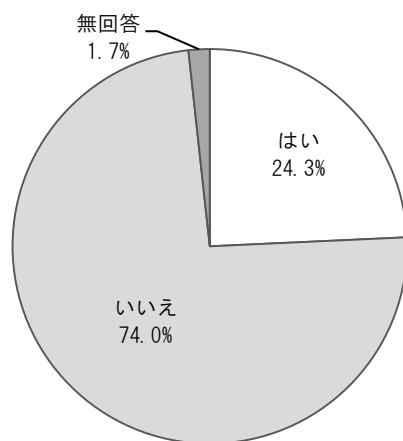


○（ここ2週間）以前は楽に出来ていたことが、今ではおっくうに感じられるかでは、24.3%の方が感じられると回答しています。

○（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えないかでは、18.8%の方がそう思うと回答しています。

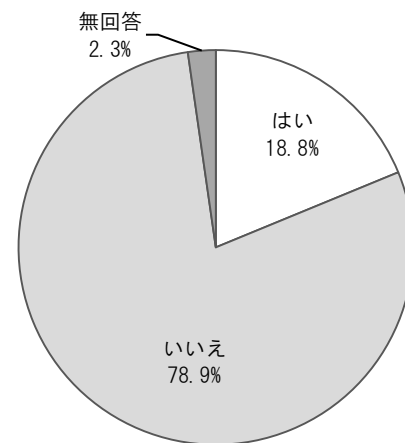
○（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがするかでは、26.4%の方がすると回答しています。

問7-(7) （ここ2週間）以前は楽に出来ていたことが、今ではおっくうに感じられるか



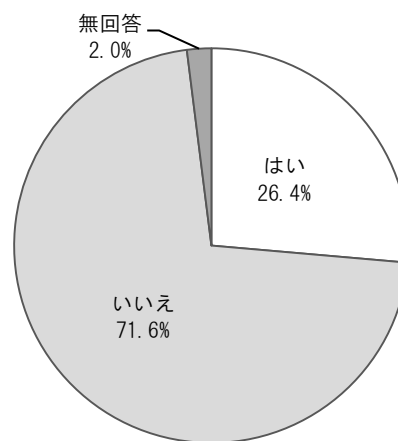
全体 n=9,991

問7-(8) （ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えないか



全体 n=9,991

問7-(9) （ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがするか



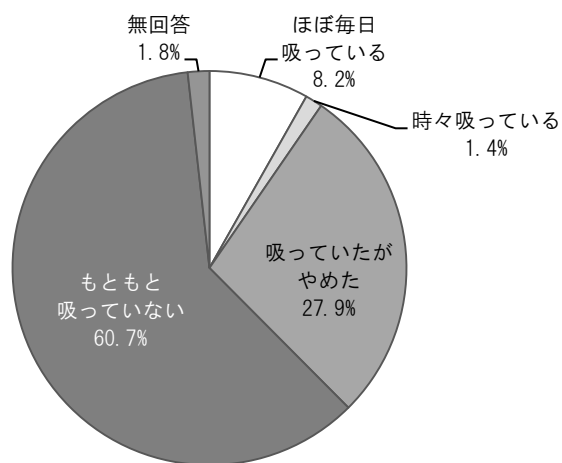
全体 n=9,991

(3) 疾病と喫煙や飲酒の関係

○喫煙の有無では、「ほぼ毎日吸っている」(8.2%)、「時々吸っている」(1.4%)を合わせた 9.6%の方が喫煙していると回答しています。

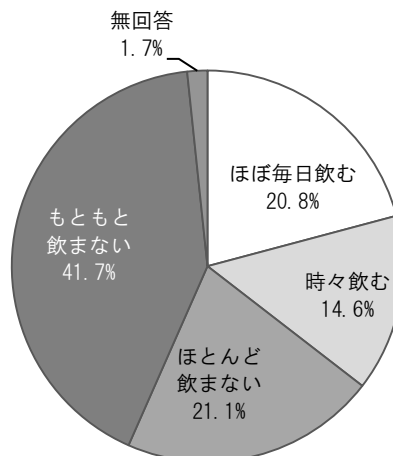
○飲酒の有無では、「ほぼ毎日飲む」(20.8%)、「時々飲む」(14.6%)を合わせた 35.4%の方が飲酒していると回答しています。

問 7-(11) 喫煙の有無



全体 n=9,991

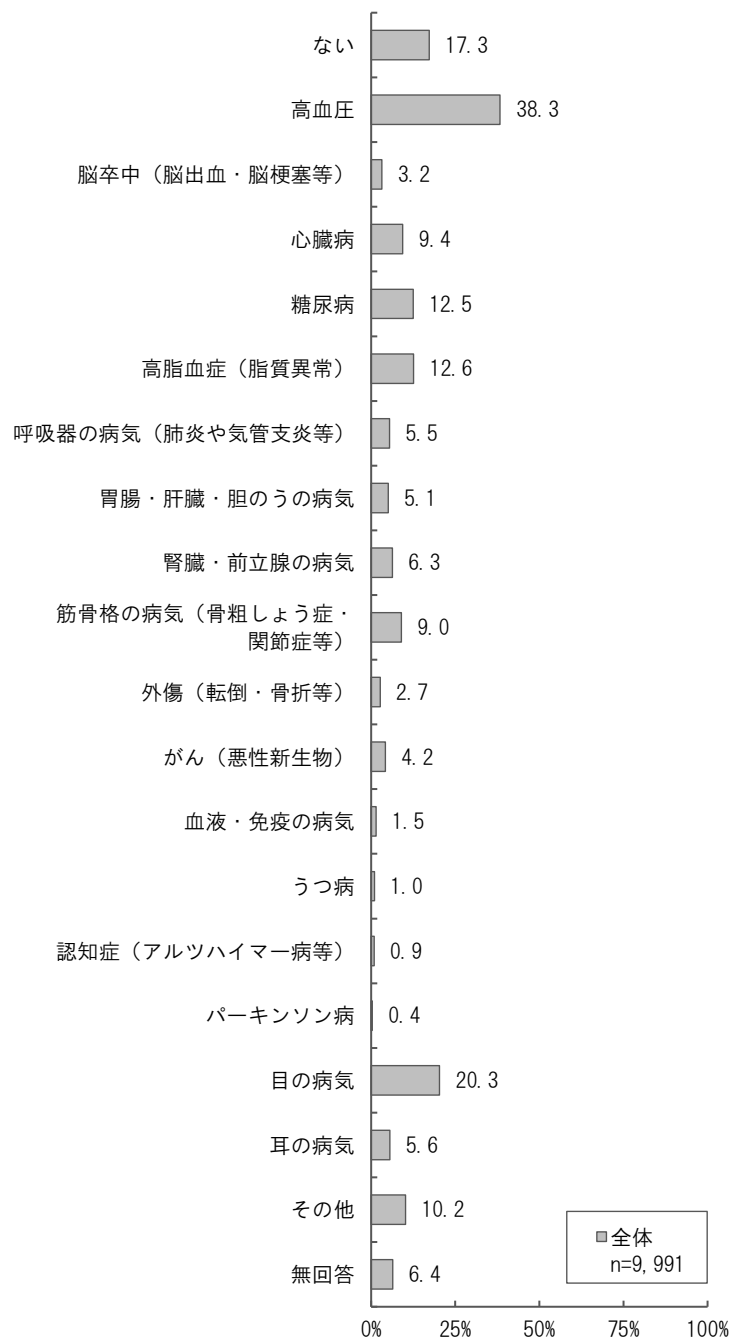
問 7-(12) 飲酒の有無



全体 n=9,991

○現在治療中、または後遺症のある病気の有無をみると、「高血圧」(38.3%)が最も多く、次いで「目の病気」(20.3%)、「高脂血症(脂質異常)」(12.6%)、「糖尿病」(12.5%)となっています。一方、「ない」は17.3%となっています。

問 7-(10) 現在治療中、または後遺症のある病気の有無



(4) 通院の状況

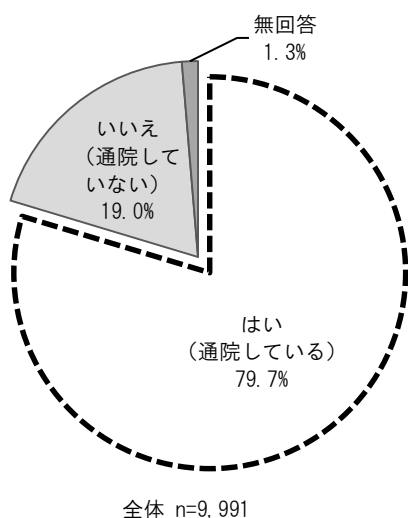
○通院の有無では、79.7%の方が通院していると回答しています。

○通院の頻度では、「月1回程度」(49.3%)が最も多く、次いで「2か月に1回程度」(18.4%)、「月2～3回」(9.7%)となっています。

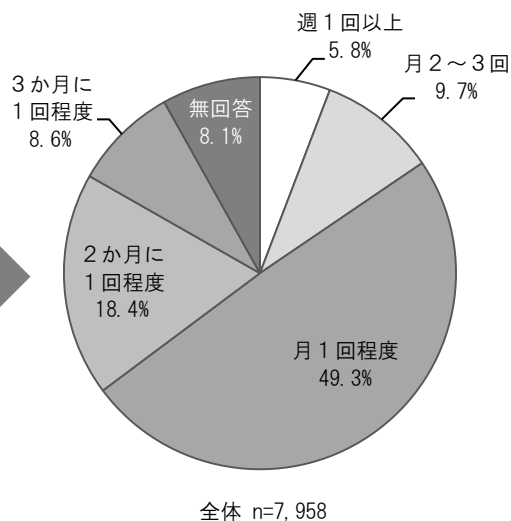
○飲んでいる薬の数では「5種類以上」(19.1%)が最も多くなっています。

○定期的な健康診査の受診では、「1年に1回は受けている」(63.1%)が最も多くなっています。一方、11.9%の方が「ほとんど受けたことがない」と回答しています。

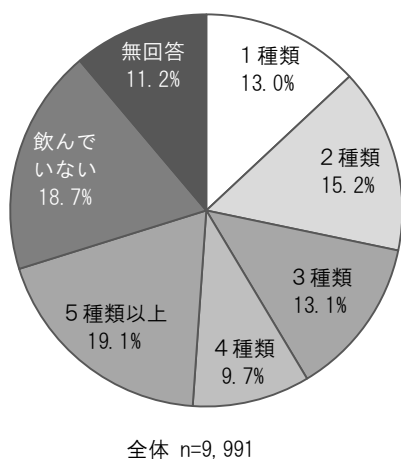
問 7-(13) 通院の有無



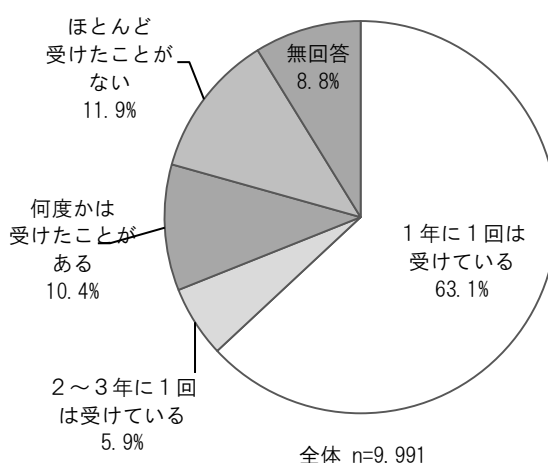
問 7-(13).① 通院の頻度



問 7-(14) 薬を何種類飲んでいるか



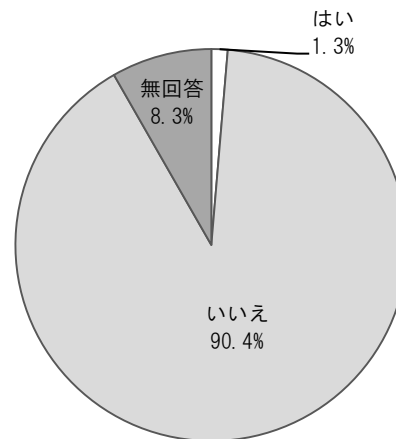
問 7-(15) 定期的な健康診査の受診



(5) 在宅サービスの利用状況

○在宅サービス※の利用の有無では、90.4%の方が利用していないと回答しています。

問7-(16) 在宅サービスの利用の有無



全体 n=9,991

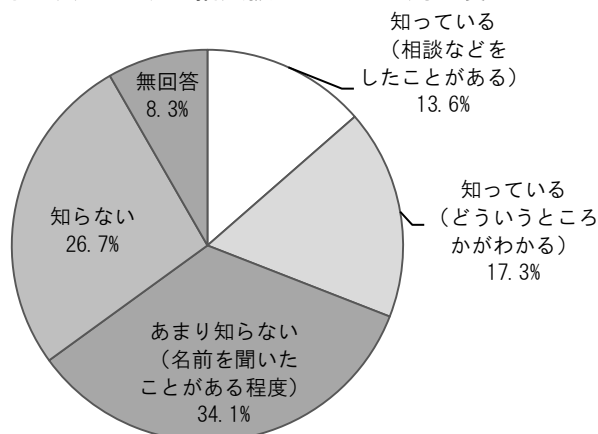
※在宅サービス：訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護（デーサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）、小規模多機能型居宅介護、福祉用具貸与などのことをいいます。

8 地域包括ケアシステムについて

(1) 地域包括支援センター

○地域包括支援センターの周知度をみると、「あまり知らない(名前を聞いたことがある程度)」(34.1%)が最も多く、「知らない」(26.7%)を合わせると、知らない方が60.8%となっています。

問8-(1) 地域包括支援センターの周知度



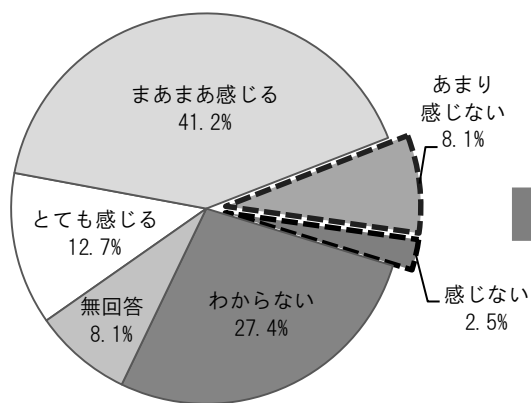
全体 n=9,991

(2) 地域での暮らし

○医療、介護サービスを受けながら地域で暮らし続けられると感じるかをみると「まあまあ感じる」(41.2%)が最も高く、「とても感じる」(12.7%)を合わせると、「感じる」方が53.9%となっています。

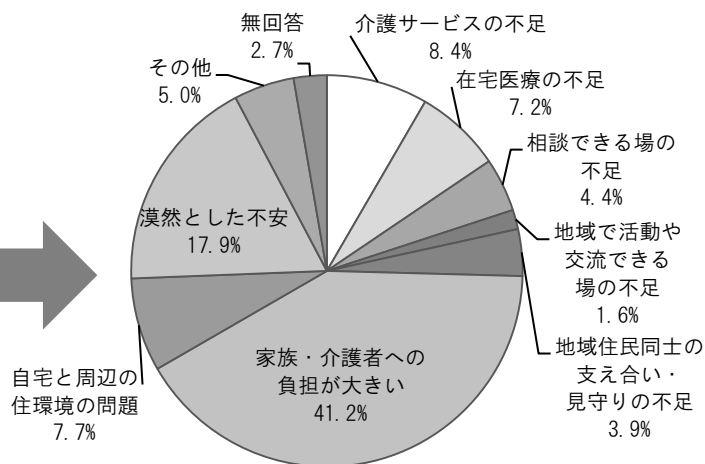
○「あまり感じない」「感じない」と回答した理由をみると、「家族・介護者への負担が大きい」(41.2%)が最も多くなっています。

問8-(2) 医療、介護サービスを受けながら地域で暮らし続けられると感じるか



全体 n=9,991

問8-(2).① 「あまり感じない」「感じない」と回答した理由



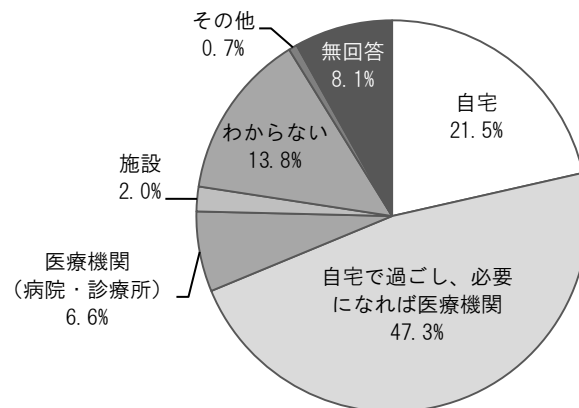
全体 n=1,062

○人生の最期を迎える場所の希望としては、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」（47.3%）が最も多く、次いで「自宅」（21.5%）となっています。

○在宅で看取りができる医療や介護サービスの周知度では、「あまり知らない」（37.1%）が最も多く、「知らない」（27.4%）を合わせた知らない方が64.5%となっています。

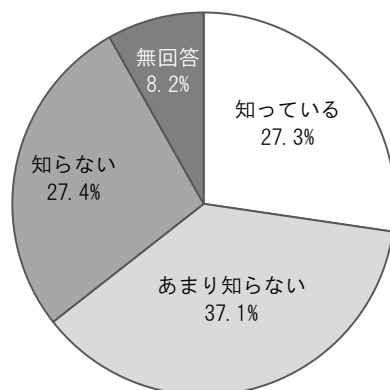
○訪問看護サービスの周知度では、「あまり知らない（どんなサービスかあまりわからない）」（43.4%）が最も多く、「知らない」（12.0%）を合わせた知らない方が55.4%となっています。一方、「知っている（どんなサービスかがわかる）」方は42.4%となっています。

問8-(3) 人生の最期を迎える場所の希望



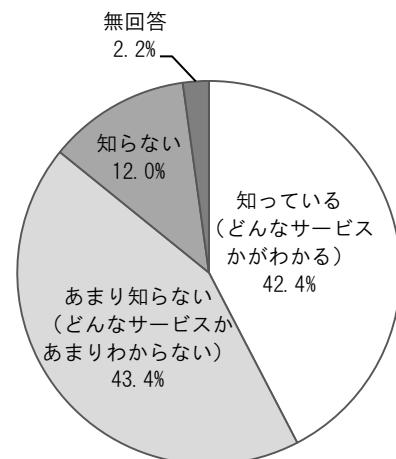
全体 n=9,991

問8-(4) 在宅で看取りができる医療や介護サービスの周知度



全体 n=9,991

問8-(5) 訪問看護サービス※の周知度



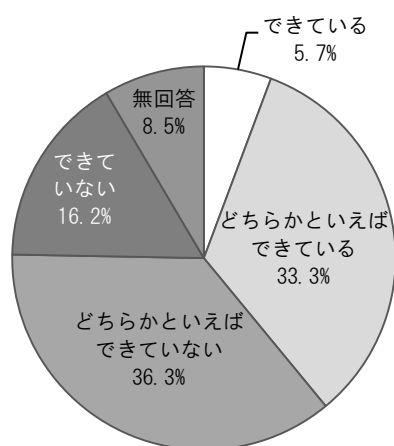
全体 n=9,991

※訪問看護サービス：利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の心身機能の維持回復などを目的として、看護師などが疾患のある利用者の自宅を訪問し、療養上の世話や診療の補助を行うサービスのことをいいます。

○高齢者や子どもを見守る「仕組みづくり」ができているかでは、「どちらかといえばできていない」(36.3%)と「できていない」(16.2%)を合わせた52.5%の方ができていないと回答し、「どちらかといえばできている」(33.3%)と「できている」(5.7%)を合わせた39.0%の方ができていると回答しています。

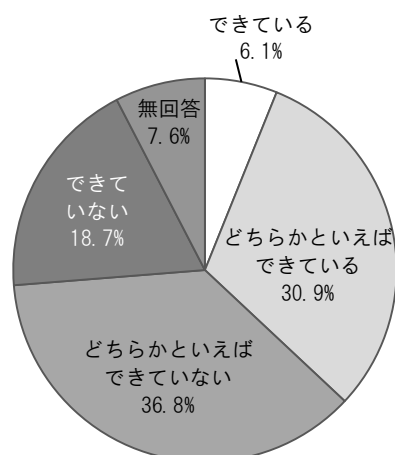
○地域住民同士が交流する「場づくり」ができているかをみると、「どちらかといえばできていない」(36.8%)と「できていない」(18.7%)を合わせた55.5%の方ができていないと回答し、「どちらかといえばできている」(30.9%)と「できている」(6.1%)を合わせた37.0%の方ができていると回答しています。

問8-(6) 高齢者や子どもを見守る
「仕組みづくり」ができているか



全体 n=9,991

問8-(7) 地域住民同士が交流する
「場づくり」ができているか



全体 n=9,991

第4章

日常生活圏域別の 分析結果

第4章 日常生活圏域別の分析結果

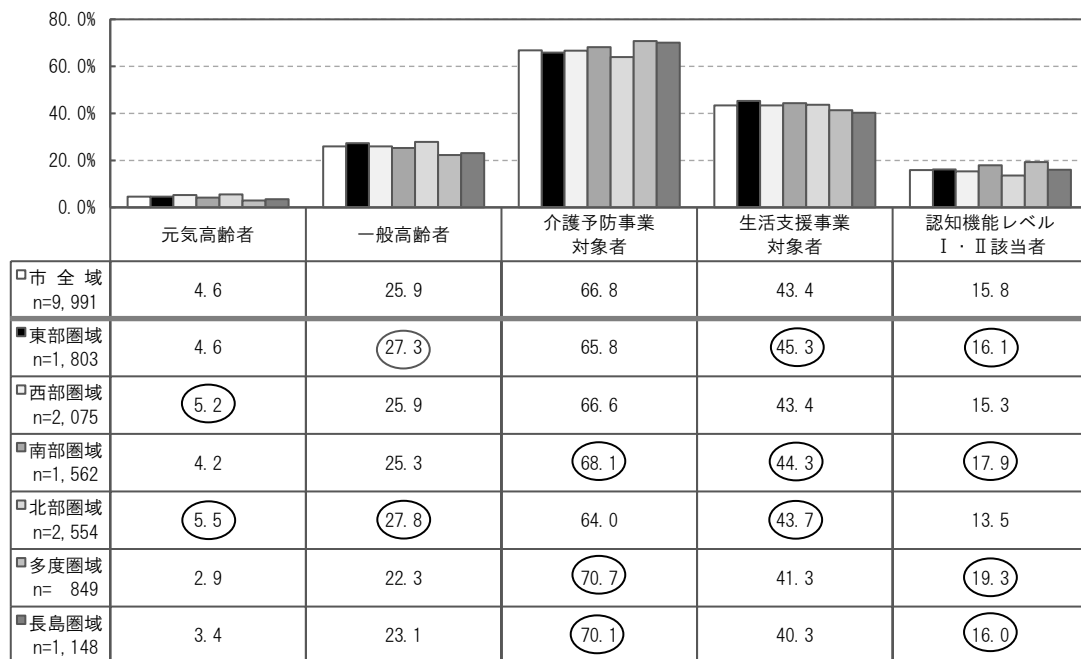
1 高齢者像の状況について

○5つの高齢者像別の出現率をみると、元気高齢者は、「西部圏域」「北部圏域」では、市平均を上回り、他の4圏域では市平均を下回っています。

○一般高齢者は、「東部圏域」「北部圏域」では市平均を上回り、他の4圏域では市平均を下回っています。

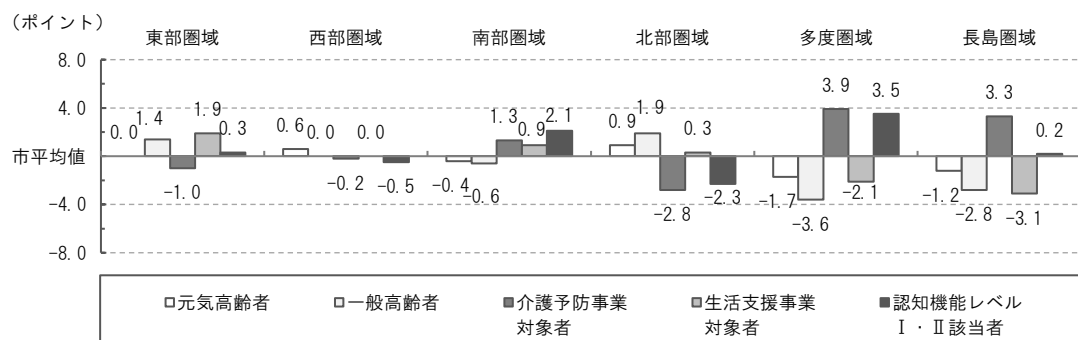
○要援護者（介護予防事業対象者・生活支援事業対象者・認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者）をみると、「南部圏域」では全ての高齢者像で市平均を上回り、「西部圏域」では下回っています。また、「多度圏域」「長島圏域」では介護予防事業対象者が市平均を大きく上回り、「多度圏域」では認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者も市平均を大きく上回っています。

図 4.1 5つの高齢者像別・圏域別出現率



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

図 4.2 5つの高齢者像別・圏域別出現率の地域差

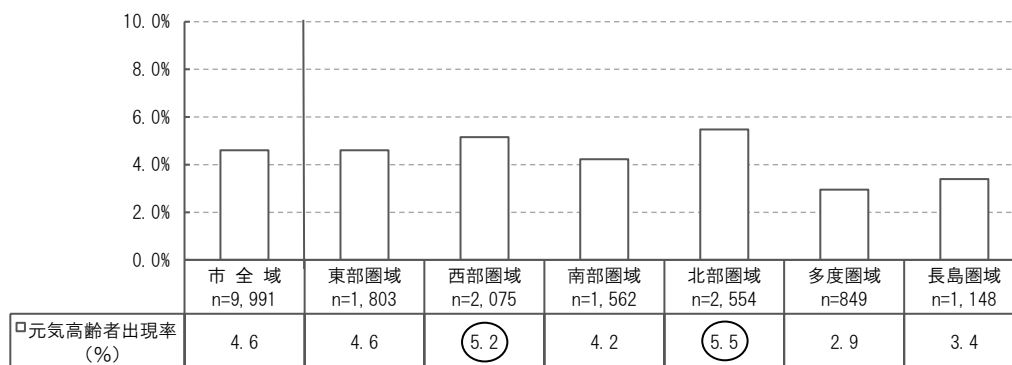


※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

(1) 元気高齢者

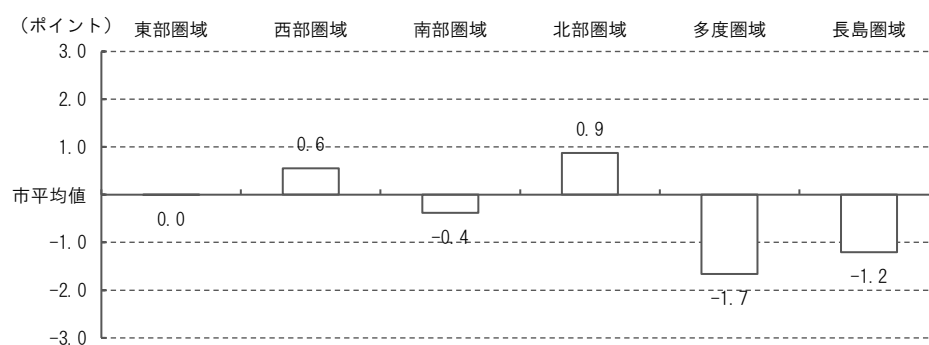
○元気高齢者について出現率の地域差をみると、「北部圏域」(5.5%)が最も高く、「多度圏域」(2.9%)が最も低く、圏域間の地域差は2.6ポイントとなっています。

図 4.3 元気高齢者出現率



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

図 4.4 元気高齢者出現率の地域差

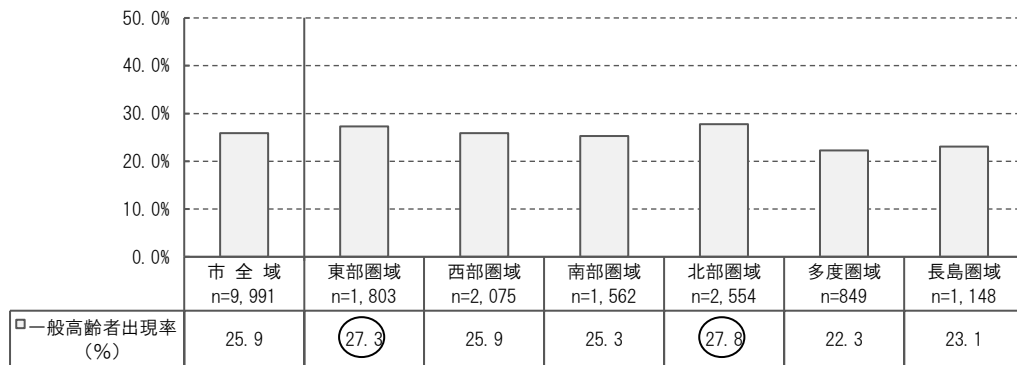


※市全域の出現率を市平均値(0.0)として地域差を算出しています。

(2) 一般高齢者

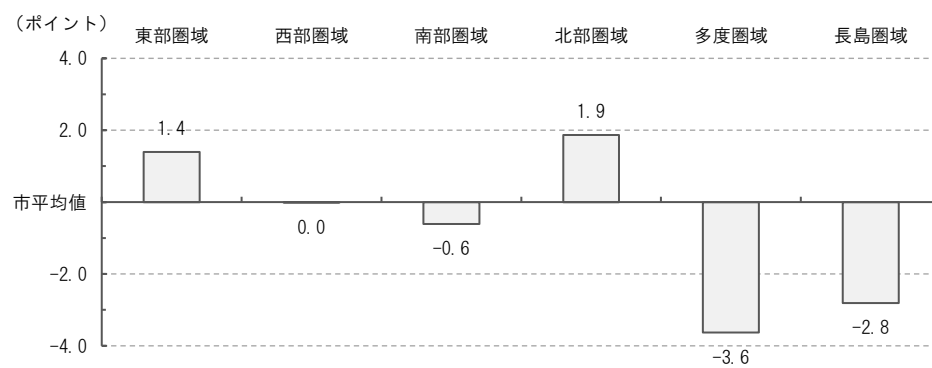
○一般高齢者について出現率をみると、「北部圏域」(27.8%)が最も高く、「多度圏域」(22.3%)が最も低く、圏域間の地域差は5.5ポイントとなっています。

図 4.5 一般高齢者出現率



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

図 4.6 一般高齢者出現率の地域差

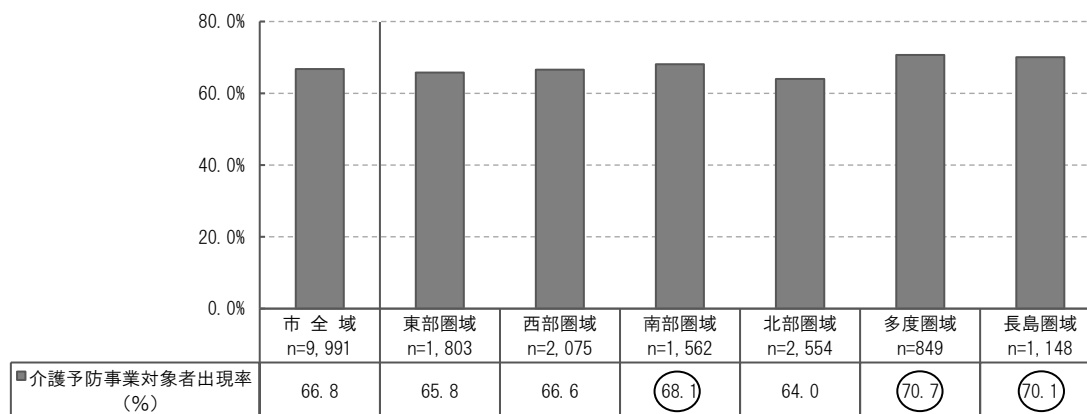


※市全域の出現率を市平均値(0.0)として地域差を算出しています。

(3) 介護予防事業対象者

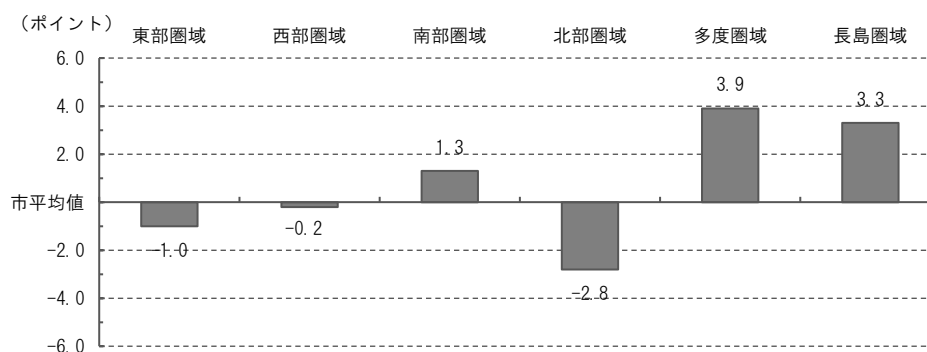
○介護予防事業対象について出現率をみると、「多度圏域」(70.7%)が最も高く、「北部圏域」(64.0%)が最も低く、圏域間の地域差は6.7ポイントとなっています。

図 4.7 介護予防事業対象者出現率



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

図 4.8 介護予防事業対象者出現率の地域差

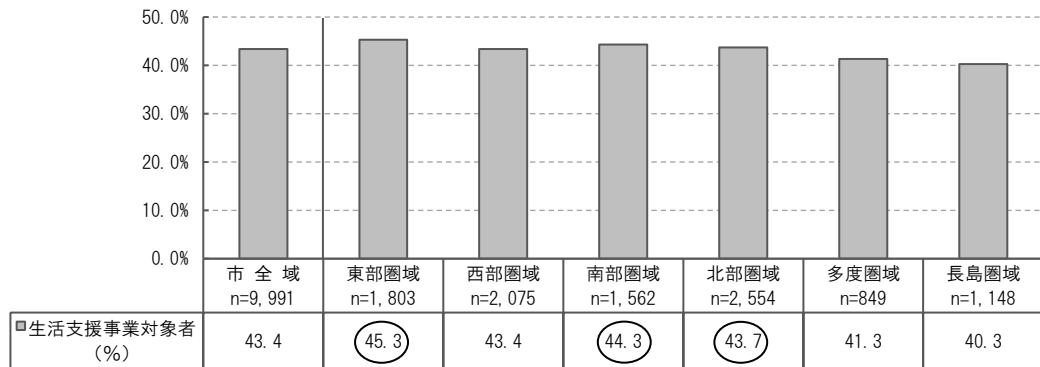


※市全域の出現率を市平均値 (0.0) として地域差を算出しています。

（４）生活支援事業対象者

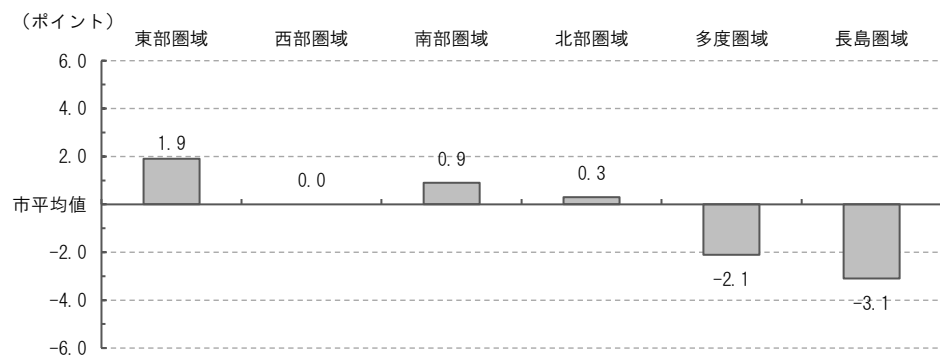
○生活支援事業対象者について出現率をみると、「東部圏域」（45.3％）が最も高く、「長島圏域」（40.3％）が最も低く、圏域間の地域差は5.0ポイントとなっています。

図 4.9 生活支援事業対象者出現率



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

図 4.10 生活支援事業対象者出現率の地域差

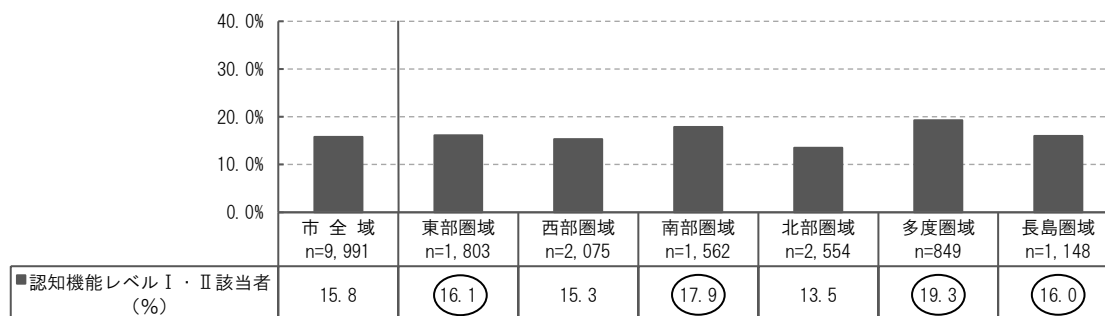


※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

(5) 認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者

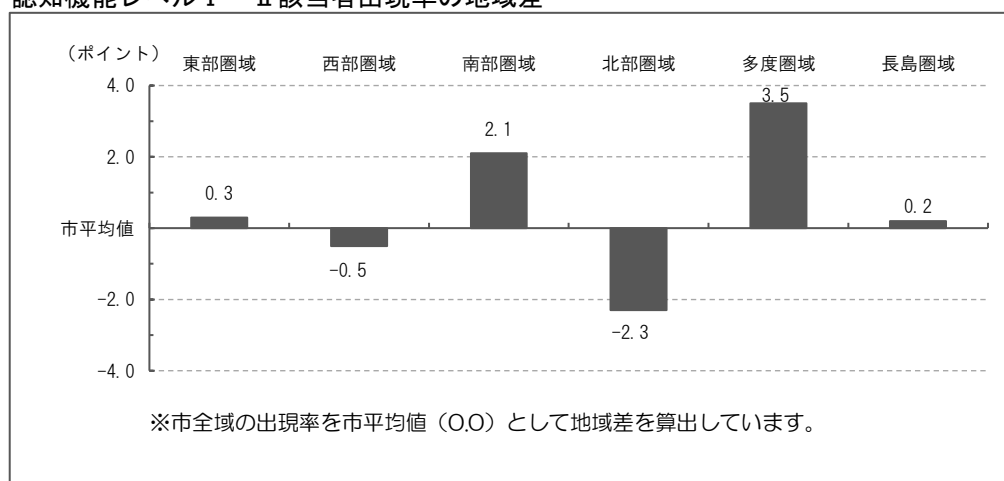
○認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者について出現率をみると、「多度圏域」(19.3%)が最も高く、「北部圏域」(13.5%)が最も低く、圏域間の地域差は5.8ポイントとなっています。

図 4.11 認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者の出現率



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

図 4.12 認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者出現率の地域差

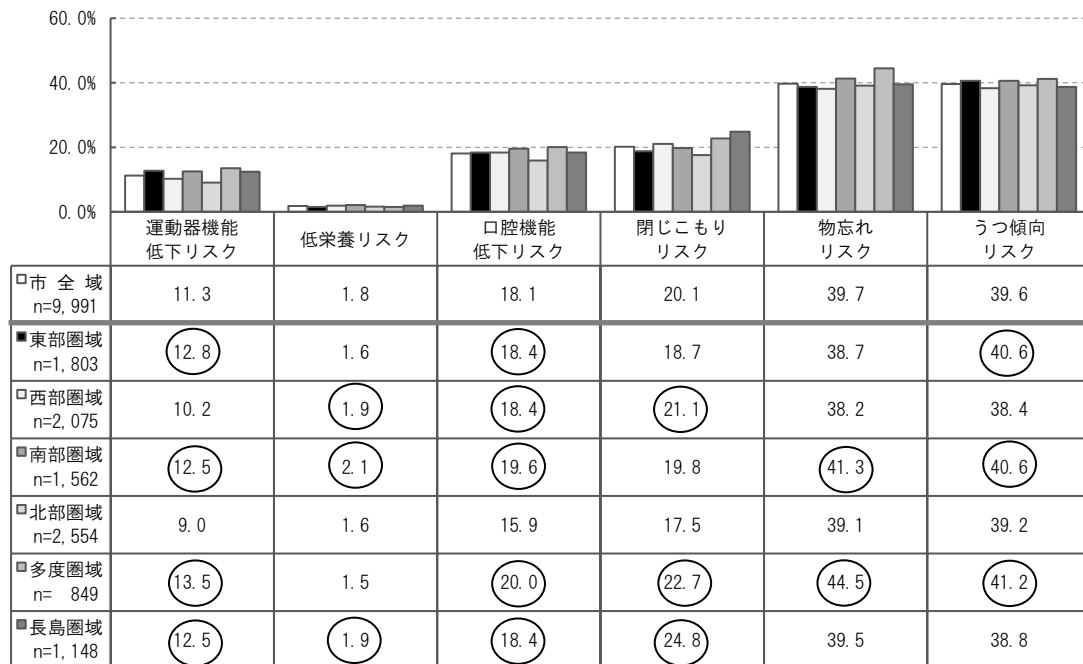


2 リスク指標（基本チェックリスト）の状況について

（１）リスク該当高齢者の圏域別出現率

○リスク該当高齢者の出現率をみると、「北部圏域」では全てのリスクで市全域を下回っています。一方、「南部圏域」では「閉じこもりリスク」を除く5つのリスク、「多度圏域」では「低栄養リスク」を除く5つのリスクで市全域を上回っています。

図 4.13 リスク該当高齢者の出現率



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

○リスク別に出現率の地域差をみると、運動器機能低下リスクでは「多度圏域」が最も高く、「北部圏域」が最も低く、地域差は4.5ポイントとなっています。

○低栄養リスクでは、「南部圏域」が最も高く、「多度圏域」が最も低く、地域差は0.6ポイントとなっています。

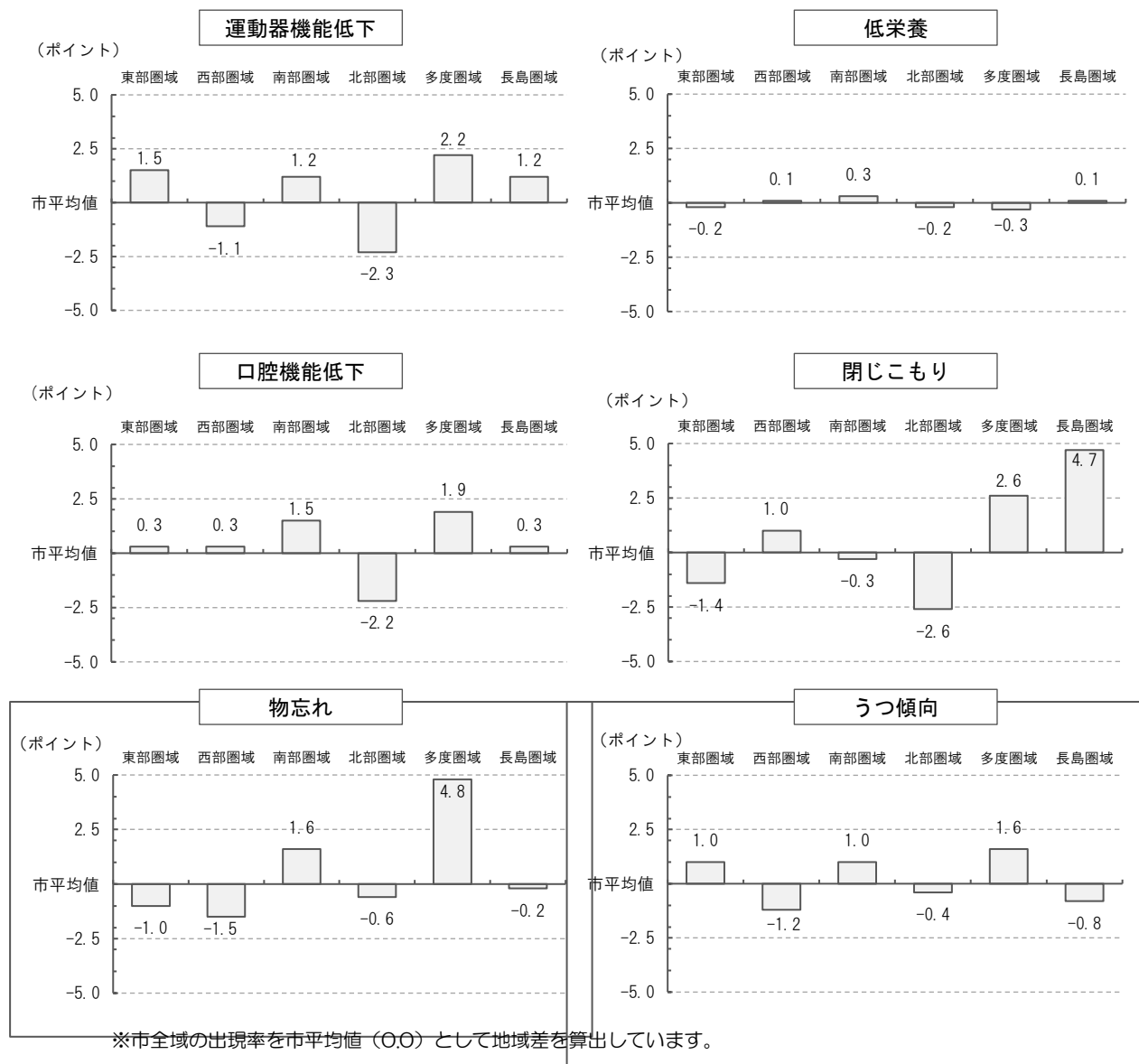
○口腔機能低下リスクでは、「多度圏域」が最も高く、「北部圏域」が最も低く、地域差は4.1ポイントとなっています。

○閉じこもりリスクでは、「長島圏域」が最も高く、「北部圏域」が最も低く、地域差は7.3ポイントとなっています。

○物忘れリスクでは、「多度圏域」が最も高く、「西部圏域」が最も低く、地域差は6.3ポイントとなっています。

○うつ傾向リスクでは、「多度圏域」が最も高く、「西部圏域」が最も低く、地域差は2.8ポイントとなっています。

図 4.14 リスク出現率の地域差



3 社会関係指標の状況について

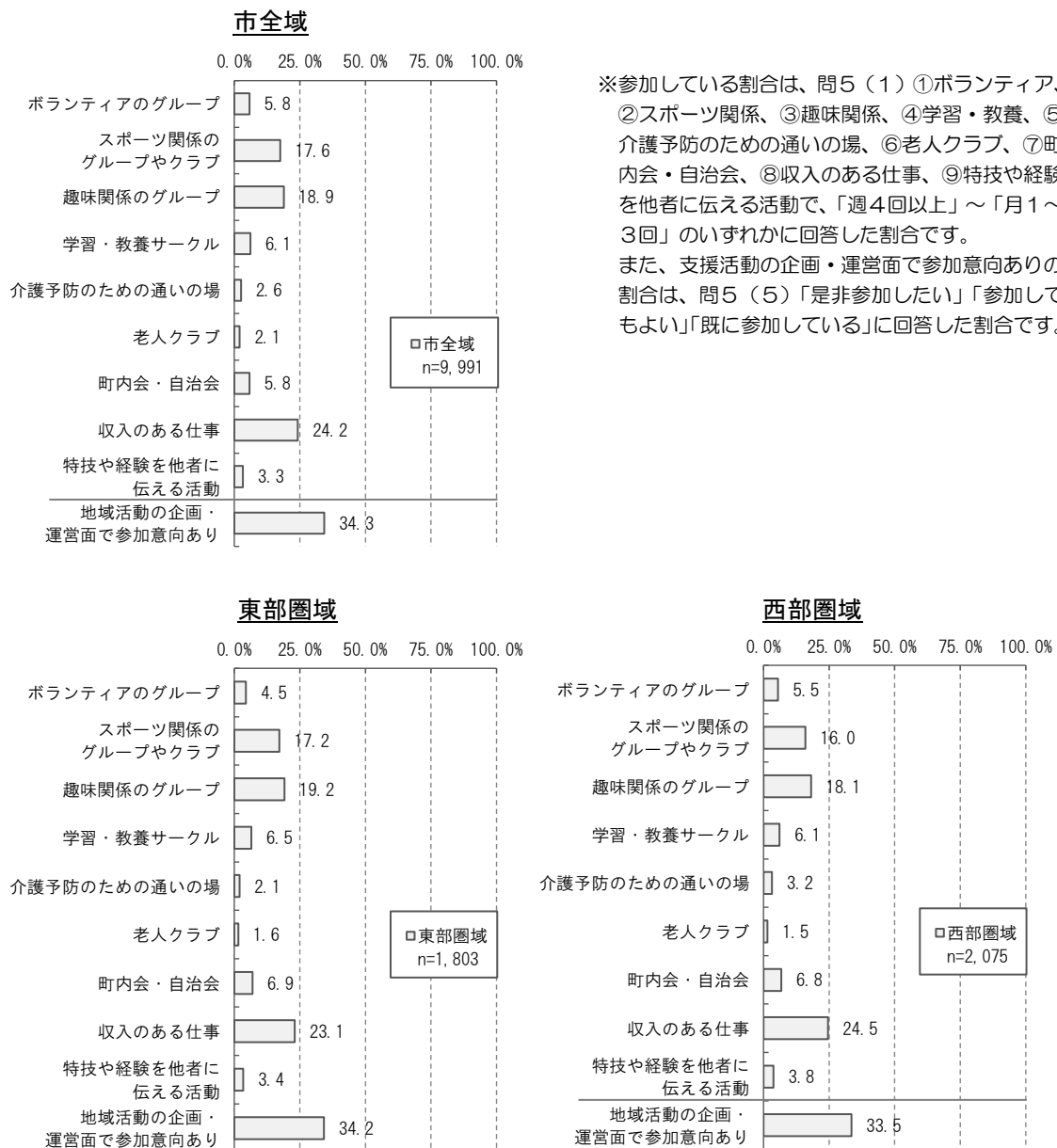
(1) 地域活動への参加状況

○地域活動への参加状況（月1回以上参加）をみると、市全域では「収入のある仕事」「趣味関係のグループ」「スポーツ関係のグループやクラブ」が20%前後で上位となっています。

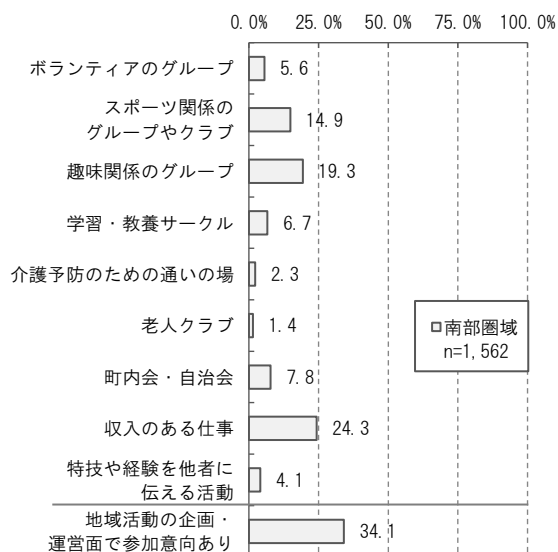
○圏域別にみると、「北部圏域」では「スポーツ関係のグループやクラブ」、それ以外の圏域では「収入のある仕事」が最も高くなっています。

○支援活動の企画運営面での参加意向（既参加者を含む）をみると、「北部圏域」（36.0%）が最も高く、「長島圏域」（31.5%）が最も低く、地域差は4.5ポイントとなっています。

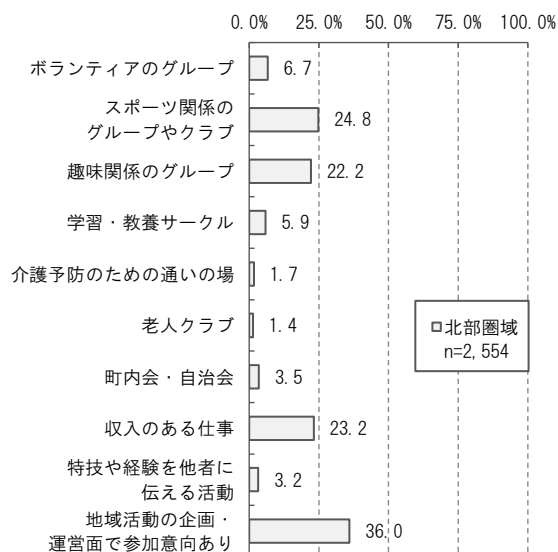
図 4.15 高齢者の活動状況と企画運営支援意向



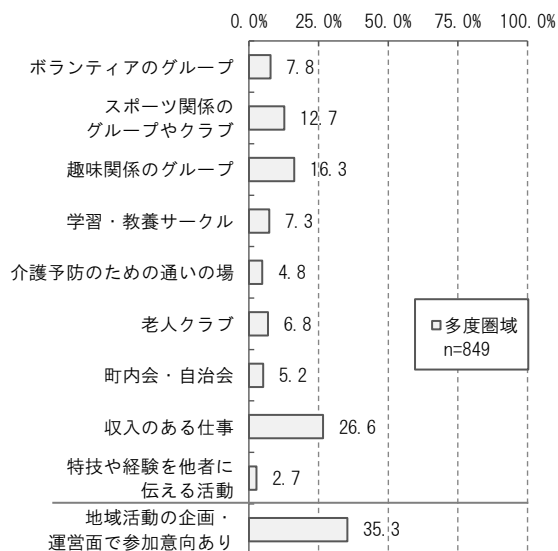
南部圏域



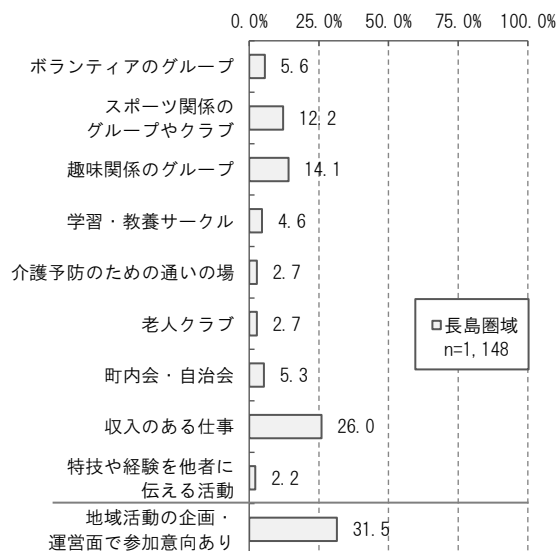
北部圏域



多度圏域



長島圏域



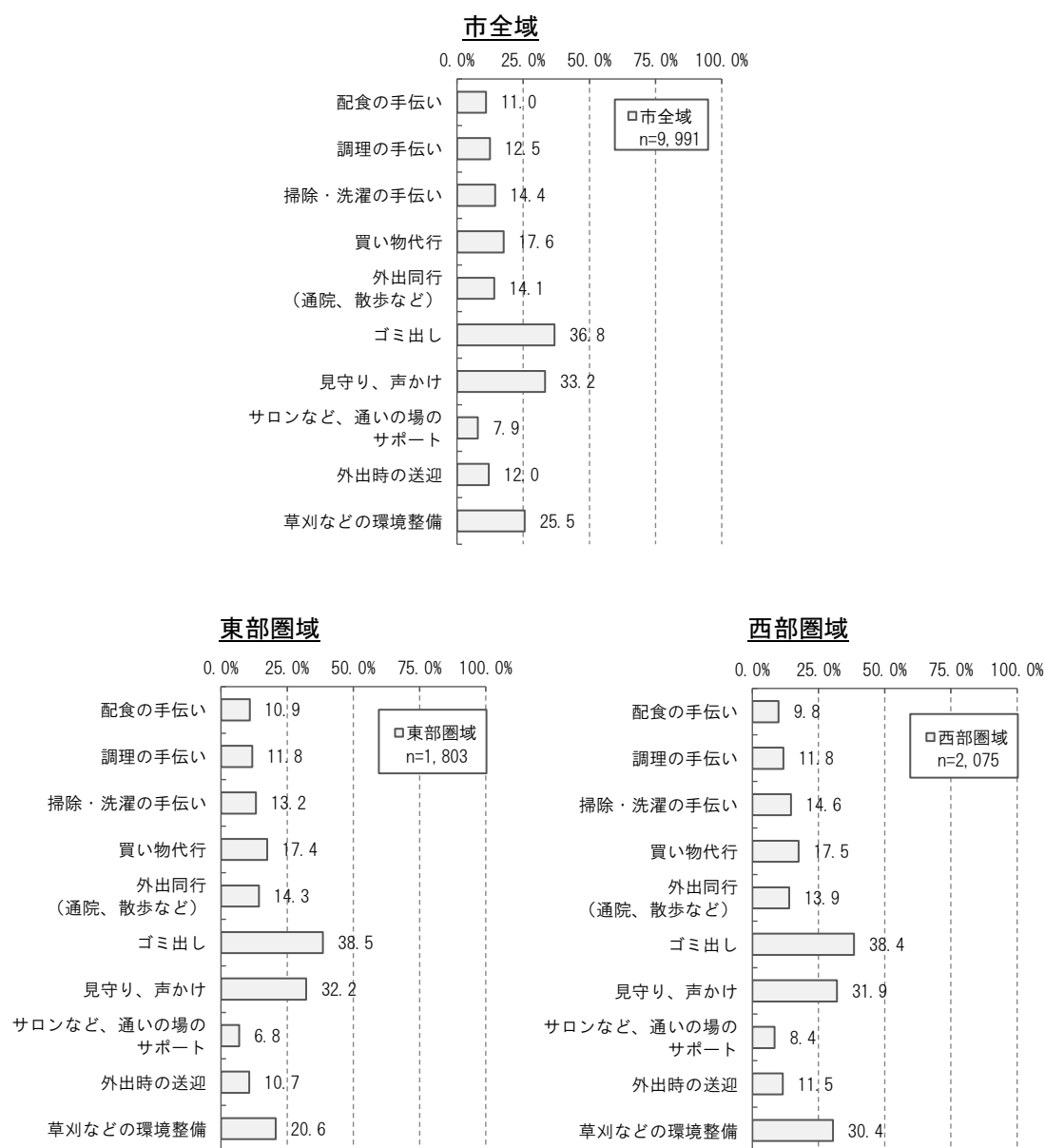
（２）高齢者が地域でできる支援活動（サービス）

○高齢者が地域でできる支援活動をみると、市全域では「ゴミ出し」が最も高く、次いで、「見守り、声かけ」「草刈などの環境整備」となっています。

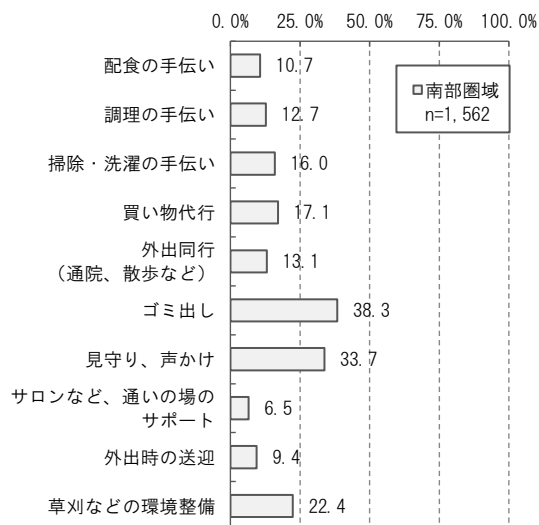
○圏域ごとにみると、いずれの圏域でも「ゴミ出し」が最も多くなっています。また、「見守り、声かけ」「草刈などの環境整備」を含めた上位3位が固定される傾向にあります。

○市全域で上位5位を占める活動について、市平均を上回っている圏域をみると、1位の「ゴミ出し」では「東部圏域」「西部圏域」「南部圏域」「北部圏域」、2位の「見守り、声かけ」では「南部圏域」「北部圏域」、3位の「草刈などの環境整備」では「西部圏域」「北部圏域」「多度圏域」「長島圏域」、4位の「買い物代行」では「北部圏域」、5位の「掃除・洗濯の手伝い」では「西部圏域」「南部圏域」「多度圏域」となっています。

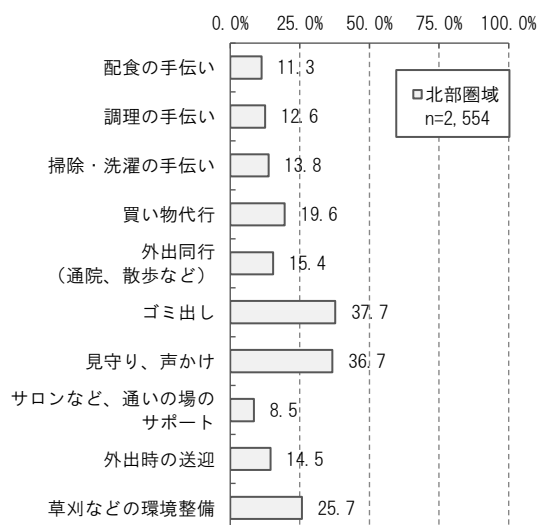
図 4.16 高齢者の地域支援意向



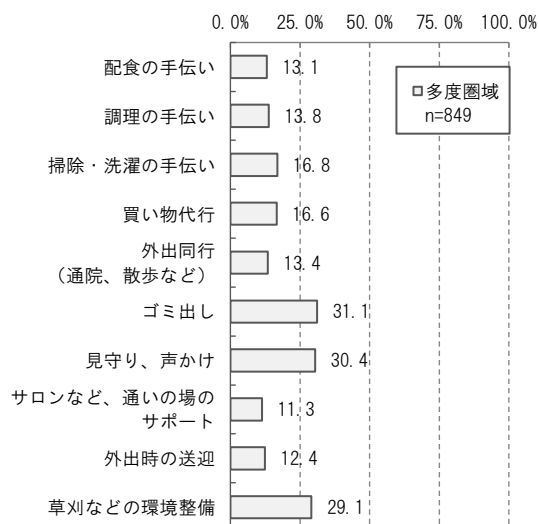
南部圏域



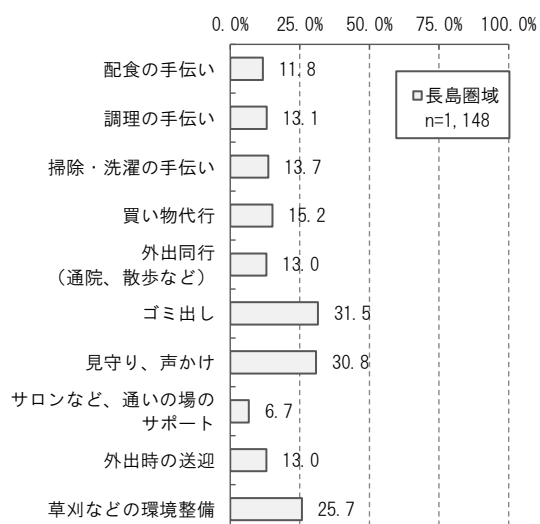
北部圏域



多度圏域



長島圏域



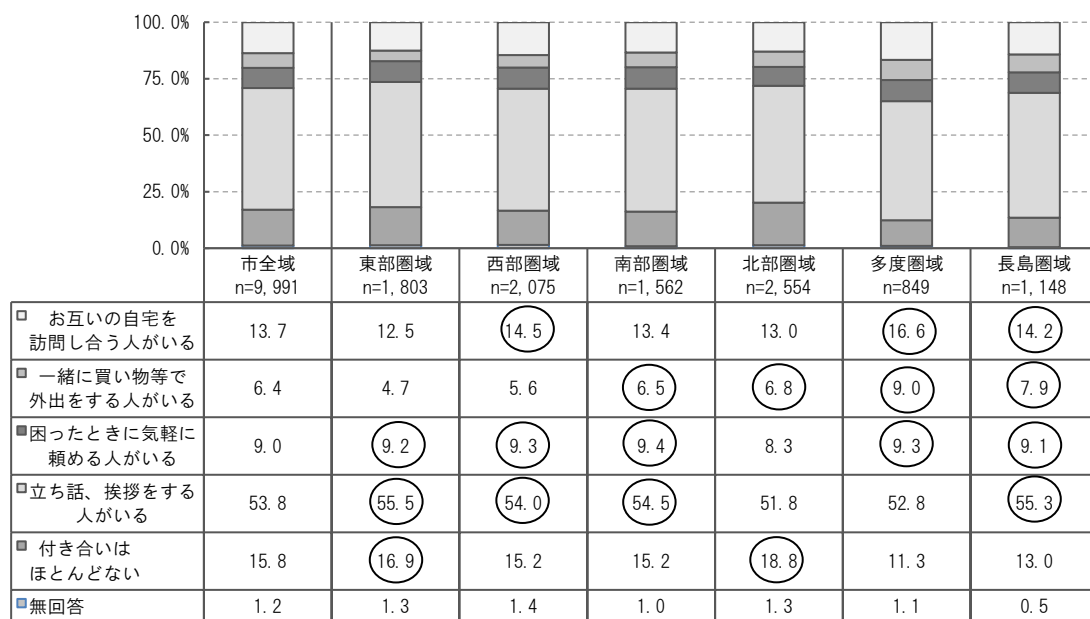
(3) 社会参加と地域の人との付き合い

○地域の人との付き合いの状況をみると、全ての圏域で「立ち話、挨拶をする人がある」が最も高くなっています。

○「付き合いはほとんどない」では、「東部圏域」「北部圏域」で市全域を上回っています。

○「長島圏域」では、自宅を訪問し合ったり、一緒に買い物に出かける等、深い付き合いが多くみられます。

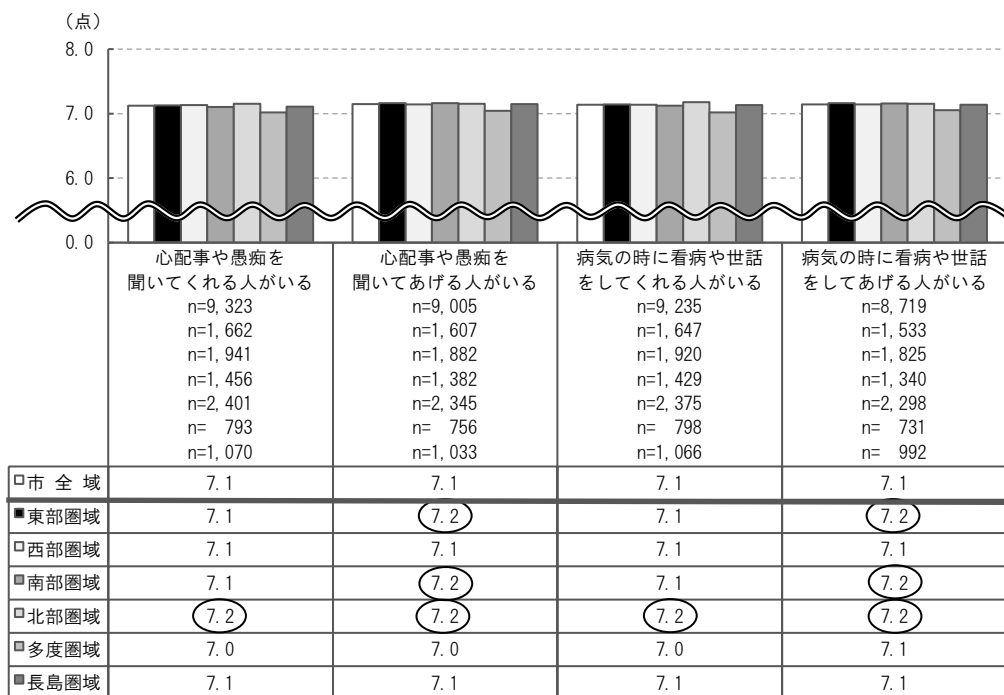
図 4.17 地域の人との付き合い



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

○たすけあいをする人がいる方の主観的幸福度の平均点をみると、「北部圏域」ではすべての状況において市全域を上回っています。また、「東部圏域」「南部圏域」では「心配事や愚痴を聞いてあげる人がいる」「病気の時に看病や世話をしてくれる人がいる」において市全域を上回っています。

図 4.18 たすけあいの状況と平均幸福度

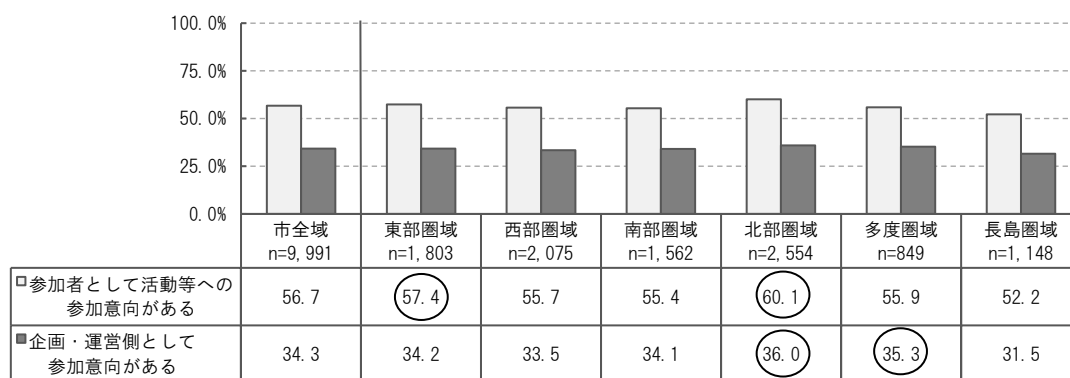


(注)上記の点数は加重平均により算出しています。

※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

○地域づくりに対する参加意向をみると、「北部圏域」では「参加者として活動等への参加意向がある」「企画・運営側として参加意向がある」いずれも、市平均を上回っています。

図 4.19 地域づくりに対する参加意向



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

4 健康行動指標の状況について

(1) 高齢者の健康感や幸福度

① 主観的健康感

○主観的健康感をみると、市全域では「まあよい」(70.5%)が最も多く、次いで「あまりよくない」(14.5%)、「とてもよい」(11.3%)となり、圏域別でも同様の傾向となっています。

○また、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』割合について地域差を圏域別にみると、「多度圏域」(18.6%)が最も高く、「西部圏域」(15.8%)が最も低く、地域差は2.8ポイントとなっています。

図 4.20 主観的健康感

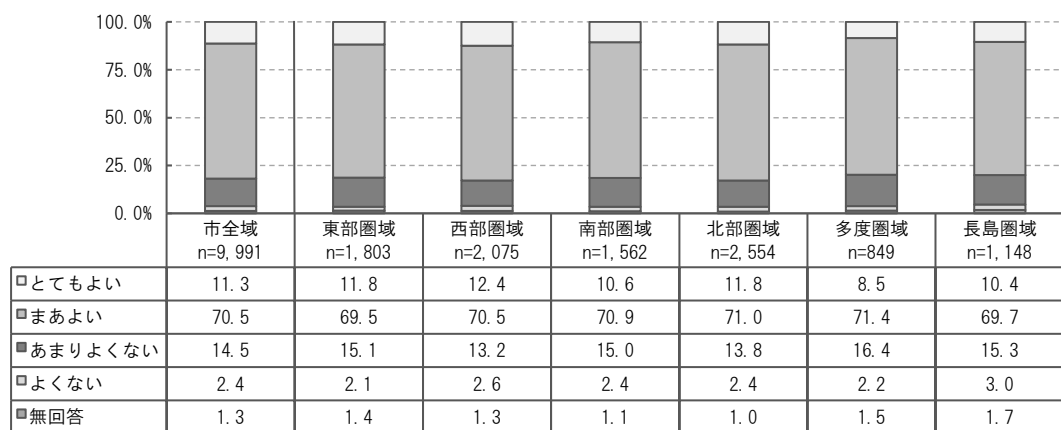
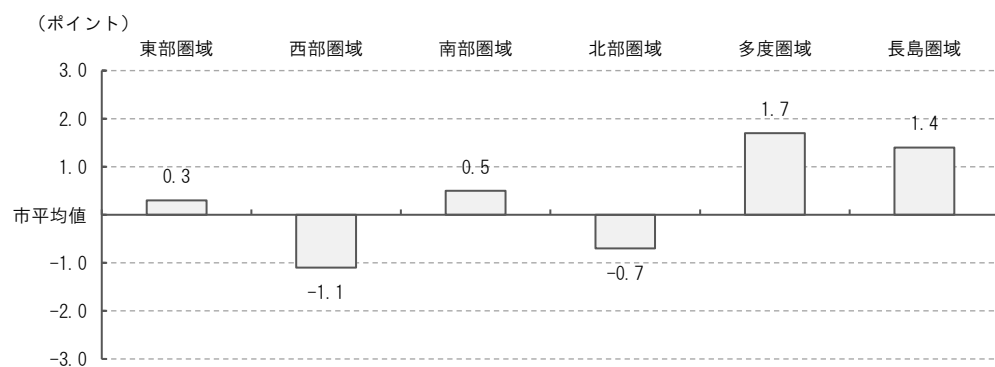


図 4.21 主観的健康感（「あまりよくない」＋「よくない」）の地域差



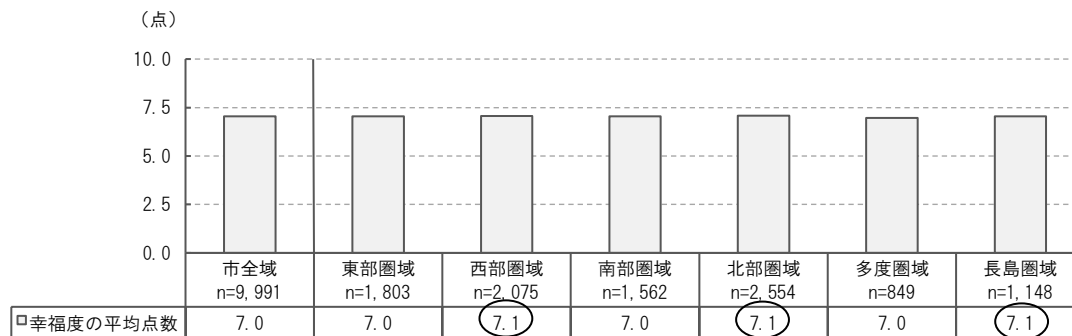
※市全域の出現率を市平均値(0.0)として地域差を算出しています。

② 幸福度の点数

○幸福度の平均点数をみると、市全域では7.0点となっています。

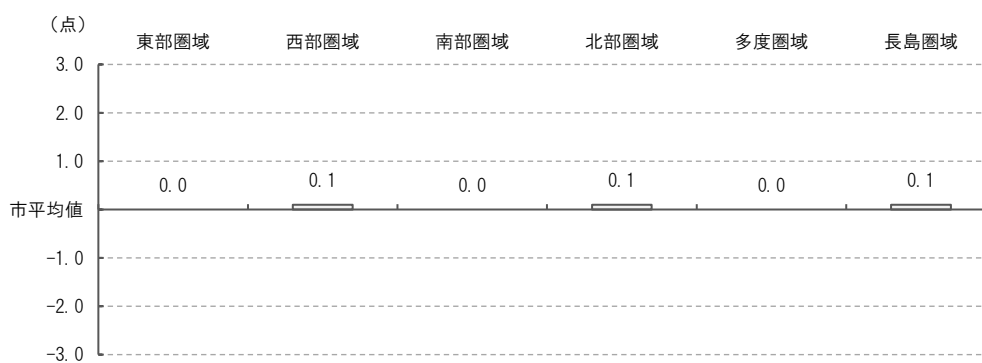
○圏域別にみると、地域差はごくわずかです。

図4.22 幸福度の点数（平均点数）



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

図 4.23 幸福度の平均点数の地域差

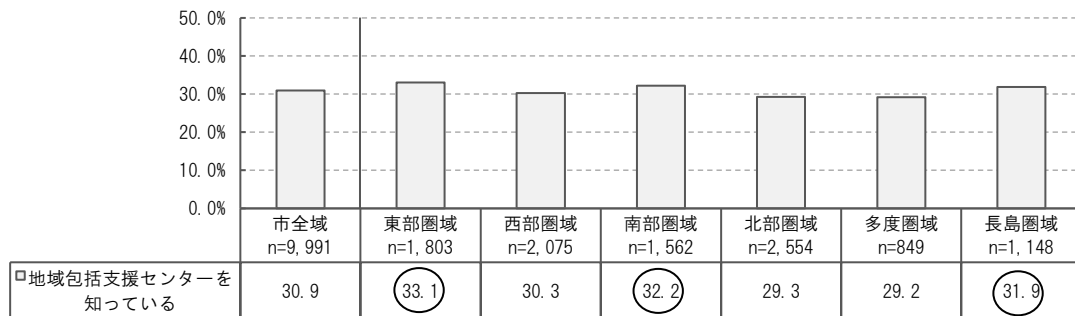


※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

5 地域包括ケアシステムについて

○地域包括支援センターの認知状況をみると、全ての圏域で認知度は約3割にとどまっています。

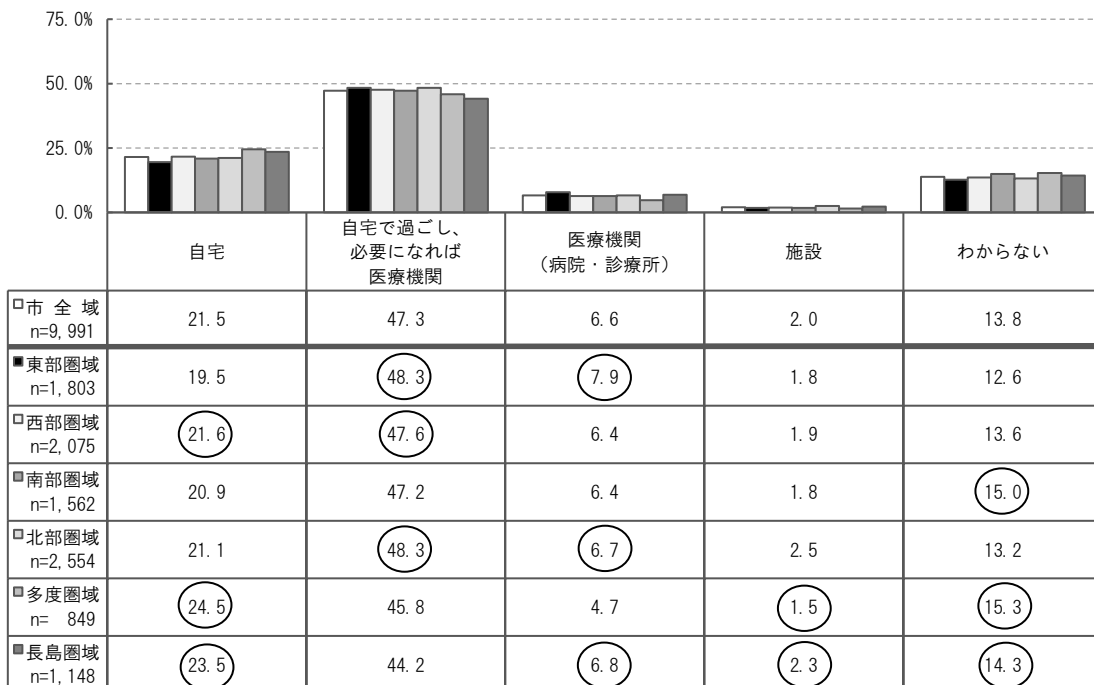
図 4.26 地域包括支援センターの認知状況



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

○人生の最期を迎える場所の希望について地域差を圏域別にみると、「自宅」は「西部圏域」「多度圏域」「長島圏域」、「自宅で過ごし、必要になれば医療機関」は「東部圏域」「西部圏域」「北部圏域」、「医療機関（病院・診療所）」は「東部圏域」「北部圏域」「長島圏域」、「施設」は「多度圏域」「長島圏域」が市平均より高くなっています。

図 4.27 人生の最期を迎える場所の希望

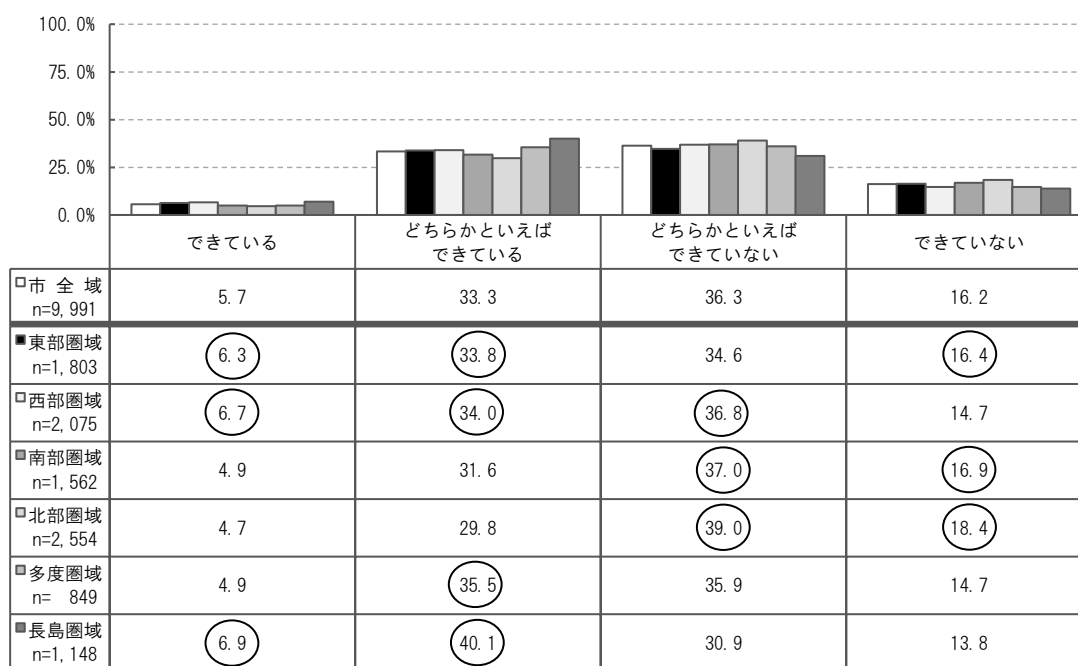


※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

○高齢者や子どもを見守る「仕組みづくり」への評価では、「できている+どちらかといえ
ばできている」の割合が最も高い圏域は「長島圏域」、「どちらかといえ
ばできていない+できていない」の割合が最も高い圏域は「北部圏域」となっています。

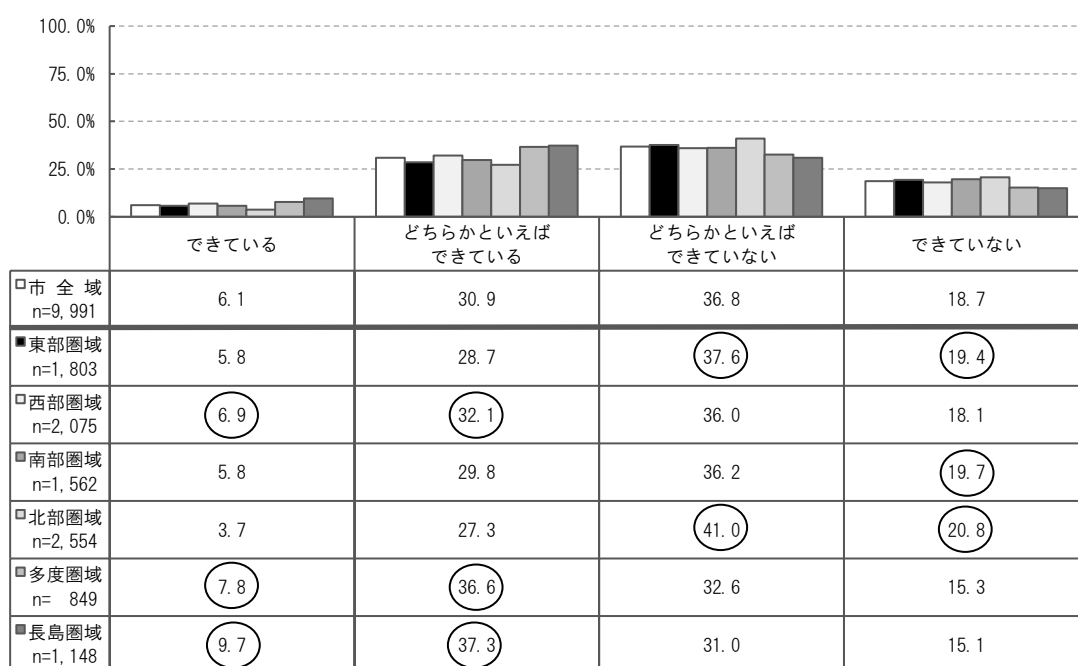
○住民同士が交流する「場づくり」への評価では、「できている+どちらかといえ
ばできている」の割合が最も高い圏域は「長島圏域」、「どちらかといえ
ばできていない+できていない」の割合が最も高い圏域は「北部圏域」となっています。

図 4.28 「仕組みづくり」への評価



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

図 4.29 「場づくり」への評価



※市全域を上回っている圏域の出現率を○で囲んでいます。

第5章

地区別の分析結果

第5章 地区別の分析結果

地区別に分析を行うにあたり、地区特性を把握するための「地域カルテ」を地区別（小学校区別）に作成しました。「地域カルテ」には調査結果から割合や指数を一覧にまとめた表を配置し、市全域の平均値との比較から地域の強みや弱み（課題）等の分析を行いました。

また、圏域を構成する各小学校区の「地域カルテ」の取りまとめを行い、圏域の地域特性把握に努めました。



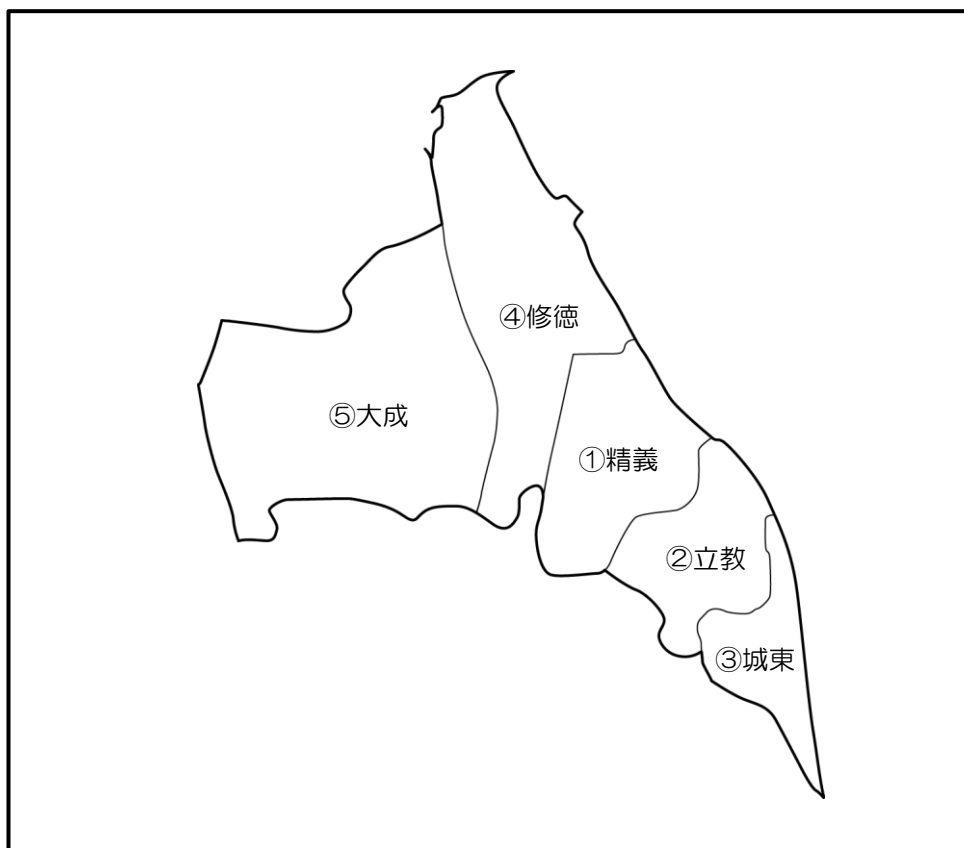
圏域名	地区名				
東部圏域	精義	立教	城東	修徳	大成
西部圏域	桑部	在良	七和	久米	
南部圏域	日進	益世	城南		
北部圏域	深谷	大和	大山田		
多度圏域	多度				
長島圏域	長島北部	長島中部	伊曽島		

1 「東部圏域」

■ 地域特性

- ①桑名駅などを含む中心市街地です。国道1号線が縦断する形で走っており、交通の利便性は高い地域です。
- ②東には長良川と揖斐川が流れ、川沿いのエリアには桑名城跡、神社、庭園などを配しています。
- ③高齢化率は3割未満ですが、生活支援事業対象者の割合が高く、高齢者福祉サービスの必要性の高い地域といえます。

■東部圏域内小学校区の位置図



No.	地区名	小学校名
①	精義地区	精義小学校
②	立教地区	立教小学校
③	城東地区	城東小学校
④	修徳地区	修徳小学校
⑤	大成地区	大成小学校

■ 地区分析の結果

- ①「東部圏域」の人口は 25,204 人、そのうち高齢者は 6,997 人、高齢化率は 27.8%（6圏域中4位）となっています。
- ②調査結果から判定した高齢者像別にみると、「介護予防事業対象者」（65.8%）は市全域との格差指数はマイナスとなる一方で、「生活支援事業対象者」（45.3%）、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」（16.1%）は市全域との格差指数はプラスとなっています。特に「生活支援事業対象者」の割合は市内で1番高い状況です。
- ③リスク指標でみると、「低栄養リスク者」（1.6%）、「口腔機能低下リスク者」（18.4%）、「閉じこもりリスク者」（18.7%）、「物忘れリスク者」（38.7%）は市内5位となっていますが、「運動器機能低下リスク者」（12.8%）、「うつリスク者」（40.6%）は市内2位となっています。

指標等項目	数値	市全域	
		格差指数	順位
1 基礎データ			
人 口	25,204 人	—	3/6 位
高齢者数	6,997 人	—	3/6 位
高齢化率	27.8%	1.2	4/6 位
2 高齢者像構成（割合）			
元気高齢者	4.6%	0.0	3/6 位
一般高齢者	27.3%	1.4	2/6 位
介護予防事業対象者	65.8%	-1.0	5/6 位
生活支援事業対象者	45.3%	1.9	1/6 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	16.1%	0.3	3/6 位
3 リスク指標の状況（割合）			
運動器機能低下リスク者	12.8%	1.5	2/6 位
低栄養リスク者	1.6%	-0.2	5/6 位
口腔機能低下リスク者	18.4%	0.3	5/6 位
閉じこもりリスク者	18.7%	-1.4	5/6 位
物忘れリスク者	38.7%	-1.0	5/6 位
うつリスク者	40.6%	1.0	2/6 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）			
I A D L 低下者	5.9%	0.2	4/6 位
知的能動性低下者	15.9%	-0.1	4/6 位
社会的役割低下者	36.9%	1.4	1/6 位

※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

(1) 地域カルテ「精義地区」

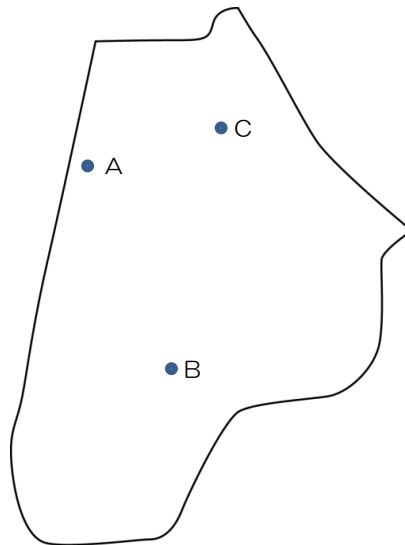
■ 地域課題

- ①人口は圏内3位、高齢者数は圏内2位となっています。高齢化率は圏内3位で、格差指数は5.3ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(69.5%)、「生活支援事業対象者」(51.5%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」(16.7%)は圏内における格差指数がプラスとなっており、特に「生活支援事業対象者」は圏内・市全域ともに1位となっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(42.3%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は1.7ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、すべての低下者の割合が圏内5位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「スポーツの会」「学習・教養サークル」「老人クラブ」「地域活動への参加意向」「地域活動(企画・運営)への参加意向」は圏内における格差指数がプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「幸福感がある者」の市全域における格差指数が0.2ポイントマイナスとなっています。

「精義地区」：精義小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	4,265 人	—	3/5 位	—	14/19 位
高齢者数	1,413 人	—	2/5 位	—	13/19 位
高齢化率	33.1%	5.3	3/5 位	6.5	6/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	3.8%	−0.8	4/5 位	−0.8	14/19 位
一般高齢者	23.5%	−3.8	4/5 位	−2.4	14/19 位
介護予防事業対象者	69.5%	3.7	1/5 位	2.7	6/19 位
生活支援事業対象者	51.5%	6.2	1/5 位	8.1	1/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	16.7%	0.6	2/5 位	0.9	9/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	12.1%	−0.7	4/5 位	0.8	10/19 位
低栄養リスク者	2.4%	0.8	1/5 位	0.6	4/19 位
口腔機能低下リスク者	17.5%	−0.9	3/5 位	−0.6	14/19 位
閉じこもりリスク者	19.9%	1.2	2/5 位	−0.2	13/19 位
物忘れリスク者	41.0%	2.3	3/5 位	1.3	9/19 位
うつリスク者	42.3%	1.7	1/5 位	2.7	2/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
ⅠＡＤＬ低下者	4.3%	−1.6	5/5 位	−1.4	18/19 位
知的能動性低下者	14.6%	−1.3	5/5 位	−1.4	16/19 位
社会的役割低下者	34.2%	−2.7	5/5 位	−1.3	17/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	3.5%	-1.0	4/5 位	-2.3	18/19 位
スポーツの会	18.3%	1.1	2/5 位	0.7	4/19 位
趣味の会	18.9%	-0.3	3/5 位	0.0	8/19 位
学習・教養サークル	6.7%	0.2	2/5 位	0.6	5/19 位
介護予防のための通いの場	1.6%	-0.5	4/5 位	-1.0	17/19 位
老人クラブ	1.9%	0.3	2/5 位	-0.2	8/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.0%	-0.4	5/5 位	-0.3	13/19 位
地域活動への参加意向	61.7%	4.3	1/5 位	5.0	2/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	37.7%	3.5	1/5 位	3.4	1/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	82.5%	1.2	2/5 位	0.7	5/19 位
幸福感がある者	42.3%	-1.3	4/5 位	-0.2	9/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	41.8%	1.6	2/5 位	2.8	6/19 位
「場づくり」ができていると思う	42.0%	7.5	1/5 位	5.0	5/19 位

■精義地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	精和クラブ	旧精義幼稚園	歌とマジック、音楽療法、講演、教室、健康相談、介護予防
B	このゆびと〜まれ	グランドメゾン桑名 壱番館	コーヒーとお菓子で雑談。折り紙や手芸、映画鑑賞、写真展
C	笑いヨガ	総合福祉会館	第1・3 木曜はヨガ。
	東部太極拳		第2・4 木曜は笑いヨガ 陽名時太極拳
	さんあい薬局	寺町商店街	健康相談・栄養相談・お薬相談・その他
	桑名病院		健康相談・栄養・その他

(2) 地域カルテ「立教地区」

■ 地域課題

- ①人口・高齢者数ともに圏内4位となっていますが、高齢化率は圏内1位で、格差指数は7.8ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(68.7%)、「生活支援事業対象者」(46.0%)となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が2.9ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が0.7ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク者」(44.7%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は6.0ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「社会的役割低下者」の割合は圏内・市全域いずれも1位となっています。
- ⑤社会関連性指標でみると、「スポーツの会」「老人クラブ」「地域活動への参加意向」は圏内における格差指数がマイナスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」の市全域における格差指数が1.8ポイントマイナスとなっています。

「立教地区」:立教小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	3,430 人	—	4/5 位	—	16/19 位
高齢者数	1,220 人	—	4/5 位	—	15/19 位
高齢化率	35.6%	7.8	1/5 位	9.0	3/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	3.3%	-1.3	5/5 位	-1.3	17/19 位
一般高齢者	25.7%	-1.6	3/5 位	-0.2	8/19 位
介護予防事業対象者	68.7%	2.9	2/5 位	1.9	9/19 位
生活支援事業対象者	46.0%	0.7	2/5 位	2.6	5/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	15.3%	-0.8	4/5 位	-0.5	14/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	15.0%	2.2	1/5 位	3.7	2/19 位
低栄養リスク者	1.0%	-0.6	5/5 位	-0.8	19/19 位
口腔機能低下リスク者	20.7%	2.3	2/5 位	2.6	5/19 位
閉じこもりリスク者	17.0%	-1.7	4/5 位	-3.1	16/19 位
物忘れリスク者	44.7%	6.0	1/5 位	5.0	2/19 位
うつリスク者	41.7%	1.1	2/5 位	2.1	4/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
ⅠADL低下者	7.0%	1.1	2/5 位	1.3	5/19 位
知的能動性低下者	16.0%	0.1	3/5 位	0.0	13/19 位
社会的役割低下者	39.0%	2.1	1/5 位	3.5	1/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	4.7%	0.2	2/5 位	-1.1	11/19 位
スポーツの会	13.7%	-3.5	4/5 位	-3.9	10/19 位
趣味の会	21.3%	2.1	1/5 位	2.4	4/19 位
学習・教養サークル	6.7%	0.2	3/5 位	0.6	6/19 位
介護予防のための通いの場	3.0%	0.9	1/5 位	0.4	6/19 位
老人クラブ	1.0%	-0.6	4/5 位	-1.1	16/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.7%	0.3	2/5 位	0.4	8/19 位
地域活動への参加意向	57.0%	-0.4	3/5 位	0.3	5/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	35.7%	1.5	2/5 位	1.4	5/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	80.0%	-1.3	5/5 位	-1.8	14/19 位
幸福感がある者	46.0%	2.4	2/5 位	3.5	3/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	41.0%	0.8	3/5 位	2.0	7/19 位
「場づくり」ができていると思う	34.7%	0.2	3/5 位	-2.3	13/19 位

■立教地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	パソコン倶楽部	東部包括	パソコンの操作方法。エクセル・ワード・インターネットなどパソコンの知識向上
	パソコンマニア		インターネットを中心に知識向上
	唄クラブ		
	サロンうちぼり	森栄病院	どうぶつしょうぎ、ゴムバンド体操、太極拳、紙であそぼう
B	ラフタークラブ 2525	三之丸集会所	ラフターヨガ、笑いヨガ
	いこいの日		将棋、囲碁、折り紙、手芸、茶話会など
C	なかよし会(健康ケア)	DS いがまち	健康相談、運動、口腔機能向上、栄養改善、認知症予防、その他

(3) 地域カルテ「城東地区」

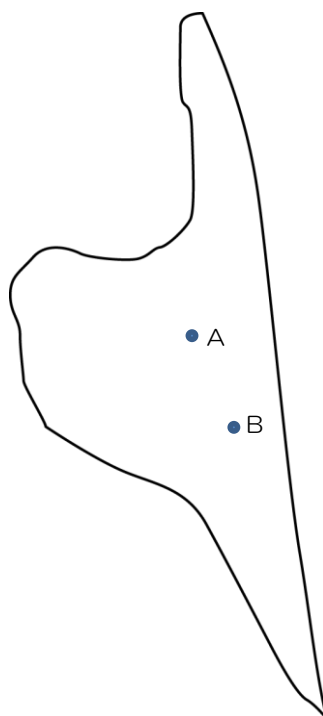
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数ともに圏内5位ですが、高齢化率は圏内2位で、格差指数は5.7ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「元気高齢者」(5.7%)は圏内1位、市全域3位となっています。
「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」(19.1%)の圏内における格差指数は3.0ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク者」(42.7%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は4.0ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「IADL 低下者」の割合は圏内・市全域いずれも1位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「老人クラブ」「特技や経験を他者に伝える活動」のみ圏内における格差指数がプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「幸福感がある者」は圏内1位、市全域2位となっています。

「城東地区」:城東小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	2,006 人	—	5/5 位	—	19/19 位
高齢者数	672 人	—	5/5 位	—	19/19 位
高齢化率	33.5%	5.7	2/5 位	6.9	5/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	5.7%	1.1	1/5 位	1.1	3/19 位
一般高齢者	22.3%	-5.0	5/5 位	-3.6	15/19 位
介護予防事業対象者	68.2%	2.4	3/5 位	1.4	12/19 位
生活支援事業対象者	45.9%	0.6	3/5 位	2.5	6/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	19.1%	3.0	1/5 位	3.3	2/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	12.7%	-0.1	3/5 位	1.4	8/19 位
低栄養リスク者	1.9%	0.3	2/5 位	0.1	6/19 位
口腔機能低下リスク者	24.2%	5.8	1/5 位	6.1	1/19 位
閉じこもりリスク者	23.6%	4.9	1/5 位	3.5	6/19 位
物忘れリスク者	42.7%	4.0	2/5 位	3.0	5/19 位
うつリスク者	38.2%	-2.4	5/5 位	-1.4	14/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	10.2%	4.3	1/5 位	4.5	1/19 位
知的能動性低下者	19.1%	3.2	1/5 位	3.1	5/19 位
社会的役割低下者	35.7%	-1.2	4/5 位	0.2	12/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	3.2%	-1.3	5/5 位	-2.6	19/19 位
スポーツの会	7.6%	-9.6	5/5 位	-10.0	19/19 位
趣味の会	12.7%	-6.5	5/5 位	-6.2	17/19 位
学習・教養サークル	3.8%	-2.7	5/5 位	-2.3	18/19 位
介護予防のための通いの場	0.0%	-2.1	5/5 位	-2.6	19/19 位
老人クラブ	3.8%	2.2	1/5 位	1.7	2/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	4.5%	1.1	1/5 位	1.2	4/19 位
地域活動への参加意向	49.0%	-8.4	5/5 位	-7.7	18/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	29.9%	-4.3	5/5 位	-4.4	19/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	82.8%	1.5	1/5 位	1.0	4/19 位
幸福感がある者	46.5%	2.9	1/5 位	4.0	2/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	47.8%	7.6	1/5 位	8.8	2/19 位
「場づくり」ができていると思う	42.0%	7.5	2/5 位	5.0	6/19 位

■城東地区 通いの場 】



	名称	場所	内容
A	元ッター	個人宅	茶話会、体操 等
B	地藏元気クラブ	地藏集会所	桑名いきいき体操、茶話会 等

(4) 地域カルテ「修徳地区」

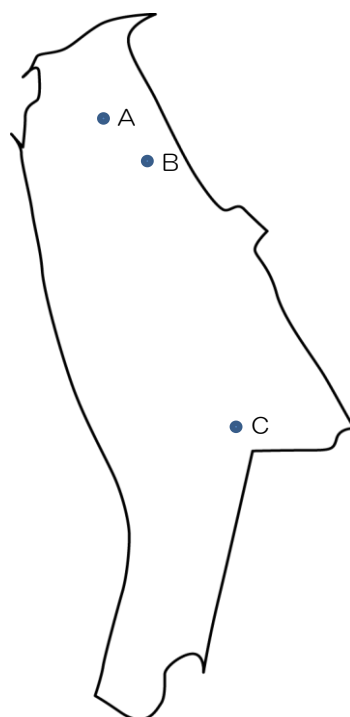
■ 地域課題

- ①人口は圏内2位、高齢者数は圏内3位となっています。高齢化率は圏内5位で、格差指数は6.6ポイントマイナスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(61.4%)、「生活支援事業対象者」(40.9%)となっており、両者の圏内における格差指数はどちらも4.4ポイントマイナスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(39.5%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は1.1ポイントマイナスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「知的能動性低下者」が圏内2位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「スポーツの会」「介護予防のための通いの場」の圏内における格差指数はプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「幸福感がある者」は圏内における格差指数がマイナスとなっています。

「修徳地区」:修徳小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	6,393 人	—	2/5 位	—	10/19 位
高齢者数	1,355 人	—	3/5 位	—	14/19 位
高齢化率	21.2%	-6.6	5/5 位	-5.4	18/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	5.2%	0.6	2/5 位	0.6	5/19 位
一般高齢者	32.0%	4.7	1/5 位	6.1	1/19 位
介護予防事業対象者	61.4%	-4.4	5/5 位	-5.4	19/19 位
生活支援事業対象者	40.9%	-4.4	5/5 位	-2.5	18/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	15.3%	-0.8	5/5 位	-0.5	15/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	13.5%	0.7	2/5 位	2.2	5/19 位
低栄養リスク者	1.4%	-0.2	3/5 位	-0.4	12/19 位
口腔機能低下リスク者	17.3%	-1.1	4/5 位	-0.8	15/19 位
閉じこもりリスク者	16.1%	-2.6	5/5 位	-4.0	18/19 位
物忘れリスク者	35.2%	-3.5	5/5 位	-4.5	18/19 位
うつリスク者	39.5%	-1.1	4/5 位	-0.1	12/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	5.2%	-0.7	4/5 位	-0.5	17/19 位
知的能動性低下者	16.1%	0.2	2/5 位	0.1	11/19 位
社会的役割低下者	37.2%	0.3	3/5 位	1.7	6/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	4.3%	-0.2	3/5 位	-1.5	14/19 位
スポーツの会	17.9%	0.7	3/5 位	0.3	5/19 位
趣味の会	18.2%	-1.0	4/5 位	-0.7	9/19 位
学習・教養サークル	5.8%	-0.7	4/5 位	-0.3	11/19 位
介護予防のための通いの場	2.9%	0.8	2/5 位	0.3	8/19 位
老人クラブ	0.3%	-1.3	5/5 位	-1.8	19/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.2%	-0.2	4/5 位	-0.1	11/19 位
地域活動への参加意向	53.9%	-3.5	4/5 位	-2.8	12/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	32.3%	-1.9	4/5 位	-2.0	10/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	81.6%	0.3	3/5 位	-0.2	11/19 位
幸福感がある者	42.1%	-1.5	5/5 位	-0.4	11/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	34.3%	-5.9	5/5 位	-4.7	17/19 位
「場づくり」ができていると思う	25.4%	-9.1	5/5 位	-11.6	19/19 位

■修徳地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	夢かふえ	Dream station	レクリエーション、エステ、茶話会等
B	朋	福栄寺	レクリエーション・ヨガ・茶話会等
C	サロン諸戸	諸戸アイサン住宅	折り紙、いきいき体操、クラフト、書道、囲碁等

(5) 地域カルテ「大成地区」

■ 地域課題

- ①人口・高齢者数はともに圏内1位となっています。高齢化率は圏内4位で、格差指数は2.1ポイントマイナスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(64.2%)、「生活支援事業対象者」(43.6%)となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が1.6ポイントマイナス、「生活支援事業対象者」が1.7ポイントマイナスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(40.3%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は0.3ポイントマイナスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「知的能動性低下者」(15.6%)の割合は圏内・市全域ともに下位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、圏内における格差指数は「介護予防のための通いの場」「特技・経験を他者に伝える活動」「地域活動(企画・運営)への参加意向」以外すべてプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」の市全域における格差指数が1.1ポイントマイナスとなっています。

「大成地区」:大成小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	9,110 人	—	1/5 位	—	3/19 位
高齢者数	2,337 人	—	1/5 位	—	4/19 位
高齢化率	25.7%	-2.1	4/5 位	-0.9	15/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	5.1%	0.5	3/5 位	0.5	6/19 位
一般高齢者	29.0%	1.7	2/5 位	3.1	3/19 位
介護予防事業対象者	64.2%	-1.6	4/5 位	-2.6	16/19 位
生活支援事業対象者	43.6%	-1.7	4/5 位	0.2	10/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	15.9%	-0.2	3/5 位	0.1	12/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	11.6%	-1.2	5/5 位	0.3	12/19 位
低栄養リスク者	1.3%	-0.3	4/5 位	-0.5	15/19 位
口腔機能低下リスク者	16.9%	-1.5	5/5 位	-1.2	17/19 位
閉じこもりリスク者	19.1%	0.4	3/5 位	-1.0	14/19 位
物忘れリスク者	35.5%	-3.2	4/5 位	-4.2	17/19 位
うつリスク者	40.3%	-0.3	3/5 位	0.7	10/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
ⅠADL 低下者	5.6%	-0.3	3/5 位	-0.1	12/19 位
知的能動性低下者	15.6%	-0.3	4/5 位	-0.4	14/19 位
社会的役割低下者	37.6%	0.7	2/5 位	2.1	3/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	5.4%	0.9	1/5 位	-0.4	8/19 位
スポーツの会	20.4%	3.2	1/5 位	2.8	2/19 位
趣味の会	20.5%	1.3	2/5 位	1.6	5/19 位
学習・教養サークル	7.5%	1.0	1/5 位	1.4	2/19 位
介護予防のための通いの場	1.9%	-0.2	3/5 位	-0.7	14/19 位
老人クラブ	1.8%	0.2	3/5 位	-0.3	9/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.3%	-0.1	3/5 位	0.0	10/19 位
地域活動への参加意向	59.1%	1.7	2/5 位	2.4	3/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	33.4%	-0.8	3/5 位	-0.9	8/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	80.7%	-0.6	4/5 位	-1.1	12/19 位
幸福感がある者	43.5%	-0.1	3/5 位	1.0	7/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	40.1%	-0.1	4/5 位	1.1	11/19 位
「場づくり」ができていると思う	33.1%	-1.4	4/5 位	-3.9	15/19 位

■大成地区 通いの場



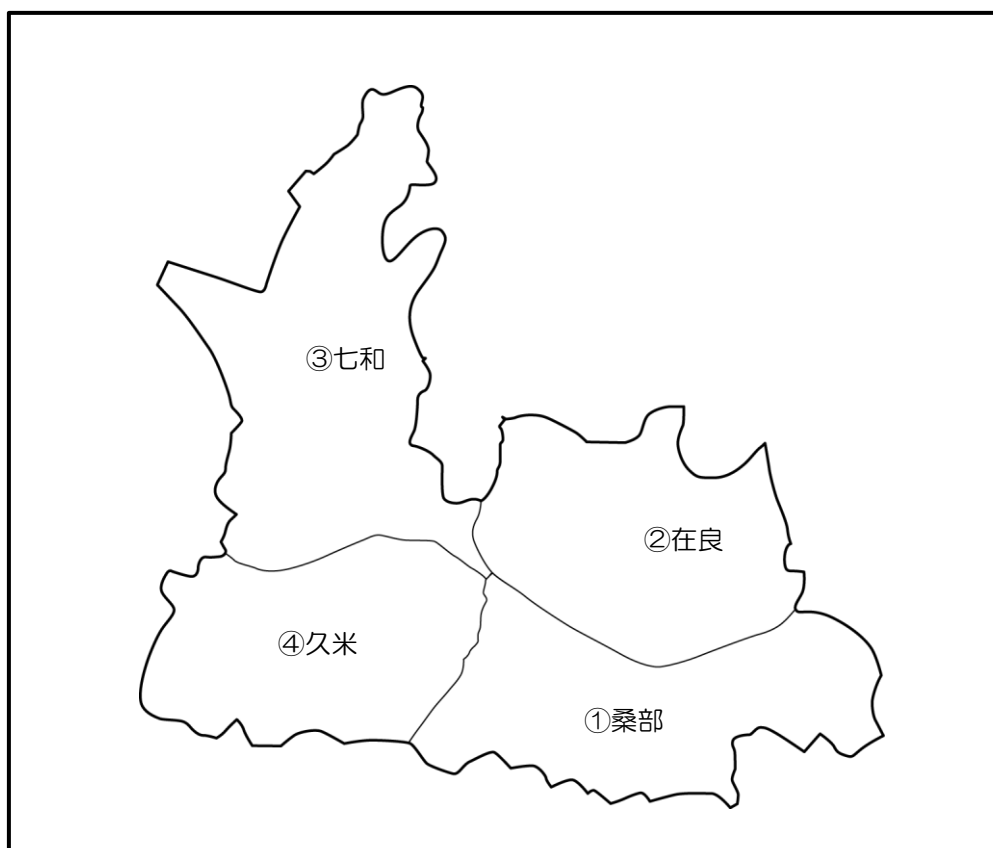
	名称	場所	内容
A	健康ケア教室 (ケアパーク和月)	ケアパーク和月	シニアヨガ・シニアエアロ
B	太極拳	北別所 健康公園	太極拳
	音楽療法・ レクリエーション		音楽療法・レクリエーション
	ラジオ体操の集い		ラジオ体操・あんきでござる体操
C	ラジオ体操の集い	青葉公園	ラジオ体操
D	門前の宿	東方 223-1	楽器演奏、音楽療法、健康の話し等
	ラジオ体操の集い	東方公園	ラジオ体操・あんきでござる体操

2 「西部圏域」

■ 地域特性

- ①旧来の集落と開発住宅地が混在しており、桑部地区・在良地区では高齢化率が比較的高く、七和地区・久米地区では低くなっています。
- ②七和地区では坂が多く、高齢者には外出しにくいいため、閉じこもりリスクの該当者が高くなっています。

■西部圏域内小学校区の位置図



No.	地区名	小学校名
①	桑部地区	桑部小学校
②	在良地区	在良小学校
③	七和地区	七和小学校
④	久米地区	久米小学校

■ 地区分析の結果

- ①「西部圏域」人口は 26,703 人、そのうち高齢者は 7,796 人、高齢化率は 29.2%（6圏域中3位）となっています。
- ②調査結果から判定した高齢者像別にみると、「元気高齢者」（5.2%）、「一般高齢者」（25.9%）、「生活支援事業対象者」（43.4%）は市全域との格差指数はプラスで、「介護予防事業対象者」（66.6%）、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」（15.3%）は市全域との格差指数はマイナスとなっています。
- ③リスク指標でみると、「低栄養リスク者」（1.9%）「閉じこもりリスク者」（21.1%）が市内3位となっており、市全域との格差指数はプラスとなっています。

指標等項目	数値	市全域	
		格差指数	順位
1 基礎データ			
人 口	26,703 人	—	2/6 位
高齢者数	7,796 人	—	2/6 位
高齢化率	29.2%	2.6	3/6 位
2 高齢者像構成（割合）			
元気高齢者	5.2%	0.6	2/6 位
一般高齢者	25.9%	0.0	3/6 位
介護予防事業対象者	66.6%	-0.2	4/6 位
生活支援事業対象者	43.4%	0.0	4/6 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	15.3%	-0.5	5/6 位
3 リスク指標の状況（割合）			
運動器機能低下リスク者	10.2%	-1.1	5/6 位
低栄養リスク者	1.9%	0.1	3/6 位
口腔機能低下リスク者	18.4%	0.3	4/6 位
閉じこもりリスク者	21.1%	1.0	3/6 位
物忘れリスク者	38.2%	-1.5	6/6 位
うつリスク者	38.4%	-1.2	6/6 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）			
I A D L 低下者	5.8%	0.1	5/6 位
知的能動性低下者	15.0%	-1.0	5/6 位
社会的役割低下者	34.4%	-1.1	5/6 位

※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

(1) 地域カルテ「桑部地区」

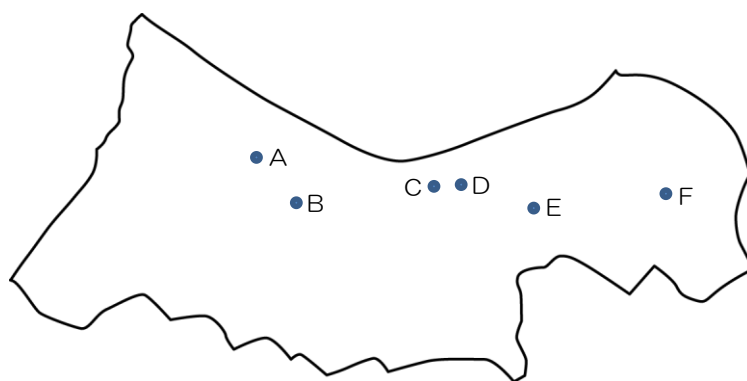
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数は圏内4位となっています。高齢化率は圏内2位で、格差指数は 2.1 ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(68.4%)、「生活支援事業対象者」(44.8%) となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が 1.8 ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が 1.4 ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク者」(41.4%) が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は 3.2 ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「I ADL 低下者」のみ圏内・市全域における格差指数がマイナスとなっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「学習・教養サークル」「介護予防のための通いの場」のみ 圏内・市全域における格差指数がプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」「幸福感がある者」とともに圏内における格差指数がマイナスとなっています。

「桑部地区」:桑部小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	5,004 人	—	4/4 位	—	12/19 位
高齢者数	1,565 人	—	4/4 位	—	12/19 位
高齢化率	31.3%	2.1	2/4 位	4.7	8/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	5.6%	0.4	2/4 位	1.0	4/19 位
一般高齢者	24.6%	-1.3	3/4 位	-1.3	10/19 位
介護予防事業対象者	68.4%	1.8	2/4 位	1.6	10/19 位
生活支援事業対象者	44.8%	1.4	2/4 位	1.4	9/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	13.6%	-1.7	4/4 位	-2.2	18/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	10.2%	0.0	3/4 位	-1.1	17/19 位
低栄養リスク者	1.7%	-0.2	2/4 位	-0.1	8/19 位
口腔機能低下リスク者	20.7%	2.3	1/4 位	2.6	4/19 位
閉じこもりリスク者	23.8%	2.7	1/4 位	3.7	5/19 位
物忘れリスク者	41.4%	3.2	1/4 位	1.7	8/19 位
うつリスク者	37.5%	-0.9	3/4 位	-2.1	17/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	5.4%	-0.4	4/4 位	-0.3	16/19 位
知的能動性低下者	17.8%	2.8	1/4 位	1.8	7/19 位
社会的役割低下者	36.3%	1.9	1/4 位	0.8	8/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者合					
ボランティアのグループ	4.6%	-0.9	3/4 位	-1.2	12/19 位
スポーツの会	11.7%	-4.3	4/4 位	-5.9	15/19 位
趣味の会	11.4%	-6.7	4/4 位	-7.5	19/19 位
学習・教養サークル	6.6%	0.5	2/4 位	0.5	7/19 位
介護予防のための通いの場	3.2%	0.0	3/4 位	0.6	5/19 位
老人クラブ	0.7%	-0.8	4/4 位	-1.4	18/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	1.7%	-2.1	4/4 位	-1.6	17/19 位
地域活動への参加意向	52.1%	-3.6	4/4 位	-4.6	16/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	31.1%	-2.4	4/4 位	-3.2	16/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	82.0%	-0.9	4/4 位	0.2	10/19 位
幸福感がある者	38.4%	-4.4	4/4 位	-4.1	16/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	46.0%	5.3	1/4 位	7.0	5/19 位
「場づくり」ができていると思う	41.8%	2.8	1/4 位	4.8	7/19 位

■桑部地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	能部通いの場	能部公民館	地域住民の交流と健康増進
B	囲碁・将棋同好会	正和台集会所	囲碁・将棋
	正和台集会所 通いの場		地域住民の交流と健康増進
C	桑部地区宅老所 桑の実	桑部 830-23	介護予防教室、音楽療法、みんなで歌う童謡、マジック講座、世代間交流、邦楽鑑賞会、朗読会、健康相談（保健師）
D	桑和会 健康クラブ	桑部まちづくり拠点施設	桑名いきいき体操
E	健康・ケア教室 いきいきサロン	やすらぎデイサービス	介護予防教室、音楽療法、みんなで歌う童謡、マジック講座、世代間交流、邦楽鑑賞会、朗読会、健康相談（保健師）
F	かざみどり	デイサービス いこい	健康体操や作り物など

(2) 地域カルテ「在良地区」

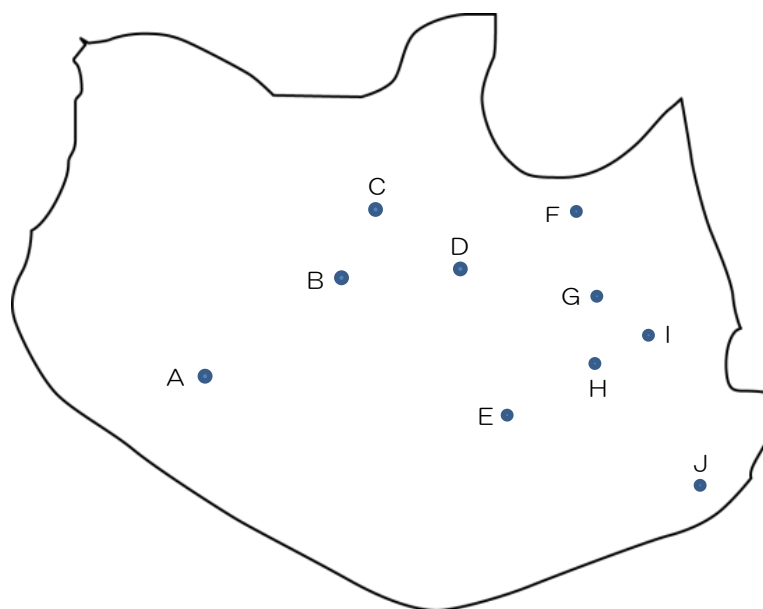
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数・高齢化率いずれも圏内1位で、高齢化率の格差指数は4.3ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(65.7%)、「生活支援事業対象者」(41.7%)、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」(15.1%)となっており、圏内・市全域における格差指数はいずれもマイナスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク」(38.4%)が6リスク中最も高いですが、市全域における格差指数は1.2ポイントマイナスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、市全域で14位～18位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「スポーツの会」「老人クラブ」「特技・経験を他者に伝える活動」では圏内における格差指数がマイナスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」「幸福感のある者」の圏内・市全域における格差指数はいずれもプラスとなっています。

「在良地区」:在良小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	8,247 人	—	1/4 位	—	5/19 位
高齢者数	2,763 人	—	1/4 位	—	3/19 位
高齢化率	33.5%	4.3	1/4 位	6.9	4/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	4.2%	-1.0	4/4 位	-0.4	11/19 位
一般高齢者	27.6%	1.7	1/4 位	1.7	4/19 位
介護予防事業対象者	65.7%	-0.9	3/4 位	-1.1	14/19 位
生活支援事業対象者	41.7%	-1.7	4/4 位	-1.7	14/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	15.1%	-0.2	2/4 位	-0.7	16/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	9.4%	-0.8	4/4 位	-1.9	18/19 位
低栄養リスク者	2.5%	0.6	1/4 位	0.7	2/19 位
口腔機能低下リスク者	17.2%	-1.2	3/4 位	-0.9	16/19 位
閉じこもりリスク者	20.5%	-0.6	3/4 位	0.4	12/19 位
物忘れリスク者	37.3%	-0.9	3/4 位	-2.4	16/19 位
うつリスク者	38.4%	0.0	2/4 位	-1.2	13/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	5.4%	-0.4	3/4 位	-0.3	15/19 位
知的能動性低下者	11.9%	-3.1	4/4 位	-4.1	18/19 位
社会的役割低下者	35.0%	0.6	2/4 位	-0.5	14/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	7.0%	1.5	1/4 位	1.2	4/19 位
スポーツの会	15.9%	-0.1	3/4 位	-1.7	8/19 位
趣味の会	23.6%	5.5	1/4 位	4.7	2/19 位
学習・教養サークル	7.3%	1.2	1/4 位	1.2	4/19 位
介護予防のための通いの場	3.6%	0.4	1/4 位	1.0	3/19 位
老人クラブ	1.2%	-0.3	3/4 位	-0.9	14/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.7%	-0.1	3/4 位	0.4	7/19 位
地域活動への参加意向	56.1%	0.4	3/4 位	-0.6	8/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	33.9%	0.4	2/4 位	-0.4	7/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	83.6%	0.7	1/4 位	1.8	2/19 位
幸福感がある者	45.6%	2.8	1/4 位	3.1	4/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	40.2%	-0.5	2/4 位	1.2	10/19 位
「場づくり」ができていると思う	41.2%	2.2	2/4 位	4.2	8/19 位

■在良地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	額田なかよしクラブ	額田神社参集殿	茶話会
	額田いきいきサロン		くわないいきいき体操
B	桑名福祉センター 健康・ケア教室	桑名福祉センター	健康相談、いきいきコンサート、 おしゃべり喫茶、体操、笑いヨガ等
C	蓮住趣味の会	蓮花寺住宅集会所	手芸や和菓子作り
D	サロン蓮花寺	泊山会館	健康体操、茶話会
E	さくら(宅老所)	蓮花寺 168-1	音楽療法、地域包括の話、 マジックと話芸、ハーモニカ、ギター演奏、 お話宅急便、手芸、血圧測定、健康相談
F	希望ヶ丘生き生きサロン	希望ヶ丘センター	健康体操等
G	サロン西別所	八幡社	いきいき体操
H	サロンなごみ	フィールドストーン集会所	健康体操、茶話会
I	歌おう会	照林寺	唱歌、仏教賛歌、茶話会、ヨガ
J	稗田シルバーサロン	薬師堂	桑名いきいき体操、吹き矢など

(3) 地域カルテ「七和地区」

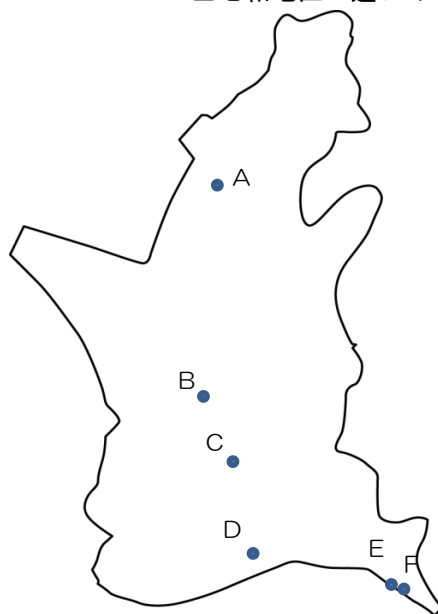
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数は圏内2位となっています。高齢化率は圏内3位で、格差指数は 2.3 ポイントマイナスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(69.2%)、「生活支援事業対象者」(45.5%) となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が 2.6 ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が 2.1 ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(40.4%) が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は 2.0 ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「知的能動性低下者」の圏内・市全域における格差指数はいずれもプラスとなっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「ボランティアのグループ」「学習・教養サークル」「介護予防のための通いの場」の圏内における格差指数はマイナスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」は市全域で3位となっています。

「七和地区」:七和小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	6,900 人	—	2/4 位	—	8/19 位
高齢者数	1,855 人	—	2/4 位	—	8/19 位
高齢化率	26.9%	-2.3	3/4 位	0.3	14/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	4.4%	-0.8	3/4 位	-0.2	9/19 位
一般高齢者	24.2%	-1.7	4/4 位	-1.7	12/19 位
介護予防事業対象者	69.2%	2.6	1/4 位	2.4	8/19 位
生活支援事業対象者	45.5%	2.1	1/4 位	2.1	7/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	14.4%	-0.9	3/4 位	-1.4	17/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	10.4%	0.2	2/4 位	-0.9	16/19 位
低栄養リスク者	1.3%	-0.6	4/4 位	-0.5	14/19 位
口腔機能低下リスク者	16.9%	-1.5	4/4 位	-1.2	18/19 位
閉じこもりリスク者	19.1%	-2.0	4/4 位	-1.0	15/19 位
物忘れリスク者	39.9%	1.7	2/4 位	0.2	12/19 位
うつリスク者	40.4%	2.0	1/4 位	0.8	9/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
ⅠADL 低下者	5.5%	-0.3	2/4 位	-0.2	14/19 位
知的能動性低下者	16.6%	1.6	2/4 位	0.6	9/19 位
社会的役割低下者	31.5%	-2.9	4/4 位	-4.0	19/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	4.2%	-1.3	4/4 位	-1.6	15/19 位
スポーツの会	18.6%	2.6	1/4 位	1.0	3/19 位
趣味の会	19.1%	1.0	2/4 位	0.2	7/19 位
学習・教養サークル	5.1%	-1.0	3/4 位	-1.0	13/19 位
介護予防のための通いの場	2.7%	-0.5	4/4 位	0.1	9/19 位
老人クラブ	1.6%	0.1	2/4 位	-0.5	10/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	4.7%	0.9	2/4 位	1.4	3/19 位
地域活動への参加意向	57.0%	1.3	1/4 位	0.3	6/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	36.8%	3.3	1/4 位	2.5	4/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	82.9%	0.0	2/4 位	1.1	3/19 位
幸福感がある者	39.5%	-3.3	3/4 位	-3.0	14/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	39.7%	-1.0	3/4 位	0.7	13/19 位
「場づくり」ができていると思う	33.9%	-5.1	4/4 位	-3.1	14/19 位

■七和地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	和みの会	嘉例川集会所	茶話会・体操等
B	七和のつどい	七和まちづくり拠点施設	桑名いきいき体操等
C	サロン睦美	睦美ヶ丘集会所	茶話会、手芸等
D	あかりの森	森忠集会所	茶話会、健康体操、外部講師等
E	坂井橋クリニック 健康ケア教室	坂井橋クリニック	健康相談、運動、口腔、栄養、認知、 その他
F	フラワー薬局 健康ケア教室	フラワー薬局	健康相談・お薬相談等

(4) 地域カルテ「久米地区」

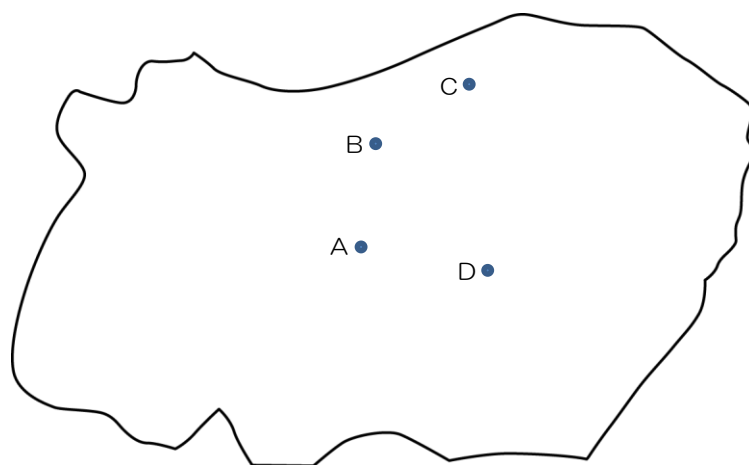
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数ともに圏内3位となっています。高齢化率は圏内4位で、格差指数は4.6ポイントマイナスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「元気高齢者」(7.0%)は市全域で1位となっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(37.1%)が6リスク中最も高くなっていますが、圏内における格差指数は1.3ポイントマイナスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「I ADL 低下者」(7.0%)の圏内・市全域における格差指数はいずれもプラスとなっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「趣味の会」「学習・教養サークル」「地域活動(企画・運営)への参加意向」は市全域で14~15位となっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「幸福感がある者」の圏内・市全域における格差指数はプラスとなっています。

「久米地区」:久米小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	6,552 人	—	3/4 位	—	9/19 位
高齢者数	1,613 人	—	3/4 位	—	11/19 位
高齢化率	24.6%	-4.6	4/4 位	-2.0	16/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	7.0%	1.8	1/4 位	2.4	1/19 位
一般高齢者	25.9%	0.0	2/4 位	0.0	7/19 位
介護予防事業対象者	64.0%	-2.6	4/4 位	-2.8	17/19 位
生活支援事業対象者	42.8%	-0.6	3/4 位	-0.6	11/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	18.2%	2.9	1/4 位	2.4	5/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	11.4%	1.2	1/4 位	0.1	14/19 位
低栄養リスク者	1.5%	-0.4	3/4 位	-0.3	10/19 位
口腔機能低下リスク者	19.7%	1.3	2/4 位	1.6	7/19 位
閉じこもりリスク者	21.5%	0.4	2/4 位	1.4	9/19 位
物忘れリスク者	35.1%	-3.1	4/4 位	-4.6	19/19 位
うつリスク者	37.1%	-1.3	4/4 位	-2.5	18/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	7.0%	1.2	1/4 位	1.3	4/19 位
知的能動性低下者	16.0%	1.0	3/4 位	0.0	12/19 位
社会的役割低下者	34.4%	0.0	3/4 位	-1.1	16/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	5.3%	-0.2	2/4 位	-0.5	9/19 位
スポーツの会	17.5%	1.5	2/4 位	-0.1	6/19 位
趣味の会	14.0%	-4.1	3/4 位	-4.9	14/19 位
学習・教養サークル	4.8%	-1.3	4/4 位	-1.3	15/19 位
介護予防のための通いの場	3.3%	0.1	2/4 位	0.7	4/19 位
老人クラブ	2.6%	1.1	1/4 位	0.5	5/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	4.8%	1.0	1/4 位	1.5	2/19 位
地域活動への参加意向	56.8%	1.1	2/4 位	0.1	7/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	31.6%	-1.9	3/4 位	-2.7	15/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	82.5%	-0.4	3/4 位	0.7	6/19 位
幸福感がある者	45.4%	2.6	2/4 位	2.9	5/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	37.7%	-3.0	4/4 位	-1.3	14/19 位
「場づくり」ができていると思う	37.7%	-1.3	3/4 位	0.7	10/19 位

■久米地区 通いの場



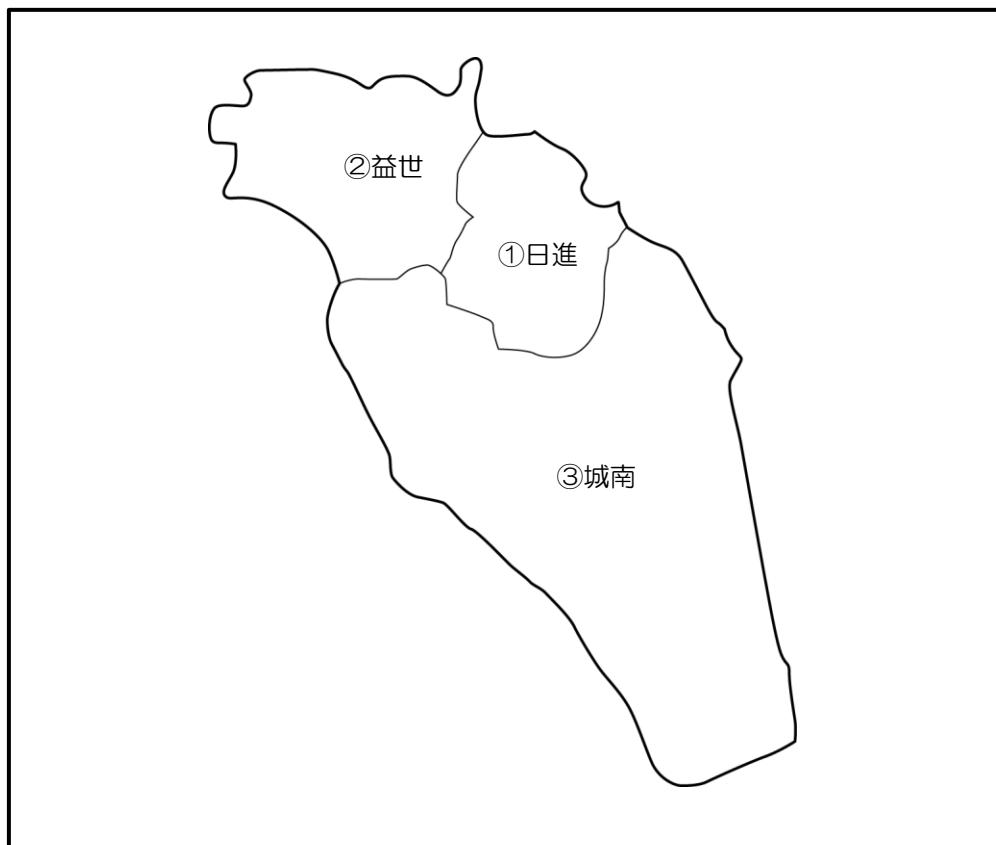
	名称	場所	内容
A	久米地区宅老所 げんき	島田 572 学童げんき横	介護予防教室、音楽療法、健康体操等
B	シルバーサロン友	グリーンハウス友	昼食会と簡単なレクリエーション
C	坂井 結いの会	坂井集会所	茶話会など
D	茶の華会	赤尾台集会所	いきいき体操

3 「南部圏域」

■ 地域特性

- ①日進地区・益世地区は市役所などを含む中心市街地のため南部生活圏域内では比較的高齢化率が高くなっています。
- ②城南地区は農業・漁業従事者が多く、地域のつながりを比較的強く待っています。

■南部圏域内小学校区の位置図



No.	地区名	小学校名
①	日進地区	日進小学校
②	益世地区	益世小学校
③	城南地区	城南小学校

■ 地区分析の結果

- ①「南部圏域」の人口は 22,357 人、そのうち高齢者は 5,973 人、高齢化率は 26.7%（6 圏域中 5 位）となっています。
- ②調査結果から判定した高齢者像別にみると、「元気高齢者」（4.2%）、「一般高齢者」（25.3%）は市全域との格差指数はマイナスで、「介護予防事業対象者」（68.1%）、「生活支援事業対象者」（44.3%）、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」（17.9%）は市全域との格差指数はプラスとなっています。
- ③リスク指標でみると、「低栄養リスク者」（2.1%）は市内 1 位となっています。

指標等項目	数値	市全域	
		格差指数	順位
1 基礎データ			
人 口	22,357 人	—	4/6 位
高齢者数	5,973 人	—	4/6 位
高齢化率	26.7%	0.1	5/6 位
2 高齢者像構成（割合）			
元気高齢者	4.2%	-0.4	4/6 位
一般高齢者	25.3%	-0.6	4/6 位
介護予防事業対象者	68.1%	1.3	3/6 位
生活支援事業対象者	44.3%	0.9	2/6 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	17.9%	2.1	2/6 位
3 リスク指標の状況（割合）			
運動器機能低下リスク者	12.5%	1.2	3/6 位
低栄養リスク者	2.1%	0.3	1/6 位
口腔機能低下リスク者	19.6%	1.5	2/6 位
閉じこもりリスク者	19.8%	-0.3	4/6 位
物忘れリスク者	41.3%	1.6	2/6 位
うつリスク者	40.6%	1.0	3/6 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）			
I A D L 低下者	6.4%	0.7	3/6 位
知的能動性低下者	18.8%	2.8	1/6 位
社会的役割低下者	36.7%	1.2	2/6 位

※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

(1) 地域カルテ「日進地区」

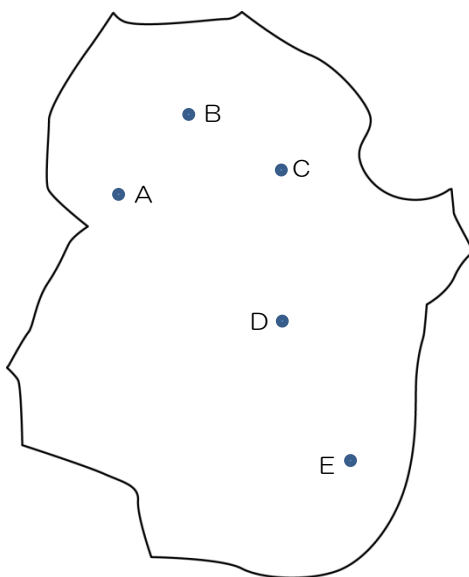
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数ともに圏内3位となっています。高齢化率は圏内2位で、格差指数は1.6ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(69.2%)、「生活支援事業対象者」(44.9%)、となっており、圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が1.1ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が0.6ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク者」(42.8%)が6リスク中最も高くなっています。また、「口腔機能低下リスク」は市全域で2位となっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「I ADL 低下者」(5.6%)は圏内・市全域における格差指数がいずれもマイナスとなっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「学習・教養サークル」「介護予防のための通いの場」の圏内における格差指数はマイナスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「幸福感がある者」の圏内・市全域における格差指数がいずれもマイナスとなっています。

「日進地区」:日進小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	5,876 人	—	3/3 位	—	11/19 位
高齢者数	1,660 人	—	3/3 位	—	9/19 位
高齢化率	28.3%	1.6	2/3 位	1.7	13/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	3.5%	-0.7	3/3 位	-1.1	15/19 位
一般高齢者	25.5%	0.2	2/3 位	-0.4	9/19 位
介護予防事業対象者	69.2%	1.1	1/3 位	2.4	7/19 位
生活支援事業対象者	44.9%	0.6	2/3 位	1.5	8/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	17.6%	-0.3	2/3 位	1.8	6/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	12.0%	-0.5	2/3 位	0.7	11/19 位
低栄養リスク者	1.4%	-0.7	3/3 位	-0.4	13/19 位
口腔機能低下リスク者	22.7%	3.1	1/3 位	4.6	2/19 位
閉じこもりリスク者	16.4%	-3.4	3/3 位	-3.7	17/19 位
物忘れリスク者	42.8%	1.5	1/3 位	3.1	4/19 位
うつリスク者	41.4%	0.8	1/3 位	1.8	5/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	5.6%	-0.8	3/3 位	-0.1	13/19 位
知的能動性低下者	19.9%	1.1	2/3 位	3.9	4/19 位
社会的役割低下者	36.8%	0.1	2/3 位	1.3	7/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	6.0%	0.4	2/3 位	0.2	7/19 位
スポーツの会	15.7%	0.8	2/3 位	-1.9	9/19 位
趣味の会	19.4%	0.1	2/3 位	0.5	6/19 位
学習・教養サークル	6.0%	-0.7	2/3 位	-0.1	10/19 位
介護予防のための通いの場	1.9%	-0.4	3/3 位	-0.7	16/19 位
老人クラブ	2.1%	0.7	1/3 位	0.0	7/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	6.3%	2.2	1/3 位	3.0	1/19 位
地域活動への参加意向	58.6%	3.2	1/3 位	1.9	4/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	37.7%	3.6	1/3 位	3.4	2/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	82.2%	0.6	1/3 位	0.4	8/19 位
幸福感がある者	41.4%	-1.0	2/3 位	-1.1	12/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	32.4%	-4.2	3/3 位	-6.6	18/19 位
「場づくり」ができていると思う	30.6%	-5.0	3/3 位	-6.4	17/19 位

■日進地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	サロン&はる	東相川町	
	はるかふえ		
B	憩いの場ともしび	桑名エピファニー教会	
C	桑名いきいき体操の会	法盛寺	
D	梅の郷	江場 252	
E	みんなの体操梅の会	日進まちづくり拠点施設	

(2) 地域カルテ「益世地区」

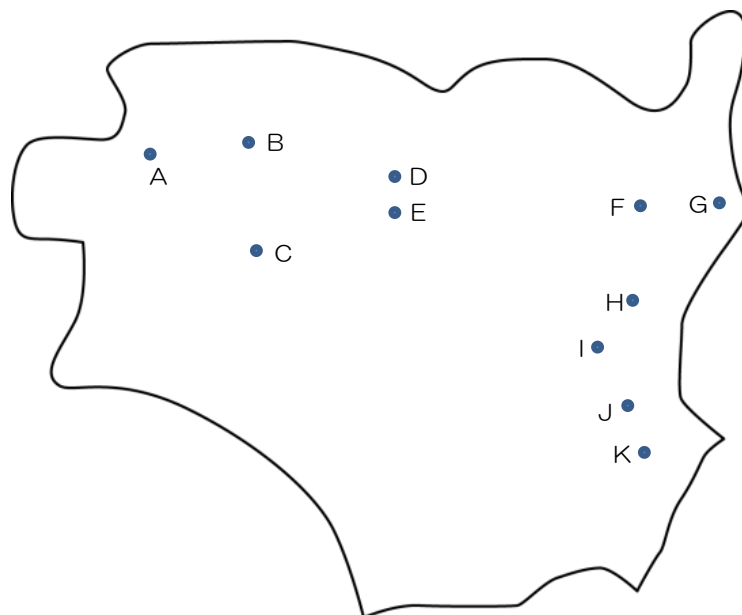
■ 地域課題

- ①人口は圏内2位、高齢者数・高齢化率ともに圏内1位となっており、高齢化率の格差指数は1.6ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(68.2%)、「生活支援事業対象者」(46.5%)となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が0.1ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が2.2ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク者」(42.6%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は1.3ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「I ADL 低下者」「知的能動性低下者」の圏内における格差指数はともにマイナスとなっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「老人クラブ」「特技や経験を他者に伝える活動」「地域活動(企画・運営)への参加意向」を除き、圏内における格差指数はプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「幸福感のある者」の割合は市全域で1位となっています。

「益世地区」:益世小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	7,905 人	—	2/3 位	—	7/19 位
高齢者数	2,239 人	—	1/3 位	—	6/19 位
高齢化率	28.3%	1.6	1/3 位	1.7	12/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	4.7%	0.5	1/3 位	0.1	7/19 位
一般高齢者	24.6%	-0.7	3/3 位	-1.3	11/19 位
介護予防事業対象者	68.2%	0.1	2/3 位	1.4	11/19 位
生活支援事業対象者	46.5%	2.2	1/3 位	3.1	4/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	19.0%	1.1	1/3 位	3.2	3/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	14.0%	1.5	1/3 位	2.7	3/19 位
低栄養リスク者	2.6%	0.5	1/3 位	0.8	1/19 位
口腔機能低下リスク者	19.0%	-0.6	2/3 位	0.9	9/19 位
閉じこもりリスク者	20.6%	0.8	2/3 位	0.5	10/19 位
物忘れリスク者	42.6%	1.3	2/3 位	2.9	6/19 位
うつリスク者	40.0%	-0.6	3/3 位	0.4	11/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	5.7%	-0.7	2/3 位	0.0	11/19 位
知的能動性低下者	14.5%	-4.3	3/3 位	-1.5	17/19 位
社会的役割低下者	37.5%	0.8	1/3 位	2.0	5/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	6.4%	0.8	1/3 位	0.6	5/19 位
スポーツの会	17.3%	2.4	1/3 位	-0.3	7/19 位
趣味の会	21.5%	2.2	1/3 位	2.6	3/19 位
学習・教養サークル	8.3%	1.6	1/3 位	2.2	1/19 位
介護予防のための通いの場	2.9%	0.6	1/3 位	0.3	7/19 位
老人クラブ	1.2%	-0.2	2/3 位	-0.9	13/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.8%	-0.3	2/3 位	0.5	5/19 位
地域活動への参加意向	56.1%	0.7	2/3 位	-0.6	10/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	33.0%	-1.1	2/3 位	-1.3	9/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	80.6%	-1.0	3/3 位	-1.2	13/19 位
幸福感がある者	47.1%	4.7	1/3 位	4.6	1/19 位
7 独自設問の状況（割合）47.1					
「仕組みづくり」ができていると思う	40.8%	4.2	1/3 位	1.8	8/19 位
「場づくり」ができていると思う	37.9%	2.3	1/3 位	0.9	9/19 位

■益世地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	さんさん移動宅老所	上野神社	
B	霞公園ラジオ体操会	霞公園	ラジオ体操
C	お稲荷さんラジオ体操の会	玉三稲荷神社	
	さんさん移動宅老所		
D	いっぽいっぽの会	日立研修センター	
E	さんさん移動宅老所	走井山会館	
F	小野山防災茶話会	益世まちづくり拠点施設	
G	さんさん宅老所	立坂神社	
H	さんさん	旧益世幼稚園	
	益々元気体操の会		
	おうちごはんの会	益世小学校	
I	きいろいおうちカフェ	新地	
J	さんさん移動宅老所	大福自治会館	
K	クオ健康クラブ	介護予防ジムクオ	

(3) 地域カルテ「城南地区」

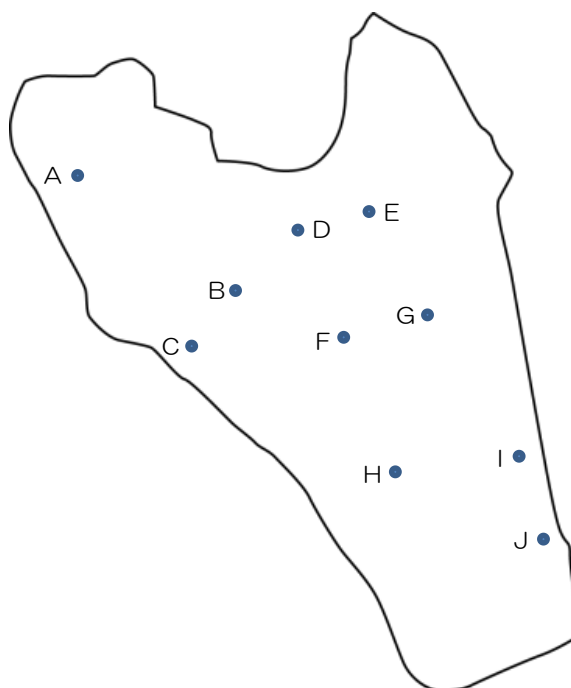
■ 地域課題

- ①人口は圏内1位、高齢者数は圏内2位となっています。高齢化率は圏内3位で、格差指数は2.5ポイントマイナスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(67.2%)、「生活支援事業対象者」(41.5%)となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が0.9ポイントマイナス、「生活支援事業対象者」が2.8ポイントマイナスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(40.6%)が6リスク中最も高くなっていますが、圏内における格差指数は0.0ポイントとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「I ADL 低下者」「知的能動性低下者」の割合は圏内1位・市全域2位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、すべての項目で圏内における格差指数がマイナスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「幸福感がある者」の圏域における格差指数が4.0ポイントマイナスとなっています。

「城南地区」:城南小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	8,576 人	—	1/3 位	—	4/19 位
高齢者数	2,074 人	—	2/3 位	—	7/19 位
高齢化率	24.2%	-2.5	3/3 位	-2.4	17/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	4.3%	0.1	2/3 位	-0.3	10/19 位
一般高齢者	25.9%	0.6	1/3 位	0.0	6/19 位
介護予防事業対象者	67.2%	-0.9	3/3 位	0.4	13/19 位
生活支援事業対象者	41.5%	-2.8	3/3 位	-1.9	15/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	17.0%	-0.9	3/3 位	1.2	7/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	11.4%	-1.1	3/3 位	0.1	13/19 位
低栄養リスク者	2.2%	0.1	2/3 位	0.4	5/19 位
口腔機能低下リスク者	17.8%	-1.8	3/3 位	-0.3	11/19 位
閉じこもりリスク者	21.6%	1.8	1/3 位	1.5	8/19 位
物忘れリスク者	38.8%	-2.5	3/3 位	-0.9	13/19 位
うつリスク者	40.6%	0.0	2/3 位	1.0	7/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	7.8%	1.4	1/3 位	2.1	2/19 位
知的能動性低下者	22.5%	3.7	1/3 位	6.5	2/19 位
社会的役割低下者	35.7%	-1.0	3/3 位	0.2	11/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	4.5%	-1.1	3/3 位	-1.3	13/19 位
スポーツの会	11.6%	-3.3	3/3 位	-6.0	16/19 位
趣味の会	17.0%	-2.3	3/3 位	-1.9	10/19 位
学習・教養サークル	5.4%	-1.3	3/3 位	-0.7	12/19 位
介護予防のための通いの場	2.0%	-0.3	2/3 位	-0.6	13/19 位
老人クラブ	1.1%	-0.3	3/3 位	-1.0	15/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	2.7%	-1.4	3/3 位	-0.6	15/19 位
地域活動への参加意向	52.4%	-3.0	3/3 位	-4.3	15/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	32.2%	-1.9	3/3 位	-2.1	11/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	82.1%	0.5	2/3 位	0.3	9/19 位
幸福感がある者	38.4%	-4.0	3/3 位	-4.1	17/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	35.3%	-1.3	2/3 位	-3.7	15/19 位
「場づくり」ができていると思う	37.1%	1.5	2/3 位	0.1	12/19 位

■城南地区 通いの場



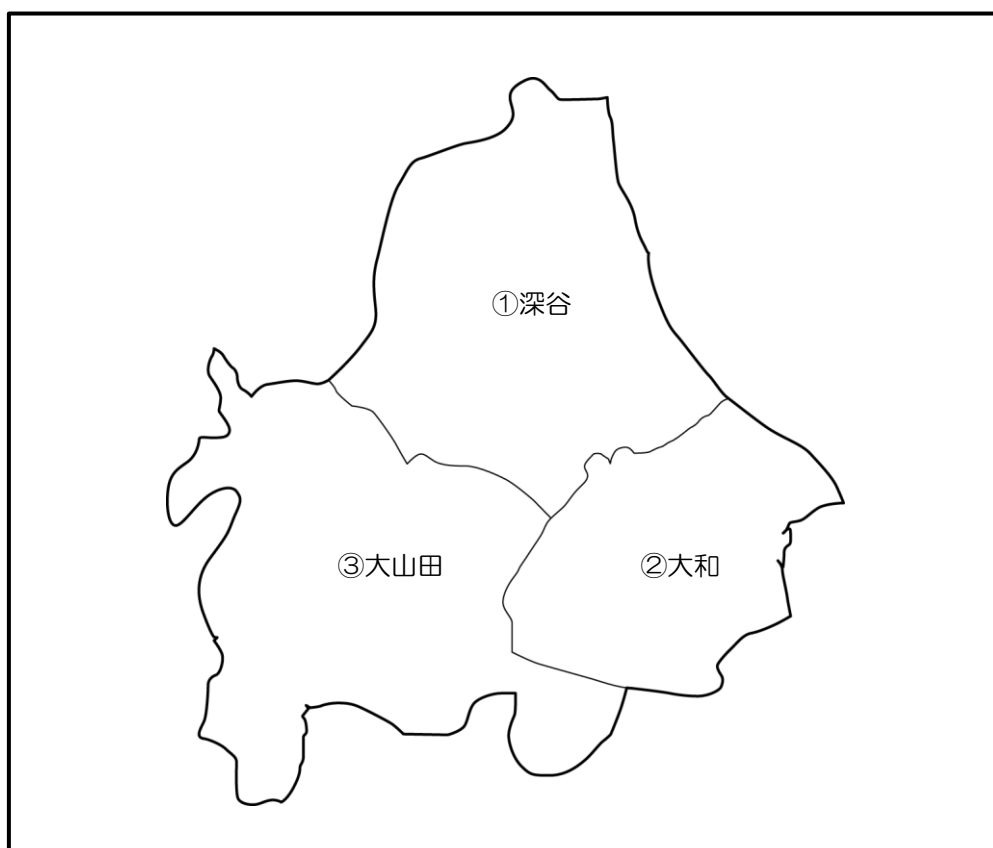
	名称	場所	内容
A	安永ふれあいカフェ	安永文化会館	
B	よはな健康倶楽部	ヨハナ産婦人科小児科 病院	
C	サロンそよかぜ	和泉 48	
D	介護予防デイサービス プラスナビ	江場	
E	いきいきラジオ体操	小貝須第一公園	
	小貝須柳原いきいき café	小貝須柳原3丁目集会所	
	小貝須柳原いきいきREC		
F	リフレッシュ体操の会	つながりセンター(旧城南 まちづくり拠点施設)	
	つながりサロン		
G	小貝須浜ふれあいサロン	小貝須浜集会所	
H	かいすコーヒー	大貝須	
I	立田町サロン	立田町集会所	
J	太平町サロン	太平町集会所	

4 「北部圏域」

■ 地域特性

- ①北部圏域は人口・高齢者数ともに6圏域中最も多い圏域で、高齢化率は6圏域中6位と最も低くなっています。「元気高齢者」「一般高齢者」の割合は6圏域中1位となっています。
- ②深谷地区は高齢化率が市全域において最も高く、「主観的健康感が良い者」の割合が19地区中最も低くなっています。
- ③大山田地区は高齢化率が市全域において最も低く、「主観的健康感が良い者」の割合が19地区中最も高くなっています。

■北部圏域内小学校区の位置図



No.	地区名	小学校名
①	深谷地区	深谷小学校
②	大和地区	大和小学校
③	大山田地区	大山田東小学校、大山田北小学校、 大山田西小学校、大山田南小学校、 藤が丘小学校、星見ヶ丘小学校

■ 地区分析の結果

- ①「北部圏域」の人口は41,846人、そのうち高齢者は9,236人、高齢化率は22.1%（6圏域中6位）となっています。
- ②調査結果から判定した高齢者像別にみると、「元気高齢者」（5.5%）、「一般高齢者」（27.8%）、「生活支援事業対象者」（43.7%）は市全域との格差指数がプラスであり、「介護予防事業対象者」（64.0%）、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」（13.5%）は市全域との格差指数がマイナスとなっています。
- ③リスク指標でみると、「運動器機能低下リスク者」（9.0%）「口腔機能低下リスク者」（15.9%）「閉じこもりリスク者」（17.5%）は市内6位となっており、すべての項目で市全域との格差指数がマイナスとなっています。

指標等項目	数値	市全域	
		格差指数	順位
1 基礎データ			
人 口	41,846 人	—	1/6 位
高齢者数	9,236 人	—	1/6 位
高齢化率	22.1%	-4.5	6/6 位
2 高齢者像構成（割合）			
元気高齢者	5.5%	0.9	1/6 位
一般高齢者	27.8%	1.9	1/6 位
介護予防事業対象者	64.0%	-2.8	6/6 位
生活支援事業対象者	43.7%	0.3	3/6 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	13.5%	-2.3	6/6 位
3 リスク指標の状況（割合）			
運動器機能低下リスク者	9.0%	-2.3	6/6 位
低栄養リスク者	1.6%	-0.2	4/6 位
口腔機能低下リスク者	15.9%	-2.2	6/6 位
閉じこもりリスク者	17.5%	-2.6	6/6 位
物忘れリスク者	39.1%	-0.6	4/6 位
うつリスク者	39.2%	-0.4	4/6 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）			
I A D L 低下者	4.2%	-1.5	6/6 位
知的能動性低下者	13.9%	-2.1	6/6 位
社会的役割低下者	35.3%	-0.2	4/6 位

※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

(1) 地域カルテ「深谷地区」

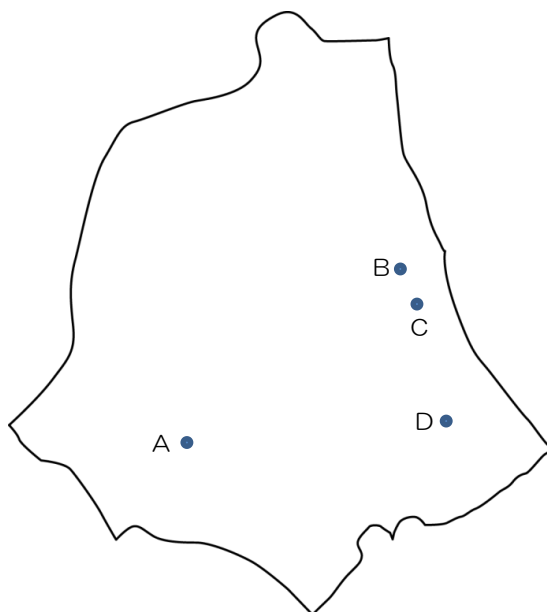
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数ともに圏内2位となっています。高齢化率は圏内1位で、格差指数は16.1ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(71.8%)、「生活支援事業対象者」(49.2%)となっており、圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が7.8ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が5.5ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク」(44.7%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は5.6ポイントプラスとなっており、全ての項目で圏内1位となっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「知的能動性低下者」の割合は圏内・市全域ともに1位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「介護予防のための通いの場」「老人クラブ」を除いて、圏内における格差指数はすべてマイナスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」「幸福感がある者」の割合は市全域19・18位となっています。

「深谷地区」:深谷小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	4,290 人	—	2/3 位	—	13/19 位
高齢者数	1,639 人	—	2/3 位	—	10/19 位
高齢化率	38.2%	16.1	1/3 位	11.6	1/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	3.9%	-1.6	2/3 位	-0.7	13/19 位
一般高齢者	20.3%	-7.5	3/3 位	-5.6	19/19 位
介護予防事業対象者	71.8%	7.8	1/3 位	5.0	1/19 位
生活支援事業対象者	49.2%	5.5	1/3 位	5.8	2/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	18.7%	5.2	1/3 位	2.9	4/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	15.5%	6.5	1/3 位	4.2	1/19 位
低栄養リスク者	1.8%	0.2	1/3 位	0.0	7/19 位
口腔機能低下リスク者	21.8%	5.9	1/3 位	3.7	3/19 位
閉じこもりリスク者	27.9%	10.4	1/3 位	7.8	1/19 位
物忘れリスク者	44.7%	5.6	1/3 位	5.0	1/19 位
うつリスク者	42.9%	3.7	1/3 位	3.3	1/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
ⅠADL低下者	6.3%	2.1	2/3 位	0.6	9/19 位
知的能動性低下者	24.5%	10.6	1/3 位	8.5	1/19 位
社会的役割低下者	38.4%	3.1	1/3 位	2.9	2/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	3.7%	-3.0	3/3 位	-2.1	17/19 位
スポーツの会	9.5%	-15.3	3/3 位	-8.1	18/19 位
趣味の会	12.1%	-10.1	3/3 位	-6.8	18/19 位
学習・教養サークル	2.9%	-3.0	3/3 位	-3.2	19/19 位
介護予防のための通いの場	2.6%	0.9	1/3 位	0.0	11/19 位
老人クラブ	2.1%	0.7	1/3 位	0.0	6/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	0.8%	-2.4	3/3 位	-2.5	19/19 位
地域活動への参加意向	50.5%	-9.6	3/3 位	-6.2	17/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	32.1%	-3.9	2/3 位	-2.2	12/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	76.6%	-6.2	3/3 位	-5.2	19/19 位
幸福感がある者	37.9%	-5.2	2/3 位	-4.6	18/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	30.3%	-4.1	3/3 位	-8.7	19/19 位
「場づくり」ができていると思う	27.9%	-3.1	3/3 位	-9.1	18/19 位

■深谷地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	ふれ愛ふかや	深江会館(神社)	通いの場
B	各種サークル	北部老人福祉センター	カラオケ、絵手紙、グランドゴルフ、手芸、パソコン、書道
	講座		茶道華道、太極拳、パソコン、書道
C	健康ケア教室		
D	サロンひまわり	桜木町集会所	通いの場

(2) 地域カルテ「大和地区」

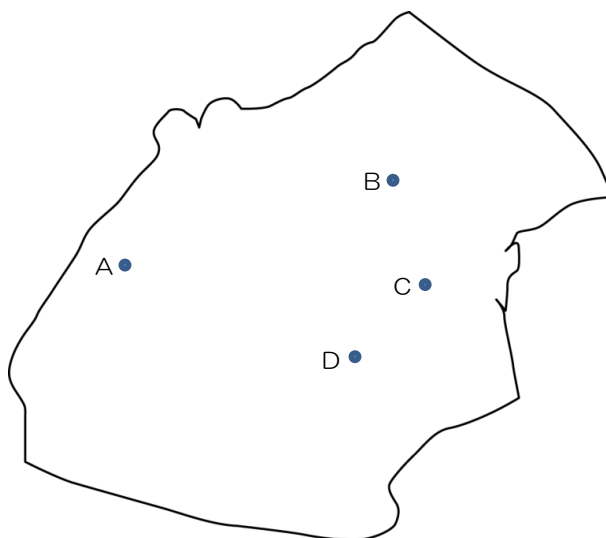
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数ともに圏内3位となっています。高齢化率は圏内2位で、格差指数は10.2ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(64.4%)、「生活支援事業対象者」(47.7%)となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が0.4ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が4.0ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(42.3%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は3.1ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、それぞれ市全域で7～9位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「介護予防のための通いの場」「特技や経験を他者に伝える活動」で圏内における格差指数がプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、市全域で18、19位となっています。

「大和地区」:大和小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	2,837 人	—	3/3 位	—	17/19 位
高齢者数	916 人	—	3/3 位	—	18/19 位
高齢化率	32.3%	10.2	2/3 位	5.7	7/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	3.3%	-2.2	3/3 位	-1.3	16/19 位
一般高齢者	26.8%	-1.0	2/3 位	0.9	5/19 位
介護予防事業対象者	64.4%	0.4	2/3 位	-2.4	15/19 位
生活支援事業対象者	47.7%	4.0	2/3 位	4.3	3/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	16.7%	3.2	2/3 位	0.9	8/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	13.0%	4.0	2/3 位	1.7	7/19 位
低栄養リスク者	1.3%	-0.3	3/3 位	-0.5	16/19 位
口腔機能低下リスク者	19.2%	3.3	2/3 位	1.1	8/19 位
閉じこもりリスク者	20.5%	3.0	2/3 位	0.4	11/19 位
物忘れリスク者	40.6%	1.5	2/3 位	0.9	10/19 位
うつリスク者	42.3%	3.1	2/3 位	2.7	3/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	6.7%	2.5	1/3 位	1.0	7/19 位
知的能動性低下者	17.2%	3.3	2/3 位	1.2	8/19 位
社会的役割低下者	36.0%	0.7	2/3 位	0.5	9/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	3.8%	-2.9	2/3 位	-2.0	16/19 位
スポーツの会	13.4%	-11.4	2/3 位	-4.2	11/19 位
趣味の会	15.9%	-6.3	2/3 位	-3.0	12/19 位
学習・教養サークル	5.0%	-0.9	2/3 位	-1.1	14/19 位
介護予防のための通いの場	2.5%	0.8	2/3 位	-0.1	12/19 位
老人クラブ	1.3%	-0.1	3/3 位	-0.8	12/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.3%	0.1	2/3 位	0.0	9/19 位
地域活動への参加意向	56.1%	-4.0	2/3 位	-0.6	9/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	31.0%	-5.0	3/3 位	-3.3	17/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	77.4%	-5.4	2/3 位	-4.4	18/19 位
幸福感がある者	37.7%	-5.4	3/3 位	-4.8	19/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	39.7%	5.3	1/3 位	0.7	12/19 位
「場づくり」ができていると思う	37.2%	6.2	1/3 位	0.2	11/19 位

■大和地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	お年寄りのつどい	蛸塚会館	移動宅老所
B	東汰上元気の会	東汰上神明社	桑名いきいき体操
C	ふるさとの里	ふるさとの里	健康ケア教室
D	竹の和	東方 2413-1	シルバーサロン

(3) 地域カルテ「大山田地区」

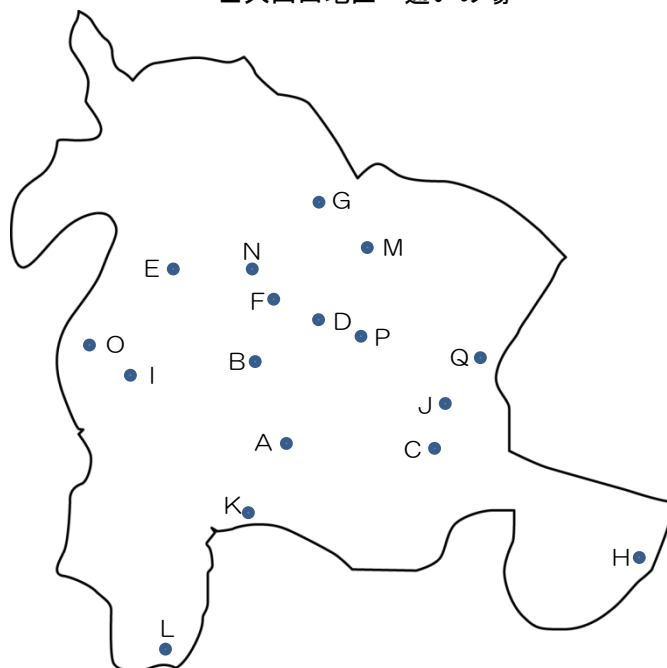
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数ともに圏内1位となっています。高齢化率は圏内3位で、格差指数は2.9ポイントマイナスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(62.4%)、「生活支援事業対象者」(42.1%)となっており、両者の圏内における格差指数はそれぞれ1.6ポイントマイナスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(38.1%)が6リスク中最も高くなっていますが、圏内における格差指数は1.1ポイントマイナスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「IADL低下者」「知的能動性低下者」の割合は圏域3位・市全域19位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「介護予防のための通いの場」「老人クラブ」以外の圏内における格差指数はすべてプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」の割合は圏内・市全域ともに1位となっています。

「大山田地区」:大山田東小学校、大山田北小学校、大山田西小学校、 大山田南小学校、藤が丘小学校、星見ヶ丘小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	34,719 人	—	1/3 位	—	1/19 位
高齢者数	6,681 人	—	1/3 位	—	1/19 位
高齢化率	19.2%	-2.9	3/3 位	-7.4	19/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	6.0%	0.5	1/3 位	1.4	2/19 位
一般高齢者	29.4%	1.6	1/3 位	3.5	2/19 位
介護予防事業対象者	62.4%	-1.6	3/3 位	-4.4	18/19 位
生活支援事業対象者	42.1%	-1.6	3/3 位	-1.3	13/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	12.1%	-1.4	3/3 位	-3.7	19/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	7.3%	-1.7	3/3 位	-4.0	19/19 位
低栄養リスク者	1.7%	0.1	2/3 位	-0.1	9/19 位
口腔機能低下リスク者	14.3%	-1.6	3/3 位	-3.8	19/19 位
閉じこもりリスク者	15.1%	-2.4	3/3 位	-5.0	19/19 位
物忘れリスク者	37.8%	-1.3	3/3 位	-1.9	15/19 位
うつリスク者	38.1%	-1.1	3/3 位	-1.5	15/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	3.5%	-0.7	3/3 位	-2.2	19/19 位
知的能動性低下者	11.4%	-2.5	3/3 位	-4.6	19/19 位
社会的役割低下者	34.6%	-0.7	3/3 位	-0.9	15/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	7.6%	0.9	1/3 位	1.8	2/19 位
スポーツの会	29.3%	4.5	1/3 位	11.7	1/19 位
趣味の会	25.0%	2.8	1/3 位	6.1	1/19 位
学習・教養サークル	6.6%	0.7	1/3 位	0.5	8/19 位
介護予防のための通いの場	1.4%	-0.3	3/3 位	-1.2	18/19 位
老人クラブ	1.3%	-0.1	2/3 位	-0.8	11/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.7%	0.5	1/3 位	0.4	6/19 位
地域活動への参加意向	62.5%	2.4	1/3 位	5.8	1/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	37.4%	1.4	1/3 位	3.1	3/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	84.7%	1.9	1/3 位	2.9	1/19 位
幸福感がある者	44.9%	1.8	1/3 位	2.4	6/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	34.6%	0.2	2/3 位	-4.4	16/19 位
「場づくり」ができていると思う	30.9%	-0.1	2/3 位	-6.1	16/19 位

■大山田地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	松ノ木ふれあいサロン	大山田南学童保育所	茶話会
B	いきいき体操グループ	大山田第三広場	桑名いきいき体操
C	ふじの会	藤が丘デザイン公園 管理棟	茶話会、介護予防講座等
D	宅老所 筒の和	大山田東小敷地内	レク、作品作り、カラオケ、囲碁、音楽、介護 予防講座等
E	シルバーサロン 元気の宿	大山田北小敷地内	レク、音楽療法、カラオケ、朗読会、体操、介 護予防講座等
F	わくわくフレンズ 憩いのひろば	大山田 2 丁目内民家	茶話会、健康・食・介護等の学習・調理等。 その他子ども食堂を第二、四木曜実施
G	にこにこ健康太極拳	ぽかぽか	太極拳 講習会
H	CT会	新西方コミュニティ	茶話会
	いきいき体操会		太極拳
	歴史探訪		歴史勉強、外出
	新西方囲碁・将棋		囲碁 将棋
	新西方麻雀		麻雀
I	笑和の会	野田 2 丁目 7 番集会所	茶話会、脳トレ、介護予防等のお話
J	ももふれあい保健室 (健康・ケア教室)	ナーシングホームもも	健康相談
K	長寿苑カフェ (健康・ケア教室)	長寿苑	健康体操、レク、介護相談、昼食 ※昼食は 希望者のみ、数量限定要予約、送迎要相談
L	健康・ケア教室	リハビリデイサービス よなは second	健康相談、運動、介護予防講座等
M	虹の会 (健康・ケア教室)	ケアステーション 陽だまり	音楽に合わせた健康体操、昼食、会話交流 会等 ※送迎要相談
	やまばとの会 (健康ケア・教室)		認知症予防(歌、紙芝居、手遊び等) ※送迎 要相談
	フラワー会 (健康ケア・教室)		①外食ツアー②茶話会 ※②のみの参加可 能、送迎要相談
N	健康・ケア教室	ガーデン 大山田	体操、作品作り、歌、茶話会等
O	健康・ケア ラボ (健康・ケア教室)	デイサービスぬくもりラボ	茶話会、運動、健康相談(マッサージ)等 ※定員あり、事前申し込み必要、送迎あり
P	筒尾地区健康体操会	大山田 第四公園	桑名いきいき体操、その他体操
Q	焼尾公園体操会	焼尾公園	桑名いきいき体操

5 「多度圏域」

■ 地域特性

- ①地域のつながりが比較的強いところです。
- ②住宅団地の開発が一部で進み人口が増加している地区もありますが、圏域別では2番目に高齢化率が高くなっています。
- ③外出する際の移動手段である路線バス・Kバスの利用が他に比べると少なくなっており、運動器機能低下リスク該当者が市全域で最も高くなっています。

■ 多度圏域内小学校区の位置図



No.	地区名	小学校名
①	多度地区	多度中小学校、多度東小学校、 旧多度南小学校、旧多度西小学校、 多度北小学校

■ 地区分析の結果

- ①「多度圏域」の人口は 10,799 人、そのうち高齢者は 3,182 人、高齢化率は 29.5%（6 圏域中 2 位）となっています。
- ②調査結果から判定した高齢者像別にみると、「元気高齢者」（2.9%）、「一般高齢者」（22.3%）、「生活支援事業対象者」（41.3%）は市全域との格差指数はマイナスで、「介護予防事業対象者」（70.7%）、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」（19.3%）は市全域との格差指数はプラスとなっています。特に「介護予防事業対象者」「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」の割合は市内で 1 番高い状況です。
- ③リスク指標でみると、「運動器機能低下リスク者」（13.5%）「口腔機能低下リスク者」（20.0%）「物忘れリスク者」（44.5%）「うつリスク者」（41.2%）は市内 1 位となっています。

指標等項目	数値	市全域	
		格差指数	順位
1 基礎データ			
人 口	10,799 人	—	6/6 位
高齢者数	3,182 人	—	6/6 位
高齢化率	29.5%	2.9	2/6 位
2 高齢者像構成（割合）			
元気高齢者	2.9%	-1.7	6/6 位
一般高齢者	22.3%	-3.6	6/6 位
介護予防事業対象者	70.7%	3.9	1/6 位
生活支援事業対象者	41.3%	-2.1	5/6 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	19.3%	3.5	1/6 位
3 リスク指標の状況（割合）			
運動器機能低下リスク者	13.5%	2.2	1/6 位
低栄養リスク者	1.5%	-0.3	6/6 位
口腔機能低下リスク者	20.0%	1.9	1/6 位
閉じこもりリスク者	22.7%	2.6	2/6 位
物忘れリスク者	44.5%	4.8	1/6 位
うつリスク者	41.2%	1.6	1/6 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）			
I A D L 低下者	6.9%	1.2	1/6 位
知的能動性低下者	18.6%	2.6	2/6 位
社会的役割低下者	32.4%	-3.1	6/6 位

※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

(1) 地域カルテ「多度地区」

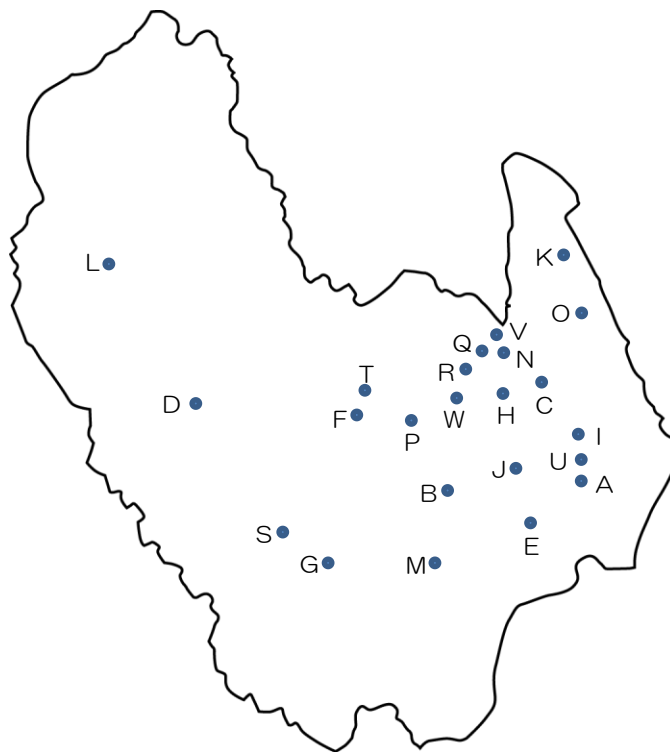
■ 地域課題

- ①人口と高齢者数は市全域2位となっています。高齢化率は市全域9位で、格差指数は2.9ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(70.7%)、「生活支援事業対象者」(41.3%)となっており、両者の市全域における格差指数は「介護予防事業対象者」が3.9ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が2.1ポイントマイナスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク者」(44.5%)が6リスク中最も高く、市全域における格差指数は4.8ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「I ADL 低下者」「知的能動性低下者」の割合はいずれも市全域6位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「スポーツの会」「趣味の会」「特技・経験を他者に伝える活動」「地域活動への参加意向」以外の格差指数はプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、市全域における格差指数が「主観的健康感が良い者」は1.9ポイントマイナス、「幸福感のある者」3.9ポイントマイナスとなっています。

「多度地区」:多度中小学校、多度東小学校、 旧多度南小学校、旧多度西小学校、多度北小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	10,799 人	—	—	—	2/19 位
高齢者数	3,182 人	—	—	—	2/19 位
高齢化率	29.5%	—	—	2.9	9/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	2.9%	—	—	-1.7	18/19 位
一般高齢者	22.3%	—	—	-3.6	16/19 位
介護予防事業対象者	70.7%	—	—	3.9	3/19 位
生活支援事業対象者	41.3%	—	—	-2.1	16/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	19.3%	—	—	3.5	1/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	13.5%	—	—	2.2	4/19 位
低栄養リスク者	1.5%	—	—	-0.3	11/19 位
口腔機能低下リスク者	20.0%	—	—	1.9	6/19 位
閉じこもりリスク者	22.7%	—	—	2.6	7/19 位
物忘れリスク者	44.5%	—	—	4.8	3/19 位
うつリスク者	41.2%	—	—	1.6	6/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	6.9%	—	—	1.2	6/19 位
知的能動性低下者	18.6%	—	—	2.6	6/19 位
社会的役割低下者	32.4%	—	—	-3.1	18/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圈内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	7.8%	—	—	2.0	1/19 位
スポーツの会	12.7%	—	—	-4.9	13/19 位
趣味の会	16.3%	—	—	-2.6	11/19 位
学習・教養サークル	7.3%	—	—	1.2	3/19 位
介護予防のための通いの場	4.8%	—	—	2.2	1/19 位
老人クラブ	6.8%	—	—	4.7	1/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	2.7%	—	—	-0.6	16/19 位
地域活動への参加意向	55.9%	—	—	-0.8	11/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	35.3%	—	—	1.0	6/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	79.9%	—	—	-1.9	15/19 位
幸福感がある者	38.6%	—	—	-3.9	15/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	40.4%	—	—	1.4	9/19 位
「場づくり」ができていると思う	44.4%	—	—	7.4	2/19 位

■多度地区 通いの場



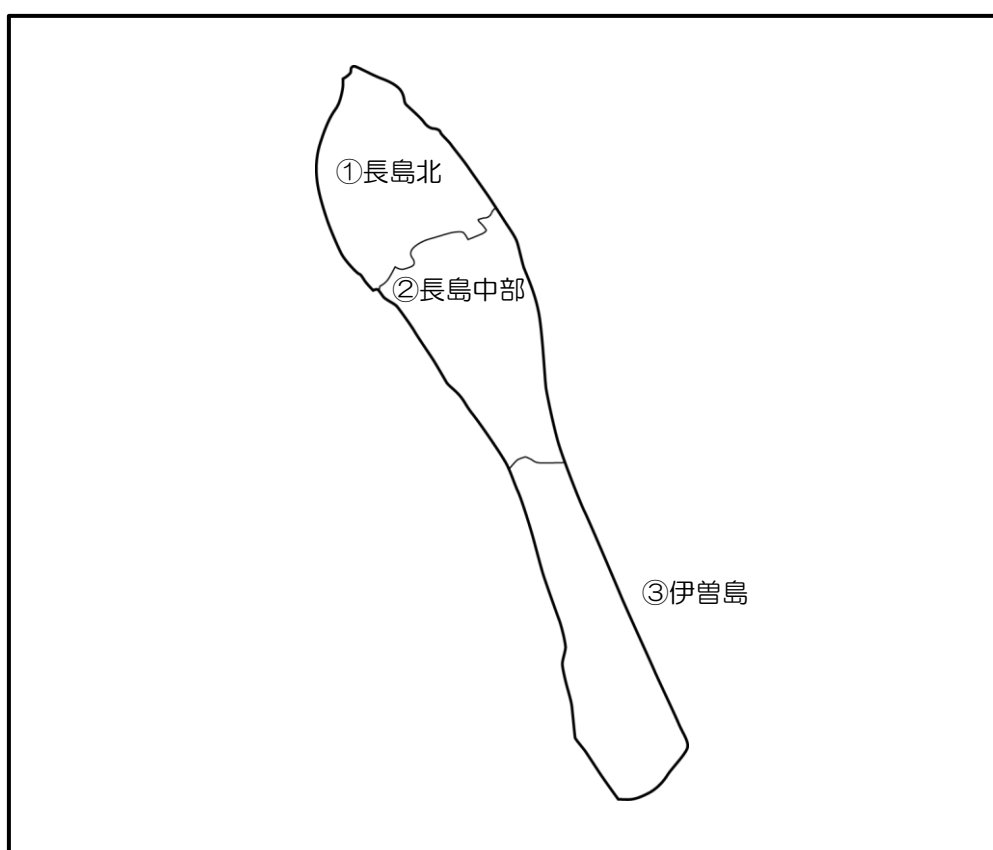
	名称	場所	内容
A	大鳥居ふれあいサロン(オードリー夢)	集会所	レク、茶話会等
B	小山ふれあいサロン	集会所	レク、体操、料理、介護予防教室等
C	香取ふれあいサロン	集会所	レク、音楽療法、介護予防教室、昼食等
D	古野ふれあいサロン	集会所	①サロン(レク、介護予防教室等) ②グランドゴルフ
E	下野代ふれあいサロン(ハッピーのじり)	集会所	茶話会、地域住民との交流会等
F	多度ふれあいサロン	集会所	レク、体操、カラオケ、介護予防教室等
G	力尾ふれあいサロン(力尾サロン)	南部コミュニティセンター	レク、桑名いきいき体操、介護予防講座等
H	戸津ふれあいサロン	集会所	レク、音楽療法、介護予防講座、昼食等
I	中須ふれあいサロン(福寿会)	円寿寺	音楽、工作、園芸、子ども会との交流等
J	肱江ふれあいサロン(肱江老人クラブ会)	集会所	月1回サロン(レク、介護予防教室等) 月1回ウォーキング
K	平古ふれあいサロン(平福美)	願琳寺	レク、桑名いきいき体操等
L	美鹿ふれあいサロン	集会所	ヨガ、体操、工作、音楽療法、誕生会等
M	御衣野ふれあいサロン	集会所	体操、介護予防講座等
N	柚井ふれあいサロン	集会所	レク、体操、ゲーム、介護予防教室等
O	上之郷サクラ会	上之郷集会所	レク、作品作り、体操等
P	ほっと安心カフェ(健康・ケア教室)	多度すこやかセンター	①笑いヨガ ②練功 ③料理教室等のイベント ※月2回昼食あり、要事前予約・料金必要
	いいとも会		レク、カラオケ、料理、講演会、健康講座等
	むつみの会		室内コンサート、お出かけ等 (多度地区民生委員主催)
	楽習		脳トレ ※5月～8月 11月～2月
Q	体操	JA みえきた多度支店	体操 ※初回のみ 500 円
R	ジュネス体操クラブ	桑名市多度体育センター	体操(柔軟体操、リズム体操、ボール体操)
S	いこに会	浄教寺	茶話会、講演会、健康講座等
T	花遊舎歌の集い	カフェレストラン花遊舎	コーヒー・ケーキと一緒に音楽のイベント
U	健康ふれあいサロン	マミーハウス	認知症予防体操、歌、手遊び、茶話会、認知症相談 等
V	だいそうDEたいそう	大桑病院	座ってできる体操、茶話会、介護や健康相談
W	伊藤整骨院 健康ケア教室	伊藤整骨院 香取44	体操・ストレッチ

6 「長島圏域」

■ 地域特性

- ①河川で囲まれた中州のため、生活圏域としては桑名市内・愛知県両方が想定されます。外出する際の移動手段である路線バス・Kバスの利用が他に比べると少なくなっています。
- ②新たに住宅開発がされることが少なく、人口の増減も多くないため、地域のつながりが比較的強くなっています。しかし同時に、高齢化率も高くなっています。

■長島圏域内小学校区の位置図



No.	地区名	小学校名
①	長島北部地区	長島北部小学校
②	長島中部地区	長島中部小学校
③	伊曽島地区	伊曽島小学校

■ 地区分析の結果

- ①「長島圏域」の人口は 14,549 人、そのうち高齢者は 4,387 人、高齢化率は 30.2%（6圏域中 1 位）となっています。
- ②調査結果から判定した高齢者像別にみると、「元気高齢者」（3.4%）、「一般高齢者」（23.1%）、「生活支援事業対象者」（40.3%）は市全域との格差指数はマイナスで、「介護予防事業対象者」（70.1%）、「認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者」（16.0%）は市全域との格差指数はプラスとなっています。
- ③リスク指標でみると、「物忘れリスク者」「うつリスク者」以外は市全域との格差指数がプラスとなっており、「閉じこもりリスク者」は市全域 1 位となっています。

指標等項目	数値	市全域	
		格差指数	順位
1 基礎データ			
人 口	14,549 人	—	5/6 位
高齢者数	4,387 人	—	5/6 位
高齢化率	30.2%	3.6	1/6 位
2 高齢者像構成（割合）			
元気高齢者	3.4%	-1.2	5/6 位
一般高齢者	23.1%	-2.8	5/6 位
介護予防事業対象者	70.1%	3.3	2/6 位
生活支援事業対象者	40.3%	-3.1	6/6 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	16.0%	0.2	4/6 位
3 リスク指標の状況（割合）			
運動器機能低下リスク者	12.5%	1.2	4/6 位
低栄養リスク者	1.9%	0.1	2/6 位
口腔機能低下リスク者	18.4%	0.3	3/6 位
閉じこもりリスク者	24.8%	4.7	1/6 位
物忘れリスク者	39.5%	-0.2	3/6 位
うつリスク者	38.8%	-0.8	5/6 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）			
I A D L 低下者	6.7%	1.0	2/6 位
知的能動性低下者	17.0%	1.0	3/6 位
社会的役割低下者	36.7%	1.2	3/6 位

※市全域の出現率を市平均値（0.0）として地域差を算出しています。

(1) 地域カルテ「長島北部地区」

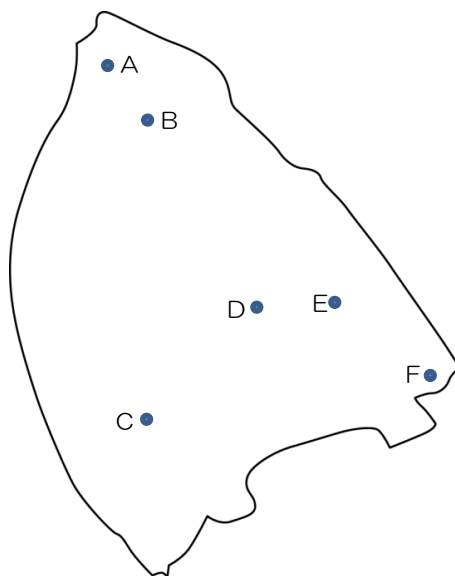
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数は圏内3位となっています。高齢化率は圏内1位で、格差指数は5.9ポイントプラスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(69.8%)、「生活支援事業対象者」(42.6%)となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が0.3ポイントマイナス、「生活支援事業対象者」が2.3ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク者」が42.3%と6リスク中最も高く、圏内における格差指数は2.8ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、市全域において8～15位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「介護予防のための通いの場」のみ圏内における格差指数がマイナスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」は圏内・市全域における格差指数がいずれもマイナスとなっています。

「長島北部地区」：長島北部小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	2,724 人	—	3/3 位	—	18/19 位
高齢者数	984 人	—	3/3 位	—	17/19 位
高齢化率	36.1%	5.9	1/3 位	9.5	2/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	4.5%	1.1	1/3 位	-0.1	8/19 位
一般高齢者	21.5%	-1.6	3/3 位	-4.4	18/19 位
介護予防事業対象者	69.8%	-0.3	3/3 位	3.0	5/19 位
生活支援事業対象者	42.6%	2.3	1/3 位	-0.8	12/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	16.2%	0.2	1/3 位	0.4	10/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	12.5%	0.0	2/3 位	1.2	9/19 位
低栄養リスク者	1.1%	-0.8	3/3 位	-0.7	18/19 位
口腔機能低下リスク者	17.7%	-0.7	2/3 位	-0.4	12/19 位
閉じこもりリスク者	27.5%	2.7	1/3 位	7.4	2/19 位
物忘れリスク者	42.3%	2.8	1/3 位	2.6	7/19 位
うつリスク者	35.5%	-3.3	3/3 位	-4.1	19/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	6.4%	-0.3	2/3 位	0.7	8/19 位
知的能動性低下者	14.7%	-2.3	3/3 位	-1.3	15/19 位
社会的役割低下者	35.1%	-1.6	3/3 位	-0.4	13/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	6.0%	0.4	2/3 位	0.2	6/19 位
スポーツの会	12.8%	0.6	1/3 位	-4.8	12/19 位
趣味の会	15.5%	1.4	1/3 位	-3.4	13/19 位
学習・教養サークル	6.0%	1.4	1/3 位	-0.1	9/19 位
介護予防のための通いの場	1.9%	-0.8	3/3 位	-0.7	15/19 位
老人クラブ	3.8%	1.1	1/3 位	1.7	3/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	3.0%	0.8	1/3 位	-0.3	12/19 位
地域活動への参加意向	53.2%	1.0	2/3 位	-3.5	14/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	31.7%	0.2	2/3 位	-2.6	14/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	78.9%	-1.2	3/3 位	-2.9	17/19 位
幸福感がある者	43.4%	1.7	1/3 位	0.9	8/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	46.0%	-1.0	3/3 位	7.0	4/19 位
「場づくり」ができていると思う	43.8%	-3.2	3/3 位	6.8	4/19 位

■長島北部地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	新所まめじゃ会	新所集会所	
B	新所集いの場		
C	千倉びんぴんころりクラブ	千倉集会所	桑名いきいき体操
D	高座・中川・西川まめじゃ会	長島公民館北部分館	
E	小島まめじゃ会	小島集会所	
F	大倉まめじゃ会	大蔵集会所	

(2) 地域カルテ「長島中部地区」

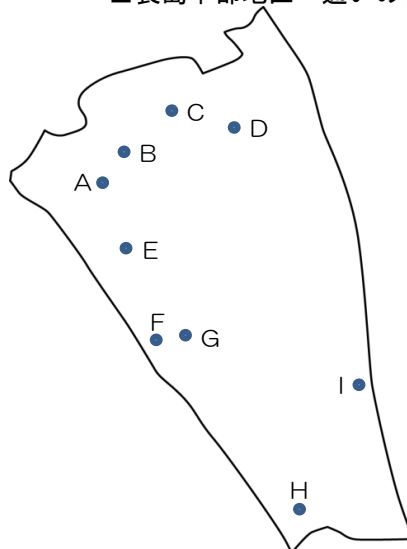
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数は圏内1位となっています。高齢化率は圏内2位で、格差指数は1.3ポイントマイナスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(70.0%)、「生活支援事業対象者」(41.1%)となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が0.1ポイントマイナス、「生活支援事業対象者」が0.8ポイントプラスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「うつリスク者」(40.5%)が6リスク中最も高くなっており、圏内における格差指数は1.7ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「I ADL低下者」の割合は圏内1位、市全域3位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「スポーツの会」「老人クラブ」「地域活動への参加意向」「地域活動(企画・運営)への参加意向」以外の項目は圏内における格差指数がマイナスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、圏内・市全域における格差指数がいずれもマイナスとなっています。

「長島中部地区」:長島中部小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	8,092 人	－	1/3 位	－	6/19 位
高齢者数	2,337 人	－	1/3 位	－	4/19 位
高齢化率	28.9%	-1.3	2/3 位	2.3	10/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	2.6%	-0.8	3/3 位	-2.0	19/19 位
一般高齢者	24.1%	1.0	1/3 位	-1.8	13/19 位
介護予防事業対象者	70.0%	-0.1	2/3 位	3.2	4/19 位
生活支援事業対象者	41.1%	0.8	2/3 位	-2.3	17/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	16.0%	0.0	2/3 位	0.2	11/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	13.0%	0.5	1/3 位	1.7	6/19 位
低栄養リスク者	2.5%	0.6	1/3 位	0.7	3/19 位
口腔機能低下リスク者	18.9%	0.5	1/3 位	0.8	10/19 位
閉じこもりリスク者	23.9%	-0.9	3/3 位	3.8	4/19 位
物忘れリスク者	38.0%	-1.5	3/3 位	-1.7	14/19 位
うつリスク者	40.5%	1.7	1/3 位	0.9	8/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	7.1%	0.4	1/3 位	1.4	3/19 位
知的能動性低下者	16.1%	-0.9	2/3 位	0.1	10/19 位
社会的役割低下者	37.6%	0.9	1/3 位	2.1	4/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	4.8%	-0.8	3/3 位	-1.0	10/19 位
スポーツの会	12.6%	0.4	2/3 位	-5.0	14/19 位
趣味の会	14.0%	-0.1	2/3 位	-4.9	15/19 位
学習・教養サークル	4.2%	-0.4	2/3 位	-1.9	16/19 位
介護予防のための通いの場	2.6%	-0.1	2/3 位	0.0	10/19 位
老人クラブ	3.0%	0.3	2/3 位	0.9	4/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	1.6%	-0.6	3/3 位	-1.7	18/19 位
地域活動への参加意向	53.6%	1.4	1/3 位	-3.1	13/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	32.0%	0.5	1/3 位	-2.3	13/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	79.7%	-0.4	2/3 位	-2.1	16/19 位
幸福感がある者	40.8%	-0.9	3/3 位	-1.7	13/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	46.9%	-0.1	2/3 位	7.9	3/19 位
「場づくり」ができていると思う	49.2%	2.2	1/3 位	12.2	1/19 位

■長島中部地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	北島まめじゃ会	北島集会所	
B	平方まめじゃ会	源盛寺	
C	出口まめじゃ会	防災コミュニティセンター	
D	かおるヶ丘まめじゃ会	かおるヶ丘集会所	
E	中筋まめじゃ会	光岳寺	
F	十日外面まめじゃ会	十日外面集会所	
G	健康ケア教室	長島福祉健康センター DSほほえみ	
H	大島まめじゃ会	大島集会所	
I	姫御前団地まめじゃ会	姫御前団地集会所	

(3) 地域カルテ「伊曾島地区」

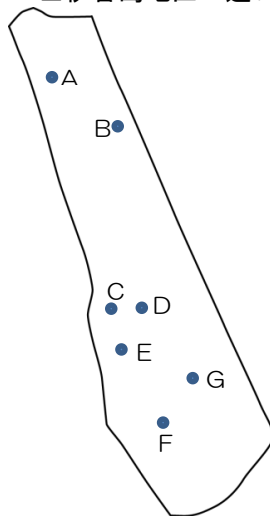
■ 地域課題

- ①人口・高齢者数ともに圏内2位となっています。高齢化率は圏内3位で、格差指数は1.6ポイントマイナスとなっています。
- ②高齢者像をみると、「介護予防事業対象者」(70.7%)、「生活支援事業対象者」(35.6%)となっており、両者の圏内における格差指数は「介護予防事業対象者」が0.6ポイントプラス、「生活支援事業対象者」が4.7ポイントマイナスとなっています。
- ③リスク指標をみると、「物忘れリスク者」(40.6%)が6リスク中最も高く、圏内における格差指数は1.1ポイントプラスとなっています。
- ④老研式活動能力指標をみると、「知的能動性低下者」の割合は圏内1位・市全域3位となっています。
- ⑤社会関連性指標をみると、「ボランティアのグループ」「介護予防のための通いの場」「特技や経験を他者に伝える活動」の圏内における格差指数はプラスとなっています。
- ⑥健康行動指標をみると、「主観的健康感が良い者」は圏内1位・市全域7位となっています。

「伊曾島地区」:伊曾島小学校					
指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
1 基礎データ					
人 口	3,733 人	—	2/3 位	—	15/19 位
高齢者数	1,066 人	—	2/3 位	—	16/19 位
高齢化率	28.6%	-1.6	3/3 位	2.0	11/19 位
2 高齢者像構成（割合）					
元気高齢者	4.2%	0.8	2/3 位	-0.4	12/19 位
一般高齢者	22.2%	-0.9	2/3 位	-3.7	17/19 位
介護予防事業対象者	70.7%	0.6	1/3 位	3.9	2/19 位
生活支援事業対象者	35.6%	-4.7	3/3 位	-7.8	19/19 位
認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者	15.9%	-0.1	3/3 位	0.1	13/19 位
3 リスク指標の状況（割合）					
運動器機能低下リスク者	10.9%	-1.6	3/3 位	-0.4	15/19 位
低栄養リスク者	1.3%	-0.6	2/3 位	-0.5	16/19 位
口腔機能低下リスク者	17.6%	-0.8	3/3 位	-0.5	13/19 位
閉じこもりリスク者	24.3%	-0.5	2/3 位	4.2	3/19 位
物忘れリスク者	40.6%	1.1	2/3 位	0.9	10/19 位
うつリスク者	37.7%	-1.1	2/3 位	-1.9	16/19 位
4 老研式活動能力指標の状況（割合）					
I A D L 低下者	5.9%	-0.8	3/3 位	0.2	10/19 位
知的能動性低下者	21.8%	4.8	1/3 位	5.8	3/19 位
社会的役割低下者	36.0%	-0.7	2/3 位	0.5	9/19 位

指標等項目	数値	日常生活圏域		市全域	
		格差指数	圏内順位	格差指数	順位
5 社会関連性指標の状況（割合）					
会やグループへの参加者					
ボランティアのグループ	7.1%	1.5	1/3 位	1.3	3/19 位
スポーツの会	10.5%	-1.7	3/3 位	-7.1	17/19 位
趣味の会	13.0%	-1.1	3/3 位	-5.9	16/19 位
学習・教養サークル	4.2%	-0.4	3/3 位	-1.9	17/19 位
介護予防のための通いの場	3.8%	1.1	1/3 位	1.2	2/19 位
老人クラブ	0.8%	-1.9	3/3 位	-1.3	17/19 位
特技や経験を他者に伝える活動	2.9%	0.7	2/3 位	-0.4	14/19 位
地域活動への参加意向	47.3%	-4.9	3/3 位	-9.4	19/19 位
地域活動（企画・運営）への参加意向	30.1%	-1.4	3/3 位	-4.2	18/19 位
6 健康行動指標の状況（割合）					
主観的健康感が良い者	82.4%	2.3	1/3 位	0.6	7/19 位
幸福感がある者	42.3%	0.6	2/3 位	-0.2	10/19 位
7 独自設問の状況（割合）					
「仕組みづくり」ができていると思う	48.1%	1.1	1/3 位	9.1	1/19 位
「場づくり」ができていると思う	44.4%	-2.6	2/3 位	7.4	3/19 位

■伊曾島地区 通いの場



	名称	場所	内容
A	葭ヶ須・赤地・鎌ヶ地まめじゃ会	葭ヶ須集会所	
B	ユニータウンまめじゃ会	ユニータウン集会所	
C	フェニックスまめじゃ会	フェニックス集会所	つどいの場
	フェニックスげんきクラブ		
D	みらいケア(mirai care)	シニアプラザながしま	健康ケア教室
	小多機みらい集いの場		
E	いそじま朝市	伊曾島小学校隣	
F	松蔭まめじゃ会	松中集会所	
G	いそじま笑顔の集い	あおい・ひなた	健康ケア教室

資料編

資料編

1 電算処理の判定条件等

集計等の電算処理にあたっては、以下の判定条件に基づいて行いました。

■高齢者像の判定条件（該当設問に無回答があれば、「判定できず」とする）

	項 目	判定条件
5 つ の 高 齢 者 像	元気高齢者 ※要支援・要介護認定者を除く 65 歳以上の高齢者のうち、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、軽度認知機能障害対象者に該当していない、健康で元気に暮らしている 65～74 歳（前期高齢者）の方を称しています。	●要支援・要介護認定者以外 and ●介護予防事業対象者以外 and ●生活支援事業対象者以外 and ●軽度認知機能障害該当者以外 and ●74歳以下 and ●問 7-（1）で「1. とてもよい」に回答
	一般高齢者 ※要支援・要介護認定者を除く 65 歳以上の高齢者のうち、元気高齢者、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者、軽度認知機能障害該当者に該当していない方を称しています。	●要支援・要介護認定者以外 and ●元気高齢者以外 and ●介護予防事業対象者以外 and ●生活支援事業対象者以外 and ●軽度認知機能障害該当者以外
	介護予防事業対象者 ※要支援・要介護認定者を除く 65 歳以上の高齢者のうち、要支援又は要介護状態になるおそれがあると判定された方を称しています。	●要支援・要介護認定者以外 and ●「虚弱」「運動器の機能低下」「低栄養状態」「口腔機能の低下」「閉じこもり傾向」「認知機能低下」「うつ傾向」リスク判定のいずれかの該当者
	生活支援事業対象者 ※右記①②に該当する高齢者を称します。本報告書では②について分析しています。	①要支援認定者 or ②●介護予防事業対象者 and 要支援・要介護認定者を除く 65 歳以上の高齢者で「閉じこもり傾向」「認知機能低下」「うつ傾向」リスク判定のいずれかの該当者 and ●問 1-（1）で「1. 1人暮らし」or「2. 夫婦 2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」に回答 or 問 1-（1）①で「1. よくある」に回答
	認知機能レベルⅠ・Ⅱ該当者 ※認知機能の障害程度がレベルⅠ（境界域）・レベルⅡ（軽度）に該当した高齢者を称し、認知症の予防効果が見込める軽度認知機能障害該当者として位置づけています。	●CPS（認知機能尺度、認知機能障害の程度）を用いたリスク判定で「レベルⅠ」または「レベルⅡ」に該当した方

■リスクの判定条件

項 目		判定条件
虚弱	該当	・ 10点以上
	非該当	・ 0点以上9点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
運動器の機能低下	該当	・ 3点以上
	非該当	・ 0点以上2点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
口腔機能の低下	該当	・ 2点以上
	非該当	・ 0点以上1点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
低栄養状態	該当	・ 2点
	非該当	・ 0点以上1点以下
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合
閉じこもり傾向	該当	・ 1点
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 判定設問に無回答があった場合
認知機能低下	該当	・ 1点
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 判定設問に無回答があった場合
うつ傾向	該当	・ 1点以上
	非該当	・ 0点
	判定できず	・ 0点のうち、判定設問に無回答があった場合

■虚弱の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問2-(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」：1点
問2-(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問2-(3)	15分位続けて歩いていますか	
問2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」または「2. 1度ある」：1点
問2-(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」：1点
問2-(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」または「2. 週1回」：1点
問2-(7)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」または「2. 減っている」：1点
問3-(1)	身長()cm 体重()kg	BMI<18.5：1点
問3-(2)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」：1点
問3-(3)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	
問3-(4)	お茶や汁物等でむせることがありますか	
問3-(5)	口の渇きが気になりますか	
問4-(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」：1点
問4-(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「3. できない」：1点
問4-(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4-(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	
問4-(8)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」：1点
問4-(9)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」：1点
問4-(14)	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」：1点
問4-(15)	家族や友人の相談にのっていますか	

※10点以上：該当 0点以上9点以下：非該当

※問4-(2)、問4-(3)、問4-(6)の判定について、国判定(第6期)では「2. できるけどしていない」or「3. できない」が1点となりますが、高齢者の実情により沿った判定とするため、判定条件を上記のとおりとしています。

■運動器の機能低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問2-(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」：1点
問2-(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問2-(3)	15分位続けて歩いていますか	
問2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」または「2. 1度ある」：1点
問2-(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」：1点

※3点以上：該当 0点以上2点以下：非該当

■口腔機能の低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問3-(3)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」：1点
問3-(4)	お茶や汁物等でむせることがありますか	
問3-(5)	口の渇きが気になりますか	

※2点以上：該当 0点以上1点以下：非該当

■低栄養の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問3-(1)	身長()cm 体重()kg	BMI<18.5：1点
問3-(2)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」：1点

※2点：該当 0点以上1点以下：非該当

■閉じこもりの判定・評価

問番号	項目	選択肢
問2-(6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」または「2. 週1回」：1点

※1点：該当 0点：非該当

■認知機能低下の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問4-(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」：1点

※1点：該当 0点：非該当

■うつ傾向の判定・評価

問番号	項目	選択肢
問7-(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」：1点
問7-(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	

※1点以上：該当 0点：非該当

■老研指標総合評価

※ⅠADL（手段的自立度）、社会参加（知的能動性）、社会参加（社会的役割）の合計点

11点以上：問題なし 9～10点：やや低い 8点以下：低い

※判定条件の設問に無回答が5項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

■ⅠADL（手段的自立度）の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問4-（2）	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車可）	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」：1点
問4-（3）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4-（4）	自分で食事の用意をしていますか	
問4-（5）	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4-（6）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

※5点：問題なし 4点：やや低い 0～3点：低い

※判定条件の設問に無回答が2項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

■社会参加（知的能動性）の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問4-（10）	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」：1点
問4-（11）	新聞を読んでいますか	
問4-（12）	本や雑誌を読んでいますか	
問4-（13）	健康についての記事や番組に関心がありますか	

※4点：問題なし 3点：やや低い 0～2点：低い

※判定条件の設問に無回答が2項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

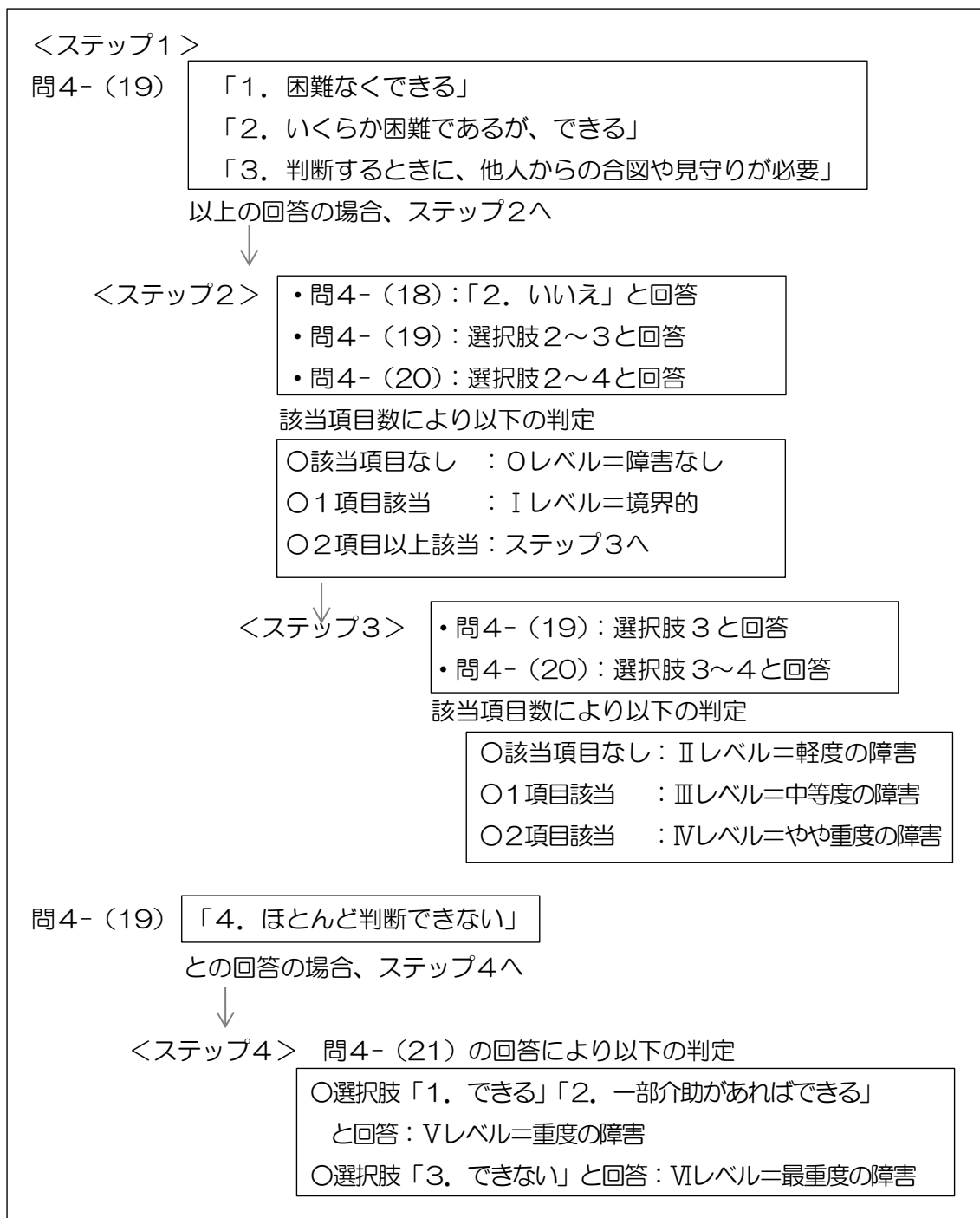
■社会参加（社会的役割）の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問4-（14）	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」：1点
問4-（15）	家族や友人の相談にのっていますか	
問4-（16）	病人を見舞うことができますか	
問4-（17）	若い人に自分から話しかけることがありますか	

※4点：問題なし 3点：やや低い 0～2点：低い

※判定条件の設問に無回答が2項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

■CPS（軽度認知機能障害）判定ルール



※レベルⅢ～Ⅵ：障害あり、レベルⅠ～Ⅱ：やや障害あり、レベル0：障害なし

※判定条件の設問に無回答が1項目以上あった場合には、「判定できず」とします。

2 アンケート調査票

**令和2年度 桑名市
介護予防・日常生活圏
ニーズ調査・調査票
【いきいき・くわな】**

**調査票にご回答される前に必ず
別紙の「調査票の回答方法」をお読みください。**

記入日	令和 年 月 日
※ 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。	
1. あて名のご本人が記入	
2. ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄 _____）	
3. その他（ _____ ）	

回答された方の 電話番号	— —
-----------------	-----

※より正確な回答結果となるよう、回答に不備などがあつた際にはお電話をすることがあります。
 <この調査に関するお問い合わせ先>
桑名市 介護予防・日常生活圏ニーズ調査 回答支援センター
 TEL：0120-960-385（通話無料） 時間：9時～17時（土日・祝日は除く）
 委託先：アシスト株式会社

<介護保険に関するお問い合わせ先>

●桑名市 保健福祉部 介護高齢課 電 話：0594-24-1170	●桑名市介護予防支援室 電 話：0594-24-5104
●桑名市東部地域包括支援センター 電 話：0594-24-8080	●桑名市西部地域包括支援センター 電 話：0594-25-8660
●桑名市南部地域包括支援センター 電 話：0594-25-1011	●桑名市北部地域包括支援センター 電 話：0594-49-2031
●桑名市北部東地域包括支援センター 電 話：0594-42-2119	●福祉なんでも相談センター 電 話：0594-41-2114

問1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください。(○は1つ)

1. 1人暮らし 2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）
 3. 夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下） 4. 息子・娘との2世帯
 5. その他（ _____ ）

【(1)において「1. 1人暮らし」以外を選んだ方のみ回答】
 ① 日中、1人になることがありますか。(○は1つ)
 1. よくある 2. たまにある 3. ない

【(1)において「4. 息子・娘との2世帯」「5. その他」を選んだ方のみ回答】
 ② あなた以外のご家族は就労されていますか。(○は1つ)
 1. 就労している 2. 就労していない

(2) 概ね30分以内に駆けつけることができる近居の親族（同居の親族は除く）はいますか。(○は1つ)
 1. いる 2. いない

【(2)において「1. いる」を選んだ方のみ回答】
 ① あなたから見て、近居の親族との関係はどうか。(○はいくつでも)
 1. 子 2. 孫 3. 兄弟・姉妹 4. その他（ _____ ）

(3) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)
 1. 介護・介助は必要ない
 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
 3. 現在、何らかの介護を受けている
 （要介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

2

【(3)において「2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「3. 現在、何らかの介護を受けている」を選んだ方のみ回答】
 ① 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(○はいくつでも)

1. 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） 2. 心臓病 3. がん（悪性新生物）
 4. 呼吸器の病気（肺炎等） 5. 関節の病気（脊柱管狭窄症、股関節症等）
 6. 認知症（アルツハイマー病等） 7. パーキンソン病 8. リウマチ
 9. 糖尿病 10. 腎疾患（透析） 11. 視覚・聴覚障害 12. 骨折・転倒
 13. 骨格損傷 14. 高齢による衰弱 15. その他（ _____ ）
 16. 不明

【(3)において「3. 現在、何らかの介護を受けている」を選んだ方のみ回答】
 ② 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(○はいくつでも)

1. 配偶者（夫・妻） 2. 息子 3. 娘 4. 子の配偶者 5. 孫
 6. 兄弟・姉妹 7. 介護サービスのヘルパー 8. その他（ _____ ）

(4) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう
 4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

(5) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(○は1つ)

1. 持家（一戸建て） 2. 持家（集合住宅） 3. 公営賃貸住宅
 4. 民間賃貸住宅（一戸建て） 5. 民間賃貸住宅（集合住宅）
 6. 借家 7. その他（ _____ ）

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

3

(3) 15分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○は1つ)

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

1. とても不安である 2. やや不安である
 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ)

1. ほとんど外出しない 2. 週1回
 3. 週2～4回 4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つ)

1. とても減っている 2. 減っている
 3. あまり減っていない 4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか。(○は1つ)

1. はい 2. いいえ

【(8)において「1. はい」(外出を控えている)を選んだ方のみ回答】
 ① 外出を控えている理由は、次のどれですか。(○はいくつでも)

1. 病気 2. 障害（脳卒中の後遺症など）
 3. 足腰などの痛み 4. トイレの心配（失禁など）
 5. 耳の障害（聞こえの問題など） 6. 目の障害
 7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない
 9. 交通手段がない 10. その他（ _____ ）

4

- (9) 現在の外出する際の移動手段は何ですか。(○はいくつでも)
1. 徒歩(何も使わず歩く)
 2. 歩行器・シルバーカー・杖
 3. 自転車
 4. バイク
 5. 自動車(自分で運転)
 6. 自動車(人に乗せてもらう)
 7. 電車
 8. 路線バス
 9. 病院や施設のバス
 10. 車いす・電動車いす
 11. シニアカー
 12. タクシー
 13. コミュニティバス(kーバス)
 14. その他()

【(9)において「4. バイク」「5. 自動車(自分で運転)」を選んだ方のみ回答】
① 自分で運転しなくなった場合の移動手段を教えてください。(○はいくつでも)

1. 徒歩
2. 自転車
3. 自動車(人に乗せてもらう)
4. 電車
5. 路線バス
6. 病院や施設のバス
7. タクシー
8. その他()
9. 移動手段はない

問3 食べることにについて

(1) 身長・体重(数字を記入)

身長 cm 体重 kg

(2) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(3) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(4) お茶や汁物等でむせることがありますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(5) 口の渇きが気になりますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

5

(6) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(○は1つ)
(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です。)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用
2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用
4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし

(7) どなたかと食事をとにもする機会はありますか。(○は1つ)

1. 毎日ある
2. 週に何度かある
3. 月に何度かある
4. 年に何度かある
5. ほとんどない

問4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(2) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)。(○は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(3) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(4) 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(5) 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(6) 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している
2. できるけどしていない
3. できない

(7) いつも同じことを聞くなどといわれますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

6

(8) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(9) 今日が何月何日かわからない時がありますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(10) 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(11) 新聞を読んでいますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(12) 本や雑誌を読んでいますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(14) 友人の家を訪ねていますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(15) 家族や友人の相談にのっていますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(16) 病人を見舞うことができますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

(18) 5分前に自分が何をしていたか思い出せますか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

7

(19) その日の活動(食事をする、衣服を選ぶなど)を自分で判断できますか。(○は1つ)

1. 困難なくできる
2. いくらか困難であるが、できる
3. 判断するときに、他人からの合図や見守りが必要
4. ほとんど判断できない

(20) 人に自分の考えをうまく伝えられますか。(○は1つ)

1. 伝えられる
2. いくらか困難であるが、伝えられる
3. あまり伝えられない
4. ほとんど伝えられない

(21) 食事は自分で食べることができますか。(○は1つ)

1. できる
2. 一部介助(おかずを切ってもらうなど)があればできる
3. できない

(22) 生きがいがありますか。(○は1つ)

1. 生きがいあり(具体的に:)
2. 思いつかない



8

〔7〕（ここ2週間）以前は案にできていたことが、今ではおっくうに感じられる。（○は1つ）

1. はい 2. いいえ

〔8〕（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない。（○は1つ）

1. はい 2. いいえ

〔9〕（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする。（○は1つ）

1. はい 2. いいえ

〔10〕現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。（○はいくつでも）

1. ない 2. 高血圧
3. 脳卒中（脳出血・脳梗塞等） 4. 心臓病
5. 糖尿病 6. 高脂血症（脂質異常）
7. 呼吸器の病気（肺炎や気管支炎等） 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気
9. 腎臓・前立腺の病気 10. 筋骨格の病気（骨粗しょう症・関節症等）
11. 外傷（転倒・骨折等） 12. がん（悪性新生物）
13. 血液・免疫の病気 14. うつ病
15. 認知症（アルツハイマー病等） 16. パーキンソン病
17. 目の病気 18. 耳の病気 19. その他（ ）

〔11〕タバコは吸っていますか。（○は1つ）

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている
3. 吸っていたがやめた 4. もともと吸っていない

〔12〕お酒は飲みますか。（○は1つ）

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む
3. ほとんど飲まない 4. もともと飲まない

〔13〕現在、病院・医院（診療所・クリニック）に通院していますか。（○は1つ）

1. はい 2. いいえ

13

【〔13〕において「1. はい」を選んだ方のみ回答】

① 通院の頻度はどれくらいですか。（○は1つ）

1. 週1回以上 2. 月2～3回 3. 月1回程度
4. 2か月に1回程度 5. 3か月に1回程度

〔14〕現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいますか。（○は1つ）

1. 1種類 2. 2種類 3. 3種類
4. 4種類 5. 5種類以上 6. 飲んでいない

〔15〕健康診査を定期的に受けていますか。（○は1つ）

1. 1年に1回は受けている 2. 2～3年に1回は受けている
3. 何度かは受けたことがある 4. ほとんど受けたことがない

〔16〕現在、在宅サービス[※]を利用していますか。（○は1つ）

1. はい 2. いいえ

※「在宅サービス」とは、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）、小規模多機能型居宅介護、福祉用具貸与などのことをいいます。

問8 認知症にかかる相談窓口の把握について

〔1〕認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。（○は1つ）

1. はい 2. いいえ

〔2〕認知症に関する相談窓口を知っていますか。（○は1つ）

1. はい 2. いいえ



14

問9 地域包括ケアシステムについて

〔1〕地域包括支援センターを知っていますか。（○は1つ）

1. 知っている（相談などをしたことがある）
2. 知っている（どういふところがわかる）
3. あまり知らない（名前を聞いたことがある程度）
4. 知らない

〔2〕介護が必要になっても、医療、介護サービスを受けながら住み慣れた地域で暮らし続けられと感じますか。（○は1つ）

1. とても感じる 2. まあまあ感じる 3. あまり感じない
4. 感じない 5. わからない

【〔2〕において「3. あまり感じない」「4. 感じない」を選んだ方のみ回答】

① 「3. あまり感じない」「4. 感じない」と回答した理由は何ですか。（○は1つ）

1. 介護サービスの不足 2. 在宅医療の不足 3. 相談できる場の不足
4. 地域で活動や交流できる場の不足 5. 地域住民同士の支え合い・見守りの不足
6. 家族・介護者への負担が大きい 7. 自宅と周辺の住環境の問題
8. 漠然とした不安 9. その他（ ）

〔3〕あなたが人生の最期を迎える時は、どこで迎えたいですか。（○は1つ）

1. 自宅 2. 自宅で過ごし、必要になれば医療機関
3. 医療機関（病院・診療所） 4. 施設
5. わからない 6. その他（ ）

〔4〕在宅で看取りができる医療や介護サービスがあることを知っていますか。（○は1つ）

1. 知っている 2. あまり知らない 3. 知らない

15

〔5〕訪問看護サービス[※]を知っていますか。（○は1つ）

1. 知っている（どんなサービスかわかる）
2. あまり知らない（どんなサービスかあまりわからない）
3. 知らない

※「訪問看護サービス」とは、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の心身機能の維持回復などを目的として、看護師などが疾患のある利用者の自宅を訪問し、療養上の世話や診療の補助を行うサービスのことをいいます。

〔6〕地域で、高齢者や子どもを見守る「仕組みづくり」ができていていると思いますか。（○は1つ）

1. できている 2. どちらかといえばできている
3. どちらかといえばできていない 4. できていない

〔7〕地域で、地域住民同士が交流する「場づくり」ができていていると思いますか。（○は1つ）

1. できている 2. どちらかといえばできている
3. どちらかといえばできていない 4. できていない

ご協力ありがとうございました。記入もれがないか、今一度お確かめください。

三つ折りにして同封の返信用封筒に入れ、

9月4日（金）までに郵便ポストへご投函ください。



16

桑名市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査報告書

発行日 令和3年3月

発行 桑名市

編集 桑名市 保健福祉部 介護高齢課

住所 〒511-8601 三重県桑名市中央町二丁目 37 番地

TEL : 0594-24-1170 (直通)

FAX : 0594-24-3133

[http:// www.city. kuwana.lg.jp](http://www.city.kuwana.lg.jp)